世界の猶太勢

と

秘密結社の解剖



國際政経學會調査部譯編

東京
政経書房

世界の猶太勢力
と
祕密結社の解剖

國際政經學會譯篇



東京　政經書房　發行

序

序

此の書は「世界のユダヤ人」と「フリー・メーソン祕密結社」の二篇の外に、別に「フリー・メーソン祕密結社の殿堂解剖」の一篇を輯錄したものである。

前の二篇はナチス親衛隊への啓蒙的教科書とも云ふべきもので、正確ではあるが、獨逸の立場を考察の中心としてゐる事は諒承して置かねばならぬ。併し「世界のユダヤ人」が獨ソ不可侵條約後の發行である爲めに、猶太の最大勢力圏の一たるソ聯に觸れることを避けた事に對して、「フリー・メーソン祕密結社」はそれ以前のものである故、前者の不自然な缺陷を補つてゐる點は注意すべきである。（ソ聯と猶太人の關係に就ては政經書房發行の獨逸コンモス博士著「スターリン背後の猶太人」がある。）

支那事變が大東亞戰爭となり、それが歐洲大戰と共に猶太及びその從屬機關としてのフリー・メーソンリーの豫定通りの「世界大戰」に發展し、猶太の世界制覇戰とそれへの反擊が眼前に展開されつゝあるのを見て、獨逸が今次の大戰來を豫見し、且つ

其の原因が猶太思想に基く事を徹見して、「世界觀」的に如何に其の準備をしてゐたかをこの二篇から具に知る事が出來るのである。

又別の一篇たる「フリー・メーソン秘密結社の殿堂解剖」は、同結社の最高位に登つたコンラド・レリヒ博士が、フリー・メーソンリーなるものが猶太の金權世界支配の一機關に過ぎない事を自ら體驗するに至つて、同結社を脱退して世界に警告する爲め著はした暴露文書なのである。これは今次大戰に於て日獨伊の樞軸に對する聯合國側が、米英の外にソ聯及び蔣政權を包含するに至つた其の裏面的色彩が純然たるフリー・メーソン的結合を現はしてゐるに拘らず、我が日本に於てフリー・メーソンに對する認識の缺除を痛感するものある爲めに、猶太問題研究の一書として朝野の必讀を得んとして之を世上に送る所以である。

尚本書の刊行は○○會の好意によるもので、此處に深く謝意を表する次第である。

昭和十七年十二月一日

國際政經學會

世界の猶太勢力と秘密結社の解剖

世界の猶太勢力と祕密結社の解剖

内容目次

第三部　フリー・メーソン祕密結社の殿堂解剖 ………二〇三—三一七

第一部

第一部

世界のユダヤ人

——組織、權力、及び政策——

緒論

ユダヤ民族は國際的一大權力

「ユダヤ人は一個の國際的權力であり、その手段たるや實際極めて祕密に行はれるが故、ユダヤ人自身すらも完全には知つて居らないのであり、しかもその手段をもつて世界の諸事件を左右し、諸國王や諸民族を自己の意志の下に强制し得るものであると信ずる程大なる誤謬はない。」

かような言葉をもつて、英國猶太人代表者委員會（Board of Deputies of British Jews）の出版部員シドニイ・サロモンは、「英國のユダヤ人」といふ彼の著書の冒頭を始めてゐる。彼は切札を出

して次の如く書いてゐる。「ユダヤ民族に關し色々と小うるさく取沙汰されたことが、もし眞實だとしたら、ヒットラーは斷じて政權を握り得なかつたのは確かであらうし、パレスチナはずつと以前にユダヤ人の國民的鄕土となつてゐたであらうし、波蘭のユダヤ人は彼等が今日うけてゐる如きひどい貧窮に陷ることもなかつたであらう。」とサロモンは言ふ。「併し、總て此等の事態が生じたといふのは、そんな考へ方に何の根據もない事を示してゐる。」

斯かる言葉をもつて英國に於けるユダヤ人の著名な代表者は、ユダヤ民族一般、そして又所謂、英國、ユダヤ人の自稱愛國心を特に擁護してゐるのであるが、これと同樣の言葉をもつて、凡ての國のユダヤ民族は、自己の國際性に對する民族運動の攻擊を防禦しやうと既に絕えず努めて來たのである。ユダヤ人の國際運動に關する主張は、その主張の不合理を覺らしめんが爲めに、サロモンのやうな誇張した物の言ひ方をしたのでは論破されないであらう。そのためにはもつと詳細な擧證が必要であつたと思はれる。然し、これは依然としてサロモンの責任である。理性ある人間なら、ユダヤ民族の國際運動の勢力は無制限であるなどと主張するやうなことはしないであらう。幸なことに、ユダヤ民族に固有の本質と、他民族の健全なる民族的抵抗力によつて、斯かる國際運動に對しては限界が引かれてゐるのである。ユダヤ民族の勢力が及び得るのは、過去に於ても現在に於ても、他の諸民族及び諸國家に寄生しながらも、それらを超越して、同一種族といふ根抵より出發して、自己獨自の利害

び諸國家に寄生しながらも、それらを超越して、同一種族といふ根抵より出發して、自己獨自の利害を追求——自己の寄生してゐる民族の利害を外見的に代表してなり、或は又、多少ともその民族に公然と反抗して——することが可能である限りに於てである。ユダヤ民族の國際的勢力を、前述の事實とは別な連關に於て、眞面目に言及したものは曾つてなかつたのである。

すでに數千年に亘つて續けられてゐる定めなき放浪に終始してゐるユダヤ人の歷史は、ユダヤ民族が全ユダヤ民族を包括する一國家を自己の力では作る能力もないし、又その意志もないことを明かにしてゐる。これに就ては、なほ後に示す積りであるが、シオン運動も結局この事情に何等の變更を加へるものではなかつた。勿論このシオン運動は、それによつてユダヤ民族に同化能力があるといふ噓が一掃され、一切のカムフラージュの試みが捨て去られたといふ限りに於て喜ばしいものではあるが。全文明世界に散在してゐる狀態は、明白にユダヤ民族にとつては唯一つの可能なる好ましい生活形態なのである。パレスチナ問題がその反證となり得ないことはなほ後に說明されるであらう。普遍的人道主義なる表象を全世界に宣布する機會を熟せしめ、人類的秩序を作つて自己の散在生活を確保し、從てユダヤ民族の作用力を最高度に確保せんとしたのが、ユダヤ民族の絕えざる努力だつたのである。ユダヤ人は、結局あらゆる國民的政治、文化及び經濟に反對してゐるのであつて、ユダヤ人自

身によつて認められようと、又その寄生してゐる民族により理解されようと否とに拘らず、事情はその通りである。ユダヤ民族は、國際的團結をなして數千年に亘つて培養されたユダヤ的特性の爲めに、自己の特性が生物的にも精神的にも解體するのを防衛せんとしてゐるあらゆる民族の公然の敵なのである。

ユダヤ民族はいづれの他民族とも同化し、融合し、本性を失ふなどといふことはあり得ないといふ洞察が増大しつゝある。解放及び同化と言はれてゐる全發展により、明白に認識し得る事であるが、ユダヤ民族は、宗教的、社會的、國法的に對等の地位を獲得することに甘んじないで、寄生してゐる諸民族本來の對抗意志を消滅せしめ、かくして諸民族の生活の中に混入し、あらゆる分野の樞要な位置を獨占し、國民的勢力を左右し、利用し盡すことの出來るやうな一つの制度を將來せんと企圖してゐるのである。ユダヤ人がかかる祕密勢力を利用するのは、全くその本性に相應しいことである。ユダヤ人自身が明白に政治的全責任を荷ふ位置に身を曝す場合は極めて稀である。彼等の力は常に同じ遣り方で、通常舞臺裏で働いてゐる。即ち、國際的諸團體を操り、蓄積せる資本を抑壓の手段として利用し、輿論を作り上げるのである。自分と同等の者のもとに自力で何ものかを創造し、形成することが問題となる場合には、ユダヤ人は依然として無能であつた。ユダヤ人の主義は、他を押し除けたり、諸種の状況を利用して利得することにある。

り、諸種の狀況を利用して利得することにある。

パレスチナが今日一個の世界問題となつたといふのも、英國をしてユダヤ國家建設の計畫に關心を抱かしめ、又そのために英國の動員することにユダヤ民族が成功したが故である。かかる國家が一體いかなる目的を持つべきかを、どうしても明かにせねばならぬ。といふのは、何時かはパレスチナが世界のあらゆるユダヤ人を迎へ得るとは一人のユダヤ人と雖も敢て主張はして居らず、ユダヤ民族自身では、分散狀態から密集してパレスチナに集合するなどとは決して考へて居らぬことは、既に暗示しておいた通りだからである。とはいふもののユダヤ國家がもし成立すれば、分散せるユダヤ民族の位置を大いに確固たるものになし得るであらう。『英國猶太代表者委員會』のサロモン氏が、「國民的鄕土」(National-home)としてのパレスチナの確保が未だ成功して居らぬことをもつて、ユダヤ民族が多大の權力を持つてゐると稱せられるのは、揑造であるといふ事を證明するための例證として引用してゐるが、これは一個の拙劣なトリック以外のものではなく、問題の核心に觸れて居らぬ。ユダヤ人の影響は、民族的價値及び民族的結合の否定、解體、崩壞に於て其の限界を知らないのである。ユダヤ人は、他民族に寄生して、その民族を自己の利害のために驅使することには、無限の能力を有つてゐる。パレスチナは今日、如何に巧みにユダヤ民族が自己の利害と他民族のそれとを結びつ

け、又自己の政治上の目的のために一國家を用ひるかを示すよき實例である、併しパレスチナは同時に、上述せるユダヤ權力の限界、即ち、自力に依る形成の能力のないこと、權力の行使はユダヤ民族本來の性質からして舞臺裏で行ふこと、生命を賭して營々と努める他の民族を頼りとする外に道のないこと、を示してゐる。ユダヤ民族は、自己の目的達成のために犬馬の勞をとる幾百萬の非ユダヤ人が居ないならば、全く問題とするに足りない存在である。しかも今日どれだけ多數の人々が、意識すると否とに拘はらず、ユダヤ民族の馬車の引馬となつてゐることであらう！

　ユダヤ問題は、諸民族がユダヤ民族の勢力及びその國際性を明かに知るに從つて、益々其の解決を迫られつゝある。本書が以下に於て企圖するところは、ユダヤ民族がカムフラージュのために用ひてゐる國民的表看板の背後に一瞥を投じて、諸民族の生活の中でユダヤ民族がいかなる地位を占め如何なる連繫と可能性とをその掌中に把握し、國際的絲をいかに操り、ユダヤ的國際組織の中に確固たる位置を占めてその權力を左右しうる英米のユダヤ人が、いかなる働きをなしてゐるかを示すことである。檢討は、ユダヤ人側の資料から取られた有りの儘の事實に限られてゐる。敍述の仕方は、當然すぎる程當然な激調をも帶びてはゐない。しかし率直なる事實はそれ自體が雄辯であつて、少數民族たるユダヤ人が今日世界に課してゐる問題の重大性と緊迫性とを物語り、又あらゆる民族がユダヤ少數民族のために當面させられてゐる危險をも物語つてゐる。

民族のために當面させられてゐる危險をも物語つてゐる。

一、ユダヤ人の數的分布

ユダヤ人の數に關する報告は多種多樣であり、部分的には相矛盾してゐる。出來る限り明白にして信頼するに足る相貌を描くためには、比較對照が必要である。かかる報告がいかなる調査に基づいて生じたかを決定し得る場合は極めて稀である。一般にはユダヤ人に關する統計は、モーゼ敎（ユダヤ敎）を信じてゐる如き人々のみを含んでゐる。獨逸の場合も亦、獨逸國民法の意味に於けるユダヤ人數の正確なる報告は、來るべき國勢調査の後に初めて出來上るのである。目下の所我々は、自國の場合のことも、大體眞の數字に近い推定をもつて滿足せねばならぬ。

非ユダヤ人の側よりする推定によると、ユダヤ敎を信じてゐるユダヤ人總數は、千七百萬人でありその中、歐洲に丁度千萬人、アメリカに五百萬人が在住してゐる。殘りの二百萬人は、アジア、アフリカ、オーストラリヤに分散してゐる。ユダヤ人の側から色々な報告を知りうるが、その報告は、本質的には大して相違して居ない。ルツピンは一九二五年には千四百八十萬であると推定してゐるが、一九三五年の『米國猶太年鑑』は總數千五百五十二萬五千と推定し、ロンドンで出版されてゐる一九

三八年の『猶太年鑑』は千六百十五萬八千と推定してゐる。此の最後の數字は地球上に次の如く分散してゐる。

アフリカ	八二〇、〇〇〇
アメリカ	五〇〇〇、〇〇〇
アジア	六一八、〇〇〇
オーストラリア	三〇、〇〇〇
ヨーロッパ	九六九〇、〇〇〇

フィロ辭典（ベルリン、一九三七年、フィロ出版社發行）は總數を千六百十二萬と稱してゐるが、これでみると、ユダヤ人は世界全人口の一パーセントを超えるものではないといふ結論になる。

ユダヤ教を信じてゐるユダヤ人のこれらの數字に對して、更に、ユダヤ人に市民權を與へる解放の途上に、自己の信仰を變更するか、或は他民族と混合したるも、種族的にはユダヤ民族に屬する幾百萬の人々が加へらるべきであるは明白である。

我々に最も多く關係を有してゐる諸國に於けるユダヤ人の總人口に對する割合は、今なほ約五十萬のユダヤ教を信ずるユダヤ人を有する獨逸（オーストリヤを含む）を除いて詳細に調査すると、次の如き數字になる。（フィロ辭典の數字を主とし、ロンドン發行の『ユダヤ年鑑』一九三八年版の數字を括弧に入れて附加しておく）

如き數字になる。（フイロ辭典の數字を主とし、ロンドン發行の『ユダヤ年鑑』一九三八年版の數字を括弧に入れて附加しておく）

アメリカ合衆國	四、四九〇、〇〇〇	（四、二二八、〇〇〇）	三・七五％
英國（北アイルランドを含み、海外の領土、自治領を除く）	三四〇、〇〇〇	（三三三、〇〇〇）	〇・七〇％
佛蘭西	二二五、〇〇〇	（二七五、〇〇〇）	〇・五五％
パレスチナ	四〇四、〇〇〇	（四二五、〇〇〇）	三〇・〇〇％
伊太利	五〇、〇〇〇	（四七、八二五）	〇・一二％
洪牙利	四四五、〇〇〇	（四四四、五六七）	五・一〇％
チェコ・スロヴァキア	三七五、〇〇〇	（三五六、八三〇）	二・七〇％
ルーマニア	九〇〇、〇〇〇	（九〇〇、〇〇〇）	五・〇〇％
ソ聯	二、四五〇、〇〇〇	（二、八七〇、〇〇〇）	二・〇〇％
波蘭	三、三〇〇、〇〇〇	（三、六〇〇、〇〇〇）	九・七〇％

此等の數字は勿論獨逸からの多數の移住者を計算に入れると、幾分増大するであらう。就中、之等

諸國の統計の多くは、數年以前の人口調査乃至推定を基礎としてゐるのである。伊太利のユダヤ人の數の報告は過少に推定されてゐるらしいが――その現在數は八五、〇〇〇を超えた筈である。――一方、パレスチナのユダヤ人數は恐らくは過大に報告されてゐるらしい。これは故なき事ではないのであつて、ユダヤ人にとつては、パレスチナの全人口に對するユダヤ人口の割合を出來る限り大きくして、パレスチナの土地に對するユダヤ人の表面上の權利を確立することが、重大問題であるからである。

世界の重要な大都市に於けるユダヤ人口を一瞥すると、次に概觀せる如く、ユダヤ人が大都市進出の可能性を與へられるや否や、平坦なる土地から家屋の密集してゐる處へ、いかに急速に移つて行つたかゞ明白になる。

	英國猶太年鑑一九三八	米國猶太年鑑一九三八
ニューヨーク	一、七六五、〇〇〇	一、七六五、〇〇〇
ロンドン	二三三、九九一	二三三、九九一
パリ	一八五、〇〇〇	一七五、〇〇〇
ローマ	一一、二八〇	一一、二八〇
ブタペスト	二一七、五四五	二〇四、三七五

ブタペスト	二一七、五四五	二〇四、三七五
プラーグ	三五、四六三	三五、四六三
ブカレスト	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
モスコー	一三一、七四七	一三一、七四七
ワルソー	三三三、三五四	三三三、三五四

これらの數字を總括的に觀察すれば判る通り、アメリカ合衆國は幸福にも最も多數のユダヤ人の居住地をなしてをり、ニユーヨークの人口數が示してゐる如く、彼等は既に壓倒的に都市の職業の中に編入されて居るのである。アメリカ人口に於けるユダヤ人の割合が更に増大する貯藏地をなしてゐるのは依然として、ユダヤ人がその全人口の九・七%を占めてゐる波蘭である。

數字上の根據に基き、この必要な觀察を終るに先立つて、更に、出生數及び死亡數の割合にも一瞥を投じて置かねばならぬ。獨逸に於ては既に現在定住してゐるユダヤ人の約五十五パーセントが四十五歳以上に達して居り、死亡數は出生數より著しく超えてゐるのに對して、一方、東歐ユダヤ民族の中心地としての波蘭のユダヤ人は、一九二八年の國勢調査によると、三八、一七四人の自然増加を示してゐる。

　ここから推察し得ることであるが、東歐ユダヤ人は次の如き理由からしても、――一般にはアメリカ合衆國を目指して――波蘭から離れて行かねばならぬのである。これは波蘭はその過剩人口をもはや自己の國土內に扶養することが出來ないからである。況や波蘭が民族社會主義獨逸と同樣に、自ら進んで彼等を追放せんとしてゐるに於てをやである。
　ルーマニヤには（一九二六）年に五六八三人の出生超過があり、洪牙利には（一九二六）四二八人アメリカ合衆國には、『猶太社會研究』局の推定によれば（一九二五）、四三、〇〇〇人、最後にソ聯には三五、九一八人の出生超過がある。
　前記の諸數字は、たとへ近似値にすぎないとしても、信賴すべきより新らしい報告が遺憾ながら存在しないので、その差異は、この諸數字から引出さるべき結論がその正當性を失ふほど大きいものではない。明かにユダヤ人の出生數は、彼等が寄生してゐる國土が東であるに從つて增大してゐる。その意味する所は、西歐及び海外への東歐ユダヤ民族の移住は、ユダヤ人全體に對する最後的な强制移住地が見出されないならば、大した衰退もなく繼續するであらうといふことである。かくユダヤ人が文明世界へと流れ込んで來るといふことは、歐洲及び海外諸國に取つては危險なことであつて、それを輕視するのは許すべからざる輕卒である。忘れもしないが、曾つて一九三三年までに獨逸に流れ込んだユダヤ人は、すべて東方のゲットー（ユダヤ部落）から流れ出たものであり、餓鬼の如き熱烈さ

んだユダヤ人は、すべて東方のゲットー（ユダヤ部落）から流れ出たものであり、餓鬼の如き熱烈さで文明及び文化の業績に飛び附いて來たのであるが、然かもこれらの文化及び文明の業績に對して彼等は何等の內面的關係をも持つて居らず、又持つやうになることも出來なかつたのである！ この危險を完全に認識するために、ワイマル體制下の獨逸に於ける文化の荒廢を思ひ出して見ようではないか！

東歐ユダヤ民族の最も著しい出生增加の好例として、ルッピンは（解體以前の）チェコ・スロヴアキヤ出生數を引用してゐるが、それは次の如くである。

メーレン	一〇・一出生（ユダヤ人千人に付）
スロヴァキア	一四・四〃（〃）
ボヘミヤ	一七・四〃（〃）
カルパト・ロシア	三〇・一〃（〃）

ユダヤ人の都會化の進むにつれて出生增加數の減退してゐることは、好都合にも――少くとも獨逸に於て――ユダヤ問題の解決に寄與するであらう。

ユダヤ人の社會的境遇を觀察すると、――既に一般に知られてゐる如く――アメリカ合衆國に定住

してゐるユダヤ人の平均收入が最高であり、東歐に居住してゐるユダヤ人の平均收入が最低であることが判る。雜誌『經濟と生活』（一九三〇年二月、ベルリン）にユダヤ人マーネスの發表した次の計算が絕對に信賴すべきものであるとするのではないが、しかも、この計算は各國に於けるユダヤ人の收入狀態、從つてその社會的地位を明白に示してゐる。彼はアメリカのユダヤ人の收入を一人に付八七五ドル、獨逸に定住してゐるユダヤ人の收入を六〇〇ドルと推定してゐる。この數字は勿論最近に於ては著しく變更されてゐる。が、一方彼は、波蘭のユダヤ人の收入を一〇〇ドル、ソ聯のユダヤ人の收入を――理論的價値にしたがつて――一四〇ドルと假定してゐる。

同じ評價に從へば、アメリカのユダヤ人の一年の全收入は三十七億二千萬ドルであるが、これに對して波蘭のユダヤ人の收入は二億八千萬ドル乃至三億一千萬ドルである。

これらの數字から又、上記の諸國に於てユダヤ人の占めてゐる職業を一般的に概觀することが出來る。アメリカ合衆國の數字から全く疑ひもなく推定されることは、かかる收入は銀行家、株主、デパート所有者等に對してのみ支拂はれうるものであるが、一方、東歐ユダヤ人は、特に彼等の性情に適當する簡單な職業、即ち小賣商人とか行商とかに滿足しなければならないのである。

かかる少數の報告をもつて、ユダヤ問題を數字的に概括した譯である。千七百萬人のユダヤ民族が

全地球上に分散してゐる譯であるから、數的には多いとは言へないが、あらゆる國土と生活領域との

全地球上に分散してゐる譯であるから、數的には多いとは言へないが、あらゆる國土と生活領域との樞機を占めて分散してゐるからには、それは一個の世界的權力となるのである。

二、諸國の組織

獨逸に好意を有する側から、曾つて巧みに次の如く指摘された事がある。即ち、誰かゞ世界の片隅で一ユダヤ人の感情を害するやうなことがあると、アメリカ大使、イギリス又はフランス大使等が抗議を申込むが、世界大戰に於けるが如く、獨逸民族が封鎖によつてまさに餓死に瀕しても、それは人道及び世界平和に寄與することだと言はれるのである！ ユダヤ民族が斯かる世界的反響を惹起すために用ひる手段及び方法の總べてを敍述する事は、餘りに長きに失するであらう。斯かる反響はユダヤ人の組織より最も簡單に明白となる。而して此の際我々がアメリカ合衆國、イギリス、フランス、パレスチナのみを考慮する理由は、其他の諸國のユダヤ人は一切の重要なる問題に關しては前述した諸國に定住してゐるユダヤ人の諸組織の決定に依存してゐるからである。此等の諸組織は、全ユダヤ人の政治的、經濟的、文化的並びに宣傳上の權力機關を形成してゐる。而してユダヤ民族が政治的要素として認められたのは、一九一七年に英國政府によつてなされた處の惡評高きバルフオア宣言に於

けるものが初めてである。ユダヤ人の言ふ所に依れば、ひとりイギリスのみが、私人としての一ユダヤ人に對する公式的回答に於て、全世界のユダヤ人を一個の團結せる政治的統一體として承認したといふ功績をもつてゐるのであるが、この事は、歴史的『誤謬』の發生を防止するためにも明白にしておく必要のあることである。しかし、かゝる宣言のために、目覺めつつある諸民族がもはやかゝる形態に於ては何らの關心を有たうとはせぬところの問題が重苦しくも提出されたのに對して、一群のイギリスの政治家たちは免れ難い責任を有するのである。パレスチナに於ては既にこの決定のために、無數のイギリス兵及びアラビヤ兵がその生命を落してゐるのである。

イ、アメリカ合衆國

アメリカ合衆國のユダヤ民族の意義に關しては確乎とした直接の斷定が存して居る。ユダヤ人の間で有能と認められてゐる社會學者アルトウール・ルッピンが一九三一年に『アメリカ・ユダヤ人の意義』に關して書いたものゝ中に次のやうな節がある。

「アメリカ合衆國のユダヤ人は今日數の上から見て、他の如何なる國のユダヤ人よりも著しく多いのみならず、彼等は裕福と政治的勢力に於ても亦、他の諸國のユダヤ人に優つてゐる。彼等の大部分は最も裕福にして、最高指導層に屬してゐる。ユダヤ人が分散生活に入つて以來、か

の大部分は最も裕福にして、最高指導層に屬してゐる。ユダヤ人が分散生活に入つて以來、かく幾百萬のユダヤ人が一國內に於て、今日の合衆國に於ける如く自由と裕福とを持つて生活した時期はかつてなかつたのである。ヨーロッパに於ける彼らの信仰仲間の爲の干渉政策は、彼等の政治的金融的勢力の上に築かれてゐるのであるが、それは可成り屢々成果を上げてゐるのである。世界大戰寸前に於てすら、極めて有效なる手段を用ひて、合衆國とロシアとの貿易契約の破棄を通告せしめるまでに至つたのである。」

これらの言葉を益々疑問の餘地なきものとするのは、ユダヤ人が尤もな事ではあるが、彼等の權力を實際に卽した大いさに於て敍述する事を避け、非ユダヤ人側のかゝる敍述を、すべて幻想か惡意ある中傷と見做して譲らうとはせぬからである。其他ルッピンの言葉より推察されることは、表面上慈善的な目的を持つてゐるユダヤ人の諸組織が實質的には如何なる性質のものであるかといふことである。

『米國猶太年鑑』(American Jewish year Book)『猶太出版協會』Jewish publication Sooiety出版)——の一九三七・八年版の示す所によれば、アメリカ合衆國に於けるユダヤ教を信ずる五百萬人のユダヤ人が百九十六の組織を左右してゐるが、然もこれらの組織はあらゆる生活領域に食ひ入つ

てをり、その最も重要なる組織の活動はアメリカ合衆國及び合衆國以外のアメリカにのみ限定されてゐるわけではなく――年限の明らかに示してゐる如く――獨逸に住まうと、オーストラリヤに住まふと、全ユダヤ人の爲に活動してゐるのである。

一、米國猶太委員會（American Jewish Committee）

アメリカ合衆國のユダヤ人の中央組織は『米國猶太委員會』である。一九〇六年にアメリカに定住するユダヤ人の決議により設立されたもので、全世界のユダヤ人の人權擁護に乘り出すことによつて、直に國防使命を帶びるものとなつたのである。

同委員會は、ユダヤ人の宗教的儀禮としての他民族「虐殺」の事實を組織的に宣傳することによつて否定し、又アメリカ政府への干渉に依て汎ゆる國のユダヤ『少數民族』擁護に乘出し、獨逸に於ける補助組織機關、フランスの『世界猶太人同盟』（Alliance Israelite Universalle）等と協力して、貧困ユダヤ人の財政的援助に乘り出したのである。この委員會の活動に關しては毎年その秘書ハリー・シュナイダーマンの出版にかゝる『米國猶太年鑑』に說明がかゝげられて居るが、それによると、この中央組織がアメリカ政府に向つて行ふ反獨陰謀がよく分るのである。

アメリカ以外のユダヤ人組織とは絶えず連絡が保たれてゐる。即ち『米國猶太年鑑、一九三七・三八年版』の八二六頁では『米國猶太委員會』の

アメリカ以外のユダヤ人組織とは絶えず連絡が保たれてゐる。即ち『米國猶太年鑑、一九三七・三八年版』の八二六頁には『米國猶太委員會』の會員に對する執行委員會の次の如き報告がある。

「昨年度に於ても、我が委員會は、同樣な方法で活躍してゐる他の組織との協力及び情報の交換を繼續してきた。即ち『英國猶太代表委員會』及び『同委員會』の『海外聯合委員會』(Joint Foreign Committee) 並に『英猶協會』(Anglo-Jewish Association) とも緊密な接觸を保つてきたのである。パリの『世界猶太人同盟』『加奈陀猶太會議』(Canadian Jewish Congress) ニューヨークの『猶太植民協會』(Jewish Colonisation Association) 『南亞猶太代表會議』(South Africen Board of Jewish Deputies) 『瑞西猶太人同盟』(Schweizer Israelitischer Gemeindebund) アムステルダムの『猶太中央情報局』(Jewish Central Information office) その他多くの組織とも又我が委員會は從來加盟組織と不斷の連絡を保ち、多くの場合、各種の問題に關してそれらと協力してきてゐるのである。

過去數年間に於ける如く、委員會の代表者は『聯合評議會』(Joint Council) を通じて『米國猶太會議』(American Jewish congress) 及び『ブナイ・ブリス結社』(Bnai Brith) と意見の交換を行つて居た。其他我が委員會は多數の組織と協議を行ひ、その協力を得て來てゐ

るが、就中『ブナイ・ブリス結社』及び『反名譽毀損聯盟』(Anti Defamation League) は注目すべきものであつて、兩者共に我が敎育部と協力したのである。更に擧げらるべきものは『猶太勞働委員會』(Jewish Labor Committee)『猶太婦人國民會議』(National Council of Jewish women)、『ヘブライ避難民救援協會』(Hebrew Sheltering and Immigrant Aid Society (略稱は Hias)『猶太連絡會議』(Conference on Jewish Relations) 及び其他多數のユダヤ又は非ユダヤ組織である。

該委員會の年報のこの一節は、その世界的活動の例證として充分なものであり、此れ以上何ものをも附加する必要はない。勿論このユダヤ民族の國際的協力の意義は、上記のあらゆる機關の組織と活動方法とを述べてこそ初めて全く明白となるものである。

委員會の一九三七年の收入は、一六七、七九七、四五五ドルといふ巨額と記されてゐる。そこで結局前年の利益金を含めて現金は、二〇四、七六三、七八ドルに達するが、これだけの金があれば相當の活動の出來るのは當然である。一九三、五三九、六九ドルといふ支出は、金融手段の運用に關しても節約の行はれてゐないことを示してゐる。

委員會の會長は現在七十五歳のサイラス・アドラーである。アドラーは主として科學分野に活動してゐたものである。猶太科學研究所の活動と並んで、彼は就中フイラデルフイアの猶太大學のドロプシー・コレッヂ (Dropsie College) の校長であり、かつてはワシントンの米國國民博物館の東洋考

てゐたものである。猶太科學研究所の活動と並んで、彼は就中フイラデルフイアの猶太大學のドロプシー・コレッヂ（Dropsie College）の校長であり、かつてはワシントンの米國國民博物館の東洋考古學部の部長であつた。

更に忘るべからざることは、彼が一九一九年のヴェルサイユ平和會議に於けるアメリカ・ユダヤ人の代表委員であり、その際彼がユダヤ『小數民族權』の最も果敢なる鬪士の一人として活躍したことである。彼の政治的經歷にとつて少なからず重要なのは、ユダヤ人たるアメリカの政治家ルイス・マーシャルとの關係であつて、彼は一九一四年マーシャルに代つて『猶太米國委員會』の指導的位置に坐つたのである。今日既に殆ど誰でも知つてゐる見解であるが、アメリカの政治指導者の態度に關する見解を證明するものとして、ローズベルトが彼の誕生日に祝電を發し、その際、「貴下の生涯は豊富であり、貴下の愼重な活動は公共のための大いなる利益に依つて充たされてをる。」といふ言葉を添へてゐるといふ事實がある。

彼を補佐する副會長として、ニューヨークの判事たるアーヴイング・レーマンがゐる。レーマンは一九三七年にセント・ローレンス大學のブルックリン・バー・スクールの法律學名譽博士號を授與された。もう一人の副會長はルイス・キルシユタインである。會計部長はサミユエル・ライデスドルフ

である。

組織の實行機關たる執行委員會は四十六人のユダヤ人より成り、その中にはかの前年末に物故せる金融家フエリックス・エム・ワーブルグも居たのである。この人は（彼の位置は現在彼の息子によつて引繼がれてゐる）他の重要なる諸組織の指導的位置にも再び見出される。

二、米國猶太會議

更に上位の任務を荷つてゐるのは、一九三七年に設立された『米國猶太會議』で、これは二年毎に召集される。其の任務も亦アメリカ合衆國の國境を超えてゐる。その任務は「アメリカ及び其他の國に於けるユダヤ人の他民族との平等權の擁護であり、然もこの權利とは、ひとり個人としてのみでなく集團としても、我が民族の歴史的目標及び努力を追求する自由を包含する。又ユダヤ人の市民は政治的、經濟的、宗教的權利の確保及び擁護、ユダヤ人の故國（パレスチナ）を發展せしめる運動の擁護、ユダヤ人の利害及びユダヤ問題に關する賢明なる理性的輿論の發展」もその任務に數へられてゐる。反猶主義防衛及び移民制限法徹廢運動が本『會議』の任務たることは固より然りである。移民問題の調整に對するユダヤ人の成功は、特に民主黨國會議員たるユダヤ同胞サミユエル・ディックシユ

タインが委員會の議長たることに歸せらるべきである。彼はまた『反米運動調査委員會』議長としての活動によつて知られてをり、その議長としての資格に於て、彼は『獨逸同盟』から凡ゆる活動の可

タインが委員會の議長たることに歸せらるべきである。彼はまた『反米運動調査委員會』議長としての活動によつて知られてをり、その議長としての資格に於て、彼は『獨逸同盟』から汎ゆる活動の可能性を奪はうと企圖したのである！　ユダヤ人の政治家及びユダヤ人の組織がかくも完全に協力してゐるのであるから、ヨーロッパから來るユダヤ人が移住に際してあらゆる便宜を受けるといふのも、敢て異とするに足りないのである！

アメリカのあらゆるユダヤ組織の會員より成つてゐる當會議の議長は、周知のステファン・ワイズ博士であつて、反國民社會主義のジュネーブに於けるユダヤ世界會議執行委員長として、最も惡辣且つ殘忍なる使嗾者として頭角をあらはしたのである。最近（一九三八年七月五日）まで彼は『米國シオニスト組織』（Zionist Organisation of America）議長であつた。彼がこの位置に就いたのは一九二〇年であつて、他の連絡に於て尙論及さるべき高等法院判事ブランデイスの後を襲つたのであつた。

副議長として彼を補佐してゐるのはルイス・リプスキーである。執行委員長はナクン・テイー・ベルルマンであつて、一九二〇から一九二七年に跨つてニューヨーク州選出の國會議員となつてゐた。彼が自己の種族的同胞（半ユダヤ人）たるニューヨーク市長ラ・ガルヂアによつて更に地方刑事裁判

所（Court of Special Sessions）の判事に任命されたことは、彼個人にとつてのみならず『亞米利加猶太會議』にとつてもまた役立つたのであらう。

會計部を統御してゐる者はヤコブ・ライヒマンである。

三、非宗派的反ナチ聯盟及び反名譽毀損聯盟

上記の諸組織は、各國政府及び國際聯盟に絶えず干渉しながらも、それは客觀的な政治活動を行つてゐるのに過ぎないかの様な外觀を装はなくてはならなかつたので、煽動運動の方は辯護士サミュエル・ウンテルマイエルの『非宗派的反ナチ聯盟』及び『反名譽毀損聯盟』に委ねられてゐたが、これらが明らかに前記のユダヤ的特徴を有する諸組織と絶えず接觸してゐることは言ふ迄もないことである。

國家社會主義とフアッシズムに對する非難――この組織は專らこれら二つの主義を防止する爲に設立されたものであるから――如何に無意義なものであるにも拘らず、これらの組織を以て行ふ宣傳乃至ボイコット工作は、兩組織の代表者間の連絡と彼等が自由に左右し得る財力と彼等に隷屬する新聞との力に依つて、アメリカに於て最も廣汎に傳播されてゐる。

實際『非宗派的反ナチ人權擁護聯盟』（Non Sectarian Anti-Nazi League to Champion Human Rights）は非ユダヤ人及びカトリック教徒をも會員としてゐるが――指導者達の中にはウンテル

實際『非宗派的反ナチ人權擁護聯盟』(Non Sectarian Anti-Nazi League to Champion Human Rights) は非ユダヤ人及びカトリック教徒をも會員としてゐるが――指導者達の中にはウンテルマイエルと並んで、ニューヨーク市長にして半ユダヤ人たるフイオレロ・ラ・ガルヂア(副議長)及びシオドラー・ローズベルト大佐がゐる。彼等が自らの負擔に於て民族的起源を有する一切に對して果敢な鬪爭を行つてゐる局外者でないことは『米國猶太年鑑』(一九三七。三八年版)の年次報告が最もよくこれを證明してゐるのであつて、その二百十四頁及びそれに續く頁に於ては獨逸に對するラ・ガルヂアの前年の攻擊(一九三七年三月三日、ニューヨークに於ける『米國猶太會議』婦人部會議に於ける)が是認され、好意を持つて言及されてゐるのである。

『反名譽毀損聯盟』はいま述べた組織とは反對に、純ユダヤ的設立であり、ユダヤの世界的秘密結社である『ブナイ・ブリス獨立敎團』(Independent Order Bnai Brith) に直屬してゐる。『米國猶太年鑑、一九三七、三八年版』の六二八頁には同組織の目的が書かれてあるが、それは「アメリカの諸團體の間に友交的、好意的關係を樹立する」にありと云はれてをり、又「チエコ・スロヴアキアのブナイ・ブリス結社大本部月報」には、明らかに本組織の鬪爭は「反猶主義」及び「ユダヤ人排斥」に向けられる、としてある。この仕事に如何なる意義が與へられてゐるかは、それが一九三二年

まではブナイ・ブリス結社の兼職の仕事となつてゐたのが、今日では專任の會長が一人に九人の書記があの組織內で働いてゐるのでも分る！　その本部所在地はシカゴである。こゝを中心して約五百の都市に細胞組織が設けられてをり、この細胞組織は既の講演會の開催に就いて責任を有するのである。本部は獨自の新聞切拔部をもつてをり、啓蒙パンフレットの撒布を指導し「劇場方面」受難劇、映畫に對する必要なる干涉」を行ふのである。併しこれでも十分ではなく、鬪爭は更に「官廳、ホテル、レストラントに於ける誹謗に對し、反猶的圖書、雜誌、日刊新聞等に於ける侮蔑に對して」も向けられて居る。

この綱領の中に述べられてゐるのが大言壯語に類する理論のみではないといふことは、アメリカ新聞の樣相がそれを充分に物語つてをり、更にアメリカ合衆國の指導的政治家の親猶的態度もまたそれを示してゐるが、この後の點では尙後から詳細に述べるつもりである。

議長の椅子を占めてゐるのはシグムント、リヴィングストンであり、一方、常設局の常任管理者としても亦委員會の一員として擧げられてゐる。從つて、ブナイ・ブリス結社が實際上はあく迄も人道主義的の福祉施設であつて、政治的には中立的立場を取るものであると云ふ說は機會ある每にユダヤ人に依つて論及されるにも拘らず、一場の作り話として否定されてしまふのである。

四、國際的ユダヤ金融組織

四、國際的ユダヤ金融組織

上述せる組織の全活動も、もしその破壞的政治的仕事が、想像以上に高度な金融手段を左右してゐる有能なるユダヤ人の金融組織によつて支持されないとしたら、效果もあげ得まいし、又大したものでもないであらう。從つて此の金融組織は國際ユダヤ人の眞の中心點となつて居るものであり、その指導者はいはゞ、政治的中樞、即ち世界ユダヤ民族の中心の重要部分を形成してゐる。

多數の小規模の下部組織及び副次的組織は別とするも、先づ此處に擧げられなくてはならぬのは、法人組織の『米國猶太聯合分配委員會』(American Jewish Joint Distribution Committee) と金錢の分配を處理してゐる。その附屬組織『米國猶太諸問會議』(American Jewish Consultive Council) であり、また『米國聯合再建財團』(American Joint Reconstruction Foundation) である。

兩組織の任務の領域は、元來別種の活動に從事してゐたのであるが、今日に於では殆ど完全に同一である。『分配委員會』をその下部組織と副次組織とを含めて、國際ユダヤ民族の金融中樞であると主張しても、決して言ひ過ぎとはならない。この際、この金融組織が世界ユダヤ人のあらゆる補助組

織の上部組織である『協商委員會』（Comité d Ententle）――これは昨年パリーに設立された――に從屬させられたといふことは、大して重大なことではない。即ち、この處置は單に實踐上の問題なのであつて、その理由は使用される金錢の最大部分は、かの巨大な資金の中から獨逸の例にならつてユダヤ人を追放せんとしてゐるヨーロッパ諸國に流入して來るのだからである。

『分配委員會』の場合も亦、その國際的性格は歴然とあらはれてをり、されぱこそ、議長パウル・ベェルヴァルト――彼はエヴィアンの移民問題討議會議に於ては米國政府代表の一人であつた――は一九三六年の年次報告に於て次の如く確言した。「海外に於てユダヤ人の生活のある所、ことごとく聯合分配委員會の手の及んでゐない所はない。かくて我々が平然と口にし得ることは、幾十萬の我同胞の單なる生存さへも、幸福なるアメリカに住んでゐる我々が、我海外同胞が自らやつて行くことの出來るやうにと彼等自身の英雄的努力に對し我々の方でも助力をなすか否かに、かゝつてゐるといふことである」この綱領の飾氣のない言葉をもつて言ふならば、『分配委員會』の任務は、『海外ユダヤ人の援助と復權の爲に資金を分配すること』である。

この組織の左右してゐる資本は、全世界のユダヤ人の寄附金及喜捨より成つてゐる。既述せる年報は、一九一四年十月より一九三六年十二月に至る期間の收入として、總計八七、二二一、八二六、〇八ドルと云ふ。而もこの中、一七、四六五、一五八、〇五ドルは第一次世界大戰前のロシア及びソ聯（ウクライナを含む）へ、

八ドルと云ふ。而もこの中、一七、四六五、一五八、〇五ドルは第一次世界大戰前のロシア及びソ聯（ウクライナを含む）へ、一三、八四五、二三七、一九ドルは波蘭へ、そして二、六一七、四三〇、二三ドルは獨逸へ送られたのである！　同年報は一九三六年には收入一三七九、五一一、四二ドルと報じてゐる！

この分配は、（"Consultive Council"）『諸間會議』の監視のもとにあらゆる國のユダヤ補助機關に對して行はれて居るが、この補助機關が完全に非政治的――卽ちユダヤ人のいふ中立的――であらうと、極端にマルクス主義的であらうと、それは全く問題とされないのである。フランスの避難民救濟の諸機關――例へば『獨逸避難民救援國民委員會』（Comite National de Secours aux Réfugiés d Allemand）――へ流れ込む金は、パリの『ユダヤ避難民保護及び移民協會』（Hicem）とこれに從屬する『移民管理局』（Emigdrect）を通じて支給されてゐる。

無資產のユダヤ人及びユダヤ避難民の生存を決定することの出來る世界ユダヤ民族の此の金融機關の指揮は、『諸問會議』の指揮と同樣に、ユダヤ人銀行家フエリツクス・ワールブルグが一九三七年に死するまで、彼の掌中にあつた。全く彼は、大ユダヤ銀行クーン・レエープ會社の出資者であり、ハンブルグ在住の以前の銀行家にして獨逸國立銀行重役會のかつての委員たるマツクス・ワールブル

グの兄弟である。マックスの後任には彼の息子が就任したのである。

これ以上説明の要もないのであるが、この組織の首腦部にはアメリカの著名なユダヤ人の金融家及び政治家が顔を並べて居り、就中副議長としては昨年十一月に再任したニューヨーク州のユダヤ人知事ハーバート・レーマンも居るが、彼は政治生活の當初からローズベルトの友人であり、一九三七年にはナイヤガラ大學から法律學名譽博士號を授與されたのである。執行委員會に於ける代表者は就中サイラス・アドラー及びジエイムズ・マーシヤルである。マーシヤルは大富豪ルイス・マーシヤルの子として生れ、一九三八年八月以來、ニューヨークの教育長官として活躍してゐる。

五、アメリカの公的生活に於けるユダヤ人

アメリカ合衆國のユダヤ人の金融上及び組織上の權力機關の敍述は、多數の協會の中から最も重要なものだけを摘出したのではあるが、それでも充分に眞相を示すには足りたであらう。併しアメリカの政治及び世界の政治に實際的に働きかけてゐる運動が、上述の組織に依て如何に指導され、又金融の便を與へられてゐるかといふ事が、更に明白にされなくてはならぬ。

政治史はその方向を示してゐる。アメリカに於けるユダヤの金融界はその資本力の運用及び法律力の利用により、強制的にかれらの最も有能老練なる代表者達をもつて公的地位を占めてゐる。更にこ

の利用により、強制的にかれらの最も有能老練なる代表者達をもつて公的地位を占めてゐる。更にこの代表者達は、最も重要なるユダヤ人組織の議長職を賦與されることに依り——而もかかる地位の賦與は獲得せる公的地位の職權及び重要性に準じて行はれる——組織化されたユダヤ民族に連繫され、その希望や意見を熟知せしめられる。かゝる制度は數十年の長きに亙る試練や體驗に基いてゐる。ユダヤ人の社會的地位は——卽ち彼がいまだ公然とユダヤ敎から離反して居らない限り——自覺的なアメリカ人仲間からいかに嚴しく隔離してゐるといふ特質を示してゐるとしても、尙彼がかゝる方法によつてこの國の公的、經濟的、政治的、文化的生活への中に獲得した地位といふものは、一朝一夕には打倒し得るものではない。

ユダヤ人に對して門戶を開かしめた根本的缺陷は、國民のすべてに自由と幸福とを保證してゐる此の國の憲法中に存在するものである。然しこの點に於ける轉換は、此の國の最も重要な人々が、少くとも現在の情勢の不可能性卽ちユダヤによつて支配されるか、乃至は間接に指導されてゐるといふ情勢の堪え忍ぶべからざることを確信するに至らない限り、決して實現される筈もないのである。この際彼等はデモクラシーの政治家ベンジヤミン・フランクリンを想起してみるがよいのだ。彼は旣に百五十年以前、アメリカの存續にとつて最大の危險は、ユダヤ人の進出であらう、と指摘してゐるので

ある。

智腦中樞部（ブレイン・トラスト）　(Brain Trust)

ところで現大統領フランクリン・デラノ・ローズベルトが、紛れもなくデモクラシーの代辯者たるフランクリンの此の政治家としての忠言をどの程度まで聞き入れてゐるであらうか？

帳尻は明白である。即ちユダヤ民族に對する彼の態度を明らかにするものは、一九三八年十二月二日にデトロイトで開催された『ユダヤ老兵同盟』に對して彼が送つた次の電報である。

「アメリカ國民は、ユダヤ教の代表者たちが曾てアメリカ國民に對して示した盡力を想起させられる必要はない。それこそあらゆる光榮と榮譽とに滿ちた盡力であつた。歴史が證明してゐる如くユダヤ人は世界大戰中及びこれに先立つ度々の戰爭に於ても亦、アメリカ精神の防衛の爲に、偉大にして賞讃すべき役割を演じ、平和時には、アメリカ合衆國及びそのデモクラシー政治形態の名聲と理想とを促進維持する爲に多大の寄與をなしたのである。」

か〻る言明の誇大さは一部分は選擧の勝利を顧慮してのものであるとしても、兎に角大統領の親猶的態度は、彼自身の言葉の中に明白に有りの儘に現はれてゐる。

それ故、彼の緊密な助言者群、即ち所謂『ブレイン・トラスト』がか〻る態度を忠實に反映しても決して怪しむには足りないのであるが、

それ故、彼の緊密な助言者群、即ち所謂『ブレイン・トラスト』がかゝる態度を忠實に反映しても決して怪しむには足りないのであるが、この際本研究の範圍內に於て重大な事實は、これらの人々の大部分が、現在アメリカのユダヤ民族組織の最重要なる位置を占めて居るか、乃至は過去に於て占めて居たといふことを確證することである。國際的利害を代表するユダヤの諸組織から政治指導の最尖端へと直接の道が通じてゐるのである。

この聯絡に於て、先づ第一に擧げねばならないのは大統領の常設法律顧問であるフエリックス・フランクフルター教授である。彼は一八八二年十一月十八日、ウイーンに生れ、一九一四年以來すでにハーバート大學の行政法の教授として活躍してゐる。積極的に政治方面に活躍するユダヤ人と彼との連絡が生じたのは、彼が『アメリカ』シオン運動中友人エル・デイ・ブランデイスの指導する團體に所屬し、ヴエルサイユ平和會議に於て米國猶太代表の一人として、ユダヤ人とアラビア人との關係をエミール・フエイザルと會談した時に始つてゐる。而もそれと丁度同じ頃、即ち一九一七年から一八年にかけて、彼はまた『大統領の仲裁委員會』(Presidents Mediation Commission)の法律顧問として、又陸軍長官スチムソンの助言者として活躍した。かくして公的政治に於ける政治活動は、ユダヤ人の爲の活動と相並んで進められてゐる。それ故に一方が他方によつて規定されないとか、少くと

も影響されないとか云ふことは、この場合には到底考へられぬところである。

從つてフランクフルターが一九三九年一月に聯邦最高法院の一員に任命されたとしても、それは又決して異とするに足りぬ。

ローズベルトの常設財政顧問、金融家にして實業家たるベルナルト・マンネンス・バルツフの位置は尠からず興味深いものである。彼は既に世界大戰に於て有力なる位置に坐つてゐた。即ち、大統領ウイルソンは一九一六年に彼を國家防衛會議の一員に加へ、後には原料、鑛物、金屬部及び『戰時產業局』（War Industries Board）の長官に任命したのである。一九一九年に彼が獨逸打倒にあたつての卓越せる業績のお蔭でユダヤ人オイゲン・マイエルと共に、ヴエルサイユ平和會議の最高委員會の一員、大統領の顧問、並びにワシントンの產業會議の顧問となつたのである。ヴエルサイユ強制條約の經濟的諸規定は尙餘りにも記憶に明らかであるから、これらの『アメリカの愛國者達』の活動に就ては餘り多く言を費す必要はない。

アメリカ合衆國の其後の大統領も亦、彼等に重要な諸問をなさずに濟すことは出來なかつたやうに思はれる。さればこそハーバート・フーヴアーもバルツフを最も親密な財政顧問にしたのだつた。これと同じことがフーヴアーの後繼者フランクリン・ローズベルトに依つてなされた。彼の功績の公的承認として、彼は一九三七年にはニューヨークのユニオン・カレッヂの『民法博士（ドクター・オブ・シビル・ロウ）』及び名譽總

承認として、彼は一九三七年にはニユーヨークのユニオン・カレッヂの『民法博士』(ドクター・オブ・シビル・ロウ)及び名譽總長の稱號を與へられた。米國猶太人新聞『アメリカン・ヒーブリユー』が一九三七年十二月に、バルッフは、大統領の賜暇休暇中その代理に任命されたと書かなかつたならば、一般の人々はそれを單なる噂として問題にはしなかつたのであらう。併しそんな譯であるから、かゝる斷定は益々重要さを加へるのであつて、それはアメリカの政治及びアメリカの生活にユダヤ民族が全く明白に直接的影響を及ぼしてゐるといふ例證となるからである。

ニユー・ディール仲間の第三番目の人は聯邦最高法院の一員たるルイス・ブランデイスである。彼は計畫的辭職の後に「アメリカ・ユダヤ人の要求してゐる移民問題の全般を處理すべき世界組織」の先頭に乘り出さうと計畫したのである。

ブランデイスの政治的經歷は、ユダヤ人に取つても、アメリカ政府に取つても、重大な意義を持つてゐた。『一般シオニスト問題の爲の臨時執行委員會』の指導者――一九一六年に聯邦高等法院の上席判事に任命された後は同委員會の名譽會長となつた。――として彼は親密な關係を利用してウイルソンをシオン運動の意味に於いて感化し、バルフオア宣言の意味に於けるパレスチナ政策に對するウイルソンの同意を得ることが出來たのだつた。かくてこの事を基礎として、彼はバルフオア宣言の準

備と公式化に協力した。一九一九年ウイルソン大統領によつてヴエルサイユ平和會議のアメリカ全權の一人に任命されてゐたブランデイスがこの爲に必要な賜暇を要求した時に、米國最高法院がそれを拒絕したといふことは、同法院の名譽であると考へてもよいであらう。この際如何なる理由が決定的であつたのかは分らないが、兎に角彼は少くとも直接的にはヴエルサイユ會議の進行に有害な影響を及ぼすことは出來なかつた。

而し彼は『ブナイ・ブリス結社』の最も勢力ある會員の一人として、今では歷史物語となつてゐるチエコ、スロヴアキヤの建國以前にマサリユクとの間に行つた商議に於ては特別な活躍をしたのだつた。チエコ・スロヴアキヤの基礎はこの會談に於て築かれたものと言はれてゐる！

ところで、今やブランデイスは彼の政治活動をあく迄もユダヤ人の分野にのみ限定しようと企圖したが、その場合常に彼のアメリカ政界に於ける永年の活動から生れた官界との連絡は、アメリカへの移住問題に於けるユダヤ人の要求を遂行するための好都合な足場となつたし、彼の種族的同胞たるデイツクシユタインは、移民委員として彼に協力を惜まなかつたのである。

アメリカの財務長官ヘンリー・モーゲンソーに就ても述べねばならぬ。

ブナイ・ブリス結社の會員たる彼の父は、ウイルソンの大統領選擧の有力なる關係者であり、後にはヴエルサイユ會議のアメリカ代表の一人に選ばれ、其他ウイルソンの設立したパレスチナにユダヤ人の故鄉を設立するための研究

はヴェルサイユ會議のアメリカ代表の一人に選ばれ、其他ウイルソンの設立したパレスチナにユダヤ人の故郷を設立するための研究委員會の議長として活躍した。

この息子は父の名を恥しめぬ後繼者となつた。彼の政治的役割はいたる所に於て、機會ある毎に、獨逸を傷けんと企圖した金融政策の方向から生れてゐる。

以上でユダヤ人の組織とアメリカ政治に於ける數人の有力なるユダヤ人の位置の二重性の概觀を終るとしても、これは、他に例が無いと云ふことを意味するのではない。その證據は、ローズベルトによつて任命された『國家復興局』(National Recovery Administration)の長官ドナルド・リッチバーグ及びアメリカ太平洋艦隊司令官であつたクロード・ブルッホ將軍もユダヤ人であつた。勿論――かゝる抗議が當然發せられるであらうが――アメリカ大統領の顧問陣には多數のアリアンたるアメリカ人も存在する。これらの人々には言及せず、今後の頁に於ても亦言及されないとしても、それはこゝに取上げてゐるのは全く、アメリカの公的生活に於けるユダヤ人の影響力を實證することにあるからである。

このユダヤ人の影響力が如何に大なるかは、アメリカ合衆國公使がルーマニヤに於けるユダヤ少數民族權の爲に反猶的ゴーガ政府の成立に當つて干渉せずには居られなかつた時に、全世界の人々の眼

前に明白に現はれたものである。更に、パレスチナ問題解決の爲に一九三八年十月大統領の書に依つてなされた英國政府への抗議の事も想起さるべきであるが、この抗議は猶太世界會議の執行委員會及び『米國猶太會議』（American Jewish Congress）の干渉に基くものである。

ユダヤ系及びユダヤに隷屬する外國新聞が繰り返し主張する如く――もし我々のやり方がユダヤ人の影響を餘りにも陰慘なものと見るものである、とされるならば、アメリカの國務長官がパレスチナ問題に關しユダヤ人の爲に一下院議員が干渉したのに對して個人的に答辯したといふやうな事は殆んど理解出來ない事となるであらう。この時ハル長官は、次の如く言つた。

「我々がパレスチナの狀勢を更に最大の注目を以て追求することを確約申上げることが出來る。又我々はこの國の發展を必然ならしめるためのあらゆる實際的處置を取るであらう」。とユダヤ人代表を引見した後、國務長官はユダヤ人の前に更に辭を低くして、國務省を通じてコンミユニケを發表せしめた。その中で彼は次の如く述べた。

「アメリカ國民はパレスチナ問題の發展を關心を持つて注視して居り、合衆國政府は英國が要求したかも知れないパレスチナ狀勢の變化に關して、若しそれがパレスチナの委任統治制に依つて保證されてゐるアメリカの權益に一致しない場合には、それを同國政府と協商して檢討する爲に必要なる手段を取るであらう。これだけで尙充分ではなくてユダヤ世界會議執行委員の一人である猶太法師ワイ、

段を取るであらう。これだけで尙充分ではなくてユダヤ世界會議執行委員の一人である猶太法師ワイズは、フランス大使の引見を受けるに至つたが、彼は「一九一七年十一月二日のバルフォア宣言に依つて認められたユダヤ人の權利の維持にあたつて、米猶協約に支持を與へる爲に」「ロンドンとパリ・との協力の可能性に關して」注意を喚起したのである。

つい最近のこの事件はアメリカに於けるユダヤ人の政治的勢力を特に明白ならしめた好例であり、かゝる政治行動がユダヤ人の干渉によつて喚起され行はれたものであることは爭ふ餘地がない。

ロ、英國

アメリカが國際ユダヤ民族の金融及び宣傳機關の本據とすれば、大英國はその對外政策の中心地である。英國に於ては、國民經濟上及び國內政治上にユダヤの政治的任務と官職とが米國に於けるより一層緊密にされて著名ユダヤ人の手にあり、旣に數十年來、國際ユダヤ民族の爲に有效な働きをなしてゐたのである。

英國は一九一七年に、パレスチナにユダヤ人の國民的鄕土の建設を約束した。『バルフォア宣言』を發表することによつて、彼等が寄生してゐる國々に於けるユダヤ人の平等權要求に對して、初めて

實の意味に於ける政治的支柱を與へたといふことは、幾度力說されてもなほ充分であるとは言へないことである。

この宣言が偶然に、例へば純然たる同情とか、誤つた思ひやりとから——か丶る動機がユダヤ人ワイスマンの永年の友人たるバルフオアに於ては或役割をなしたのだとしても——發せられたものでないことは絕對に確實なことなのである。このバルフオア宣言は、むしろ世界大戰に於ける英國の戰爭手段を金融的及び宣傳的に支持し、ユダヤの高度金融力によるその準備に對する代償だつたのである。か丶るユダヤ側に於ける盡力の代表者は、「世界シオニスト同盟」及『猶太代理局』（Jewish Agency）の議長たるチヤイム・ワイツマンであつた。彼は一九一六より一九一九年に亘つて英國海軍省實驗室の管理者であり、この地位のおかげで世界大戰勃發の數年前、既に英國の政界及び經濟界に網の目を張りめぐらしてゐたのだつた。

か丶る斷定がもし事實を物語つて居らないとすると、今日行はれてゐる如き英國の近東政策がユダヤ人の承認や拒絕に左右され得るものであることは理解できないのである。パレスチナに於ては、英國及びユダヤの利害が相當に錯綜してをり、これを利用して、ユダヤ人は英國民の大部分に、地球のこの部分には英帝國の政策が行はれてゐるのだと云ふことを、信ぜしめてゐるのである。今後の發展に於て誰が損害を受ける樣になり、誰が利益を受けるかに就て、多くの英國人は見透しがつ

この部分には英帝國の政策が行はれてゐるのだと云ふことを、信ぜしめてゐるのである。今後の發展

に於て誰が損害を受ける様になり、誰が利益を受けるかに就て、多くの英國人は見透しがついてゐるのだらうか。パレスチナ問題に於て（如何にそれが解決せられようとも）英國にとつて究極的に重要なことは、この土地の所有ではなく、イラクの油田からパレスチナ港ハイフアに終る『油送管』の所有なのである。併し此の石油獲得企業の主要株は『シエル運輸通商會社』(Shell-Transport and Trading Co) の掌中にあり、然もこの會社の代表者はユダヤ人ビアステッド公爵（ワルター・ホレイス・サミユエル）サー・ロバート・ウエレイ・コーヘン等である。彼等の名前は、後に最も重要なユダヤ組織の指導的地位に於ても亦再び發見されるのである。勿論『英國』經濟は此のシエル會社から利益を得てゐるであらう。然し恐らく次のやうに假定しても、それは假定ではないであらう。即ち最も重要なる『英國』の經濟人たる之等のユダヤ人は、同時に英國のユダヤ組織の最も有力なる位置を占め、この資格に於てユダヤ人の政治上及び法律上の承認の爲に乘り出し、英國ユダヤ人乃至英國人の經濟的利益を擁護しつゝ、同時に國際ユダヤ民族の利益を追求してゐるのである。一九二〇年にユダヤ人サー・ハーバート・サミユエル（現在のサミユエル・オヴマウント・カーメル子爵）がパレスチナの最初の高等辨務官に任命されたが、彼はロンドンのユダヤ金融家スウエイトリング・モンターギユ男爵、即ちエドウイン・ルイス・サミユエルの兄弟の息子として、サミユエル家及びロスチヤ

イルド家の設立物であるユダヤ系シエル財團の一員として生れたのであつた。彼は政治的にも經濟的にも有名なモントフイオル家の一人と結婚することに依つて完全にコンツエルン加盟員となり、パレスチナに於て、彼の親戚の石油利權の代理者となつた。かゝる視角から見るならば、以下に於て記述される英國のユダヤ民族の利權組織の作用力といふものが正しく評價され得るであらう。

ユダヤ人の重なる活動は『英猶協會』(Anglo-Jewish Association) 並びに既に一七六〇年に設立された『英國猶太人代表者委員會』(Board of Deputies of British Jew) に集中されてゐる。その他總ての組織は本質的には以上の二つの組織及びその決議に左右され、仕事もその範圍に限られてゐる。

一、英猶協會

『英猶協會』の任務は、その綱領によれば「ユダヤ人の社會的道德的精進的進步の改善」を援助するにある。また更にそれを超えて「ユダヤ人たるの故に惱みつゝある」人々にも保護を加へるのである。これは一八七一年に最初から公然と國際的活動を行つてゐるパリの『世界猶太人同盟』に呼應して『國民的』機關として設立された。『世界猶太人同盟』といふのは、その綱領によると世界中の猶

て『國民的』機關として設立された。『世界猶太人同盟』といふのは、その綱領によると世界中の猶太人を擁護することを目的としたが、かやうな態度は『英猶協會』から見る時は「猶太人を立腹させ又は不安ならしめるものである。即ち、新しく得た國籍と共に祖國をも變更した猶太人をして、國際的ユダヤ機關に參加することに依て世人の非難、或はそれ以上の災厄を蒙りはしないかと心配させる」と言ふ語であるが、これを簡單な言葉に飜譯して言へば、ユダヤ人はその國際的連繫をいさゝかも棄てたわけではなく、彼等が世界的に連繫してゐることを自己が寄生してゐる國家の政府に覺られないことを企圖したまでのことである。

この協會の仕事は實にその事實上の態度の表現であつた。この組織は第一次世界大戰前にルーマニアのユダヤ人虐待の抗議を發し――一九三八年にはブカレスト駐在の英國公使がこの任務を引受けた――露猶委員會の設立のきつかけを作り、近東に於ても援助活動を行つた！　この國際財政的援助は、特に表面的には反對の立場にある國際的『世界猶太人同盟』に依つて設立された學校にあたへられた。これ等の學校は――政府の補助金の結果として――周知の如く、フランス政治及びフランス文明思想の易々たる道具なのである。この際あく迄も英國が政治的利益を有してゐるイラク、インド、パレスチナの如き國々が考慮されてゐるといふことは、特に不思議なことではなく、ユダヤ人の政治活動について既に述べたことを、一段と擴張してゐるにすぎない。

英國の近東政策とユダヤ人の積極的協力とが斯もぴつたりと一致してゐるのを見ては、世人は誰でも一體此の人道的仕事は、誰が誰に依つて導かれてゐるのか、といふ問題を屢々提起したくなるのである。この問題は『英猶協會』の會員及び職員の名を擧げると、或意味に於て自ら答へられるのである。

議長は、『猶太植民協會』（Jewish Colonisation Assoccation）の評議員會にも名を連ねてゐるレオフハルト・モントフイオールである。彼はヴイクトリヤ朝の英國ユダヤ人の指導者サー・モーゼスの後裔であるが、このモーゼスは權勢低きユダヤ人から一躍初めて英國貴族に列せられた者であつた。エル・モントフイオールは種々の結婚關係によつて、政治的經濟的勢力によつて著名なるサミユエル一族と密接な親戚關係にある。

副議長として彼を助けてゐるのは、議長と同一家族の出身で同時にユダヤ民族に關する多數の圖書の著者であるクロトド・モントフイオール、英國の大猶太法師J・H・ヘルツ並びに從男爵サー・オスモンド・エリム・ダヴイグドール・ゴールトスミツドである。このゴールトスミツドは一九二六年より一九三三年に亘り『英國猶太代表委員會』の議長であり、『猶太代理局』の設立に盡力し、今日でもなほ『猶太代理局』の英國部の名譽議長をつとめてゐる。

なほ議長の補佐役にはロスチャイルド家（この一家とサミユエル家及びモントフイオール家並びにパリのロチルド家との『シエルト通商運輸會社』の内部に於ける業務上の連繋に關しては既に述べた）出身で、初代ロートシルド男の長男であり、一九三七年にはなほ『猶太病院』及び『マカベアン』協會（Maccabeans）の長をつとめてゐたウオーター・ロスチャイルド卿及びライオネル・ナータン・ドウ・ロートシルドの二人がある。後者に就ては『貧民保護局』に言及するにあたつて再び述べるであらう。

尙終りにこの系列の最後のものとして、英國の木綿工業に活躍してゐる。名譽會計課長たるジエラルド・ベデイングトンをあげて置かう。

二、『英國猶太代表者委員會』（Board of Deputies of British Jews）

『英猶協會』の事業より遙かに啓發するところ多く、又興味深いのは大英世界帝國内部に存在するすべての猶太教會の指導組織たる『英國猶太代表者委員會』の活動である。この『委員會』は三五五名の會員を數へ、九二名の在ロンドン猶太教會、一二七の地方教會、十の植民地團體及び一五の研究所の代表から成つてゐる。その任務の領域は綱領の中に次の如く限定されてゐる。

「宗教的共同體としての英國ユダヤ人の福祉に關係ある總ての問題に注目し行動すると。」

從つて、サロモンも亦既述の彼の著書に於て强調せる如く、本委員會は政治的には活動してをらぬと强調されてゐるのである。併し實際には本委員會の非政治的態度がいかなるものであるかは本『委員會』の出版部員であるサロモン自身が次の如く指摘してゐる所でもよく分る。即ち本委員會は「外國に於ける被壓迫同胞を援助する爲に海外の同宗者の利害を監視し本委員會が所有してゐる限りの努力をその爲に行使する、權能を有するといふのである。かくてこの委員會がその任務の遂行にあたつて、他國の內政問題に干渉するといふのであるから、非政治的態度などとは言ひ得ないことが判明する。彼は更に主張を續けて本委員會は法律的權力を以つてゐないのであるから、ユダヤ人の議會などとは言へぬが、然し他の總ての團體と同樣の基礎の上に立つて、その意志表示により政府に對して自己の勢力を及ぼすことが出來る。」といふことを承認してゐる。

併し我々には本委員會の作用力の理論的限界は問題になり得ない。と云ふのは、かゝる限界は實際には寧ろ單に英國の有力なるユダヤ政活家及び經濟家の手をかりて行はれるところの干渉の效果に依て決定されるからである。一九三三年以來の事實が我々に教えたところに依れば、かゝる作用力は政治的經濟的方面に於て、極めて大規模であつたのである。

更にこの組織が決して非政治的なものではないといふ事實に

治的經濟的方面に於て、極めて大規模であつたのである。

更にこの組織が決して非政治的なものではないといふ事實に對する證據を我々に提供するのは本『委員會』に所屬して『海外聯合委員會』(Joint Foreign Committee) が存在することである。その設立は一八七八年であり、東歐及び近東のユダヤ人の利益の爲の英國政府の干渉が問題になつた場合、共同行爲に出づることを究極の目標として、前述せる『英猶教會』と本『委員會』との間に意見の一致が成立したことによるものである。この任務の領域は既に久しい以前に擴大されて、いづれかの國に於てユダヤ人に對し一見何等かの不法が加へられる場合には、常に英國政府に對し或は同政府の個々の大臣に對し或は更に國際聯盟に對して、抗議を提出することになつてゐる。その結果は次の如き干渉となるのである。即ち、ゴーガの組閣の場合のものがそれであり、獨逸に於ては本年七月のエヴイアン會議に際してのものがそれであり、更に獨逸內政問題に對して繼續的になされた個々の干渉もそれである。

每年公刊される年報の證明する所によれば、獨逸の諸狀勢は宣傳に依つてそれに對抗することが出來るやうにと、同委員會の特別監視の下に置かれてゐる。即ち「『海外聯合委員會』は更に文明に對する獨逸の攻擊の眞の意味を輿論に訴へ、ナチスのプロパガンダに對抗する爲に、あらゆる努力を拂つたのである」とも書かれてゐるのである。

又かゝる任務を果さんが爲に、シドニー・サロモンの指導下にある情報委員會は、『海外聯合委員會』と聯絡のある英國內及び英國外のすべての組織に、內密の情報を送附する任務を負つてゐるのである。この情報は各國に於けるユダヤ問題の狀勢を報告し同時にユダヤ民族の仕事に關してなされてゐる外見上の噓言の反駁を企圖してゐる。

國際ユダヤ民族に對する本『委員會』の意味を明らかにしてゐるのは、先づ第一には大英世界帝國の最も顯著なユダヤ人連中が本委員會に加入してゐることであつて、彼等は自己の有する經濟的政治的能力によつて個々の力では到底實現し得べくもないやうな最大の干涉力を持つてゐるのである。

第二には、殆どすべての重要なるユダヤ組織が本委員會と同じく、ロンドンの『ウオバーン・ハウス』(Woburn House) にその本據をもつて居ることであつて、その爲にこゝに集中したユダヤ人の組織は純粹に空間的諸々の小組織に對して方向と目標とを示すことが出來るのである。

本『委員會』の議長はバーンレイの判事ネヴイル・ラスキである。又副議長として彼を助けてゐるのは、各種の他のユダヤ組織內に於ても同じ副議長の位置を占めてゐる銀行家ライオネル・レオンハルト・コーヘン及びサー・ロバート・ワーレイ・コーヘンである。後者は、前者同様多數のユダヤ人小組織の指導者にあげられてをり、『シエル運輸通商株式會社』の專務取締役である。從て『英猶協

小組織の指導者にあげられてをり、『シエル運輸通商株式會社』の專務取締役である。從て『英猶協會』の代表者たるモントフイオール一族、サミユエル一族及びロス・チヤイルド一族との連繫は確立されてゐるのである。更に彼は『パレスタイン・コーポレイシヨン』、『英埃油田株式會社』、『英帝國油田株式會社』の社長である。

會計部長はゴードン・リヴアーマンであるが、彼は一九三七年まで『ブナイ・ブリス結社』の大英國及び愛蘭支部の大議長であり、並びに同じ結社の歐洲委員會の議長の位置を占めてゐたことに依り更に又『英猶協會』の顧問會の委員であることに依つて特に目立つてゐる。

猶太政治の觀點より見て、重大な意義を有することの明白なこの組織の全貌を明らかにする爲め終りに臨んで、更に一九二八年以降その會員として、特に『英國』政治家ホアベリシヤ並びに英國の百貨店コンツエルンであるマルクス・スペンサー株式會社の支配人ノーマン・ラスキが所屬してゐることを指摘して置かう。

三、獨逸よりの猶太移民の爲の組織

大英國に於けるユダヤ民族の政治的立場は、獨逸を追はれた入國乃至通過移民の保護の爲に英國ユ

ダヤ人によつて設立された多數の協會をあげれば、特に明白となるのである。これらの組織は英國のあらゆるユダヤの補助組織と同じく『猶太貧民保護救濟委員會』（Board of Guardians and Trustees for the Relief of the Jewish Poor）に從屬してゐるが、この委員會の首腦部を占めてゐるのは、副議長としては『代表委員會』の副議長の一人たるライオネル・レオンハルト・コーヘンがあり、會計部長としてはライオネル・ナータン・ド・ロスチヤイルド及びエフ・デイ・サミユエルがある。

この種の重要なる組織を上げればまだまだあるが、その第一としては、『獨逸猶太人の爲の英國中央資金局』（Central British Fund for German Jewry）がある。これは一九三三年に『獨逸猶太人委員會』の金融機關として設立されたもので、「ヒットラー政權の犧牲者である獨逸の猶太人を援助すること」をその目的としてゐる。その議長職に於ては、英國大猶太法師シエイ・エチ・ヘルツ博士及びライオネル・ド・ロスチヤイルドを代表者とする『英國』ユダヤ人とユダヤ人ハイム・ワイツマンを急先鋒とする世界ユダヤ人とが仲よく手をつないでゐる。既に『英猶協會の副議長として上げておいた從男爵はサー・オスモント・エリム・ダヴイグドール・ゴールドスミツトは評議會議長として活躍してゐる。會計部長の位置を占めて居る者には、ロンドンのサミユエル・モンターギユ銀行の株主ライオネル・サミユエル・モンターギユ及び『貧民保護局』の會員たるエフ・テイー・サミユエルがある。

ルがある。

一九三三年に設立の『獨逸猶太人委員會』は此の金融機關と共に、その本部をロンドンのウオーバーン・ハウスに置いてゐる。その特色とする任務は、『獨逸ユダヤ人』の爲になされた陳情の調整とユダヤ人の獨逸退去の促進」とである。

評議會の議長はパレスチナの最初の高等辨務官たるサミユエル・オヴ・マウント・カーメル卿である。會計部長として彼を助けてゐるものは、『獨逸猶太人中央資金局』に於ける會計部長と同一人の人々である。

ノーマン・ド・マツトウス・ベントウイヒ（彼は暫時パレスチナの檢事總長の職にあつた人でありパレスチナ刑法の精神的父と云はれ、後にはヘブライ大學に於て國際問題に關する教鞭をとつた）は移民及び訓育部の長としての仕事を行つてゐる。

國際的關聯に於ける本組織の意義は、アメリカ側から、『米國分配聯合委員會』（American Joint Distribution Committee）の議長たるパウル・ベエールワルト『避難民經濟協會』（Refugee Economic Corporation）の一員チャールス・リーブマン、『ユナイテッド・パレスタイン・アピール』のステフアン・ワイズ博士及びモーリス・ローテンベルグが會員となつてゐるので一層その重要

性を加へてゐる。これに加へるに、今では故人となつた銀行家フエリツクス・ワールブルグも亦これに所屬してゐたのである。

獨逸を退去したユダヤ人の爲の大きい移民機關の最後のものとしては尙『獨逸猶太人救援委員會』(Germrn Jewish Aid Committee) を述べねばならぬ。これは「敎育、移住、再植民を含めて、大英國及び北愛蘭のユダヤ人避難民の監督」を行ふものである。こゝに於ても亦、議長たるものは著名のユダヤ人達である。卽ち一方はオツトー・エム・シツフであり、他は『英猶協會』の議長にして『代表者委員會』所屬の『海外聯合委員』の代表者であるソオンハルト・モントフイオールである。會計課を統帥するものは又もやライオネル・サミユエル・モンターギユである。單一的指導の下にある之等の移民諸組織の周知の活動を更に詳細に述べることは無用である。實際之等の移民組織は、援助活用と共に獨逸の『猶太人追放』に對する抗議活動の出發點をなしてゐる。

四、英國の公的生活に於けるユダヤ人

英國のユダヤ民族は如何に國民的な構へをして居らうとも、それは特別な業務を負ふことなしに、儲けたり利得したりすることの出來る場合にのみ『國民的』なのであつて、一度世界に於けるユダヤ民族の利益の擁護又は防衛が問題になる時は何時も國際的となる、といふことは、我々が前述の說明

民族の利益の擁護又は防衛が問題になる時は何時も國際的となる、といふことは、我々が前述の說明をもつて證明され得たと思ふ。

アメリカに於けるよりも以上に、英國のユダヤ民族は彼等の最もすぐれたる代表者によつて、この國際運動の目的を政治的に實現する爲の可能性をもつてゐる。英帝國は過去に於ては、デイスレリー――ビーコンスフイールト卿、イザーク・ルーフス――レデイング卿、ハーバート・サミユエル――サミユエル・オヴ・マウント・カーメル卿、エドウイン・モンターギユ等のユダヤ系の大臣や政治家を有してゐた。

目下在職中のユダヤ人の中、ヘーグ元帥の前私設秘書にして前航空次官たる、『勞働大臣』サー・フイリツプ・サツスーンをあげておかう。

こゝで尙もう一つの名前、これは今迄の敍述の範圍には述べ得なかつたのであるが、メルチエツト卿、（卽ち一九二八年まではサー・アルフレツド・モーリツ・モンドと稱す）を指摘せねばならぬ。彼は最も重要なる經濟家の一人であり、特に英國化學工業に於ける有力者の一人であるが、自己の占めて居る政治上の諸職掌及び英國政府への諸關係を利用して徹底的に英國の政治に依つてシオン運動を促進する立場を取つたのである。彼は業務上の活動と相並んで、『マカビアン世界聯盟』（Maccabi

World Union）並びにその英國內地方諸組織の名譽議長である。

彼の仕事の助力者は、同一家族出身のサー・ロバート・ルードウヒ・モンドである。彼は『サウス・スタツフォードシヤ・モンド瓦斯會社』、『國際ニツケル加奈陀株式會社』最後に『モンド・スタツフォードシーヤ精錬株式會社』の取締役であるのである、英國に於ける上述のあらゆるユダヤ組織に依つて支持されてゐる。獨逸商品並びに供給事業ボイコット猶太委員會（Jewish Council for Boycotting German Goods and Services）としての彼の位置は著しく重きを加へてゐるが、これが全猶太民族の利益になるのである。一九三三年の或會議に於て彼は、獨逸に經濟的重壓を加へることに依つて獨逸をして「猶太國民の權利及びユダヤ民族そのものゝ尊重」せしめるに至ることも望みなきことではない、と述べたのである。

以上を總括して言ひ得ることは、英國が意識すると否とに拘らず、恐らくユダヤ人を自己の政治計畫に動員し得るといふ信念に基いてゞあらうが、國際ユダヤ民族の外交政策的利害の調節場を作り出したと云ふことである。

ハイム・ワイツマンがピール分割案の公表をきつかけとして、既に計畫されてゐた境界設定に根本的變更を加へん爲に、當時植民大臣にして彼の友人であるオームスビー・ゴアーに干渉し、「もし英國が『シオニスト世界聯盟』及びその世界會議の抗議を惹起するといふ危險を犯したくないならば、

國が『シオニスト世界聯盟』及びその世界會議の抗議を惹起するといふ危險を犯したくないならば、自分の申出を承諾されたい」と言つた時、彼のその申出は採用されたのである。而してかゝる內密の保證があることを假定してのみ『シオニスト世界會議』がウッドヘッド報告によつて改訂せられた分割案に多數をもつて贊成するに至つた事情の說明がつくのである。

併しウッドヘッド報告も決定的な解決を齎らさなかつた。寧ろ英國の植民大臣は、アラビヤ人及びユダヤ人の指導者を、一九三九年一月の下旬から二月に圓卓會議に招待したのである。英國が如何にこの關係を解決するかは明確ではない。妥協は成立するであらうか。ペール委員會の提案に從つたユダヤ國家の保證が確定的となるであらうか、換言すれば世界ユダヤ民族に對する屈服と權威國家及びアラビヤ人への對抗が決定的となるであらうか、それとも、現在立案されてゐる形態に於けるユダヤ國家を拒否するに至るであらうか。もし後者に決定すれば、それは英國が世界ユダヤ民族の計畫に反對の方向へ轉換することを意味することになるのである。

ハ、フランス

ユダヤ民族の國際的政策が、北米合衆國及び英國に於けるよりも、嘗て猶太人解放を普遍的人間の

任務としてゐた國に於て、一層多くの好都合な前提を見出したのは當然である。フランスに於けるユダヤ人は長期に亘つて行はれた同化の結果として、爾餘の諸國が猶特殊な猶太人集團部落（Ghetto）を設けてゐた頃、既に政治的・文化的・經濟的生活の中に決定的位置を占めることが出來たのであつた。

最近數年間にかゝる情勢が少くとも部分的に變化を受けるやうになつたが、その理由はユダヤ避難民の繼續的流入と北フランスに於ける民族的に覺醒せる國民の反省とに依つて防衞觀念が働き出した爲であつたと言ひ得るのである。然し根本的にはフランスのユダヤ人の公的立場はいさゝかも變更を蒙つた譯でなく、その爲過去でも現在でも東歐ユダヤ民族の流入は絶えず行はれ、文明的に同化せる後には更に他の國々へ流れ込んで行くのである。フランスは一九三三年以前の獨逸の後繼者としての役目を引き受けたのである。その頃の獨逸は、貧しく零落した東歐ユダヤ人の乞食及び行商人から文明化した西歐ユダヤ人の株主及び銀行家に至る迄を含むユダヤ人が、東歐から西歐へ移つて行くにあたつての中繼所であつた。これら移民の保護の爲にフランスは、國際ユダヤ民族の補助機關、即ち既述せる『米國猶太分配聯合委員會』の歐洲本部の所在地であり、更に、あらゆるユダヤ人の補助機關の元締機關である『協商委員會』（Comited Entente）はパリをその常設本部の所在地として選定したのである。

たのである。

フランスがかゝる任務を引受けるに先立つて、この國のユダヤ諸組織は――この國のユダヤ人は平等權等を鬪ひとる必要はなくなつてゐたので――既に國際的地盤の上に立つてあらゆる國々のユダヤ人の平等權を認めさせる爲の運動に乘り出してゐたのである。この鬪爭は或る場合には純ユダヤ組織に依て戰はれたし又今も戰はれてゐるが、他の時には――それが政治的には遙かに重要なのであるが――その會員の大部分が非ユダヤ人で成り立つてゐる組織に依て戰はれたし、又戰はれてゐるのである。

ユダヤ民族、フリーメーソン秘密結社及び平和主義は、『權利を奪はれたユダヤ人』の平等權の爲に相携へて努力をしたのである。

この鬪爭が同時にフランスの文明思想と方向を同じくして行はれてゐるのは、一面には戰略的理由によるものであるが、他面にはこの兩運動が相似た起源を有する爲であり、この兩者が種族的條件の否定に依つてのみ實現し得るものだからである。

この點に關して政治的經濟的方面に於て支持を得ることは、勿論困難ではなかつた。特にフランスの政治、經濟、それらに劣らず文明の方面迄が、著しく多數のユダヤ人を混入してゐたからである。

一、『世界猶太人同盟』(Alliance Israelite Universelle.)

パリに本部を持つ『世界猶太人同盟』は世界最初のユダヤ人組織と見做し得る。一八六〇年に「ユダヤといふ名の持つ名譽に對するあらゆる攻撃を防衛し」「ユダヤ人の解放の爲に乘り出す」爲に各領土を結合する同盟として設立されたもので、その成立の最初の日より、特に初代の秘書にしてフランスの大臣及びフリーメーソン秘密結社の高級會員たるアドルフ・クレミユーのイニシエチーブに基いて、東歐及び東南歐のユダヤ人の利益の爲に、干渉を始めてゐるのである。

本同盟は、その全宣傳機關を、ユダヤ人が宗教的儀禮として非猶太人を殺戮するといふ事實に關して提起された諸訴訟を抑壓する爲にバルカン戰爭後のルーマニヤに於けるユダヤ人の爲に『英猶協會』及び『米猶委員會』のなした干渉に支持を與へることを忽緒に附することはなかつたのである。

ヴエルサイユ平和交渉にあたつて、本同盟はソ聯及びルーマニヤに於けるユダヤ人の平等權要求を掲げて、平和條約にこれに關する條項の採擇を要求したのである。ソ聯は自らこの處置をとつた。ルーマニヤは各國政府の『決意』に從はねばならなかつた。

これが又、ルーマニヤのゴーガ政府が法律的に反ユダヤ的態度をとり始めた時、同政府にフランス

公使が干渉した時の形式的法律上の理由であつた！

この成果に基いて更に有效なる干渉を希望しつゝ、本『同盟』は國際聯盟成立、後直ちに猶太法師ギンスブルガーを常任の代表者として國際聯盟へ派遣した。彼は英國の『海外聯合委員會』と協同して、ユダヤ問題に關し注告を與へ又干渉をなすのをその使命としてゐた。

更に本同盟は、地中海領域に於けるフランスの政治は文化的進出に歩調を合せて進み、英國にある『英猶協會』の財政的支持を得て、トルコ、エヂプト、ペルシヤ、モロツコ、チユニス等に學校を設立した。フランスの名に於て行つてゐるユダヤ人の爲の此の文化的膨脹の經費は、毎年約四百萬フランに上つてゐるが、これに對し本『同盟』は約百五十萬フランを寄附してゐる。この支出を合せて例へば一九二六年の本同盟の全經費は三百六十八萬フランに達してゐる。

この組織が『反猶反對國際同盟』（Ligue internationale Contre L Antisemitisme 略、LICA）――と共に、一九三六年に、殺人犯ユダヤ人フランクフルターの防衛の爲の資金の設定によつて、彼の防衛の遂行を可能ならしめるに至つた最初の團體であつたといふことは確實である。本同盟は今日でもなほその資金によつて『無料宿泊所』（Asyl de Jour et de Nuit）（パリ、ラマルク街十六番地）を維持してゐる。もともとそれはさまよへるユダヤ人の宿泊所と定められたものであるが、今日

ではあらゆる宗派とあらゆる國の最もいかゞわしい連中の假の宿となつてゐることは、證明濟みの事實である。

本『同盟』は反猶運動反對の鬪爭をもその旗幟としてかゝげてゐるので、LICA（『反猶反對國際同盟』）とは緊密な協力を保つてゐる。

二、反猶反對國際同盟

この組織には世界猶太民族と世界フリーメーソン秘密結社との緊密な關係が模範的に現はれてゐる。ベルナルト・シカツシユを議長とする本『同盟』は實にその本部を、フリーメーソン秘密結社『グラン・トリアン』のカデー街にある會堂の中に構へてゐるのである。『人權擁護同盟』の二人の會員エミール・カーン及びエロルトの設立にかゝるこの組織は、人權擁護運動に從事するユダヤ人及び非ユダヤ人の結合役を勤めてゐる。かくて本同盟に一九三七年のショータン・ブルム政府に席を持つてゐたフランスの政治家達が會員として所屬してゐたといふことは、眞に重大な意義のあることである。特に氏名を擧げておきたいのは、ユダヤ人レオン・ブルム自身、ピエル・コー、モーリス・ビイオレツト、白人と黑人の混血兒たるガストン・ハルマーヴイユ及びフランソア・テツサンである。

ビイオレツトは、一九三七年に本『同盟』によつて組織された『反民族主義及び反猶主義反對世界

ある。

ビイオレットは、一九三七年に本『同盟』によつて組織された『反民族主義及び反猶主義反對世界同盟』の會議にあたつて、フランス政府を代表して演說をしたが、他方では上記の政治家の殘部は文書をもつてその同情を表明したのであつた。その時この政治家連中は作家名エミール・ルードウヒ事コーン及びサミユエル・ウンテルマイヤーと同席したのであつた。このサミユエル・ウンテルマイヤーは本『同盟』のアメリカ支部の議長であり、我々としては既に『非宗派的反ナチ聯盟』の指導者としての名を擧げておいた者である。

この種の會議の組織と並んで、本『同盟』はユダヤ民族に向けられたあらゆる攻擊を對抗宣傳によつて防止する任務を負つてゐる。それに際して本『同盟』はフランス支部の議長であるユダヤ人ゼラフの指導下にある『ルードロアド・ヴイヴル』紙(Le droit de vivre 生活の權利の意)を利用してゐる。

世人或は異論を立て、ユダヤ民族と平和主義とマルキシズムとの三つを結合してゐるといふ如き重大な意義を本『同盟』に與へるのは不當であるとし、協力者としてそれに所屬してゐるのは、大部分は左翼化せるユダヤ組織のみであることを理由として擧げるかも知れないが、これに對して我々は、

かゝる否認は我々にとつては寔に單なる理論的意義しか有して居ないといふことを指摘せざるを得ないのである。事實ユダヤ移民の後援及びユダヤ移民諸組織に對する財政的援助にあたつては、マルクス主義者であらうと、『國民的』なフランスのユダヤ人であらうと、決して何等の區別はされて居ないのである。

三、移民及び補助組織

獨逸を退去してフランスへ流れ込んだユダヤ人を支持する爲、特に設立された多數の移民援助組織の中、『獨逸避難民救援國民委員會』(Comite National de Secours aux Refugies Allemands)『獨逸猶太避難民補助委員會』(Comite d Aide aux Refugies)の三つのみをあげておくが、これらは既に詳細に論じられロンドン及びニューヨークの補助組織の支持を受けてゐるのである。一九三六年のみに於ても『救助委員會』に對しては『米猶分配聯合委員會』から三萬四千ドルといふ補助金が寄附された。

一九三六年にはフランスのユダヤ諸補助組織に對して避難民事業の爲、總括して十萬七千ドルが準備されたが、その中三萬五千二百ドルは『ユダヤ避難民保護及び移民協會』(Hicem)に流れ込んだのであつた。

この『協會』はニューヨークの『ヘブライ避難民救援米國協會』(Hebrew Sheltering and Imig-

だのであつた。

この『協會』はニューヨークの『ヘブライ避難民救援米國協會』(Hebrew Sheltering and Immigrant Aid Socicty of America 略、Hias) 及び本部をロンドンに、執行部をパリに有する『ユダヤ植民協會』(Jewish Colonisation Ass, 略 Jca) が共同で設立した移民機關である。本組織の國際的活動はその個々の組織の指導部の人的構成の中に明白にあらはれてゐる。即ち『ユダヤ植民協會』の議長は、ロンドンのサー・オスモント・ダヴィグドール・ゴールトスミットであるが、彼は同時に『英國猶太代表者委員會』の議長を務め又『英猶協會』の副議長をも勤めてゐる。總支配人の位置を占めてゐるのはパリのルイ・ウングル博士である。

『ヘブライ避難民救援協會』の議長はニューヨークのアブラハム・ヘルマン、副議長は、シカゴのアドルフ・コープランドである。

この三つの組織の共通の任務はユダヤ人が海外へ移住するに當つて、特にアルゼンチンにある『ユダヤ殖民協會』所有の植民地へ植民するに對しこれを援助することである。

この任務の遂行の爲めに『ユダヤ避難民保護及び移民協會』(Hicem) が一九三三――三六年に亘つて支出した高は、總額八十四萬二千百五十七ドルに上つてゐる。これに對して『米國分配聯合委員

會』は二萬二千七百ドルを寄附した。

これらの數字の示す所は、國際ユダヤ組織が、ユダヤ避難民の移住と植民に對して出來得る限りの援助を與へる爲には、フランスに於て如何なる財政的手段を以つて相互に協力し合つてゐたかといふことである。

四、フランス及びアルゼリヤ文化協定聯盟 (Union des Associations Culturelles de France ei d Algerie)

フランス及びその植民地に定住する丁度四十萬乃至四十五萬のユダヤ教ユダヤ人は、一九〇五年のフランスに於ける國家と教會の分離以來、諸『文化協會』に結合された。入會は任意であるとは言へ大部分のユダヤ人は『フランス及びアルゼリヤ文化協會聯盟』(『中央長老會議』)所屬の諸協會に加入したのである。

五十二の會員よりなるこの協會(これにはフランスの大猶太法師も加はらねばならぬことになつてゐる)には本質には宗教的及びユダヤ科學的任務が課せられてゐるのであるが、その理由は――既に國家内部に於ける平等權を獲得してゐるので――鬪爭的任務が最早課せられる必要がないからである。かゝる意味に於て人民戰線政府の保健大臣マルク・ルカールは、『反猶反對國際同盟』のフランス地區第七回國民會議に於ても亦、「人民戰線はフランス市民の一部の、種族的、人種的、國民的吉

る。かゝる意味に於て人民戰線政府の保健大臣マルク・ルカールは、『反猶反對國際同盟』のフランス地區第七回國民會議に於ても亦、「人民戰線はフランス市民の一部の、種族的、人種的、國民的若しくは宗教的差別を認めるものではない」と強調した。この立脚點がフランスに於ていかに眞面目に代表されてゐるかは、例へば、ユダヤ人の特殊地位を規定してゐる諸權利の一部がブルターニュ人に對してその適用を拒否されてゐるのであるから、フランス人自身が最も良くそれを批判することを心得てゐるのである。

この『中央本部』の指導部の人的構成は、寄生國の諸生活領域に潜入した反宗教的な同化ユダヤ人とユダヤ民族の宗教上の代表者とが一身同體であることを明瞭に物語つてゐる。

總裁である大ユダヤ法師イスラエル・レヴイを助けてゐる議長は、後に詳細に論及するド・ロチルト兄弟銀行の總裁である處のエドアート・ド・ロチルト男である。尚副議長として彼を援けてゐるのは、二人の樞密顧問官ブロック・ラロック及びヘイル・ブロンナーである。『世界猶太人同盟』の議長カリド教授が會計部長の位置を占めてゐた。

五、フランスの公的生活に於けるユダ人

ロチルド一族の組成員を先頭としてフランスで活動してゐる多數のユダヤ血統の政治家及び財政家は、フランスに於けるユダヤ民族のあらゆる權利の維持を確實にしてゐるが、これによつてフランスのユダヤ民族には直接、又は間接的方法によつて國際ユダヤ民族の援助に盡力する可能性が與へられてゐる。

ブルム人民戰線內閣の構成は、ユダヤ民族が眞劍な抵抗を受けずして何の程度まで政治の最高部へ侵入し得たかを、明瞭に示した。ブルム總理と並んで、ユダヤ人ジャン・ゼーを大臣として、ブルンシュウーク夫人は國民教育省の次官として！　政府部內に位置を占めたのである。

政府の交替とは無關係な諸官房に於てユダヤ人の占めてゐた割合は三五乃至四四％であつたが、換言すれば大臣の主なる協力者八十名の中約三十名がユダヤ人だつたのである！　唯の例外は軍務省であつて、こゝには一人のユダヤ人も携はつてゐなかつた。

ユダヤ勢力によつて占領されたこれ等の官房が國際的商議の推移に及ぼす影響に比べて一層重大であるとは言ひ得ないにしても、尙同等に重大なのは現在のユダヤ人植民大臣兼エルザス・ロートリンゲン事務大臣たるジョルジュ・マンデル（本名イエロベアム・ロチルド）の影響力である。彼は世界大戰當時にはクレマンソーの私設祕書として活動したが――クレマンソーの勤めによつてマンデルを名乘つた――後には『人民の友』（Ami du peuple）の政治的指導を引受けた。ラヴアル內閣からフリーメーソン祕密結社員

名乗つた――後には『人民の友』(Ami du peuple) の政治的指導を引受けた。ラヴアル内閣からフリーメーソン秘密結社員サローの内閣へかけて彼――ブナイ・ブリス結社の會員であると言はれてゐる――は、遞信大臣兼エルザス・ロートリンゲン事務大臣を引續き勤めた、サローの辭職と共に彼も亦暫く大臣を辭した。

周知のことであるが、彼の在官中全郵便及び電信事業が部分的には完全に異國民たるユダヤ人によつて占領されたのである。例へば彼は獨逸を追はれた國事犯人たるユダヤ人ベルトルト・ヤーコブをパリの國立放送局の情報部の指導者に任命した。その結果としてヤーコブは、フランス政府の金を使つて、マンデルの意を體して、反獨煽動を續行することが出來たのである。

『フランス』ユダヤ人――即ち既に數世代に渉つてこの國に在留してゐるユダヤ人の集團――はフランスに於ては專ら富裕乃至著名の種族仲間の名を帶びて世に表れるのが常であり、而してこれ等の人々を通じて政治的、經濟的、文化的に活動してゐるのであるから、ゲンツベルグ、ダニエル、ドライフス、ベムベルグ、ラザール、ウオルムス、シユテルン、ハイネ等のフランス在住のユダヤ人銀行家の系列の中から、ロートシルド(ロスチヤイルド又はロチルド)家のフランス分家の諸連絡のみを取り出して述べて見たいと思ふ。このロートシルドといふ名前はそれ丈で既にこの家の人々の國際的

關聯を洞察せしめる。

先に既に英國のユダヤ民族の敍述にあたつて行つた說明に再び連絡をつけるために、もう一度次のことを指摘して置きたい。即ち後のベアステッド卿にしてフランス名譽軍團の上級將校たるマックス・サミュエルによるシエル・コンツエルンの設立後數年の一九一二年頃、『東歐及東南歐石油會社』の主要株主たるパルの『ロチルド兄弟銀行』はシエル會社の株を買つてこれに加入したのである。これによつて、ロスチャイルド・サミュエル・モンターギュ及びサミュエルの三家の內部には、國民的利害のすべてに拘りなく、世界の石油取引及び世界の石油需要の最も重要な部門が錯綜し、連繫を保つてゐる。

前述のフランスの銀行に所屬してゐるロチルド一族のサークルは、英國との經濟的連繫を超えて、フランス經濟の最重要部門に多數の代表者をもつてゐる。同銀行の總裁は、エドウアールド・ロチルド男（以前のウインのロートシルド一家のアルフオンス、ルイ及びオイゲンとも親戚關係にある）であつて、フランスのユダヤ團體の代表的機關たるかの『中央長老會議』（Consistoire Central）の議長をも兼ねてゐる。同時に彼は『北部鐵道』（Chemin de Fer du Nord）の社長であるが、本會社の監査役會には、同一族のフランス系の代表として彼の息子ギユイ（彼の叔父エドモンの息子）たるジエイムス・アルマン、及びアンリ・ド・ロートシルドが加はつて居り、一方英國一族の利害は、ロ

の監査役會には、同一族のフランス系の代表として彼の息子ギュイ（彼の叔父エドモンの息子）たるジェイムス・アルマン、及びアンリ・ド・ロートシルドが加はつて居り、一方英國一族の利害は、ロンドンの『ユダヤ孤兒及びユダヤ自由學園』（Orphanage and Jews Free School）の長たるアンソニー及びロンドンの『貧民保護局』の會計部長ライオネルによつて保護されてゐる。誠に有利な同族會社であつてその構成そのものが既に、ユダヤ人の國民的宣言に對する反證をなしてゐる。！

フランス最大の保險會社である『綜合保險會社』（Assurances Generales）の三つの部門（生命、傷害、火災保險の爲にそれぞれ一つの獨立部が共通の執行評議會のもとに統一されてゐるのである）の執行評議會に占めてゐる地位によつて、エドアール男は、ロートシルドの勢力を全フランス經濟の上に振つてゐるのである。この商社の中で彼は、大部分はユダヤ人から成つてゐるフランスの大銀行の總裁達の過半數と顏を合はしてゐる。

こゝに其の他の同族のあらゆる部門の經濟的連繫を述べることは、餘りにも詳細に過ぎることゝなるであらう。而しフランスの同族圏が――從つて同時に經濟圏が――ロチルド一族とハルフエン家（ダニエル・ドライフス一族銀行）及びフール家（その祖妣はユダヤ人エフルシ家の出である）との結婚によつて擴大されたことを、述べないでおくわけには行かぬ。かくしてロチルド一族はそれまでは彼等に閉鎖されてゐたフランスの冶金工業及び海上輸送業方面に進出路を開拓したのである。更に

グスタフ・ド・ロートシルド男の娘アリスとサッスーン家の者との結婚によつて、この結婚より生れた息子で現英政府の『勞務大臣』たるサー・フイリップ・サッスーンとも連絡がついたのである。

前述の如きフランスのロチルド家の簡單な事業史は、ユダヤの大家族がいかに強調しようとも、國民的制縛などといふものを心得てゐないことを示してゐる。自己の利益を守る爲には、ユダヤ人の諸國際組織に於て見られる如くに、親族と血によつて郷土に結ばれてゐる人達ならば當然超え得ないやうな一切の限界は踏み超えられるのである。そして彼らは、セリーヌの報告によれば、フランスだけでも七千五百億フランに上るといふ巨額資本を以つて、ユダヤ人援助の諸機關の大黒柱となしてゐたのである。

二、國際機關の主導組織

以上に於てユダヤの諸組織とそれらの直接間接の連繋に就いて述べたことは、ユダヤ國際機關の主導組織に就いて述べる時始めて完璧となるのである。これらの主導組織を見ると、ユダヤ民族なるものは、外面的には著しく分裂してゐるにも拘はらず、彼等の共通の利益を樹立するに當つては、彼等の同族意識が彼等を再び團結せしめる、といふ假定の正しいことが判明する。

この際、二つの組織集團が區別される。一つは共通の目標（あらゆる國に於ける凡ゆるユダヤ人の

この際、二つの組織集團が區別される。一つは共通の目標（あらゆる國に於ける凡ゆるユダヤ人の平等權）を指示することに依り政治的個人的對立を調整する任務を負ふて居るは――これに屬するものは特に『猶太世界會議』と純ユダヤの世界祕密結社たる『ブナイ・ブリス獨立教團』――であり他の組織群は、かくして創られた共同の政治戰線を基礎として、パレスチナに於けるユダヤ國家の建設をその任務としてをり、從つて特に『シオニスト世界組織』とその所謂外交局である『猶太代理局』がそれに屬してゐる。

全世界に散在するこれらの諸組織の地方支部は、ユダヤ國際機關の組織的骨組をなして居るのであるが、一方この點から觀察すれば、所謂國家的組織、換言すれば、その組織活動を一國に限定してゐる諸聯盟は之等の國際組織の仕事の草分けに過ぎないのである。而してこれ等組織機關の維持の爲め必要な經營資本を提供してゐるものは、ユダヤ人を自國經濟に寄生せしめてゐる諸國家なのである。

一、猶太世界會議

第一の集團に屬する世界的相貌をもつ最高組織と目されるものは『猶太世界會議』であつて、九三六年八月八日に始めてジュネーヴに招集された。この『會議』の有する重要性は、議會主義的方法

による議事――これは實行に移されて價値のあるものとなるに過ぎない――にあるのではなく寧ろ次の事實にあるのである。即ち西暦七十年に於けるユダヤ國家の決定的崩壞以來、初めて三十二の國々から二三〇名の代表者が、全ユダヤ民族の約三分の一の代表者として此處に集合し、それによつて外部に對し、ユダヤ民族が單に共通の宗教及び種族性によつて構成されてゐる共同體としての自覺を有するのみならず、亦その共同體が政治的性格をも有してゐることの自覺をこれによつて示したのである。

『米猶委員會』（アメリカ合衆國）『英猶代表者委員會』（英國）及び『ブナイ・ブリス獨立教團』の代表者が公式には派遣されなかつたとしても、その無出席は單なる政治的戰術の掛引に過ぎなかつたものと想定しても差支へないのである。誠にそれを裏書するかのやうに、後になつて東歐諸國の代表者も亦「これ等諸國に於けるユダヤ人の爲の活動を妨げない爲に」同會議の執行委員會から除外された。又一方では代表を送つて居ない諸組織を『世界會議』へ導入すべしといふ議事を採擇する爲の委員會の設立も決議された。

『世界會議』を世界ユダヤ民族の公式代表組織に高めることを否認した決議も亦、同一の見地から解されねばならぬ。特にこの假定に有利なのはかの提案に對する賛成投票に對して否認投票は僅かに二十六票であつたといふ事實である。

議事のプログラムは『會議』によつて八ケ條に決定されてゐるが、それは同時に又、後になつて還

二十六票であつたといふ事實である。

議事のプログラムは『會議』によつて八ケ條に決定されてゐるが、それは同時に又、後になつて選擧された執行委員會が實行すべき任務の大綱をも述べて居るから、此處にその本文を擧げて置くことにしよう。

一、ユダヤ人の諸權利を防衞する爲にユダヤの各種團體の常任代理機關を設けること。

二、如何なる場所に於てゞあらうとも、少數民族の權利が認められた場合には、ユダヤ少數民族の市民的、政治的及び經濟的權利を防衞すること。

三、反猶宣傳に對して反對防衞を行ふこと。

四、中央移民事務局を設けて、ユダヤ移民の統制及び調整を行ふこと。

五、ナチ國家の破壞的政策に對してユダヤ人の利益を防衞すること。

六、公的布告によつて支持されてゐるユダヤ人救濟事業を調整し、公的統制のもとに置くこと。

七、移住不可能なる人々の經濟生活を再建すること。

八、『猶太代理局』と協力してパレスチナへの移住を容易ならしめること。

會議後に流れ去つた時期が示してゐる通り、このプログラムはこれを實現する爲め一箇條毎にユダ

ヤの諸組織に採用せられた。

當會議開催中に生じた特殊な事件でも判る通り、これ等の組織はユダヤ人の權利の防衛といふ共通的問題、若しくはユダヤ國家といふ段になると、汎ゆる黨派的陰影を帶びた各種の聯盟と連絡してゐるのである。即ち五一二のマルクス主義的ユダヤ人の勞働者組織及び福祉協會の五人のアメリカ代表が公式代表者として會議に出席せんことを要求したが、然し彼等の出席は反ユダヤ的アラビヤ人の行動を容認した。パレスチナ共產主義者の行爲を否認する義務を是認することを條件としてのみ許されたのであつた。尙議會主義的な虛飾を以つて、係爭問題調停の特別委員會が構成された後、アメリカの五人の代表は彼等が「パレスチナのユダヤ人に對する攻擊を是認したといふ事を否認し、又共產主義者にはユダヤ人大衆の利益を生命をかけて防衛する用意があることを宣言する」といふ覺書を提出する決心をしたのである。

黨派政策上の差異が、個々のユダヤ組織を分離させる根據とはならぬことが、以上で判明したのでユダヤ民族の政治的統一戰線は何時でも活動を始めることが出來るのである。『會議』に提出され、是認された決議によると、此の統一戰線が特に獨逸に對して動員さるべきであることに就ては少しも疑問の餘地はない。さればこそ『會議』の最初の決議には『世界ユダヤ民族の第一の敵」は「ナチス獨逸」であるといはれてゐる。

疑問の餘地はない。されぱこそ『會議』の最初の決議には『世界ユダヤ民族の第一の敵』は「ナチス獨逸」であるといはれてゐる。

『會議』の常設代表機關として、執行委員會が設けられ、その議長職には同時に『米猶會議』の議長たるステファン・ウイーゼ博士が選まれた。名譽議長は判事のジュリアン・マックである。彼等を助けてゐるものは、就中イザーク・ナイディッチ及びモーリス・ベルツワイクである。前者はフランスの『中央長老會議』(Consistoire Centrale)に屬し、後者は『猶太代理局』及び『シオニスト世界組織』の情報部長であり『猶太學生世界聯盟』(World Union of Jewish Students)の議長であり又この學生聯盟の議長の資格を以つて同時に『國際聯盟學生國際委員會』(International Student Commission of League of Nations)の會員である。

更に、著名ユダヤ人にして協力してゐるのは、管理委員會議長のナフーム・ゴールドマン(國際聯盟に於ける『猶太代表局』のパレスチナ代表者)と評議會議長ルイス・リプスキイ及び會計部長たるニューヨークのルイス・シュトルツである。

『世界會議』の政治的行動委員會たる執行委員會は、その設立以來、繰返し抗議的覺書を發表することに依つて世の注目を惹いてゐる。即ち或時は少數民族の權利を擴大してユダヤ人にも及ぼすべしといふ覺書、又他の場合には獨逸の反猶措置に對し或種の抗議を發表したのである。既に一九三六年

末、本委員會は國際聯盟、ダンチヒの國際聯盟代理者及び波蘭の外務省に對し、ダンチヒに獨逸種族法が採用されそうな機運にあるごと異議を申立てる爲に覺書を提出した。

しかも抗議のすべてが效果を上げたといふ主張は出來ない。併し決して見逃がしてはならないのは、執行委員會の政治的舞臺の裏面に於ける活動であつて、その舞臺裏の活動に就ては、既に述べておいた通り、民主主義諸國家を反獨戰線に驅り立てることに依つて、幾度か世界を不安に陷しめる結果となつたのである。

二、猶太代表委員會（Comite des Delegations Juives）

ユダヤの世界會議の中樞は前述の『世界會議』の最初の開會以前に於ては、ヴエルサイユ平和會議を機會として、「一般的代表者である各國のユダヤ人の決議によつて、公式化されたユダヤの要求を代表して」設立された「平和會議と並行するユダヤ人代表委員會」（Comite des Delegations Juives Aupres de la Conference de la Paix）であつた。その主導者はすでに屢々言及したステフアンのワイズ博士及びルーイス・マーシャルである。後者はシオン運動の資金方面の援助者で、一九二九年の死に至るまで、彼に依て協同設立された『米猶協會』の指導者であり、又國家的地位に於ても多方面の活動を行つた。その他には祕書にして後に議長となつたレオ・モツキン

の死に至るまで、彼に依て協同設立された『米猶協會』の指導者であり、又國家的地位に於ても多方面の活動を行つた。その他には祕書にして後に議長となつたレオ・モツキーヌがゐる。ルーイス・バルツー及びエドワルド・ベネシユは、當委員會活動の十七年記念文書に述べられてゐる通り、その特別な友人であつた。

彼等は特に、バルチツク諸國、東歐及び東南歐諸國へ少數民族保護條項を導入する爲に干渉を行ひこれ等の諸國で行はれたユダヤ人迫害に抗議をした。之等のユダヤ人に依つて作成され、非政治的と自稱する『ブナイ・ブリス結社』によつて署名された。ユダヤ人に少數民族權を與へよといふ覺書に依つて、ヴエルサイユ强制條約の發案者の決議が大いに左右されたので、この結果として數個の東南歐諸國家が禍害を受けたといふことは、動かし難い事實である。國際聯盟はこの所謂權利を保證したのでゴーガ總理は內閣を組織するに當つて、國際聯盟規約のこの部分も亦、デモクラシー諸列强が敢へてそれを認め、又直ちにそれに他の政治上の目的を結びつけ得る場合には、條約の『神聖なる』部分と見做されることを感じないでは居られなかつた。英國、佛國及び米國は國際聯盟規約の保證者として、ゴーガ政府の反猶的法律に抗議を行つた。ルーマニヤはこの壓力に從はねばならなかつた。

獨逸に於ける國民社會主義による政權獲得の際や、ザール地方歸屬決定投票の以前や反猶騷擾の機會等に際して、本委員は覺書及び抗議書を發表して、ユダヤ問題の爲にデモクラシー政府及びデモク

ラシー的個人を動かさうと企圖した。

この際一般にとられた方法の主なる例として、ナチスに依る政權獲得をきつかけとして國際聯盟に提出された抗議――一般に『ベルンハイム請願』として知られてゐる――をあげることが出來るであらう。

すでに色々と論及された一九三六年の同委員會の活動報告の中に、これについて次の如きものがあつた。

「新獨逸の種族的反猶主義に對する反對鬪爭の爲に動員し得る法廷は、國際聯盟である。先づ第一になさるべきことは、ジュネーヴの法廷に『獨逸』ユダヤ人の利害の爲の提訴、從つて世界ユダヤ人の平等權に關する提訴をなし得る一個の形式を發見することである。」處で、規約の第十一條に依れば、加盟國政府の干渉のみが可能だつたので、『猶太人代表委員會』は『人權擁護』の爲に一加盟國の注意を喚起せんと企圖したが、その努力は成果を見なかつたのである。

「その故に他の方法を選ばねばならなかつた。獨逸の行動に對する提訴が、上部シレジアの分割にあたつて獨逸と波蘭の間に締結された條約を理由として、國際聯盟に提出された。提訴者は、上部シレジアから逃亡したユダヤ人フランツ・ベルンハイムで、彼の市民權が侵害されたのである。かゝる處置はこの一個の事件を一般化する可能性を與へ、この點よりして問題の全體に關する適當なる結論

處置は、この一個の事件を一般化する可能性を與へ、この點よりして問題の全體に關する適當なる結論を得させるのである。

「その成果は、獨波協定繼續中、上部シレジアに於けるユダヤ人の平等權を再建したのみではなくその成果は、道德的には世界的な效力を發揮したのである。

即ち國際聯盟のかゝる態度は、高級な國際的法廷からなされた警告と同じ效力を有し、獨逸の前例に從はぬやうに他の諸國家を義務付けたからである」これこそ、「唯一の眞に國際的なるユダヤ組織」と自稱する委員會に依るユダヤ・インターナショナルの政治的勝利であつた!

後に本『委員會』は『猶太國際會議』の成立の爲に盡力し、つひには獨逸に於けるユダヤ問題に關する中央通信情報局となつた。

三、ブナイ・ブリス獨立教團

國際ユダヤ組織の此の集團の圓環は、純ユダヤ的世界祕密結社たる『ブナイ・ブリス獨立教團』(ブナイ・ブリスとは『聖約の兄弟』の意)を以て完成するが、これに就ては色々注意を促しておいた。その本部はアメリカにあつて、その時その時の議長の居宅に設置され、七萬五千人の會員を擁し、そ

れが更に十八地區及び六百六十四支部に結集してゐる。

總本部の事務局は、舊獨逸（第八區）、オーストリヤ（第十二區）及びルーマニヤ（第九區）に於て解消されて以後もなほ、ニューヨーク市、シンシナチイ、フイラデルフイヤ、サン・フランシスコ、リッチモンド、シカゴ、ニュー・オルリアンス、プラーグ、イスタンブール、クラカウ、エルサレム、ロンドン及びカイロに在る。

その定款に從ふと、この猶太世界結社の任務は、「人類の最高の利益を促進するために猶太人を結合し、我が種族の精神的道德的性格を發展高揚せしめ、人類愛、名譽及び愛國主義を我が種族に植付け、藝術及び學問を後援し、貧困者の困難を緩和し、病人を見舞ひ且つ看護し、迫害の犧牲者を援助し、寡婦及び孤兒を保護し、彼等のために全力を盡して助力を與へること」である。

本教團がユダヤ人の寡婦及び補助を要する貧困者の後援のために寄捨をなすことに就ては、こゝに疑をさしはさむ必要はない。しかし本教團が全く非政治的に、從つて慈善的にのみ活動すると稱しながら、國民社會主義及びその反猶運動の抑壓を目標とするアメリカの最も活動的なユダヤ煽動組織の一つたる既述の『反名譽毀損聯盟』を支持し、その完成に盡力したといふ事實は、かゝる主張を自ら破壞するものである。更に『ブナイ・ブリス結社』の表面上の非政治的態度と矛盾するのは、既述の如く、最も著名なる會員の一人にして高等法院判事たるブランデイスが、チェコ國家の建設をマサリ

如く、最も著名なる會員の一人にして高等法院判事たるブランデイスが、チェコ國家の建設をマサリユクと事前にアメリカに於て會談したといふ事實である。

ヴエルサイユ平和會議に際し、東南歐のユダヤ少數民族のためと稱して政治的抗議書乃至覺書に署名した者、即ち本結社は、文化方面及び經濟方面に活動する著名人より成つてゐるその會員の唯一の仕事が、慈善的活動であると世人に信じさせようとしても、それは望み得べくもない。

その他注目すべきは、第八區（獨逸）の解消後に本教團が『反猶防衛聯盟』（Liga Zur Abwehr des Antisemitismus）と協力して一九三三年以前に、ナチス抑壓のために、『獨逸猶太人中央聯盟』に金融援助を行つたといふ證據文書が發見されたといふ事實である。

この世界結社の本部及び各地區本部の議長の名前も亦、我々の意見を改めしむるには足りない。世界本部の議長はシンシナチのアルフレッド・コーヘンであるが、他の組織の仕事が多忙なので積極的活動を行つてゐない。ロンドンのウオバーン・ハウス——既に各種の場合に論及してきたユダヤ組織の中央機關——に本部を有する『ブナイ・ブリスの英國及び愛蘭地區大本部』（B nai B rith District Grand Lodge of Great Britain and Ireland）の大議長は、エス・ブローデツトスキー教授である。彼はまた『ブナイ・ブリス・歐洲委員會』の議會として活動してをり、これと並んで、

『シオニスト世界組織』及び『パレスタイン猶太代理局』の執行委員會員であり、『英國シオニスト聯盟』の副議長、大學教授聯盟及び『世界マカビアン組織』等の議長をも務めてゐる。『ブナイ・ブリス・英國第一本部』の議長であるエイ・レヴエイ・ローレンスは、同時に『代表者委員會』の會員であり、『猶太代理局』英國部及び後述する『ケレン・ハイエソツド』委員會の議長代理と會計部長を務めてゐる。

『英國第一本部』の副議長は辯護士ガブリエル・コーヘンで、『聯合猶太教會』(United Synagogue)の評議員の會員の資格に於て『代表者委員會』の會員並びに『大英國及び愛蘭シオニスト聯盟』の評議員を務めてゐる。

以上の説明でも充分明白な通り、猶太世界祕密結社の慈善的活動は、その政治的任務に比べれば第二義的意義しか有しない。蓋しこの政治的任務こそ、其他の大ユダヤ組織と協力して、諸ユダヤ組織の世界聯盟である本結社の非政治的活動によつて解決さるべきものである。

四、猶太國家建設を目標とする世界組織

かくして『ブナイ・ブリス獨立教團』並びに既述の米國、英國及び佛國の諸組織は、猶太國建設のために設立された『シオニスト世界組織』『猶太代理局』の補助機關となつたのである。

ために設立された『シオニスト世界組織』『猶太代理局』の補助機關となつたのである。

（イ）シオニスト世界組織

一八九七年設立された『シオニスト世界組織』は、ロンドンに本部を有し、その地方團體は全世界に散在してゐるが、獨太國家思想の組織的宣傳的擔當者である。その活動の綱領は、一八九七年のバーゼルのシオニスト會議によつて決定された。その中に曰く、「シオン運動はユダヤ民族のために公然たる法律上の、安全な祖國の創建に努力す。」一九一七年に發せられたバルフオア宣言によつて英國は、この綱領の實現を保證した。又この綱領は、國際聯盟によつて容認されたパレスチナ委任統治條項、及びユダヤ人の壓迫によつて一九二四年に英米兩國間に締結されたパレスチナ協定の中にもまた採擇された。かくて、パレスチナに於けるユダヤ國家の建設を促進するといふ英國の宿命的な約束は、大きな流血の犧牲を拂ひつゝも、今日なほ解決に至つてゐない政治上の問題となつたのである。

議長として『シオニスト世界組織』を率ゐてゐるのはハイム・ワイツマン博士である。彼は、一九三八年に物故せる父の後繼者として、英國上院に入つた嘗ての植民大臣オルムスビー・ゴア――パレスチナ問題を決定的にユダヤ人に有利に展開せしめた責任者である――の友人として、英國政府の諸

決定を猶太國家思想の意味に於て左右することを心得てゐたのである。執行委員會の會員としてロンドンで彼を助けてゐるのは、既に『英國及び愛蘭・ブナイ・ブリス地方大本部』の議長として述べておいたエス・ブロテツトスキーであり、政治部門の情報部長としては、既に『猶太世界會議』の執行委員として述べておいたエム・エル・ブルルツワイグが彼を助けてゐる。

經費は、『猶太植民信託』(Jewish Colonial Trust)（シオニスト世界組織の金融機關）『ケーレン・カイエメート・レイスラエル』（『猶太人のための繼續的資金』の意）及び『ケーレン・ハイエソツド』（『猶太人のための基本金』の意）によつて支辨されてゐるが、之等の機關の收入は、全世界よりの寄附、喜捨、及び補助金より成立してゐる。『ケーレン・カイエメート』がパレスチナに猶太國家のための土地購入を配慮してゐるに對し、ケーレン・ハイエソツドは、一九三七年三月三十一日附六、〇三六、六九二英國ポンドの資本をもつて『猶太代理局』の主要金融機關をなしてゐる。

前述の諸組織はすべて協力して、ユダヤ人のパレスチナ移住の遂行と保證のために配慮し、これが數的優越——これは生憎今迄のところそこまでに到達してゐないのであるが——によつて英國人に決定的な讓步を强制することを、即ち父祖傳來の土地からアラビヤ人を追放することを、目標としてゐるのである。

『シオニスト世界組織』の最高政治機關は二年毎に招集される『シオニスト世界會議』である。そ

るのである。

『シオニスト世界組織』の最高政治機關は二年毎に招集される『シオニスト世界會議』である。その會員は全世界のユダヤ人の參加の下に選擧され、年齡二十五才以上であることゝ『貢納金』卽ち每年一度の寄附金の納附濟であることをその前提としてゐる。

この『世界會議』がまた此の『世界組織』とその執行委員會及び行動委員會の議長を選擧することになつてゐる。

(ロ) 猶太代理局

『シオニスト世界組織』及びこれに附屬してゐる諸機關の仕事が、『シオニズムの理念』から生れるユダヤ國家建設の任務に關する宣傳的部門に限られてゐるが、他方、『猶太代理局』は益々著しく政治活動の前面に現はれて來てゐる。

この代理局は一九〇八年にワイツマンの主唱に基いて設立された『パレスチナ局』に端に發したもので、パレスチナ局は旣にこの頃の彼の指示に基いて、ユダヤ人のパレスチナ移住の整然たる實行に乘り出してゐたのである。しかし『猶太代理局』が、世界ユダヤ民族の代表機關として公式に認められたのは、それを一個の『公式の法的團體』として容認せる委任統治條項第四條によつてである。こ

の代理局は、パレスチナに於けるユダヤ人の國民的郷土建設に關する一切の問題に就て、「ユダヤ人の國民的祖國建設に助力する用意ある」ユダヤ人のすべての協力を確保するために」委任統治政府に勸告する權利を保有してゐる。

著名なるユダヤ人金融家達が參加してゐるエルサレム、ロンドン及びニューヨークにある三大事務局は、『猶太代理局』の中央機關を形成してをり、これを率ゐるものは、『シオニスト世界會議』及び『シオニスト世界組織』の議長たるハイム・ワイツマンである。

現在『猶太代理局』及びその金融機關たる『ケーレン・ハイエソッド』が、その厖大な實行資本によつて、世界ユダヤ民族內に占めてゐる位置に依て惹起された『歷史上の全事件』を述べるだけの紙面がないので、此處では單に上述の二機關が、一九二九年に長々しい交渉の後に、以前には非シオニスト的立場にあつたアメリカのユダヤ金融家がそれに加入してからは、國際ユダヤ民族の政治的活動の事實上の中心となつた、といふ斷定のみを擧げるに止めて置かう。それに際して、シオン運動の理念的內容は、金融問題の背後に深く閉ぢ込められて了つたのである。

その會員二二四名の影響力は、彼等が寄生國家の內部に於て占めてゐる位置より生じてくるのであるから、最も周知の數人の名を此處に引用しておく必要がある。

ロンドンのグレイト・ラッセル・ストリートの七十五番地にある『代理局』の英國部の指導者は、メルチエット卿で、多數のパレスチナの經濟會社の指導者であり、バークレイ銀行の頭取及び『英帝

ロンドンのグレイト・ラツセル・ストリートの七十五番地にある『代理局』の英國部の指導者は、メルチエット卿で、多數のパレスチナの經濟會社の指導者であり、バークレイ銀行の頭取及び『英帝國化學產業』の支配人をも兼ねてゐる。名譽秘書として活躍してゐるのは、エル・バクスタンスキー及び、『英國猶太代表者委員會』と『聯合海外委員會』の祕書たるエイ・ジー・ブロートマンである。彼等は、英國の最も有力なユダヤ組織の指導的會員として、『猶太代理局』の政治的任務遂行に當つてそれらの組織の金融的政治的協力を確保してゐる。

同一の建物の中にある『ケーレン・ハイエソツド委員會』の名譽議長たる人は、『英猶協會』の副議長たるサー・オスモンド・ダヴイグトール・ゴールドミツト男である。その議長はサイモン・コークスで、コトクス・スペンサー會社の監査會長及び『英國シオニスト聯盟』及び『獨逸猶太人評議會』(Council for German Jewry) の副議長を兼ねてゐる。初代メルチエツト卿の娘マルシオネス・オヴ・リーディングは議長職にある。

これらの名前が英國の經濟界並びに政治界に於て占めてゐる主要なる役割のみからも、イエルサレムにある『代理局事務局』は、一個の純然たる行政部となつてゐて、これらのユダヤ人及び種々の組織及び金融機關を有するアメリカのユダヤ人の支持を受けてゐる。『猶太代理局』は、『シオニスト

世界組織』のための移民中央機關としての意義を超越した位置を獲得するに至つてゐる。寧ろこの『代理局』は、全ユダヤ民族の政治的中心となりつゝあり、しかも、その重心はエルサレムではなくして、ロンドンにあるのである。

ユダヤ民族の其他の諸組織は、この『代理局』の政治目的に照して見れば、豫備的任務を有するに過ぎない。

ホ、猶太國家をめぐつて

一、シオン運動の二枚舌的性格

ワイツマンは、一九二九年にアメリカのユダヤ人——特にマーシャル——を彼の政策の味方に引入れることが出來て後は、シオン運動を大多數のユダヤ民族の指導理念とした。しかし、猶太國家思想に對することの執着は、この國家思想が實現された曉に、ユダヤ人の敵たる諸國家と、デモクラシー國家內部に於てユダヤ人に對して設けられてゐる最後の諸制限とに對する總攻擊の爲めの、單なる廻り道にすぎない樣にも思はれる。

かゝる問題を明白にするためには、ユダヤ民族の歷史に一瞥を投ずる必要がある。ユダヤ國家は百

道にすぎない様にも思はれる。

かゝる問題を明白にするためには、ユダヤ民族の歴史に一瞥を投ずる必要がある。ユダヤ國家は西歴紀元七十年を最後としてもはや存在して居ない。この時以來ユダヤ人はあらゆる國々を放浪し、寄生諸民族に合體しようと努めて來たのである。フランス革命は、結局ユダヤ人を解放し、宮廷乃至御料局ユダヤ人、を解放して、宮廷乃至御料局ユダヤ人、或は高級僧侶乃至諸侯の奴隷の身分から平等權を有する市民としたのである。祖國なき者共の解放が斯く行はれたといふことは、各地に散在せるユダヤ民族の生存問題の決定的な轉換である。然もこの轉換に關しては、フランスに於てすら根本的な同意がなかつたのであり、特に、ユダヤ民族を目して『國家內部の國家』と稱したナポレオンの態度がよくこれを證してゐる。他の諸國に於ては一層人々の同意は得られなかつたのである。

徐々にではあるが、殆ど至る所で行はれたユダヤ人の政治的解放に對する反抗は、反猶戰線及び反猶運動の形成となつて組織的に現はれ、帝政ロシア及び其他の國々に於ける大規模なユダヤ人迫害を惹起するに至つた。

ユダヤ人の市民としての擡頭を阻止せんとして新たになされた運動に對するユダヤ民族の反擊は、ヘルツルによつて設立されたシオニスト思想の誕生、即ち新しきシオンを建設せんとする希望の中に

現はれてゐる。こゝにこの運動を利用してユダヤ問題の解決のための大きな可能性を認めたのは、ジヨゼフ・チエムバレンである。一九〇三年、彼はシオニスト組織の創設者にして政治的指導者たるヘルツルに、ユダヤ人のみの植民地としてウガンダ（東アフリカ）の獲得を提議した。この計畫は、パレスチナにのみ希望の國土を見ようとしてゐる狂言的な東歐ユダヤ民族の抵抗によつて失敗し、それに劣らず、既に同化せる西歐ユダヤ民族の――特にフランスの――拒否によつて失敗した。この同化ユダヤ人は、寄生諸國家に於て決定的に獲得せる地位を、不安なる未來のために棄てることを欲しないのである。營業上の意識は、ヘルツルによつて說教され又發見されたユダヤ人の『國民的感情』よりは遙かに強いからである。

二、猶太國家をめぐる鬪爭

その間にもユダヤ民族は、その寄生國に於ける自己の立場を擴大するための機會を充分待つてゐたので、終には、バルフオア宣言によつて英國から、パレスチナに於けるユダヤ國家建設の保證を獲得することが出來た。この瞬間に『猶太代理局』は行動を開始したが、しかもパレスチナ移民にあたつて『代理局』の關心事となつたのは、移住者たちに未來の營業の見込を與へることではなく、寧ろ出來るだけ速かに、定住のアラビヤ人を數的に壓倒することであつた。この土地そのものが最も好ましい條件の下にある時でさへも、八十萬乃至百萬以上のユダヤ人を收容し得な

來るだけ速かに、定住のアラビヤ人を數的に壓倒することであつた。この土地そのものが最も好ましい條件の下にある時でさへも、八十萬乃至百萬以上のユダヤ人を收容し得ないことが最初から明白であつたにも拘らず、シオン運動は、即ちワイツマンは、パレスチナに猶太國家を建設せんとする努力を放棄しないのである。英國人は世界大戰中、同時にアラビヤ人とも條約を結んだのであるが、今や英國人はそれを無視して、ユダヤ民族のためにパレスチナを獲得せんとして援助を與へてゐるが、この援助は、有力なる英國のユダヤ人政治家及び金融家を超えてなされてゐる。しかし、汎ゆる强行處置にも拘らず、決定的解決は未だに見出されない。そこで英國政府は、パレスチナに於ける猶太國建設の實際的可能性を檢討するため、一九三六年に一つの委員會を任命した。その數ヶ月にわたる努力の成果たる所謂ペール報告は、當時の英國の植民大臣オルムスキイ・ゴアーが、その友人たる『シオニスト世界會議』のハイム・ワイツマンに對してなした相當に補足的な保證に從つて、多數決をもつて採擇されたとは言へ、やはり失敗してゐる。言ふまでもなくこの報告に提案されてゐる領土の分割は、即ち、猶太國家、アラビア國家、殘部は英國の委任統治領とするといふ如き分割は、最初から無意味なものだつたのである。

新しい委員會が任命され、アラビヤ人に對して武器をもつて、パレスチナのユダヤ人の權利、及び

『油送管』を確保するために、增援部隊が派遣されてゐる。新委員會の檢討の成果は、ペール案を放棄して本問題を決定的に解決するために、英國人、ユダヤ人及び英猶側の希望通りに動く少數のアラビヤ人との間に圓卓會議を開催することである。

それに際して如何なる解決に到達されるとしても、今日に於て既に斷定しうる所は、ユダヤ問題は猶太國家の建設によつて解決しうるものではないといふ事である。といふのは、この土地は、全世界に生活するユダヤ教ユダヤ人千七百萬の中せいぜい百萬人を收容しうるに過ぎず、從つて少くも殘りの千六百萬人は今後も寄生國に依然として留まることになるからである。

三、ユダヤ民族の活動中心地としての猶太國家

それにも拘らずシオニストがこの方面に强ひて解決を求めてをり、又前述の事實を早くより意識してゐたにも拘らず、否、その事實を意識してゐたればこそ、彼等のこの問題に於ける行動を變更することをしないのであるから、彼等が眞に關心をもつてゐるのは、ユダヤ人のすべてを收容しうる一國家ではなく、寧ろ、散在してゐるユダヤ民族のために一つの國家的足場を創建することにある、と假定することも許されるのである。從つて、計畫された猶太國家は、國際的ユダヤ人の活動の中心となるか、或は、――ウイルジングが心憎くも言つた樣に――『世界猶太民族のバチカン』となり、相變らずフランス、英國、合衆國のうちに生命線を持ち續けるであらう。

シオニスト運動

るか、或は、――ウイルジングが心憎くも言つた樣に――『世界猶太民族のバチカン』となり、相變らずフランス、英國、合衆國のうちに生命線を持ち續けるであらう。

シオニスト運動者及びその指導部の態度によつて完全に正當化されると思はれるこの假定が、間違ひのないものとされる時、エヴイアン會議が完全に無效果に終つた理由も亦明らかとなる。この會議によつて設立されたロンドンに本部を有する常設事務局は、この會議に代表を送つた諸國政府が、世界ユダヤ民族の前に頭を下げたことを僞はることは出來ない。

へ、結　論。

獨逸は、世界ユダヤ民族の活動に基いて、獨逸共同體生活からあらゆるユダヤ人を決定的に除外することによつて、當然の結論を引き出したのである。種々の國家はこの例に倣はんとしつゝある。然るにデモクラシー諸國はユダヤ人へ奉仕するため躍起となつてゐる。デモクラシー諸國の文化、經濟及び政治は、著しくユダヤ民族に左右され、否、支配されてゐる。それは、それらの諸國の指導者たちが、部分的にはあらゆる國々のユダヤ大組織に位置を占めてゐる者達と同一だからである。

特に英國の責任は、バルフオア宣言に約束された保證に基いて、國際ユダヤ民族が猶太建設の要求

を掲げて迫つたのであるから、ロンドンに開かれたパレスチナ會議の決定は極めて重大であつた。實にこの會議に於て、世界の諸民族が將來に於ても亦世界ユダヤ民族の意志に屈從せんとする結論を得せしめたからである。

第二部

フリー・メーソン結社

第一節　フリー・メーソン結社の歷史的基礎

一　猶太的東洋的基礎

〔1〕フリー・メーソン結社は、世界觀より見れば、民族社會主義の對立形態であつて、最近二世紀の歷史的發展に對するフリー・メーソン結社の有する意義は、他の超國家的諸組織の作用、卽ち、政治的教會、猶太主義、及びマルクシズムの作用と同一程度のものと看做すことが出來る。フリー・メーソン結社は、その今日の形態よりみれば、世界猶太人の市民的自由主義の前衞と看做されねばならぬ。

フリー・メーソン結社は、種族的並びに民族的に構成された國家形態の原理を破壞し、ユダヤ人にその社會的及び政治的平等權を可能ならしめ、自由、平等、博愛、諸民族の連帶、國際聯盟、平和主

義等の諸原理及びあらゆる種族的相異の否認原理を支持することによつて、ユダヤの過激主義に進路を開拓せしめたのである。

この結社は、その有する國際的な諸連繋及び錯綜せる諸關係の助力を得て、諸民族の外交關係に干渉し、政治家達と竝んで一種の秘密外交政策及び世界政策を行つてゐるが、これは統治者達の支配の埒外に出てゐる。

人事政策及び情實政治によつてフリー・メーソン結社は、國民の公的、政治的、文化的生活内の有力な地位を、フリー・メーソンリーの思想を實行に移すロッヂ（フリー・メーソンリーの會堂）會員によつて占めるやうに計畫されてゐる。

民族社會主義國家は獨逸のフリー・メーソン結社組織を粉砕した。しかし、自由主義的にしてフリー・メーソンリー的である思想財は、かつてのロッヂ會員達の中に尙ほ生き殘つてゐる。これと竝んで、國外のロッヂの諸組織を通じてフリー・メーソン結社の理念が新たに侵入する危險が存在する。

從つて、この敵の正體を檢討し、この結社の領域に關してあらゆる國民同胞を根本的に訓練することは、單に興味ある歷史的問題である許りではなく、我々の敵を征服するに當つての緊迫せる警戒の義務である。

とは、單に興味ある歴史的問題である許りではなく、我々の敵を征服するに當つての緊迫せる警戒の義務である。

〔2〕フリー・メーソン結社がユダヤ民族と密接に結びついてゐるのは、その組織のためのみではない。この結社の表現といひ、その慣習、ヘブライ語とヘブライのシムボルを用ひてゐる點といひ、皆本來の根源が猶太民族から發してゐることを示してゐる。

舊約聖書思想の中心點をなすものは、猶太の「神」としてのヤーヴエの概念である。猶太人に於ては、最初には專ら多數の鄕土神に對する信仰が行はれてゐて、沙漠の神としてのヤーヴエは未だ重大性をもつてゐた譯ではなかつたが、遂にヤーヴエは沙漠に於て一つの『民族』（遊牧の民イスラエル）を探し出し、その助けを借りて、爾餘の神々をその王座より引下し、從つて、世界支配を簒奪することが出來たのである。後の猶太民族に於て、ヤーヴエは先づ最高の神とされ、次には唯一神と考へられたが、その元來持つてゐた特徵は、これを忠實に持ち續けてゐた。ヤーヴエといふ名は、猶太民族にとつて、世界奴隷化の綱領を意味するものである。（イザヤ書六〇章等を參照）

ヤーヴエ概念の發展につれて、ユダヤ祭祀の集中化が行はれた。カナーンに於ける多數の本來の供養場に代つて、唯一の場所（最初はシロ、後にイエルサレム）が現はれる。何となれば、聖約の幕屋及び後のサロモンの寺院は、『ヤーヴエの家』と看做されたからである。まさにヤーヴエ自身と同じくこの寺院もまたユダヤの世界支配計畫の象徵となつたのである。

（參照、エゼキエル書四〇――四八章、及び新約聖書のヨハネの默示錄）

バビロンの虜囚時代（註、紀元前五八六年、カルデアのネブカドネザル王ユダヤに侵冦、イエルサレムを陷入れ、五十年間住民の大部をバビロンに運んだ）後の時期に於て、『豫言書』の猶太教は、僧侶の『律法の教義』（トーラー）及び、『叡智の書』（コクマー）によつて追補されたのである。隣接する文化圈から大いに剽竊することに依つて、『市民的禮儀』と社會秩序を發展せしめたが、同時に一方では、ヤーヴェは、「世界建設者」となされて宇宙的性格を與へられることになつた。これによつて國際主義的な立場が開かれ始めたのである（メシャ信仰の確立）

西曆紀元の頃に、舊約聖書的な考へ方とシリヤ・フェニキヤの『秘密祭祀』の精神とが融合した。秘密祭祀は内的に分裂せる人間の『罪障感』を前提としてゐた。この秘密祭祀なるものは、かゝる人間に對して、『神秘なる』言葉やシムボルや行動によつて神の恩寵を仲介し、それに依つて『救濟』と個人的な『永遠の幸福』とを保證せんとした。總ての『惡』は『惡魔』に歸せられた（二元主義）。又一部の强烈な想像力に依つて描き出された思想は、西曆紀元の頃にはユダヤの『僞經』及び新約聖書の中に、更にグノジス派の人々の著作の中にと漸次書き留められるに至つた。

かゝる表象界の全體は、フリー・メーソンの表徴及び教說の中に新たに生かされて用ひられてゐる、ヒーラムの傳說、寺院及び祭祀の……

かゝる表象界の全體は、フリー・メーソンの表徴及び教説の中に新たに生かされて用ひられてゐる、ヒーラムの傳説、寺院及び祭祀の器具の表徴、ロッヂへ入學の際の勇氣の試驗、象徴的な死者の祭祀、秘密の標語等は、教説の中に現はれてゐる事柄を感覺的・直觀的形式で表はしたものである。（荒削りの石から立方體の石へと人間を形成すること、『四海同胞化』の『メシヤ』の平和國としての『人類の殿堂』を作る爲の仕事、世界教團内に於けるあらゆる自然的な種族的及び政治的制限の拒否）。しかも之等の表徴及び教説は、一定の原形より單一的に發展したものではなく、極めて多種な構成要素が混合して居り（混合主義）、その折々の根據の證明は極めて困難である。

〔3〕　全西洋に對して、全部アジア的思考の世界は先づ、ユダヤの遺産を『神的な』ものとして忠實に維持した教會によつて傳へられた。七世紀以來の回教の齎したアラビヤ的影響、十一世紀以來は十字軍の經驗、そして十二世紀以來は猶太哲學者差（イブン・ゲビロル、マイモニデス・カバラ秘教）も亦、典型的な猶太的思想を著しく强調しようと努めたのである。このユダヤ的立場は、それまでは獨逸スコラ學派によつて著しく西歐人の視野から排擊されてゐたのだつたが。それによつてユダヤ的立場は次第々々に再度西歐人の視野に入つて來たのであつた。

ルネッサンス時代のアカデミーや組合に於ては、『キリスト』的カバラ秘教學者達が特殊な名聲を得てゐた。（ピコ・デ・ミランドラ）

一般にヘブライの著作が偏愛されたが、それに際して『不思議』及び珍奇な思附に對する常規を逸した追求が、重大な役割を占めてゐたやうである。ヨハンネス・ロイヒリンその他の人々に依つて、かゝる傾向が獨逸にも輸入されたのである。煉金術、數學、天文學、星學、並びに魔術を用ひて、ユダヤ人の空想に神學的な附屬物を纒ひつけることに依つて一つの體系を構成せんとした秘密結社が幾つも造られたのであつた。

二　十八世紀に於けるフリー・メーソン結社の發展

〔1〕十七・八世紀の英國職場ロッヂの發展

西洋の建築職人組合制度、石工の慣習及び石工組合の場合とは反對に、中世英國の建築職人の最古の二つの手記である一三九〇年のレギウス手記及び一四五年のクック手記には、旣に東方的觀點に立つて樹立された歴史像が見うけられる。これらの手記はその同業組合傳說中に、宗敎傳說風に述べられた組合の歴史と輪廓と、組合内部に於ける振舞に對する手引、及び建築職人組合に對する義務の實行を含んでゐる。この二つの最古の文書に續いて多數の同樣な内容の手記が出現した。茲に注目すべきことは、同業組合傳說の內容が段々詳細に舊約聖書の傳說及び表徵の世界に根據を置くやうになつてゐることである。この結社側の主張によると、この舊約的基礎は、牧師

きことは、同業組合傳説の內容が段々詳細に舊約聖書の傳説及び表徵の世界に根據を置くやうになつてゐることである。この結社側の主張によると、この舊約的基礎は、牧師として英國の組合を精魂をこめて維持した聖職者達によつて、同業組合の中へ持ち込まれたものであるとのことである。

この聖職者建は、フリー・メーソンリーの發展にとつて、なほ一つの別な重要な役割を演じた。彼等は、官廳に對しては同業組合の代表者となり、又同業組合に對してはその保護者となつた後援者の貴族達と共に、この同業組合の正規組合員以外の最初の會員であつた。時が經つ裡これらの保護者達や聖職者達が彼是してゐる間にロッヂといふ名稱をとる樣になつた同業組合に對して友人や緣者を導き入れるやうな狀況になつた。これは特に石工ロッヂの場合がさうであつた。

斯くて十七世紀の後半は既に、各種の同業組合ロッヂに頗る多數の正規外の會員が見られるに至つた。これら結社の中では、職業團體及び同業組合といふ思想が社交の爲めに次第に後退して行つた。この發展の外面的特徵となるのは、これらのロッヂがその本部を同業組合會館から料理店に移したことであつた。同業組合系の正規のロッヂ會員、組合員ならざる不正規のロッヂ會員との對立が「容認非組合員會員「(Free and Accepted Masons」といふ言葉の中に表はされてゐるといふ假定は、根據のないものである。この名稱はロッヂの總ての會員に對して、更に自然と又同業組合員たるロッヂ會員に對しても、適用されたのである。

十七世紀の終りには、獨逸語のフライマウレルを意味する英語のフリー、メーソンといふ名稱が、既に一般に知られてゐたことは、當時の若干の著述と一六八八年のダブリンのトリニテイ・カレッヂの學生戯語からも判明する。更に十七世紀の著作及び著述によると、ロッヂの不正規會員が既に象徴的な「左官職」に携つてゐるのが認められる。

フリー・メーソン結社の歴史の新しいページは一七一七年に始まつてゐる。この年ロンドンの四つのロッヂが、彼等の守護神なるバプテスマのヨハネの日を共同で莊重に祝ふ爲め集まつて、『ロンドン及びウエストミンスター大ロッヂ』を設立した。かくしてこれらが聯合するに當つて、先づその有力な根據となつたのは、全く社會的な理由があつたのである。

玆に重要なことは、この新しい大ロッヂの最初の役員中には、既に一人の同業組合代表も居なかつたことである。これが新しい設立された最初の幾年かに關しては何等信ずべき報告も存在して居ない。一七二一年、ロンドンの大ロッヂは、初代の貴族組合長としてモンターギユ公爵を得ることに成功した。これから今日迄、英國のフリー・メーソン結社をして一の特徴ある發展が始まつたのである。といふのは、その時以來、英國のフリー・メーソンの傾向は、その會員を貴族、軍隊、及び有力なる市民層から獲得する方向に向つてゐるからである。それと共にフリー・メーソンの大規模な人事政策は始まつて居るが、その目標とする處は、英世界帝國の指導的位置にフリー・メーソン會員を居ら

市民層から獲得する方向に向つてゐるからである。それと共にフリー・メーソンの大規模な人事政策は始まつて居るが、その目標とする處は、英世界帝國の指導的位置にフリー・メーソン會員を据えることであつて、その結果、この結社と英國政府の對立といふ如き問題はあり得ないことになつたのである。かくしてのみ、英國はフリー・メーソン結社を世界政策の手段として利用してゐる、といふ主張も了解できるのである。英國結社の權力が明白に現はれたのは一七九九年で、この年彼等は英國議會に於ける秘密結社反對の法案を否決したのみか、更に一轉して、その法案をフリー・メーソン會員が明確に同法案から除外されるやうに變更したのである。

モンターギュ公爵の動議に基いて、大ロッヂ棟梁ワートンの下で、一七二三年、アンデルソン師の最初の結社憲法が現はれた。この所謂『古き義務』に於て、結社の今後の發展に對して重大な意味を持つに至つた原理が初めて展開されたのである。ロッヂ制度の法則及び傳統の集成である「フリー・メーソンリーの古き領土」と共に此の『古き義務』は、今日なほ有力なる規準となつてゐる。

〔2〕 フランスに於けるフリー・メーソン結社の發展

フランスへ傳來したフリー・メーソン組合は、英國よりの移民を通じて來たものである。一七二五年にパリで最初のロッヂが一英國料理店で仕事を始め、第二の秘密結社會館は一七二九年に開かれたが、この國では極めて急速な勢で發展した。しかし英國とは反對で、その發展は一様と云ふ譯ではな

かつた、十八世紀のフランスのフリー・メーソンリーには二つの方向が區別されるのである。

一つの方向は冥想的且啓蒙的基礎の上に立つてゐた。これに屬して居たのは、特にフランス革命の精神的準備者及びその擔當者であつて、例へばペーヌ、モンテスキュー、ボルテール、ミラボー、マラー、ラファイエット、フィリップ・エガリテ、シエイエー僧正であつた。パリには一七六九年以降、『レ・ヌフ・スール』（新しい姉妹の意）と呼ばれる百科全書派ロッヂが活動した。その會員には、就中、エルヴェチウス、ラランド、ベンジャミン・フランクリン、ラ・ロシュフコー伯、グランベール、カミーユ・デムーラン、ディドロ、ブリッソー等が居つたのである。

こゝに於て啓蒙思潮運動の主旨及び理念が刻銘され、發展させられた。自由、平等、博愛といふ標語、一切の人間の平等の原理、一般的人權の思想等が、このロッヂで作り上げられ、彼等に依つて鬪爭的及び革命的な態度で支持された。あらゆる價値の全面的轉換が行はれた。この對決に當つては、絕對主義なる國家形態、及びそれとこの結社的デモクラシー乃至共和國との對立が特に考慮された。

この方向は、フランス革命を以てそのクライマックスに對し、同時に暫時であるが、有效なる終末に到達したのである。當時のフランスには六百二十九のロッヂが活動し、その中パリーだけでも六九のロッヂがあつた。

しかし同じ頃に、フランスのフリー・メーソン結社に注目すべきもう一つの方向が現はれたが、これはカトリック

しかし同じ頃に、フランスのフリー・メーソン結社に注目すべきもう一つの方向が現はれたが、これはカトリツク的な性格のものであつた。これは當結社の起源を中世紀の教團に歸せんとする一派であつた。その代表者と目されねばならぬ者は、英國の王位僭望者の教育係である、スコツトランド人ラムゼーである。彼は大僧正フェネロンの友人で、大僧正の勸奬でカトリツク教に走り、ラザロ教團の會員となつた。この當時尙ほ多數のカトリツク教僧侶達がフリー・メーソンロツヂに屬してゐたがこれは、カトリツク教がフリー・メーソン結社を內部から解釋し直さうと企圖したからである。とも言ひ得るのである。當時盛況を呈した最も多樣なる高位階組織も、間も無くこの方向の結社から發展した。

これに關して述べねばならぬのは、獨逸の『嚴格戒律』團の創立者フオン・フント男爵がパリ滯在中、このグループの代表者達と接觸したに違ひないと云ふことである。彼も亦カトリツク教へ改宗した。この『嚴格戒律』團は、當時の獨逸のロツヂ方面に於て、大勢力を得てゐた高位階組織であつて、全結社を一つの騎士團聯合に形成したのであつた。その會員は、一種の免許狀たる所謂『恭順書』に依つて、特別な無限の服從と最も嚴格な歸依とを義務づけられてゐた。

寛容の理念は、かの『古き義務』に根を下し、啓蒙時代のフランスに於て、フリー・メーソン結社

の人道主義理想と共に發展させられたものであつたが、これに依つてユダヤ人は、この結社の助力をも得て、早くも英國及びフランスのブルジョア社會に侵入し、自己の解放を强行することが出來たのであつた。一七二三年及び一七二五年には、既に英國ロッヂの名簿の中にユダヤ人の名前が見出される。一七三二年の或ロッヂに於ては、ユダヤ人の會員がロッヂの仕事に參加することが出來る爲に、集會は土曜から日曜に移されてゐる。一七三二年の街頭演說者ヘンリーの「ユダヤ・メーソン」反對演說に徵してみると、當時既にユダヤ化は可成り著しいものがあつたらしい。十八世紀の中葉に擡頭せる「古代メーソン」(Anoient Masons) は、ユダヤ人ロッヂの爲め獨自の祈禱を持つてゐた。

フランスに於ける發展は一層急速に行はれたが、この發展は、フランス革命に於けるユダヤ人に對する市民的及び社會的の完全な平等權の賦與によつてその終結に達した。十八世紀の中葉に各種の高位階組織が商賣上手のユダヤ人に依つて案出され『秘說』として高價に販賣された。

〔3〕ユダヤ人解放に至る迄の獨逸に於けるフリー・メーソン結社の發展

イ、英國の勢力線

一七三七年に結社員チャールス・サリーの手でハンブルグに最初の獨逸ロッヂが設立された。これは其後名を『アブザロム』と呼ばれ、英國大ロッヂの指導下に活動した。英國の影響の觀取されるのはその人事政策に於てであつて、國家の首腦や勢力ある人々を會員に獲得しようと働きかけたのであつた。

のはその人事政策に於てであつて、國家の首腦や勢力ある人々を會員に獲得しようと働きかけたのであつた。斯かる線に沿つてプロシヤの王位繼承者である後のフリードリヒ大王を勸誘せんと努め、大王は誠に巧みなる方法を以てフリー・メーソンに引入れられたのであつた。然るにこの偉大なるプロシヤ王は彼の施政第一年目に既にフリー・メーソンリーへの興味を失ひ、後年には、ロッヂの精神に關して否定的な言明をしたのである。

尙ほその上に、ブラウンシュワイグ、ハンノーヴェル、バイロイト、マイニンゲン、ブレスラウ及びフランクフルト・アム・マインのロッヂが設立されたが、之等も英國の勢力線に基くものである。

ロ、南歐系勢力線

ザクセン生れのポーランド元帥ルトフスキーのザクセン及びボヘミヤに於けるロッヂ設立に當つては、フランスの勢力が主役を演じた。既に述べた如く、フランス方向からも亦各種の高位階組織の結社がドイツに流れ込んだのである。總てかような錯綜せる種々の方向から、十八世紀の獨逸に於ては信ずべからざるロッヂの混亂を惹起したが、その混亂は、フォン・フント男爵の『嚴格戒律』團、スコットランド・ロッヂ、クレルモンローザ敎團、『アフリカ建築師』團、「新黃金薔薇十字團」、及び多數の他の組織となつて、そのクライマックスに達したのであつた。

それに際して、騎士的狂信及び神秘的なるものへの憧憬の外に、政治的諸思潮も亦當然入り込んだことは言ふまでもないことである。此處に述べて置かねばならぬのは、プロシヤの大臣として勢力のあつたビショックスウエルダー及びウエルナーの二人の指導下の『薔薇十字團』の苦心を重ねた運動とインゴルシユタットのアダム・ワイスハウプト教授の啓蒙教團の運動とである。特に後記の結社は大いに世評を騒がせた。世人は無神論的・革命的運動を非難し、フランスの革命家達との連絡があると責めた。これらの非難がどの程度迄正しいかは、尙ほ一層詳細な學術的檢討がなされねばならぬ。――事實はかうである。但し、ヴイスハウプトは嘗つてジエスイット教團員であつたので、その教團を設立するに當つてはジエスイット教團の型に倣つたといふことや、幾冊から自由思想的な書を著はし、その中で次のやうなテーゼを掲げて居ることは、全くの事實である。即ち、そのテーゼとは、あらゆる有力な地位を教團の欲するが儘に動かす爲に、啓蒙教團員は次第々々にかゝる地位へ入り込まなくてはならないといふのである。フオン・クニッゲ男爵の助力を得てヴイスハウプトは、その教團の基礎を各方面のフリー・メーソン結社に擴大することに相當成功した。ヴイスハウプトは教團員としての名を『スパルタクス』團と稱したが、再び勢力を盛り返したジエスイット教徒の策謀に依り、『啓蒙教團』はバイエルンでは一七八四年に禁壓され、その會員の大部分は捕縛された。しかしヴイスヘウプトは、その友人連の救助によつて逃亡することが出來た。フリー・メーソン結社員の報告に依ると、この教團の活動は一七八

スハウプトは、その友人連の救助によつて逃亡することが出來た。フリー・メーソン結社員の報告に依ると、この教團の活動は一七八五年に終熄を告げたとのことであるが、教團がその後も、特にフランス革命中には、最も活潑な活動を展開したといふ噂は、依然消滅はしなかつた。

フリー・メーソン結社は、プロシヤに於ては、他のドイツに對立して比較的平穏な發展を遂げた。尤も『嚴格戒律團』の混亂は、プロシヤ最古の大ロッヂである『國民大ロッヂ・三つの地球』を震憾したのであつた。かくて醫師長ヨハン・ヴイルヘルムスケラー・フオン・ツインネンドルフに依つて一七七〇年には、獨逸フリー・メーソンリが大ロッヂの新設をみるに到つた。それと並んでフランスの捕虜將校達の設立にかゝる『ロイヤル・ヨーク・ド・ラミチエ』と云ふロッヂが存立してゐたが、これは永い間英國の大ロッヂの指導下に活動し、嘗つてのカプチン派の僧侶イグナス・アウレリウス・フエスラーに依る儀禮の變更後は、『プロイセン大ロッヂ・ロイヤルヨークの友』といふ名を帶びるに至つた。このプロシヤの三つの大ロッヂは後になつて『古式プロシヤ・大ロッヂ』と稱されたが、これらは『祕密結社の防止と處罰』を目的とする一七九八年の勅令に依つて特別の位置を認められた。と云ふのは、この大ロッヂ及びこれに依つて設立された支部ロッヂが、該勅令の諸規定から除外されたからである。

八、獨逸フリー・メーソン結社の哲學的・思想的方向に於ける發展

フリー・メーソン結社の眞價に關する多數の文獻や陳述の中には、嘗てフリー・メーソン結社と關係するか、或はそれに所屬してゐた、ドイツ史上及びドイツの精神生活に於ける偉大な人々の名前が幾度となく現はれてくる。フリードリヒ大王のフリー・メーソンとの關係は既に簡述しておいたが、彼と並んで、特に十八世紀の後の三分の一に於けるドイツ觀念論の哲學者や著述家が、正眞正銘のフリーメーソン精神の抱懷者としてあげられるのである。

この際、フリー・メーソン會員は、これらの人々は彼等の重要な刺戟をロッヂに於て得たと言ひ、從つて彼等の業績はこの結社の賜物であると看做されねばならぬと迄主張してゐる。ロッヂに關するかような巧妙な敍述は多數の孤疑逡巡せる同胞をフリー・メーソンに走らしめたが、一方では多くのロッヂ反對者は、嘗てロッヂに所屬してゐた偉大なるドイツ人を、彼等がフリーメーソン會員であつたといふ理由でその著作諸共に攻撃し、當時の政治的及び文化的諸前提を檢討することもなく、その人々がドイツの精神生活及びドイツ史に對して忍び得ないものと看做さうとしたのである。

當時の獨逸はこれらの人々に國家的任務を與へるやうな統一した存在ではなかつたのである。引き裂かれた獨逸の數多き諸侯達の大部分は、決して國家的な模範ではなかつた。教會は完全なる麻痺狀態にあつて、そのドグマは自由なる思想の飛躍を阻止してゐた。あらゆる研究を窒息せしめてゐる

態にあつて、そのドグマは自由なる思想の飛躍を阻止してゐた。あらゆる研究を窒息せしめてゐた强制から、初めて自己を解放したのは自然科學であり、今やその最も素晴らしい成果を獲得するに至つたヒユーマニズムの第二の時代は開かれたかに思はれ、これと共に全人類の教育とそのより高き發展とに纒はる諸問題が再び擡頭したのである。

當時の思想上のこの世界市民精神といふのは、この結社の國際主義とは何らの關係もない。教會のドグマよりの解放といふ話に關して、同一の意圖を有し、又信仰上の爭ひに飽きた人々がある場合には、それが國境の彼方に於てゞあらうと、彼等はすべて一體であるとの感じを持つたのである。同時に人々は、絕對主義の弊害とも戰つたのであつた。シラーは決してフリー・メーソン會員ではなかつたが、それにも拘らず、同一の發展をしたのである。

嘗つてキリスト教に於て、古代人の人道主義理想が根本的に誤解され歪曲された。今やフリー・メーソン結社がこの槪念を我物として、これを民族及び種族を否認するイデオロギーに變換したが、このイデオロギーは、種族に結ばれてゐた古代の諸々の表象とは著しい對立をなしてゐる。その綱領的宣言の中には、この點に觸れてゐる限りでは、勿論斯樣な對立はそれほど現はれてはゐない。當時の啓蒙時代人達には、フリー・メーソン結社は最も優秀な人々の模範的團結と見えたに違ひないのであ

る。

かくてフリードリヒ大王、ゲーテ、ヘルデル、クロップシュトック、レッシング及び他の多くの人がロッヂの會員となつてゐる。さま〴〵な歌詞や文章が現はれ、今日ではロッヂによつて結社の貴重な財寶として賞讃されてはゐるが、今日のそれとは何等の關係もないものである。十八世紀のこれらのドイツ人がフリー・メーソン結社の實體と考へたものは、たゞ彼等の觀念の中に生きてゐたのであつて、ロッヂの實際上の狀態や目的とは大いにかけ離れたものであつた。フリー・メーソンたることに依つてその大理想の重要證人と呼ばれた人々は、間も無く實際の事情を認識して、ロッヂに背を向けたのであつた。

フリードリヒ大王は施政第一年目の一七四〇年以來、ロッヂの仕事には些かも參加しなかつたが、後年彼の言葉として殘つてゐる所に依れば、彼はロッヂの各種の企てに鋭く反對の立場をとり、ロッヂを單に市民的な社交機關と看做さうとしてゐる。又レッシングとフイヒテとは立腹してロッヂを脫會した。シュトーベルグ兄弟も脫會した。ヘルデルは一七六六年にリガでロッヂに入會したのであるが、ワイマルでは決してフリー・メーソン結社員と稱さなかつた。『フリー・メーソンリー百科辭典』が彼に就て書いてゐる事は、當時の偉大なるドイツ人總てに當はまるのである。曰く、

「結社の精神、基礎、及び意圖に關して、彼は獨自の體系を作り上げ、これを何時かは社の

「結社の精神、基礎、及び意圖に關して、彼は獨自の體系を作り上げ、これを何時かは世の中に普及しようと欲してゐた。」

ゲーテも亦、常に好んでさう言はれるやうな、熱心なロッヂの同志ではなかつた。これは『フリー・メーソンリー百科辭典』及び結社員レーンホフ・ポスナーさへ承認してゐるところである。一七八二年に彼は成程マイステル（下から三番目の位階で「親方」の意）の位階に昇格させられ、結社の內部組織に加へられてはゐるが、然しロッヂの仕事に對する彼の協力に關しては少しも詳細な事は知られてゐない。一七八二年の終りにワイマルのロッヂは、ロッヂの混亂によつて結社員間に生じた分裂の故を以て、その門戸を閉鎖した。フリー・メーソンリーに關するゲーテの意見を知るためには、ゲーテの次の意見書が極めて啓發する所が多い。即ち、その意見書と言ふのは、一八〇七年にイエーナのロッヂの會員達がそのロッヂの再建を提議した時に、ゲーテが國務大臣としての資格をもつてカルル・アウグスト公爵の爲めに起草したものであつた。曰く、

「フリー・メーソンリーは全く國家內の國家をなしてゐる。それが導入されてゐる所では、政府はそれを支配して、それを無害ならしめんと努めるであらうが、それが存立してゐない所へ導入することは、決して策を得たものではない……。例へばルドルシュタットの如き狹い場所にあつても、

斯かる組織は一種の社交の形式を作り上げる。我々は此處ワイマルでも本當はかゝる結社を全く必要としないのである。私は上述及び其他多くの理由に基き、イエーナにとつてもそれが危險なものであると考へる。そして、堅信禮後の最初の半年の間にロッヂが構成されるであらうと思はれる全人員を、今直ちに眼前に示されるとすれば、何人でも事態を憂慮すべきものと思ふであらう。」

注目すべきは、フリー・メーソン結社員としてのゲーテを擁護するに役立つやうな總ての事を四頁半にも亘つて引用してゐる『フリー・メーソンリー百科辭典』がこの箇所を引用してゐないことである。其の他一八〇八年五月一日のゲーテの手紙を見ても、單にザクセン・ワイマル公カルル・アウグスト、ワイマルのアマリア・ロッヂの再開を主張し、ゲーテにその爲めに必要な手段をとるやうにと形式的に委任したに過ぎないことが判明する。ゲーテはその手紙の中で、この結社員を稍侮蔑的に、『似而非祕密祭』と稱してゐる。ゲーテはこの手紙で彼の委託を果したものと看做した。と言ふのはロッヂの仕事に對する彼の協力に關する其後の報告が無いからである。これに反してゲーテは、一八一二年十月五日にアマリア・ロッヂの會堂長に宛て一つの請願書を出してゐるが、それは次の言葉をもつて始まつてゐる。

「閣下がフリー・メーソンリー的形式に叶つた然るべき方式で、小生を缺席者と思惟せられ、結社に對する小生の義務を免除せられ候はゞ小生にとつて無上の欣幸に御座候…………」

其後のロッヂとの交渉は、社交的儀禮として行はれたものに過ぎない。たゞ、例へば

に對する小生の義務を免除せられ候はゞ小生にとつて無上の欣幸に御座候………」

其後のロッヂとの交渉は、社交的儀禮として行はれたものに過ぎなかつたが――例へば、ゲーテは一八三〇年にロッヂの名譽會員に任命された折には、感謝の詩を送つてゐる――その交渉さへも多くの場合には、一八一五年にロッヂに入會した彼の息子のアウグスト・フォン・ゲーテを仲介として行はれたものであつた。

十八世紀の獨逸の偉人達をこの結社の思想生活の代辯者となさうとしたロッヂ會員達の主張は、斯かる事實より見る時は、正に歴史の歪曲と言ひ得るのである。なほ斯かる主張が嘘だと分つてゐながらも敢て爲された事は、一八六八年五月七日の『國民大ロッヂ・三つの地球』の議事記錄中に掲載された次の文章に依つても明瞭であらう。

「知識階級がロッヂを退會するといふ悲嘆は別に事新しいものではない。正に我等の最も優れた著述家達が斯様な悲嘆を口にしてゐる。ヘルデルがロッヂの會員だつたのも短期間に過ぎなかつた。レッシングは結社に數年所屬した後に脱退した。フイヒテも同様である。ゲーテは上品な控目の態度を持し、ヴイーランドを記念するために行はれた追悼會とか、創立記念祭とか言ふやうな、特別の場合にのみロッヂの仕事に參加したにすぎなかつた。シラーは、ケルナーとの往復書翰に現はれ

てゐる如く、結社の本質や目的に極めて正確に通曉してゐたにも拘らず、結社には全然加入しなかつた。フリードリヒ大王も亦、我々のロッヂの創立者ではあるが、教團に加入した數年後には、既にこれに對して我不關焉の態度をとつてゐた……。」

かく十八世紀末葉のドイツの詩人や思想家に就て謂はれてゐることは、同樣ナポレオン時代に於けるドイツ解放の鬪士や詩人、例へばブリュッヘル、シュタイン、グナイゼナウ、シャルンホルスト、シエンケンドルフ及び其の他の人々にも當嵌まる。これらの人々も亦フリー・メーソン結社を自己流に解釋してゐた譯で、言はゞ偉大な理念を中心に集合した人物の同體と看做されてゐたのである。これによつて彼等は同樣にロッヂの本質から遠ざかつてゐたのである。何となれば、本來のロッヂが偉大な國民的課題に對して如何に下等な反天性的な態度を持してゐたかは、『國民大ロッヂ・三つの地球』に隷屬してゐたブランデンブルグの『フリードリヒ頌德ロッヂ』の例がこれを示してゐる。こゝに一八〇八年の同章の中の次の一文を掲げる。

「然し多くの喜びも亦再び我々のものとなり、多くの樂しい時間が再び我々の殿堂に蘇り、尊敬すべき人や同志が多數に我が結社に加入し、この氣高き教團に忠誠を誓つた。特に我々が滿足を感じたのは、各種の聯隊所屬のフランスの將校達を多數この教團に加へたことであつて、我々にかく幾

べき人や同志が多數に我が結社に加入し、この氣高き教團に忠誠を誓つた。特に我々が滿足を感じたのは、各種の聯隊所屬のフランスの將校達を多數この教團に加へたことであつて、我々にかく幾人かの極めて尊敬に値する人々を結合させることによつて、我々は人道、寛容、普遍的な人間愛及び兄弟愛の普及のために本格的な利益を齎すことを期待してゐる……」。云々

附錄の會員名簿の示すところによれば、六十九人の會員中、十六人はフランス將校の名前である。この祖國の敵との兄弟の誓は、フランス人の名前と並んでプロシヤの大尉の名前があり、更にこの男がフランスの將校達と一緒にロッヂの仕事に協力したといふ事實を、ロッヂの記錄より知るに及んで益々厭ふべきものとなるのである。

ナポレオン軍所屬のフランスの將校達は、ドイツの他のロッヂにも參加せしめられたのであつたが彼等は、一八〇九年のフランスのロッヂ會員身分證明書の示すところによると、一定の計畫に從つて行動してゐたらしい。このロッヂ會員身分證明書には、部隊別及び武器種類別に整頓された當時の民間及び軍人ロッヂの他に、フランス大東社（Grand Orient de France）と連絡を持つてゐた外國の大ロッヂの名が列擧されて居り、かゝる大ロッヂを訪問することはフランスの軍隊所屬者達に取つて有利であると記されてゐた。『プロシヤ』の項には、ベルリンの『國民大ロッヂ・三つの地球』の名が見られる。

ナポレオン一世がフリー・メーソン結社員であつたかどうかの問題は、フリー・メーソン會員の間

にすら論議の的となつてゐるが、これに對する明瞭な證據は得られない。種々の證據が示す所によると、このコルシカ人、ナポレオン一世は如何なるロッヂにも所屬しては居らなかつたらしい。それにも拘らずナポレオンは、この結社を一定の政治目的の爲めに利用しようといふ企圖を抱いて居つたものと思はれる。そんな譯で、彼は部下の將軍達を大部分ロッヂへ送つた。即ち、マッセナ、オージュロウ、セリユリエ、モーロー、ケラーマン、モルチエ、モンセー、スール、ウーデイノー、レフエーブル、マクドナルド、ミユラー、ネー、ベルナドツト（後の瑞典王）、ペリニヨン、セバスチアニ、ランヌ、及びポニアトウスキーはロッヂに所屬し、フランス大東社内に於て高い位置を占めた者もある。かつてのジヤコビン黨員カンバセーレーは、この問題に關しては正にナポレオンの腹心の人物であり一八一四年迄は『フランス大東社』の組合長であり、なほ一八〇六年以來『公認古式スコットランド儀式ロッヂ、フランス支部最高評議會』の『大棟梁』であつた。ナポレオンの二人の兄弟ヨーゼフとルイも亦フランスのフリー・メーソンの結社の大棟梁であつた。

ナポレオンはロッヂを自分の爲めに活動させようと努めながらも、國際的フリー・メーソン結社の存在を考慮しなかつたといふ誤謬を犯したのである。かくて彼には、この結社の英國支部が執拗な抵抗者となつて現はれて來たが、ナポレオンに依つて强壓されてゐた諸國のフリー・メーソン會員達が

存在を考慮しなかつたといふ誤謬を犯したのである。かくて彼には、この結社の英國支部が報
抗者となつて現はれて來たが、ナポレオンに依つて強壓されてゐた諸國のフリー・メーソン會員達がこの敵方を支持するやうになつたのである。

三　十九、二十世紀に於けるフリー・メーソン結社の發展

〔1〕　一七八九年、一八三〇年、及び一八四八年の革命に對するフリー・メーソン結社員の參加

一七八九年のフランス革命の精神的準備に當つて、フランスのフリー・メーソン結社員が相當な役割を演じたことに就て、今日何人と雖も最早や異論を唱へるものはない。一七九二年になつてフランスのフリー・メーソン結社員そのものが、かの過激な最後的掃除に當つて自ら掃き去られることになつたが、これは彼等が後にも遭遇した運命と同一のものであつて、この市民的自由主義的前衛は、其後もなほ血腥い市民戰爭に際して屢々かゝる運命に見舞はれたのである。それにも拘らず、この革命の主張や著作から生れた結果は莫大なものであり、其後に於て全世界への發展を決定したのである。

エクス(Aix)のロッヂで普遍的人權が草案され、一七九一年九月十三日にフリー・メーソン結社員たるラフアイエットによつてフランス國民會議(Convent)に提出され、『人權及び市民權の宣言』に於て、フランス憲法の根本原理に高められたのである。

この『普遍的人權』は、あらゆる人間は自由であり、平等であり、又統治權は人民に在るのである

から、政府は常に人民に對して責任を負ふものであるといふこの結社のテーゼを含んで居たが、これはアメリカで初めて布告され、アメリカ憲法の基礎を構成した。アメリカ獨立運動は殆ど專らフリー・メーソン結社員の掌中に握られてゐた。其他の國々の革命運動及び解放運動も亦、パリからその理念を得て來たフリー・メーソン結社員に依つて指導されてゐたのである。この年頃パリには『自由の擁護者』といふ名聲を得て、この『大國民』が果さねばならぬ文化的使命といふやうな思想が生れ出た位であつた。この考へ方が現代に至る迄如何に大きく保持されてゐたかは、汎歐洲運動（Pan-Europa）の創始者にしてフリー・メーソン結社員たるクーデンホーフ・カレルギーは、嘗つて我が國に滯溜したカレルギー伯の息子で、母は日本人、妻は猶太人であり、その母は捨てられて近年歸國したが、猶太人世界征略運動の意識的急先鋒として著名であるが、一九二四年に書いた『フランス國會への公開狀』がこれを證明する。その結尾は次の如くである。

「……諸君の祖先は歐洲の歷史に三つの偉大なる言葉を投げつけた。即ち、自由、平等、博愛がそれである。

フランスは歐洲に政治的自由を齎した。今世紀の革命は總て偉大なるフランス革命の反響であつた……　……。諸君の偉大なる使命を復興せよ！　世界に向つて第三革命、即ち、博愛革命を宣言せよ。諸君、歐洲に脈動する偉大なる運動を斷乎として率ひよ、そして博愛の精神によつて歐洲を統

た……　……。諸君の偉大なる使命を復興せよ！　世界に向つて第三革命、即ち、博愛革命を宣言せよ。諸君、歐洲に脈動する偉大なる運動を斷乎として率ひよ、そして博愛の精神によつて歐洲を統一せよ！　西方アメリカには自由の星條旗がはためき、東方ロシアには平等の赤旗がはためいて居る。さらば諸君は、この兩世界の中間に博愛の旗を靡かせられよ。即ち、人間と人間との間の博愛の旗を、階級と階級との間の博愛の旗を、民族と民族との間の博愛の旗を、大陸と大陸との間の博愛の旗を、……………かうしてのみ初めて歐州は世界の中心となり、フランスは歐洲の中心となるであらう！」

絶えず見受けられる現象であるが、フリー・メーソンリーの二大潮流が、一面に於て超國家性を強調してゐるにも拘らず、常に國際フリー・メーソン結社を、その國土に結び付けようと努めてゐる。即ち、英國フリー・メーソン結社は英帝國に對する使命に忠實ならんとし、南歐系フリー・メーソンリーは、フリー・メーソンリー的民主諸國家をその紐帶でパリーに結び附けようと努めてゐるのである。

既に一七三七年及び一七四一年にラムゼーは『フリー・メーソンリー大棟梁』といふ基礎的演說に於て、デモクラシー世界共和國の思想を述べ、これは寛容をその精神としなくてはならないと、フランス大ロッヂ附の演述者の資格をもつて語つたことがあつた。フリー・メーソン結社の反對者たる神

父ラルダンは、一七四六年に有名なフリー・メーソン主義反對論『フリー・メーソン打倒論』を出版したが、彼は當時既にこのラムゼーの演述の根本原理として「自由、平等、博愛」といふ概念を擧げてゐるが、これが數年後實際上にフランスのフリー・メーソンリーによつて合言葉として選ばれたのであつた。

爾來フリー・メーソンリーはデモクラシー國家形態に對し、この要求を持續して放棄しなかつた。英國系フリー・メーソンを除いては、其後、デモクラシーの思想と自由主義の原理とが傷けられる所では何處に於ても、ロッヂが反抗的態度を取つてゐるのが判明する。この際斯樣な原理を傷けてゐる者がフリー・メーソン結社員自身であるかどうかは大した事ではない。かくてルイ十四世、ルイ十八世及びシャルル五世は『フリー・メーソンリー宮廷部に於て連絡せる三兄弟の『軍事ロッヂ』に所屬してゐたと言はれる。カイザー・ヴイルヘルム一世に對しても亦、彼が同じくフリー・メーソン結社員であつたにも拘らず、フランスのフリー・メーソンは一八七一年に極めて嚴酷な方法で反對の立場を取つた。ナポレオン一世は腹心の部下を巧みに結社內の位置に附かせて、ある程度までロッヂを無害ならしめ、これを自分の目的に役立たせたのであつた。しかし彼が帝位を去つた後、ルイ十八世治世下にロッヂが再び放任された形となるに及んで、ロッヂは、不滿を抱いてゐた共和主義的及びデモクラシー的な連中全體の集合所となつたのである。ピエル・ジャン・ド・ベランヂェは、支配王朝て對して彼の

世下にロッヂが再び放任された形となるに及んで、ロッヂは、不滿を抱いてゐた共和主義的及びデモクラシー的な連中全體の集合所となつたのである。ピエル・ジャン・ド・ベランヂェは、支配王朝に對して彼の歌の中で激しい嘲弄を投げつけたものであるが、彼もフリー・メーソン結社員であつた。ルイ十八世自身によつて政府の最高位置に招聘され、多數の自由主義的法規を發布したデカーズは、スコットランド儀禮ロッヂのフランス支部大棟梁の位置にさへ就いたのであつた。

併しながら、自由主義的フリー・メーソンの思潮は、カトリック黨たる所謂『ウルトラ』に取つて好都合なことには、もう一度抑壓されるに至つたのである。しかしフランス史のこの章がフリー・メーソンリーとの關係に於て殆ど明らかにされて居ないのは遺憾なことであつて、その理由は此處に、獨逸に於てさへも其後の情勢の發展に對する重要な發端が見られるのであるし、特にフランクフルト・アム・マインの猶太人ロッヂ『旭日園』(A l'Aurore Naissante) 及びベルネ(猶太人)やハイネ(猶太人)が代表する所謂『若き獨逸』(十九世紀前半の獨逸に於ける猶太人中心の文學運動)に對する關係を考慮する場合には然りであるからである。

同時に此の頃、猶太の資本や取引所投機が完成の域に達し、從つて一般の社會生活は次第次第に之等の勢力に依つて支配されるに至つた。フランスに自由主義的ブルジョアジーの概念が成立したのも此の頃である。そして新聞が、この猶太的フリー・メーソン的徒黨の最も重要な道具となつた。

そこで、革命以前の狀態の再建を目標としてゐたシャルル五世の政府の處置は、大部分は、これらの新聞の彈壓に向けられてゐた。

この闘爭は同時に又、二つの敵手、即ちフリー・メーソンリーとカトリック敎との間の爭闘であつた。敎會の輝かしい示威は、この年頃再びパリ街上を練り歩くに至つた行列がそれであつた。然し自由主義的フリー・メーソン結社員連中も亦、その勢力を示す爲めにあらゆる機會を利用した。一八二五年十一月、熱心なフリー・メーソン結社員であつた代議士フォアー將軍が死んだ時に、彼の葬儀は正しく自由主義的ブルジョアーの如き意味の示威運動となつた。同時にフォア將軍の未亡人や遺兒の爲めの寄附金募集は、この運動の背後にあつた資本力を示してゐた。即ちこの寄附金は、總計百萬フランを超える額に上つたのである。

もう一つの機會は、古くからのフリー・メーソン系革命家ラファイエットが、一八三〇年の當初に行つた旅行であつた。彼の旅行を祝つてロッヂは大々的に祝賀の宴を設けた。市民冠と呼ぶ功勞ある市民に與へる榮冠と勝利の弓が街を飾つて、盛大な凱旋行進が街を練り歩いたのである。

周知の如く、一八三〇年の六月革命に於てシャルル五世の治世を顚覆し、最初の勝利が自由主義的反對黨に歸した。『市民の王』ルイ・フイリップが王座に上つた。彼の性格の中にはフリー・メーソン的自由主義の原理が非常に狡猾な商賣上手な根性と結合してゐて、何かの万策を立てる前には必ずフリー・メーソンリー結社フランス最高評議會の

的自由主義の原理が非常に狡猾な商賣上手な根性と結合してゐて、何かの万策を立てる前には必ずフリー・メーソンリー結社フランス最高評議會の會員たるパリの辯護士デュパンに計つたのである。とは云へこの『市民の王』はかの自由主義的反對黨側の要求を長くは滿足させることが出來なかつた。この對立の擧句は、一八四八年二月の事件となつた。パリの民衆暴動には多數のフリー・メーソン結社員が加はつてゐたのである。ルイ・フリップの退位後出來上つた臨時政府は、そのメンバーの中に六人のフリー・メーソン結社員を數へ、その六人中には猶太人アドルフ・イザーク・クレミユーも加つて居り、彼はオルレアン家をフランスより立ち去らしめるに至つた。パリのロッヂ會員達が宣言を發して新政府を歡迎した時に、クレミユーは臨時政府の他のフリー・メーソン結社員と共にかの會員達と面會し、挨拶を述べて敬意を拂つた。

さてこの時からフランスのフリー・メーソンリーは正に公然と姿を現はし、有力なる政治家は總てこれと何らかの關係を持つやうになつたのである。

ナポレオン三世はこの發展を阻止し得なかつた。彼はそのロッヂ對策によつて只管ロッヂ會員達の抵抗を惹起したにすぎなかつた。彼は、嘗つて一度もフリー・メーソン結社員だつたことのないマニヤン元帥自身をフリー・メーソンの大棟梁に据えようと企圖した。特にクレミユーがナポレオン三世

の危險な敵となるに至つたが、この猶太人こそは、フリー・メソン結社最高評議會の大棟梁の地位と純猶太人組織たる『世界猶太人同盟』の創立者の地位とを兼ねてゐたのであつた。かくてナポレオン三世の治世下に於て、ロッヂは又も反抗者連中の避難所となつたが、ロッヂでは、ガンベッタ、一八四八年の陸海軍大臣アラゴ、更にアンリ・ブリソン、ジュール・フェリー、フロケ、一八七一年のパリのコンミューン暴動の主なる煽動者となつたグスタフ・フルラン、ジュール・シモン、デュポスト其他の多數のデモクラシー及び自由主義の連中が牛耳つてゐたのである。そして一八七一年にナポレオン三世劇が幕切れとなつた時、これ等の連中が活動を開始するに至つた。

〔2〕ロッヂの助力による猶太人のブルジョア社會への侵入

その頃獨逸のフリー・メーソンリーは色々な理由によつて、政治に對してかくの如き役割を演じてゐなかつた。その最も重要な原因と看做されるのは、十八世紀及び十九世紀初頭の獨逸のロッヂが、猶太人をこの結社に入會せしめるか否かの問題に對して取つた否定的態度である。猶太人の入市に際しては税關で尙ほ家畜入市關税が取られてゐた頃の十八世紀の獨逸では、社會的にかくも低い位置にある者に平等權を與へて同胞にしようといふが如きは、各種の哲學的論議にも拘らず、到底考へられないことであつた。

かくして猶太人の活動は、この平等權を先づ獨逸のフリー・メーソン結社の内部に於て、ブルジョア社會の内部から鬪ひ取り、次いで個々の生活領域の

かくして猶太人の活動は、この平等權を先づ獨逸のフリー・メーソン結社の內部に於て、ブルジョア社會の內部から鬪ひ取り、次いで個々の生活領域の公的及び私的な樞要な位置を占める爲めに行はれていつた。

猶太問題論爭の當初に於て、これに關心を有するグループに取つて問題となつたのは、人道と寬容といふこの結社の主義の根本原理の上に獨逸のロッヂを確立すること、そして宗教と種族との概念及び區別を抹殺することであつた。

この運動はアンダーソンの說に依つて支持されることになつたが、それは彼がその著『舊き義務團』に於て、人道と寬容とに關する彼の考へを全く宗敎的立場から展開させたからであつた。從つて彼は其の當時の考へ方に從つた譯である。

この結社は各種の宗派の信者達を統合せんとしたのであるが、同時にそれは、種族原理を一切否認すると言はねばならなかつたのである。

英佛ロッヂの猶太結社員達は、旣に十八世紀に於て完全に平等權を持つ會員であり、ロッヂの有力なる職場の一部を占めてゐたが、彼等は獨逸の猶太人の平等權獲得の運動を大いに援助したのである。

その最初の企圖は一七四九年にハンブルグで行はれ、ポルトガル系猶太人三人が其處のロッヂに出

入の許可を得たいと申込んだのである。地方ロッヂ棟梁フォン・エクスターは、一七八七年に猶太人訪問者の出入を許可する原則を認むる旨を表明した。

この際述べて置かねばならぬことは、これと時を同じうして、フランス及びアメリカの猶太人は、高級位階の設定によつて、ロッヂ生活に於ける彼等の位置を更に確立せんとしてゐたことである。單にフリー・メーソンリーの儀禮上の慣習より見る時には、この發展は既にスコットランド儀式ロッヂの高位に於てのみならず、ミスライム儀式ロッヂ及びメムフイス儀式ロッヂに於ても見られるのである。

亞細亞同胞教團には多數の貴族の外に、イザーク・オッペンハイマー、ヒルシュ・ウオルフ、ウオルフ・ナータン・リープマン、ヤーコブ・ゲッツ、マルクス・ヤーコブ・シュレージンガー等の名前が見受けられる。教團長エッカー・フオン・エックホッフエンは教團員名を『イスラエル』とさへ稱してゐた。『猶太人はフリー・メーソン結社員として入會を許可されるであらうか、又許可し得るものであらうか』なる書は彼の手になつたものである。斯様に猶太人と關係したこの貴族達には資本家が多かつたがこれは猶太人達に金融的に依存する様になつてゐたからだと推察出來るのである。

一八〇七年八月には根本的な轉向が起つて、ロッヂを設立するためにフランクフルト・アム・マイ

一八〇七年八月には根本的な轉向が起つて、ロツヂを設立するためにフランクフルト・アム・マインにユダヤ人が集合したのであつたが、その目標は、

『フランス大東社の庇護の下にフランクフルト・アム・マインに於て、全世界の萬能なる建設者の爲めに一つの殿堂を設立する』

といふのであつた。

寛容をその精神とする最初のロツヂは『旭日社』といふ名稱を取り、間もなく猶太化フリー・メーソン運動の段階にまで發展したのである。

惡評の高い筆名ベルネのルードウイヒ・バルツフはこのロツヂに於て會員として持て囃されて、演述係結社員の部署を受け持ち、『若き獨逸』の代表者としてハイネと並んで悲しむべき役割を演じ、獨逸人にとつて神聖なる總てのものに辛辣な嘲弄を投げたのである。彼はゲーテを稱して詩を作る下僕と言ひ、獨逸人を稱して、宛も尾を振り乍ら主人の『持つて來い！』と言ふ呼聲に應じて失つた王冠を主君の所へ持つて來る下僕の民族だと言つたのである。

更にこのロツヂの會員には、猶太人解放のもう一人の闘士たる猶太人ガブリエル・リーサーが居たが、この者は、一八四八年の憲法委員會の會員及びフランクフルト國民會議の第二副議長にまでなつたのである。

猶太人イザーク・クレミユーも亦一八四〇年十二月にこのロッヂを訪問して、大饗宴の歡待を受けた上に名譽會員の稱號を與へられた。

この猶太人ロッヂの創立者達は、フリー・メーソンの二つの主要方向であるフランス大東社と英國大ロッヂとに保護を依頼してゐた。それ故、彼等は平等權の問題で、獨逸ロッヂの側から故障の申立があつた時には、かの英佛の二大ロッヂに援助方を要請した。

例へば一八一九年には、ロンドン大ロッヂの代表者たる猶太結社員ウォルフに對して、在ハムブルグの二つのロッヂ『聖ゲオルグ』及び『アブザロム』の行動に關し、英國大ロッヂに訴へるやうにとの委任が與へられた。といふのは、この二つのロッヂは『旭日社』の會員達の入會を拒否したからである。この理由のために結社員ウォルフはフリー・メーソン結社大棟梁サセックス公爵と會見したがそれに關して次の如く報道してゐる。

「殿下の仰せでは、その方より申越された理由に關しては全く論議の餘地はない故、ハムブルグ・ロッヂが即座にその決議を廢棄する事が望ましいとの事である。それで若しこれに應じない場合は、このハムブルグ・ロッヂの會員に對して總ての英國ロッヂへの入會を拒否することを訓令するであらう、と仰せられた。」と。

しかし、一般的には手荒い手段に出ることは回避され、鄭重且社交的な態度で相手に取入るといふ方法が好んで用ひられたのである。先づ他のロッヂと隣人らしい親密な關係を結び、それに依つて反抗する連中を懷柔しようと試みた。その特に好き例となるのは、ヨハンニス・ロッヂ（下級結社員のみのロッヂ）『ビルケンフェルトの誠實社』の一八三八年の回章であつて、この中には、フランクフルトの猶太人ロッヂの訪問に關して、次の如く報告されてゐる。曰く、

「しかし、フランクフルト・アム・マインの『旭日社』及び『フランクフルトの鷲社』といふ二つの公正にして完全なヨハンニス・ロッヂの結社代表者達の訪問は、我々に少からぬ愉快な感じを與へた。我々は明らさまに告白するが、我々が猶太教の會員を多數に含むロッヂに對しても、他の近接せるロッヂに對してと同様に招請狀を發せしめたのは、單なる義務觀念からしたのであるし、又英國ロッヂ憲章の明白な規程に從ふためであつた。これらの人々は個人としては全く見知らぬ人々であつたので、特殊な利害のために彼等と結び付く事は出來なかつたのである。しかし、間もなくこれらの結社員の魅惑的な性格が、我々ロッヂの會員に於てのみでなく、他の同席者達に於ても亦共通の同情を克ち得たので、我々は彼等が例外なくメーソン的感激を持つ組合員であることを認めたのである。從つて單に聯盟の規則に依つてのみでなく、又心からなる好意の連帶によつて我々と

一聯の關係に入る値のある事を認めたのである。

さて昨年中のメーソン暦に、猶太メーソン結社員を入會せしめるか否かの問題が到る處でメーソン會議の主要問題として提起されたのであるが、この點に關して我々の側からも亦この文書に依つてこの問題の論議に一つの寄與をしようとしてゐるのである。我々に誤りがないとすれば、次の如きロッヂの見解は、詳言すれば、英國メーソンリーの制度に從順であつて、積極的信仰の差違なるものは――斯かる信仰が結局のところ一個の實際上の無神論に歸せられない限り――メーソン聯盟から除外されることはないとの根本原理を認めてゐる如きロッヂの見解は、次の如き結果になる傾向を有してゐる。即ち、斯かる問題は單に抽象的原理に關係するに過ぎず、その具體的適用は極めて稀な例外に於てのみ實行されるに過ぎない、と言ふのである。「猶太人を現在あるがまゝに、又我々が彼等を知つてゐるがまゝに考へるならば、我々の最善の知識と良心の命ずる所に從つて、メーソン結社員として推薦し得ないやうな猶太人は殆んど無いか、又は全くないことに氣が付くのである。」――これは囚はれない執拗なる偏見の力を乘り超える事の出來る多くの結社員の確信である。然し又爭ふことの出來ない事實として次の事情もあるのである。即ち、猶太人が獨逸の各地方で孤立的地位を占めてゐるので、獨逸の高い敎養人達は、因習的生活の全くかけ離れた分野以外に於て

然し又争ふことの出來ない事實として次の事情もあるのである。曰
立的地位を占めてゐるので、獨逸の高い教養人達は、因習的生活の全くかけ離れた分野以外に於て猶太人と連絡し、猶太人の全く人間的な立場に闘して一層詳細な見解を得る機會などは全く稀なのである。」

次いで二つの猶太人ロッヂを訪問したことに就て次の如く報道されてゐる。曰く、

「……この二つのロッヂを訪問した時の印象を綜括してみるなら、私はこの二つを我國の最も優れた帝玉術（註、フリー・メーソンリーを指す）の仕事場と同等なものと認めねばならぬ。――これらの人々に取つて、メーソンリーは純粋な宗教心の朗かなる禮拜行爲である。――さて此處でこれらのロッヂの人物に眼を轉ずるならば、正にこの二つのロッヂは、フランクフルトの猶太人住民中の精神的にも最も顯著な人々の精髓を會員としてゐる。又私の知つた人々のうちには、その活動に於て當代の最も高貴な人々に加へるに足る人々や、特に教育及び學校教授の方面に於て、彼等の信仰者仲間に先んじて、偏見の霧の中から巨大な歩みを以て、一層高い光明の領域へ踏み入つて行く人々があつた。」

こんな調子で報告は續いて行く。この親猶的な宣傳の效果は間もなく現はれるに至つた。既に一八四五年にビルケンフエルトの『誠實社』ロッヂは、次の如く報告することが出來たのである。

「……あらゆる點で尊敬に値する猶太人が我々のロッヂへの入會を求め、我々のロッヂを通じて實

際上聯盟に加へられた。

我々はこれら同志の獲得を祝福するあらゆる理由をもつものである。…………而して我々の期待する處は、獨逸の全ロッヂが名譽と誠實とを持つ自由な獨逸人がその命名と信仰の差異如何に拘らず、フリー・メーソン結社に加入せしめ、又その仕事に參加せしめることを妨げられない時が遠からず來ることである。」

この實例は他のすべての場合を代辯する。猶太人の獨逸のロッヂの内部への進出と同時に市民社會の内部へも猶太人の進出が始まつたことは、獨逸のフリー・メーソン結社が以前から高い市民層の問題であつたことを知る者にとつては自明の事實と思はれる。かうして我々は當時の市民社會が猶太人の差出がましさに對して益々無感覺になつて行くのを知るのである。フリー・メーソン結社員で、既述の『若き獨逸』の熱狂的支持者である夫を持つ猶太女ラーヘル・ヴァルンハーゲンや、猶太女ヘンリエッタ・ヘルツや、ドロテア・バイトシユレーゲル、メンデルスゾーンの娘でフリー・メーソン結社員フリードリヒ・フォン・シユレーゲルを夫に持つ猶太女ドロテア・シユレーゲル等の文學サロンに於ては、市民階級が猶太人と媾曳を行つてゐた。これらのサロンの出席者と見られる者は、ハインリツヒ・ハイネ、エドワルト・カンス及びベルネ事バルーフ等の猶太人の外に、フムボルト兄弟、シユ

於ては　市民階級が猶太人と婚姻を行つてゐた [illegible]
ツヒ・ハイネ、エドワルト・カンス及びベルネ事バルーフ等の猶太人の外に、フムボルト兄弟、シュライエルマツヘル及びプロシヤ王子ルイス・フェルヂナンド等である。

更に『旭日社』ロツヂは誇らかに次の如く報告してゐる。

「當時ロツヂが世俗的なキリスト的グループに於て、如何に尊敬されてゐたかの表徴として、こゝに特に一八四九一月二十日附の舞踏會のことを述べて置く事にしよう。この會には、文書課に保存してある十一の公文書が證明してゐる如く、特に上級將校連が個人的參加を申込んでゐたのである。多數の軍人の參加者の中から次の如き名だけを擧げて置かう。司令官フォン・ベヒトホールト將軍、都市指揮官デーツ少佐、副官フォン・シヤイドリン中佐………」

この報告には更に十八名の名が擧げてあるが、その大部分は貴族出の將校連である。

この發展を個々の點に亘つてこれ以上記すことは、餘り長くなるであらう。何れにせよ、二十世紀の當初に於ては、獨逸の大ロツヂは總て猶太人を同等の權利を持つ會員として入會せしめる結果となつてゐたのである。只二つの『舊プロシヤ』大ロツヂだけが猶太人會員を拒否したが、しかし『常時出席同志』としてその出入を認めてゐた。この際、この二つの大ロツヂは、唯キリストの教義が異教徒の入會を彼等に禁じてゐると、繰返し强調した。從つて洗禮を受けた猶太人は之等のロツヂに於ても平等權を持つ結社員となる事が出來たのである。

この方向の發展は二十世紀の初めに於て完結した。市民階級の指導層には廣汎なる親猶主義が支配的であつた。民族的種族的問題の闘士は嘲弄され、排斥された。貴族も市民階級もこの問題に關しては天與の感覺を失つてゐたので、このグループの一部は猶太女との無數の離婚に依つて完全に壞滅させられて了つた。

〔3〕　一八七〇年より一九一四年に至る獨逸以外に於ける發展

一八七〇年以降のフランスの政治は前述の如く、その悉くがこの結社の支配下にある自由主義的デモクラシー政治家に依つて支配されてゐた。その效果は獨逸に對する復讐政策や包圍政策に現はれた。かくて共和黨の領袖であるフリー・メーソン結社員レオン・ガンベツタは、フランスの同盟政策に道を拓いた。フランスのフリー・メーソン的デモクラシーの利害を痛く傷けた獨逸に對する反抗闘爭に於ては、如何なる手段と如何なる同盟國も正當なものとされた。斯くしてのみ、ツアーのロシアとの緊密な同盟も理解することが出來る。プリンス・オブ・ウエルス時代に大棟梁として英國フリー・メーソンリーを率ゐてゐたエドワード七世にも、この結社との關係がものを言つた。ウイルヘルム二世の獨逸帝國は、この國際的聯合の網に對して無力であつた。特に、完全に猶太化しフリー・メーソンリー化してゐた世界の諸新聞に於ては、獨逸に對して信ずべからざる誹謗が始まつた。この誹謗は

ナチス獨逸に對する虚僞の攻撃に於てのみその後繼者を見出してゐる。カイゼルの獨逸の不手際は悉くこれらのグループに依つてひどく誇張され、又利用された。フリー・メーソンリーのスローガンや概念は、この反獨宣傳に役立つ様に用ひられた。獨逸のサーベル軍國主義がデモクラシーの自由を脅威するとか、プロシヤの盲目的服從の精神とかヾ口にされ、これに對して、フリー・メーソンリー的個人主義の概念が對立させられた。汎ゲルマン的バーバリズムは總ての文化と文明に取つて危險であるとも言はれたのである。

それにも拘はらず、獨逸のロッヂが民族の親睦とか種族の親睦とかいふイデオロギーを固執し、獨逸に於ける南歐系及び英國系ロッヂ會員の行動を庇ひ、又辯護しようと努めたことは、彼等の猶太問題に於ける讓歩と並んで救ひ難い失敗であつた。多數の國際的フリー・メーソン會議に於て、世界平和及び國際的連帶の問題が獨逸ロッヂの會員をも交へて討議されてゐる一方では、フリー・メーソン結社員たる政治家の仕事は只すら獨逸の壞滅を目的として進んでゐたのである。斯様な發展に於てフランス及び英國の權力が政治上の問題に重大な役割を演じたことは推察に難くはない。而も同樣にしてフリー・メーソンリー的なイデオロギーに從つた目的設定が決定的に行はれてゐて、君主制の支配下にある中歐諸國の諸民族の『解放』といふスローガンが三國同盟家の宣傳の前景に押し出されてゐ

たのである。

〔4〕この時代に於ける獨逸フリー・メーソン結社員の態度

南歐系及び英國系ロッヂの連中とは反對に、獨逸のフリーメーソン結社員達は自己の國民的義務を省みなかつた。

特に猶太人ロッヂ、孤立ロッヂ並びに獨逸の人道主義的フリーメーソン結社は、全く自由主義的デモクラシー的國際フリーメーソン結社の味方であつた。更に全世界に亘るべき國際的同胞なる理想にひつかゝつてゐたのである。

又斯かるロッヂは、黑人ロッヂの平等權獲得運動に味方をし、猶太問題の討議に熱中し、世界フリーメーソンリーの目的と平和主義とを對象とした國際會議に參加したのであつた。

かくして有色人ロッヂの承認をめぐる鬪爭に於ては、獨逸のフリーメーソンリーは主役を演じた。

特に著名なフリーメーソンリーの著述家で、ライプチッヒの出版社である結社員フインデルは、黑人ロッヂの承認に盡力した。

ボストンの黑人大ロッヂから結社員フインデルに對して深甚な敬意が表明された。

彼は全ヨーロッパに對して黑人ロッヂの主張の代表者となつた。フリーメーソン百科辭典の中には

彼は全ヨーロッパに對して黑人ロッヂの主張の代表者となつた。フリーメーソン百科辭典の中には
フインデルに關して次の如く書かれてゐる。
「非キリスト教徒の平等權の爲めに獨逸大ロッヂに對抗し、又その歷史的基礎といはゆる傳統とに對抗したと同じやうに、フインデルは、「バウヒユッテ」誌上に於て、アメリカの有色人メーソンリーの承認のためにも立つた。その結果、ボストンのプリンス・ホール大ロッヂは、彼をヨーロッパの大ロッヂに於けるロッヂの名譽大棟梁及び議長に任命した。そこで彼はこの資格をもつて、多數の大陸大ロッヂによつて黑人ロッヂが承認されるやうに盡力した。」

四　國際的フリーメーソン結社と世界戰爭

〔1〕　聯合國側に於けるロッヂの活動

一九一四年の世界大戰の勃發に對するフリーメーソンの直接の協力を明白に證明する爲に、ロッヂの文書の中にそれを求めても無益であらう。併し聯合國側のロッヂは大戰の勃發に際して聯合國側に立つたことは極めて明白である。

中立諸國のフリーメーソンリーも亦この動きに捲き込まれた。特に瑞西の大ロッヂ『アルピーナ』の大棟梁で、同時にジユネーヴのフリーメーソンリー世界事務局の長であつたカルチエール・ラ・タ

ントといふ名の新教の牧師は、斷然獨逸及びその軍隊の殘虐なることを誹謗した情報を卷き散らす爲に活動した。

伊太利が獨逸の敵側に廻るに至つた理由が、フランスの大東社と緊密に協力してゐた伊太利のフリーメソンリーの策謀に依ることの多かつた事實はフリーメーソン結社員すらも反駁してはゐない。

大戰中、聯合國や中立國のフリーメーソン團體は、會談や會議に於て、平和の締結とその宣傳に關する諸條件を論議してゐたのである。

この點に於て特に啓發する點が多いのは、フランスの大東社及びフランス大ロッヂによつて招集されたパリに於ける『一九一七年六月二八、二九、三〇日の聯合國及び中立國のフリーメーソンリー會議』であつた。

此處に於て、後に設立さるべき國際聯盟の計畫が討議され立案された。又民族自決權並びにオーストリヤ及び波瀾の國籍を有する被壓迫民族の獨立權が論ぜられ、アルサス・ロートリンゲン及びトリエストの割讓が要求された。

その少し以前、かの十四箇條を宣言し志操に於て相通ずる所のあるオッド・フエロウ（註、フリーメーソンリー類似の祕密結社）會員ウイルソンに對して敬意を表する電報が送られた。そしてその結末は「本會議はフリーメーソンリ

メーソンリー類似の祕密結社）會員ウイルソンに對して敬意を表する電報が送られた。そしてその結末は「本會議はフリーメーソンリーの理想と一致する國際的正義とデモクラシー的博愛との精神に立つこの事業の實現に對してウイルソン大統領と協力することを光榮に思ふものである」といふのであつた。

2、 獨逸フリーメーソンリーの態度と去就、ロッヂの勢力と獨逸民族の抵抗力の破壞

既に描かれた事實及び外國ロッヂ會員の行動とは、大戰の當初にあつて、一部分なりとは云へ、獨逸フリーメーソンを覺醒させた。フリーメーソンリーの說く種族結合及び民族協和の平和主義的理想がかくも急激に破壞されるのを見て人々は迷夢より覺醒し激昂した。大戰前の獨逸に於けるデモクラシー的自由學生運動の指導者たる結社員オールは、此の時に當つて、『フランス精神とフリーメーソンリー』といふ一つのパンフレットを書き、その中で獨逸フリーメーソンリーとフランス・フリーメーソンリーとの對立を述べたてゝゐた。

しかし斯樣な認識は、獨逸ロッヂ界の一部にのみ現はれたものであつた。急進的フリーメーソンリーの廣汎なるグループは、中立國ロッヂの助力を借りてフリーメーソンリーの國際的聯繫の中へ入らうと努めたが、この傾向は特に大戰の末期に於て益々強くなつて行つた。

世界大戰中の獨逸のロッヂの國際主義的態度が、どの程度にまで及んでゐたかは、他の多數の報告

と並んで、一九一七年の『獨逸フリーメーソン聯盟報告』からの一節がこれを立證してゐる。卽ちその一節に曰く

「玆に肝要なことは、民族全體の中に國際主義思考を覺醒させることとである。この仕事は個々の人によつて果され得るものではなく、現存力の中樞部、卽ち最も多彩なる聯盟によつて實行されねばならぬものである。」

世界大戰に於ける獨逸の戰場ロッヂの態度は特に悲むしべき一章をなしてゐる。兵士の內部にあつた獨逸のフリーメーソン結社員は所謂戰場ロッヂを建設したのであるが、このロッヂでは、あらゆる系統に屬する結社員達、從つて高級フリーメーソン會員、猶太人ロッヂの所屬員及び人道主義を標榜せる大ロッヂの所屬員達が、國民主義キリスト敎ロッヂ及び古式プロシヤ・ロッヂの仲間達と協力してゐたのである。戰場ロッヂの仕事の中に現はれてゐる甚しい國民的屈辱の度合に關する證據は、人に深い衝擊を與へるに足りるものがある。我々はその中二つを取り出す丈で十分である。

一九一四年八月三十日附の、獨逸の社會民主黨すらがなほ我々に强制された戰爭を勝利を以つて遂行することとの必要を確信して居り、從つて戰時公債に承認を與へた頃の日附の野戰郵便葉書が現存してゐるが、この葉書には獨逸ロッヂの會員が、リエージュに在る白耳義ロッヂを訪問したことに關し

てゐるが、この葉書には獨逸ロッヂの會員が、リエージュに在る白耳義ロッヂを訪問したことに謝しての報告が載つてゐるのである。文面は次の如くである。

「戰爭中にも拘はらず、博愛の精神を至上のものと考へてゐるアドルフ・ヘルツエル及びこれに從ふ白耳義の同志たち」

これに續いて白耳義人の署名があり、他の面にはかう書いてある。

「リエジユのロッヂ訪問に際して受けた感激的友愛を想起しながら、すべての諸氏に對し心からなる挨拶を送る。戰爭中にも拘らず、なほ高貴なる人間性は依然として存在してゐる。」

これに加へて更に注意して置かねばならぬことは、ロッヂ會員たるヘルツエルが一突擊大隊の大尉及び中隊長としての軍事的地位を保つてゐたと云ふことである。從つてこれらのロッヂ會員達はひどく俗惡な事を平氣で行つてゐたもので、軍服を身にまとつて敵側のロッヂへ出掛けて行き、其處で敵方のロッヂ所屬員達と盛んに交歡を行つてゐたのである。彼等はこの事實を大いに重大であると考へたらしく、それをメーソンリー的行爲として、バイロイトのロッヂに報告することさへしたのである。しかしバイロイト・ロッヂの文書の中には、かゝる行動を非とした會員が一人でもあつたかどうかに對する如何なる證明も見出されはしない。

サン・カンタンに於て戰場ロッヂ『ソンム旭日社』が開設された一九一五年三月十四日の報告は同

樣に奇怪なる語調をもつて次の如くいふ。

「フランスのロッヂ會員達に對する特異な關係があるので、戰場ロッヂの創設は特に困難である。サン・カンタンに參集した軍服姿の獨逸結社員たちの方でフランスの二つのロッヂの會員たちと友交的に交際することに內面的な困難を感じてゐたのではなくて、我々の側からは當初から眞にフリーメーソン會員的な心を込めた態度で向つてゐたのである。加ふるに我々は先づ幾度か繰り返して、獨逸の會員たちが自分がメーソン結社員であることを打ちあけたフランス人會員によつて導かれ來ることは愉快である、と述べたのである。困難の原因はフランス大ロッヂが獨逸ロッヂに對するメーソンリーとしての關係を斷ち切つたといふ事實に基いてゐるのであつて、この事によつてフランスの會員たちの方が或種の內面的困惑を感じてゐるのである。

我々が『正義と眞理』ロッヂに對して戰場ロッヂの開設の爲にその殿堂の使用を乞ふた時、この希望は、フランスの會員達にとつても別に奇怪とは思へなかつたのであつた。疑惑の生じたのは我々の作業にフランスの會員たちが時にふれて參加するといふ問題に關してのみ生じたのであつた。我々の側には斯樣な疑惑は少しもなかつた。それどころか……」

斯樣な調子で報告は續いてゐる。該報告は、フリーメーソン的な教化が獨逸を何處へ導いて　つかを明白に闡明してをり、又同時に南歐系及びイギリス系のフリ

かを明白に闡明してをり、又同時に南歐系及びイギリス系のフリーメーソンリーが違つた方法で彼等の任務に解決を與へてゐたことを示してゐる。しかし、戰場ロッヂを單に敵側の大東社の委任を受けたスパイ群の中心であると考へるならば、それは戰場ロッヂに就て誤つた考へ方をしてゐることになる。この場合には祖國に對する實際的な裏切の證據を求める必要はないし、又さうしてはいけないのである。獨逸戰場ロッヂの會員たちの態度は敗戰主義的な人道、寛容及び平和の理想に絶えず引きずり廻されてゐたのであるから、國民が國土及び民族の敵に對して武器をとつて戰つてゐる時にあたつては、それだけで既に獨逸に對する永續的な裏切を意味したのである。

第二章　フリーメーソン結社の組織、仕事の方法及び目的

一　教義及び位階組織

〔1〕アングロサクソン系の教義及びそれより導き出された諸教義

フリーメーソン結社の内容は、ロッヂに於ける慣習の一定の形式によつてその會員達に傳達される。フリーメーソンリーの思考及びフリーメーソンリーの態度の傳達は『フリーメーソンリーの組織』『教義』或は『儀禮』によつて行はれる。これらの『教義』は外面的にはまさに様々である。しかし、ロ

ツチの仕事の原理、基礎及び目的があらゆる組織に於て同一であるといふことこそ、紛ひもなく本質的なものである。

アングロサクソン系及びそれから導き出されてゐる教義は、原則として、三つの位階に分れて仕事をしてゐる。或特定の高級なメーソンの知識は、英國に於ては『ロイヤル・アーチ』とか呼ばれ、他の國々に於ては『エングブント』とか呼ばれてゐる上級位階の中で展開させられる。このアングロサクソン系乃至英國系『教義』は祭祀及び慣習が或種の簡素さを持つてゐるといふ特徴がある。この教義に從つて仕事をしてゐるのは、就中英國の大ロッヂであり、アメリカの諸派である。獨逸でこの方向に屬してゐたのは、所謂シュレーダー派、或はハンブルグ派であり、『友愛社』大ロッヂのフェスラ派であり、バイロイトの「獨逸兄弟社」大ロッヂ派及び『太陽社』大ロッヂ派等である。これらの諸派に於ては、南歐系のフリーメーソンとは反對に、象徴物としての太刀や劍が缺けてゐるのである。

〔2〕　西歐系フリーメーソンリー及びそれより導き出された教義

フランスで發展した南歐的形式のフリーメーソン結社は、スコツトランド・フリーメーソンリーとも呼ばれてゐる。この形式のフリーメーソンリーは、カトリツク的教團の形式をとつて現はれ、アングロサクソン系フリーメーソンリーと同じく三つのヨハニス位階をその基本段階として仕事をしてをり、その上に所謂スコツドランド人位階乃至高級位階

ロサクソン系フリーメーソンリーと同じく三つのヨハニス位階をその基本段階として仕事をしてをり、その上に所謂スコツドランド人位階乃至高級位階なるものを築いてゐる。この教義に從つて活動してゐるのは例へば「スコツトランド儀式ロツヂ」の三十三位階の組織であり、瑞典派組織であり「國民大ロツヂ三つの地球」及び『折衷教團』の諸教義である。

〔3〕 自由精神的及び自由思想的の諸教義

これらの寧ろ左翼急進的立場を取つてゐる諸派は、アングロサクソン系のフリーメーソンリーによつて根本的に否認されてゐる。無神論的態度を持してゐたフランスの「大東社」が前世紀に於いて、『全世界の全能なる建設者』といふ原理を放棄した時に、英國大ロツチは單にかゝる事實をもつて、それとの關係を斷ち切つたのである。獨逸に於てかゝる方向をとつてゐたものは、特にニユルンベルヒの『旭日フリーメーソン聯盟』及びフライブルクの『高貴なる希望』ロツヂである。

二 組織的な國際的ロツヂ合同

〔1〕 最底の段階としてのヨハニス・ロツヂ

フリーメーソンリーといふ大組織の最底の段階を形成するものは所謂青色ロツヂ、即ちヨハニス・ロツヂであつて、これは徒弟、職人、親方の三位階より成つてゐる。このヨヘンニス・ロツヂは、子

ロッヂと看做されて、より大きな聯盟即ち所謂大ロッヂに統合されてゐる。從つてフリーメーソンの他の組織との交際は、一般に大ロッヂを仲介としてのみ行はれる。大ロッヂは友交關係を有する海外の大ロッヂ組織に於て自己の代表者を任命し、國際的なロッヂ會議や集會に代表を派遣する。個々の國民ロッヂの國際連絡機關と見られるものは、『國際メーソン協會』（Association Maçonnique Internationale. 略稱A. M. I.）であつて、フリーメーソン世界事務局と共にその本部をジネーブに持つてゐる。

〔2〕　高位階ロッヂ

抑々高位階といふのは、ヨハニス級から選拔されてフリーメーソンリーの規約にしたがひ段階づけられてゐる高級ロッヂの總括的な名稱である。この組織のうちで最も重要なものはスコットランド儀式ロッヂの『三十三位階組織であり』この三十三位階より選拔された人々が所謂『最高評議會』(Suprême Conseil. S. C) を形成する代表者たちなのであつて、有力な國々にはいづれも單に一つの最高評議會が存在してゐるのみである。目下世界を代表する最高評議會が三十六あるが、これら一八七五年創立の『ローザンヌ同盟』に結合されてゐる。

これらの最高評議會に於ては、ユダヤ人が壓倒的多數を占めてゐる。その諸組織は最も活潑に猶太的フリーメーソン的政策を實行してゐる。本組織の高位階猶太人達は、同時に『ブナイ・ブリス』又は『世界猶太人同盟』の如き純猶太大結社の會員でもある

これらの最高評議會に於ては、ユダヤ人が壓倒的多數を占めてゐる。その諸組織は最も活潑に猶太的フリーメーソン的政策を實行してゐる。本組織の高位階猶太人達は、同時に『ブナイ・ブリス』又は『世界猶太人同盟』の如き純猶太大結社の會員である。

これらの高級ロッヂを支配してゐる精神に關しては「獨逸大象徵ロッヂ(Symbolische Grosse Loge von Deutschland) の儀禮書からの二三の拔萃がそれを明らかにするのであらう。

第二十位階

すべての正規のロッヂの尊敬すべき大棟梁。

政治の正しい方法と理性であつて、決して暴力や壓制ではないといふ事を說明するのが此の位階の目標である。

第二十三位階

幕屋（猶太人の神殿）の長。

彼の目的とするところは人間性の福祉の爲に間斷なき、鬪爭を續けることである。又彼は營々として、あらゆる權力――それが世俗的なものであらうと宗教上のものであらうと――の亂用に對して個人の自由を保證することが出來る一切のものを闡明せんとするのである。

第二十四位階。

幕屋の王。

その目的とするところは社會的な世を緊密に結合することである。行政及び司法機關全體の挺子はこれを無責任なる專制君主の手より奪取して、それを賢明と不偏不黨と公正との精神をもつて全體の福祉の爲に用ふる如き人々に讓渡されねばならぬ。

尙其の上に『出生』地位、或は富に基づくあらゆる特權と獨占權とに對して戰ひが宣言され、社會的平等とあらゆる階級乃至世襲階級精神の排除の爲に戰ひが宣言される。

我々は絶えず、宗教的世俗的專制主義に對する假借なき鬪爭によつて、かの殉教者たちの爲に復讐せんと努めてゐる。しかもかかる專制主義が高位貴顯の者の所行であるか、低位俗惡なる者の所行であるかは聊かも問ふところではなく、又相手がローマ法王であらうと、普通の僧侶であらうと、或は神の恩寵を受けて居ると空想してゐる支配者であらうと德義を顧みざる保民官であらうと、そんな事はどうでもよいことなのである。……

教會及び政界の反動勢力のみが失はれた地盤を回復しようと努力してゐるのではない。同一の目的は獨裁的人民の危險なる追從者によつても追求されてゐる。而して之等の追從者は人民の厚意を追ひ求める一方では、その幸福は個人の權利及び自決權を捨てゝそれらを全體の意志に從屬させる所にあるといふ嘘僞を人民に信ぜしめようとしてゐるものである。

ひ求める一方では、その幸福は個人の權利及び自決權を捨てゝそれらを全體の意志に從屬させる所にあるといふ嘘僞を人民に信ぜしめようとしてゐるものである。

〔3〕『フリーメーソン總同盟』

『フリーメーソン總同盟』はあらゆる國々の大ロッヂの會員達の國際的結合であり、特に超國家的平和主義的思想を鼓吹し、無敵のフリーメーソン會議を開催する。本同盟内部の構成は、個々の重要な職業部門及び仕事の領域に分たれてゐてこれらが所謂『專門集團』をなして居るのである。即ち著述家及びジャーナリストの爲の專門集團（防衛鬪爭）、醫者、法律家、青年組織、實際的平和運動、人權擁護、書誌學及び博物館學のフリーメーソンリー的專門集團も存在してゐる。エスペラント運動を宣傳する此の同盟は、一九〇五年のブローニュに於ける第一回エスペラント會議に於て創立されたのである。一九三一年以降その本部はバーゼルに在る。

三　他の諸組織に於けるフリーメーソン結社の擬裝せる外部的活動

既述した通り、大ロッヂは出來る限り公然と政治的舞臺に出ることを回避してゐる。それ故に、フリーメーソンリーは、多種多樣なるロッヂの個々の會員の大きな結合の外に、突撃班を作つてゐるが、

この突撃班は外部に向つてはフリーメーソン的には見えないが、しかしフリーメーソンリーの目的の爲に造られたものと看做されねばならぬ。

かくて種々の福祉設備や營業組合や教育團體の監督局、學校組織、國民教育機關等が無數のフリーメーソン結社員によつて占領されるに至つたが、これらの結社員は、フリーメーソンリーのイデオロギーが最も廣範圍の人々に普及して行く樣に取計つたのであつた。

全超國家的諸同盟との協力、卽ちエスペラント倶樂部、人權擁護同盟、新ロシアの友の會、獨逸平和協會、友愛協會、獨乙國際聯盟協會、プルンチユリ委員會、獨乙自由同盟、世界友愛同盟、國內平和同盟、人道促進同盟の如き諸團體との協力は、文書によつて證明することが出來るし、ロッヂの目的とも合致してゐるので極めて活潑に行はれた。こゝには若干の例を擧げたに過ぎないが、これ等の諸組織の大部分は、フリーメーソン結社員及びフリーメーソン委員會によつて設立されたのである。

これ等の諸組織及びこれを設立したフリーメーソン結社員達の間に支配的であつた精神の一例として、ウイーンのフリーメーソン結社員クーデンホーフ・カレルギーの汎ヨーロッパ運動をあげることにしよう。この運動は、ヨーロッパ諸國民の協力によつて、汎ヨーロッパ聯盟と稱する一個の國家同盟を結成することをその目標としてゐる。この運動が大規模に行はれて來た時に、クーデンホーフ・カレルギーは、彼の政治的活動によつて彼の屬してゐたウイーンのロッヂに迷惑を及ぼすことのない樣にとウイーンのロッヂを脫退したのである。

カレルギーは、彼の政治的活動によつて彼の屬してゐたウイーンのロッヂに迷惑を及ぼすことのない樣にとウイーンのロッヂを脱退したのである。

一九二五年にクーデンホーフ・カレルギーは『實踐的理想主義』といふ一論文に於て、次の如く述べた。

「遠き將來の人間は混血兒となるであらう。今日の種族及び世襲階級は空間、時間、及び偏見が益々征服される結果としてその犧牲者となるであらう。將來の亞人歐人黑人の混血種族は、外面上は古代エヂプト種族に似る樣になり、民族の多樣性を失ふ代りに、個性の多樣性を獲得するであらう。」

一九二三年に出版された『貴族』といふ著述には、その三十九頁に猶太人に關して次の如く言つて居る。

『かくして結局、これらすべての迫害から一つの小さな協同體が生れたが、この協同體は理念に對する忍耐强い英雄的殉教によつて强められ、意志は薄弱にして精神的には貧しい要素をすべて振ひ落して居る。ヨーロッパは猶太民族を滅亡せしめる代りに、その人工的な淘汰過程によつて猶太人を高貴なものとし、將來の指導的國民にまで育て上げたのである。從つて、牢獄のやうなゲットーから飛び出したこの民族が、ヨーロッパの精神的貴族にまで發展したといふことは、聊かの不思議

もない。かくて一つの優れた神の攝理が、封建貴族が崩壊するや否や、ヨーロッパに對して、猶太人解放によつて神靈の恩寵を受けて居る一つの新しい貴族民族を送つたのである。』

超國民的國家同盟に對する斯やうな要求はフリーメーソンリーのイデオロギーから生じた最も極端なる結果である。蓋しこの聯盟の所屬員といふのば醜惡混合種族であるし、又その內部に於ては『神靈の恩寵を受けた高貴な種族』即ち猶太人のみか純粹に保持されることになるのである。

ウインの大ロッヂはメーソンリー系のあらゆる幹部役所への激に於て、汎ヨーロッパ聯盟に對して滿腔の同情を表明した。フリーメーソンリー系の新聞『光明』も亦ロッヂ會員たるクーデンホーフの思想に感激して、一九二五年三月には次の樣に書いたのであつる。

『クーデンホーフを仲間に數へることが出來るのは、フリーメーソンリーに取つては、特にオーストリヤのフリーメーソンリーに於いては、甚だ滿足なことである。オーストリヤのフリーメーソンリーは、クーデンホーフが結社の思想を擁護して立つてゐると主張して間違ひではないのである。

即ち彼は政治的誠實、社會的洞察、嘘言に對する鬪爭知識を求めての努力、善良なる意志を有するあらゆる者の協力、これらのことをクーデンホーフが主張してゐるのである。斯樣な高い意味に於て、ロッヂ會員クーデンホーフの綱領は最高位のフリーメーソンリー的な事業である故に、その實現に協力することはフリーメーソン結社員の勝れたる任務と云ふべきである。

現に協力することはフリーメーソン結社員の勝れたる任務と云ふべきである。

四　孤立ロッヂ及びフリーメーソン結社類似の諸組織

フリーメーソン結社の目的の爲に設立された諸組織及び超國家的諸同盟の他に、尙多數のいはゆる孤立ロッヂと云はれてゐるものや、フリーメーソンリー類似の組織が存在してゐる。孤立ロッヂと云ふのは、公認の大ロッヂのいづれとも連絡を有して居ないロッヂを指すのである。これに屬するものは、ドルイーデ教團、オッド・フエロウ・ロッヂ、『國際的混合メーソン「人權」教團、二十世紀の薔薇十字教會、新啓蒙教團及びレヒアビーテ教團で、特に最後の結社は同名の猶太人諸組織と緊密な連絡を保つて居る。此の中重要なのは、全世界に約四百五十萬人の會員を有するオッド・フエロウ・ロッヂと、三十三位階制に從つて活動して居る『國際混合メーソン「人權」教團』とであるが、後者は簡單に「混合儀禮團」とも云はれてゐる。この結社は就中婦人解放をその旗幟として掲げて居り、正規のフリーメーソンとは反對にそのメンバーの中に婦人の會員をも加へてゐる。

五　理念上の目的設定

〔1〕　フリーメーソン結社の根本思想

フリーメーソンの定義に關しては、ロッヂ諸組織及び指導的フリーメーソン結社員によつて極端に一致しない宣言が發表されてゐる。これらの根本原理の一つに依ると、『フリーメーソンリーは、大部分は中世の建築職場の慣習から借りて來た形式に於て、人間の道德的高貴化と、人間的幸福一般とを促進せんと努力してゐるものであると言はれてゐる（『ハンブルグ大ロッヂ』の宣言）。

次にフリーメーソン結社員たるフリードリヒ・ルードウイヒ・シュレーダは一次の如く宣言した。

「フリーメーソンリーは、人間相互の調和と好意とをその目標とするものであつて、若しかくしないならば、人類は宗教上の概念、教育上の偏見、或は國民的諸狀勢に依つて永遠に分離した儘で生活するのであらうからである。

この宣言はアンダーソン師の「古き義務」の中の論述と完全に一致してゐる。『プロイセン大ロッチ』たる『友愛社』の根本法中、その一般的基本原理の第四章には次の如く書かれてゐる。

『身分、國籍、皮膚の色、宗派、政治上の意見等が入會許可の障害となつてはならないが、同樣に皮膚の色又は種族の相違が、ロッヂ或は大ロッヂ承認の障害となつてはいけないのである』

種族及び國籍を超越して國際的人類同盟に達することが努力の目標なのである。この世界を包括する同胞連繫に於て黑人種、有色人種及び猶太人が白人と相並んで平等權を持つと云ふことて誇りが感

る同胞連繫に於て黑人種、有色人種及び猶太人が白人と相並んで平等權を持つと云ふことに誇りが感ぜられてゐるのである。

フリーメーソン結社員の人道主義理想の中では、人間は總て平等である。このフリーメーソン的な人道主義思想に就いて、フリーメーソン百科辭典の中に次の如く述べられてゐる。

『人道主義は、あらゆる人間に關係するものであり、普遍的人間愛であつて、人類のあらゆる「分離」と「分裂」とを超越したものである。人道主義は民族共同體及び宗教共同體を問題にしないで、總ての民族同胞及び宗教仲間を人と見、又人間として尊敬するのである。即ち同樣な天性、平等な權利と出生を同じくする同胞と見、又同胞として尊敬するのである。人間生活は二つの側面に從つて觀察されることが出來る。即ち個人生活として又社會生活としてゞある。換言すれば、人間は個人的存在として生活すると共に共同體の一員としても生活する。個人的生活の典型は人道であり、人情であるが、社會生活の典型はコスモポリタニズムであり、世界市民主義である。……人情及び世界市民主義を促進して、この人間生活の最高の典型に達する爲に、フリーメーソンリーは創立されたのである。即ちフリーメーソン同盟は人道的コスモポリタン的な一つの社會である。……

かくて、個人的、政治的及び經濟的關係に於ける無制約な個人主義が、フリーメーソンリー的イデ

オロギーより生れた必然の結果の一つである。第三十位階の儀式の中で强調されてゐる通りに、個人の權利及び個人の自決とを制限する如き『獨裁者』の目標を破壞しなくてはならぬと云ふのである。民族共同體の幸福の爲には個人的利益や利害を制限しなくてはならないと云ふやうな事は少しも問題とされてはゐない個人の權利が、其の他のあらゆる權利に先行すると云ふのである。

ブルヂョア的自由主義の諸現象及び諸理念は、大部分はフリーメーソン結社の精神に根差してゐる。フリーメーソン結社に照應する國家形態は、デモクラシー的共和國である。

〔2〕フリーメーソンリー結社の教育方法

フリーメーソン結社はその教育目的を次の如き象徴を以て言ひ表してゐる。即ち我等は全人類の大殿堂を建設するものであると。この建築の爲の材料となるのは個々の人間であるが、フリーメーソンリーは此の材料を適切に切つて、それが殿堂建築に組み合せることの出來るやうにしなくてはならぬのである。この大建築の模範及び象徴としては使はれのは、ソロモン王の殿堂建築である。ロッヂに入會した許りの人間は未だ自然の儘の切つてない石であるから、此の石が完全な立方體に切られて、建築師の計畫に從つて、その建築の一定の場所へ摩擦なく又滑らかに入るやうになされねばならないのである。

以上の言葉で、フリーメーソンリーはその教育の作用及び方法を自から適切に述

以上の言葉で、フリーメーソンリーはその教育の作用及び方法を自から適切に述べてゐるのである。彼等が重大な關心をもつてゐるのは、一定の種や種族の中に基礎を置いてゐる素質を發展させ促進させることではない。そこで人間が石の如く切られるのである。換言すれば、人間はその性格の本質的な特徴を永久に取り除かれて仕舞ふのである。

從つてフリーメーソンリーにとつては、ロッヂの會員が何の民族又はどの種族に屬するかと云ふことは全く何うでも良いことであつて、その教育の成果として目指されてゐるのはたゞ同樣な滑らかな立方體を作ることがあるからである。

斯樣に性格や個性が破壞される爲に斯樣な人間は、ロッヂからの命令がない場合にも、易々として左右されるものとなるのである。かくてロッヂに從屬せる人間は一定の情況に置かれる時には、自らフリーメーソン的に行動し思考せざるを得なくなり、又さうなるのである。

フリーメーソンの教育上の仕事を援助及び指導してゐる四つの要素がある。こゝに先づ第一に擧げられなくてはならないのは、フリーメーソンリーの祭祀上の儀式であつて、これはかの所謂儀式卽ち慣習の中に正確に規定されてゐる。この儀式は三つの最下位の段階、卽ち所謂ヨハニス・ロッヂに於ては世界に於て同一である。

フリーメーソンリーは合理主義及び啓蒙主義の時代に反教會として成立したものであるにも拘らず教會の用ひるのと同じ手段を用ひないでは居られないのである。フリーメーソン結社も亦外的な祭祀上の儀式に依つてその會員達に精神的な啓發を呼び起し、それから加入者達を感情的に我ものとする爲に殿堂奉仕の壯重な氣分に浸らせて置いて、理性の批判を眠り込ませようとするのである。蠟燭のきらめき、大風琴の奏樂、祝祭日の服裝、神祕に滿ちたしるしや不思議な姿のもの、華美なリボンや印授によつて人間の感覺を迷はせようとするのである。

フリーメーソン結社員達は又同時に、日中の明るい光の中ではこの全禮拜が一個の笑ふべき幻影と化し去ることをよく自覺してゐるので、その殿堂や儀式を世間の眼に曝さないやうに細い心遣ひをしてゐるのである。

しかし最も決定的なこれらの慣習の持つ全祭祀的內容及びその象徵が猶太的及び前部アジア的表象に歸せられたものであると云ふ點である。從つて、ロッヂの會員達がこの前部アジア的禮拜をゲルマン的特徵を有する太陽崇拜であらうと主張したがるのは、妙な感じがするのである。

フリーメーソンリーの諸種の象徵は、上述の禮拜上の儀式と緊密に結び付いてゐる。禮拜上の儀式や儀禮がフリーメーソンリーの仕事の氣分を湧き立たせる下準備となり序曲となるものとすれば、その諸種の象徵はロッヂに於ける敎育事業の著しく重大な要素である。これらの象徵は痛切な具體的形

の諸種の象徴はロッヂに於ける教育事業の著しく重大な要素である。これらの象徴は痛切な具體的形式によつてフリーメーソンリーの根本原理を傳へてゐるのである。

フリーメーソンリーの段階的に進んで行く教育にとつて本質的な點は、諸種の表徴の意味を必要と位階とに應じて、變更したり深化したりすることが出來ると云ふことである。加之諸種の表徴の意味を必要と位階とに應じて變更したり深化したりすることが出來ると云ふことである。加之諸種の象徴は殿堂に神祕な色彩を齎らすのである。

諸種の表徴及び教義の殆ど大部分は、エホバ（ヤーヴェ）とそのソロモンの殿堂の象徴に關するものである。フリーメーソン結社員の用ひる慣習に含まれてゐる舊約聖書から來た寓話、ヘブライの言葉や慣習、カバラ祕教の數に關する神祕說や諸種の觀念等は數の上から言つても極めて大きいのである。

フリーメーソンリーに於て一役演じてゐる猶太の傳說や舊約聖書の種々な觀念や物語から若干の例を擧げるならば、バベルの塔の建設、ソロモンの殿堂建築、及びヒーラム傳說がある。フリーメーソンの用ひるヘブライの言葉及び題銘を擧げると、アドナイ、俗稱エホバのヤーヴェ（ヘブライの神名で四字から成つてゐる。）、トバルカイン（創造の主――地球の主）、シボレート（士師記十二・五及び六）、ヤーキ

ン（第一位階）、ボアス（第二位階）、マク・ベナク（第三位階）等がある。猶太的象徴の中で特別な役割を演じてゐるのは、ソロモンの殿堂の表徴としての仕事用の絨緞、殿堂の前庭を支へてゐる二つの圓柱であるヤーキンとボアス、ソロモンの金の王冠、七つの腕木のある燭臺、約櫃、モーゼ十誡の石板、神殿の供物机、香祭壇、アカシヤの枝、ヒーラムの棺、六芒星形（ダヴィットの冑――ダヴィドの星）などである。

これらの猶太の習俗やその象徴を現代の獨逸人達がそのロッヂ會員の教育に缺く可からざるものと見做してゐたのである。一九三一年にはなほ所謂「國民大ロッヂ」が、これらの問題を詳細に論じて、この習俗に聊かの變更をも加へてはいけない、との見解に到達したのである。かくて「國民大ロッヂ、三つの地球」の一九三一年十月の回章には、次の如く書かれてゐたのである。

『準備室に於て最早聖書のヨハネ傳四章が開かれるのを廢止しようとの希望が表明せられたのであつた。此の章の第二十二節には、

「汝等は何を拜するかを知らず、我等は何を拜するかを知る、そは救ひはユダヤ人より出づればなり」

とあるからである。

此の箇所は危險なるものと見做されてゐた。そして、得度を受ける「親方」階級の會員がそれに不快を感ずることがありはしないかと恐れられたのであつた。

此の箇所は危険なるものと見做されてゐた。そして、得度を受ける「親方」階級の會員がそれに不快を感ずることがありはしないかと恐れられたのであつた。儀禮委員會は詳細なる檢討の後に、ヨハネ傳第四章は確保せらるべきであるとの結論に達したが、古式スコツトランド儀禮管理局もまたこの見解に組してゐるのである。』

ところが此の同じ大ロツヂは一年後にはその內面的な不誠實さを暴露して、その殿堂に國旗をはためかせ、民族的及び國民的な祝祭場でもあるかの如くに一大繪入新聞に寫眞を掲げさせたのである。

本來の敎義表徵の中では所謂絨緞が第一位を占めてゐる。この絨緞はロツヂの中心をなすものであつて、その上にロツヂの諸裝飾物、道具、及び他の表徵物が置かれるのである。この絨緞はソロモンの殿堂の模造品と看做され、それを使用する位階に從つて異つたのが用ひられる。ヨハニス・ロツヂに於ける第一及び第二位階の結社員の爲の絨緞は、ヤーキンとボアスの二つの圓柱に支へられた、ソロモン殿堂の前庭であるといふことになつてゐる。傳說に依ると、ソロモンの殿堂建築に携はつてゐた徒弟や職人が賃銀支拂日にこの二本の柱の側に寄り集つて來て、其處で彼等が當然受取るべき賃銀を合言葉で呼ぶのと引換へに受取つたとのことである。

それ故にロツヂの殿堂では「徒弟」達が第一の監督者の指揮下にヤーキンの圓柱が描かれてある絨

緞の隅へ集るのである。ボアスの圓柱の附近には「職人」達が第二の監督者の指揮の下に集る。ヤーキンとボアスとは同時に「徒弟」級と「職人」級とを識別する語である。「徒弟」の圓柱の上方には自然の儘の石に加へられる仕事が、此の石にあてがはれてゐる鶴嘴に依つて表されてゐるが、一方では「職人」の圓柱の上方には既に加工された石の姿が見えてゐる。この絨毯の周圍及びその上で「徒弟」や「職人」や「親方」が入信と昇格とに際してはかの三つの象徴的な旅をするのである。

其の他重要なる象徴をあげれば、フリーメーソンリーの三つの大きな光明であるところの、聖書、曲尺、及びコンパスがある。フリーメーソンリーの基柱は叡智、强さ、及び美であり、又他の三つの小さい光明は太陽と月とロッヂ長とを意味してゐる。ロッヂを指導する時の道具はハンマーである。ロッヂ長は仕事の開始にも終結にもそのハンマーで三つ打つのである。

個々の象徴の意味に關しては、詳しく説明すれば幾卷にも亘る著作となると思はれるので、こゝには述べる事は出來ない。フリーメーソン結社員にとつては、一つ々々の象徴は一定の教養と廣汎なる哲學的説明に對する具體的な表徴である。「徒弟」の絨毯の象徴の意味のみに關しても、他の多數の著作と竝んで、グレーテなる名前のロッヂ會員の著にかゝる『徒弟の絨毯を中心として展開せしめたる教團學』といふ標題の二卷よりなる著作が存在する。フリーメーソン結社員たるグレーテも亦數に關する神祕説や數の象徴を有するカバラ祕教や、その中にある數占ひ (Gemaria) がフリーメーソン

る教團學』といふ標題の二卷よりなる著作が存在する。フリーメーソン結社員たるグレーテも亦數に關する神祕説や數の象徵を有するカバラ祕教や、その中にある數占ひ(Gemaria)がフリーメーソン結社の慣習に於て重要なる役割を演じてゐることを確認せねばならぬのである。

これらの象徵に關して、レーンホフ・ポスナーの「國際フリーメーソン辭典」は次の如く言つてゐる。

『象徵は結社內では、特に內部組織の手段としての働きをしてゐる。他の箇處では、この結社は決して單一的に指導されてゐる團體ではないことが指摘されてゐる。併しそれにも拘らず精神的な連繫は存在してゐるのである。その橋渡しがこの共通の建築象徵である。殿堂建築といふ觀念はすべてのフリーメーソン結社員に依つて同じ意味に理解されてゐるのであつて、個々の結社は集團の仕事の方法が如何に相違してゐても、この點は變りはないのである。

この象徵はその直觀性に依つてロッヂの精神的仕事を容易にし、餘り進展して居ない結社員達に對しても、かうして見せて貰はないならば、彼等には知られなかつたと思はれる世の扉をも開くことが出來るのである。この象徵は精神的發展の諸種の段階を一樣化し、フリーメーソンの極めて廣汎な基底の上に立つてゐる同盟に取つて不可缺な考へ方の一樣性といふ雰圍氣を創り出すのである。

此處に、フリーメーソンリーの象徵を手段として、全世界のロッヂ員達を精神的に一樣化しようと

する根本原理が明らかに認められるのである。「フリーメーソンリー百科辭典」の舊版によると『フリーメーソンはその諸形式の中に、世界の全ての民族が理解し得る一つの言語を所有してゐる。フローネ人（註、北米インディアンの一族）やアラウコス人（註、チリー國のインデアン族）、ヤクート人、マレー人、ベルベル人、カップエル人（南アフリカの黒人）を我々の一堂に會さしめるやうなことがあれば、彼等は我々の色々な象徴や慣習や設備の持つ嚴肅さ、尊嚴さ、潑剌さや、又精神的な美しさによつてすつかり心から魂を奪はれてしまふであらう。彼等は喜んで我々の連鎖に加入するであらう』

續いて本辭典は『國民大ロッヂ・三つのヨハニス階級』と標題のついてゐる一論文を引用して次の箇所を掲げてゐる。

『加入した許りのメーソン結社員は、象徴は殆どすべて二重の意味、即ち道德上の意味と神祕的な意味の二つをもつてゐることを忘れてはならぬ』。

道德的な意味内容は今は論じないでも差支へないであらう。それに反して興味深いのは、象徴の神祕的意味に關する説明である。といふのはこの神祕的意味の説明は、フリーメーソンの宣言に於て普通には到底見られない程明瞭に、この結社の教育方法を瞥見せしめるからである。更にいふ所によると、次の通りである。

『色々な象徴の神祕的な意味に

通には到底見られない程明瞭に、この結社の教育方法を瞥見せしめるからである。更にいふ所によると、次の通りである。

『色々な象徴の神祕的な意味に關しては事情が異つてゐる。この神祕的意味は一部は同盟の內部事情に關するものであり、一部は同盟の歷史に關係するものである。

これに關して「從弟」はほんの一寸した暗示を與へられるに過ぎず、完全な說明など受けてゐない。といふのは最小の事柄すらも、全てを理解した上でないと全く展開され、又理解され得るものでないからである。熱心にして忠實な且つ志操堅固な會員は、彼が前進するに從つてその棟梁から必要な知識を授けられるのである。斯樣にして機が熟すと、たゞ一度の開示によつて視點が開き與へられるやうになり、其處に立つて見る時には困難もなく又迷ひに陷る危險もなく、あらゆる象徵のかくれた意味やその神祕な連絡を一望の下に收めることが出來るのである。

徒弟は就中次の事を覺え込む必要がある。一、ロッヂで行はれても差支へのない總ての儀式は正確に規定されてあるのである。凡常の人間にとつては斯樣なことは單に一個の遊戲の樣にも見えるであらうし、又少くとも空虛な形式であるに過ぎないにも拘らず、それ自體大した意味もない諸儀式を規範に從はせながら、その形式にくつつけてゐるのだと見えるかも知れないのである。

二、神祕的象形文字や慣習のもつ意味は、單に一つに止まるものではない場合が多いのである。從

つてそれ故に一つの意味を學んだからとて、それから後はそれを輕視してもよいと考へてはならぬ。より高い位階へ行けば、恐らくは從來思ひもつかなかつた樣な別の意味を知らされることになるかも知れぬからである。斯うした遣り方は氣隨氣儘とか首尾一貫せぬとか言ふ譯のものではなく、事の性質と人間の感情とを充分に考慮した上の處置なのである。

三、注意深い觀察者の眼にはこれ等の象徴の多くが相互に矛盾してゐると見えるかも知れぬ。しかしこれも亦故意にさうなつてゐるのであつて、我々の同盟の數へ子を徐々に上せて行き、その觀察の精神を銳くし、またその撓まざる忍耐を訓練する爲の必然の結果なのである。』

象徴の目的に關する本質的な事柄は、これらの文章の中にすべて包含されてゐる。「徒弟」がロッヂの目標に對して徐々に近づけられて行く有樣が、手にとる樣に觀取される。特に啓發する處の多いのは諸種の象徴が故意に矛盾に滿ちた說明を與へられ、從つて入門者がその意味について熟考して見たいといふ氣持を起させられるやうにしてある、と書かれてある箇所である。それによつて二つの目標に到達されるのである。先づ第一には會員の間に選擇を行ふことが出來るのである。即ち公式の解釋に滿足の意を表すやうな會員が判明するが、この種の會員はロッヂのいふ意味に於ては、役に立たないのである。從つてこれらの會員達は何時までも下級の位階に止まつてゐる。しかし、ロッヂの文獻の助けを借りて自ら探究の歩を進めて、その疑惑を明らかにしようと努める會員は、この領域に於

ないのである。従つてこれらの會員達は何時までも下級の位階に止まつてゐる。しかし、ロッヂの文獻の助けを借りて自ら探究の步を進めて、その疑惑を明らかにしようと努める會員は、この領域に於ても亦メーソン的な自己教育の意味を理解してゐることを證明することになる。こゝまで來ると象徵の持つ本當の意味を知るやうになり、會員は全く一定の方向にのみ導かれて行くので、彼は橫道へ反れる樣なことは出來ぬのである。斯うした戰略を用ひてロッヂが獲得する第二の利益は、フリーメーソンが自ら與へたところの公的の說明や解釋のみを楯に取ることが出來るので、常に外部からの攻擊に對して安全であることでてる。かくてロッヂ會員の解釋は、常に個人の意見とが出來るのである。

フリーメーソンの教育に於て、祭祀上の諸種の儀禮や象徵の樣式と竝んで第三の補助手段として重大な役目を努めてゐるのは、講話卽ちロッヂの講演である。慣習、象徵、及びフリーメーソンリー的思想戰が、この講演によつて解說され註釋されるのである。表現に愼重を期すること、及び夫々の場合の聽講者の位階に合せて材料を選擇することに、最も重大な價値が置かれてゐる。「百科辭典」の記す所によると

『ロッヂの會合は、結社の參加員に對して結社の最高の目的を熟知せしめんが爲に開催されるものである。本結社の最高目的は「高貴なる人道主義」であつて換言すれば、人間の完成と友愛と、世

界市民主義（コスモポリタニズム）とである。フリーメーソンリーのかゝる精神的内容は先づ諸種の象徴及び象徴的慣習によつて具體的に示されてゐるが、次には明瞭なる言葉によつても説明されるのである。

從つてフリーメーソン的な辯舌は、思索的な悟性に對して、フリーメーソンリーの根本見解と根本思想とを説明し又基礎附けて示す任務を負つてゐる。高くし又結合することが建築一般の主要な特質であるが、フリーメーソンリーの建設的であり、また教化を目標とする講演の特質と云ふのも亦同様でなくてはならぬ。斯様に具象的表現をとつてゐる處からして、フリーメーソンリーの講話や講演は『設計圖』とも『建築用の石材』とも呼ばれてゐる。

これらは、結社そのものの殿堂の建築のみならず一人々々の生活の殿堂の建築がそれに從つて企畫され又完成されなくてはならぬ設計圖を含んでゐるのである。從つてこれ等の講演の一つ々々は、總體の或は個々の建築の中へ組合はされることによつて成る建築用の石材なのである。』

講演の選擇は講演掛たる會員に委せられてゐる。この會員は彼自身で講演を行はない場合には、講演者を決定するのである。彼はロッヂの教導役とも呼ばれることが出來るであらう。

これ等の講演は、時間的に見ると、殿堂作業の主要部分をなしてをり、ロッヂの個々の會員に感銘を與へ、ロッヂの欲する方向に彼を向けて行くのである。

これ等の講演は、時間的に見ると、殿堂作業の主要部分をなしてをり、ロッヂの個々の會員に感銘を與へ、ロッヂの欲する方向に彼を向けて行くのである。

フリーメーソンリーの教育の第四の補助手段は、個々のロッヂ文庫に蒐集されてゐる廣汎なフリーメーソンリー文献である。そこでロッヂ會員たる司書官は、研究欲の激しい會員の位階にふさはしいやうな文献だけを讀むやうにと配慮してある。

フリーメーソンリーの教育作業の主なる諸特徴は以上の如きものである。而してこの教育作業は個々の結社員が成育するに連れて次の如き纒りのある一群の人々の中へと入つて行く事實によつて支へられるのである。而してかの一群の人々とは總て同一なる理念の世界に生き、多年の社交的及び家族的交際に依つて相互に結びついて、一つの確つかりとした朋黨を形成してゐるのである。

六　フリーメーソンリーと其の他の超國家的諸權力との對決

〔1〕フリーメーソンリーと教會

主として十八世紀に於てカトリツク教は、フリーメーソンを内部より解體させることによつて無力化せしめようと企圖したのであるが、このことは既に述べた。しかし教會の權威ある方面では、フリーメーソンリーが彼等の强敵となつて來て、一種の反教會とも呼ばるべきであることに、間もなく氣

がついた。そこで早くからローマ法王及びジエスイット僧侶のロッヂ組織に對する鬪爭が開始された最初の行動は一七三七年に宗教裁判を以て始まり、一七三八年四月二十八日に法王クレメンス十二世の名に於て發布せられた反フリーメーソンリー教書に依つて合法化された。該教書はフリーメーソン結社及びその內密の會合とを禁ずるに即刻の追放なる刑罰を以てした。本教書に述べられた處によると、フリーメーソンリーの會合に於ては、

『あらゆる宗派と宗派との人間が、或種の自然的正義を附與されてゐるといふ外見上の自惚に滿足して確立された諸法則や儀禮に從つて、緊密なる祕密の同盟によつて相結び、同時に聖書にかけてなされた誓約に基き、又重い刑罰の脅威に依つて破り難い沈默の義務を負はされて、彼は祕密の活動をしてゐるのである。

この時以來鬪爭は、すべての部面に於て、減退することのない激烈さで續けられて行つた。』

フリーメーソン反對の第二の教書は、一七五一年にベネディクト十四世に依つて發布された。

これに對して結社員レンホフ・ボスナーは次の如く述べてゐる。

『この教書の影響は幾多の國に於ては第一の教書よりも重大であつた。スペインに於いては、フリーメーソン會員達は宗教裁判所に依つて投獄された。フェルヂナンド六世は、或る訓令に於て、フ

ーメーソン會員達は宗教裁判所に依つて投獄された。フェルヂナンド六世は、或る訓令に於て、フリーメーソン同盟の會員をすべて國家の叛逆者と見做す、といふ宣言を發した。マドリッドの宗教裁判所の檢閲官であり、會計檢査官であるフランチスカン派のヨゼフ・トルビアは、法王の教誨師によつて、守るべき沈默の誓約を前もつて免除されてから、一ロッヂに自ら加入して、後に一つの非難文書に於て、フリーメーソンリーを亂倫者、魔術師、邪教信者、無神論者及び煽動者と呼び、彼等は、信仰を一層立派なものとし、信者の心を强化の爲には、教化を旨とする宗教裁判に依つて、火刑に處せらるべし、と書いてゐる。

ナポリ、ポルトガル、ダンチヒ、アーヘン、アヴィニョン、ザヴオアイエン等に於て、一七八四年からはバイエルンに於ても亦、フリーメーソンリーは色々な迫害に曝されてゐた。』

時の經過と共に、この二つの教書に續いて別な教書や、教會側のフリーメーソンリー反對の宣言や論文が發せられた。

斯様な原理的な對立にも拘らず、この二　既に協力の萠を示すこともないではなかつたが、特に兩者に共通の危險な敵を除かうといふ場合には然りであつた。かくて、一九二八年には所謂アーヘン會議に於て、カトリック方面のフリーメーソン研究家たるジエスイット教徒ヘルマン・グルーベルとフリーメーソン會員たるオーシヤン・ラング、オイゲン・レンホフ、ライヒルと

の間に會議が行はれたが、それは抗爭の中止を題目としたものであつた。そして、數十年以來多くの方面から政治上の嘘言及び中傷を用ひてなされて來た鬪爭を、かかる領域から引き上げて、批判的科學的な精神的鬪爭といふ一層高い段階に高めようと決議がなされたのである。

この時以來グルーペルや個々のフリーメーソン系の研究家は彼等の文書を交換し、友交的な科學的論爭及び圖書批判をなした書翰の往復をしたのである。ファッシズムに對する鬪爭によつても亦、この二つの超國家的組織は相互に接近したのである。

〔2〕　フリーメーソンリーと猶太人

既に叙述せる所でも分る通りに、フリーメーソンリーと猶太人の連繫は斷ち難い緊密にして複雑なものである。總括的に言へば、

イ、精神的、象徴的、及び慣習上の基礎は東洋的にして猶太的なものである。これらは、ヤーヴエを讃美し、ソロモンの殿堂の建築といふ象徴を用ひる點では、猶太人の權力意志の集中せるものに他ならない。そのあらゆる寓話、傳說、物語、それから數及び名稱に關する魔術は、舊約聖書やカバラ祕教より取られてゐる。而してこの際これらの構成要素がフリーメーソンリーの中へ何時入つて來たかといふことは大した問題ではない。

ロ、人道主義的であつて基督教的

來たかといふことは大した問題ではない。

ロ、人道主義的であつて基督教的傾向を有する個々のロッヂに於ける猶太問題の討議に當つては、猶太問題に單に信仰の問題とされて、決くて種族の問題として取扱はれた事はなかつた。キリスト教の教養に基づいて猶太人を會員としてゞはなく、單なる來訪者としてのみ出入を許可した獨逸の二つの大ロッヂも亦、猶太問題は種族問題に非ずと繰返し言明したのである。かくて「國民大ロッヂ、三つの地球」は一八八一年に「オランダ大東社」に宛てゝ次の如く書いてゐる。

『我々は諸氏と共に原則として、猶太が我々のロッヂへ入會することを拒否するのはフリーメーソンリーの本質と一致するものではないと云ふことを認め、かゝる制限は餘り遠からざる將來に於て我々の結社に於ては徹廢されるであらうといふ確實な希望を抱いてゐるものである。』

ハ、基督教の洗禮を受けた猶太人は直ちに同資格の會員として、キリスト教ロッヂへの入會を許された。

ヘ、個人に付いて見ても、フリーメーソンリーは完全に猶太化してゐる。この傾向が特に猶太的な高級位階組織結社及び最高評議會に現はれてゐることは、既述の通りである。これらの高級位階猶太人の政策に統一があるといふことは、これらの猶太人が同時に純猶太フリーメーソン結社であるブナイ・ブリス及び世界猶太人同盟の會員となつてゐるといふ事實に依つて證明される。かくて英國のフリーメーソンリーの大棟梁は、猶太とフリーメーソンリーとの利益が危殆に瀕する場合には、

アメリカの猶太結社とも連絡するし、國際聯盟諸組織に於ける猶太の黒幕や猶太結社員と祕密な連絡を保つのである。

〔3〕フリーメーソンリーとマルクス主義

フリーメーソンリーの會員は主として、自由主義的デモクラシー的傾向のブルヂョア層の出である。「古式のプロイセン大ロッヂ」に於て、會員の一部の者が愛國主義又は皇帝への忠誠を示したとしても、上述の事實に聊かの變更を加へるものではない。

併し、フリーメーソンリーの政治的に最も積極的な組織である高級位階組織及び最高評議會に於ては、ユダヤ人が極めて多種多樣な極左的諸聯盟にも加入して二重の會員となつてゐる爲に、彼等に依つてマルクス主義的革命主義的な色彩をフリーメーソンリー内部に持ち込んでゐることが判明してゐるが、しかしこの色彩は、フリーメーソンリーや其の自由主義的デモクラシー的信奉者の本來の言說とは最早一致しいなものである。

フリーメーソン結社は先づ初めは思想的・歷史を播いて見ても、其の度每に判然することであるが、其の代りにデモクラシー的自由主義的テーゼを打ち立てゝ之れを宣傳するのである。フリーメーソン會員の大部分は、彼等が過激主義への豫

備工作をやつてゐるのだと云ふことを意識して居らぬとしても、これは實際上大した意味のあることではない。左様な發展を意圖したものではなかつたと彼等は斷言するのであるが、これは從來單に事の眞相を明らかにするのを妨げる位が落であつた。過激主義者達が自ら進んでこの結社を彈壓しつつあると云ふこともフリーメーソンリーに取つて大して好都合なことはないのである。かゝる彈壓は、過激主義者が權力をその掌中に把握する場合に初めて起ることとなのである。

ボルシエヴイズムの發展こそ、これに對する最適の實例である。フランスの共産黨員の多數がフリーメーソン・ロッヂに所屬して居ることが確認された時に、一九二三年の第三インターナショナルの第四回會議は、次の如き決議を發した。

『黨の指導機關は、ブルヂョア階級に通じてゐるすべての橋梁を切斷し、フリーメーソンリーとの斷絶を根本的に遂行する必要がある。共産黨は、プロレタリアとブルジョアとを分離してゐる深淵を完全に意識せねばならぬ。併し、黨の一部の指導的人物は、フリーメーソンを利用することに依つて、この深淵の上に擬裝した橋梁を築いてゐた。フリーメーソンリーは急進的傾向を有するブルヂョアに依つてプロレタリアに對してなされた最も不正且つ最も破廉恥なる抑壓である。我等は徹底的にフリーメーソンリーと鬪はねばならぬ。

これに先立つて既にトロツキーがこの問題に對して立場を明らかにしてゐた。一九二三年二月ヴイーン・フリーメーソン新聞は次の如く書いてゐる。

『モスコー發。タイムス紙に依ると、トロツキーは、イズヴエスチヤ紙の紙面を借りて、フランスのフリーメーソンリーに對して致命的な、しかし正しい報道に基いて居ない故に不當なる判斷を向けて居り、フランスのフリーメーソンリーはその反動的な勢力の故に共産主義にとつてはペストの腫物の如きものであつて、共産主義を根本的に毒さうとしてゐると言つてゐるさうである。』

『フランスのフリーメーソンは、教會やカトリック教と同樣に退步的であるが故に、共產主義の資本主義的な敵である。それは、神祕主義、感傷主義、及び道德的虛禮を用ひて、鋭い階級鬪爭を鈍化し、銀行家、議會主義の黑幕連、及び買收し易い新聞記者等によつて支持されてゐるにすぎない。』

これがトロツキーの實態である。

ヴイーン・フリーメーソン新聞は、この言葉に對して（一九二三年三、四月號）次の如き註釋を加へてゐる。

『併し、かのモスコーの決議は、フリーメーソンリーに所屬してゐるフランスの共產主義者に對して、大した感銘も與へなかつた。近頃彼等は、集つてモスコーの決議に依つて陷し入れられた奇妙

て、大した感銘も與へなかつた。近頃彼等は、集つてモスコーの決議に依つて陷し入れられた奇妙なる狀態を討議した。

共產黨政治局が禁止したにも拘らず、多數の代表者達が出席したのである。永い檢討の後に、依然としてフリーメーソン會員たる身分を保持すべしとの決議がなされた。モスコーの執行局に決議の撤回を要求してゐる一つの覺書が、最高評議會に對して送られた。併し知られてゐる通りに、モスコーは本問題に關して讓步することはないであらうから、フリーメーソン結社員たる共產主義者達は近日中に黨から除外されるものと思はれる。』更にこれと關係して次の如く續けてゐる。

『モスコーの破門に關して――明らかに共產黨側の――興味深い一文が『象徵主義』紙上に見出される。我々はその論文の中から次の文章を引用して置く。勿論我々はその論文の主旨に全く贊成であるといふのではないが。

「モスコーは共產主義者たると同時にフリーメーソン結社員たることを認めることを欲しない。何となれば、共產主義には獨自の正統的信條、獨自の絕體主義及び特に獨自の軍紀を持つてゐるが故である。軍隊の威力でもあるこの軍紀は、世界征服を目指して、軍隊的に敎育されてゐる黨の軍紀でもあるのである。」

強い確信の一切を尊重するフリーメーソンリーは、その信奉者の中に共産主義者が存在してもよいことを認めてゐる。フリーメーソンリーは、純粋形態に於ける共産主義をもつて追求する價値のある一個の理想なりと見做してゐるのであつて、その理由は、我々が惱みつゝある極端な個人主義を弱體化せしめる如き手段を求めて止まぬからである。人間は人類の連帶及び生活闘争の緩和を夢みてゐる。フリーメーソン會員達は、この點に於ても最も美しい夢に耽つてゐるものであつて、それは彼等が人類を同胞愛をもつて一個の無限の家族的團結に統一することを考へてゐるからである。而してフリーメーソン結社員がその理想の概念に對して如何なる限界をも知らぬとしても、而も彼は進歩のための勞働者として、唯勞働によつてのみ人は何ものかに到達し得るであらうことを知つてゐる。而して何ものかを達成せんとする勞働は、人間そのものから始めねばならぬ。我々は夢を實現せんとする場合には、その夢を日常生活に於て一時も忘れてはならない。換言すれば、我々各人が我々を鼓舞してゐる理想を出來得る限り實行に移さなくてはならないのである。

共産主義が我々の心を惹き付けるならば、我々はそれを我々自身のさゝやかなる生活の立場に於て實踐しなくてはならぬ。我々はかゝる例に付ては穏かに語るに止め、共産主義なるものは、初期のキリスト教徒がこれを試みて成果をあげ得なかつたにも拘らず可能なものである、と云ふことを實

キリスト教徒がこれを試みて成果をあげ得なかつたにも拘らず可能なものである、と云ふことを實際に示さなくてはならぬ。先づ經驗に成功するならば、世のセンセーションを卷き起すであらう。その曉に世界は徐々にこれへと改宗して行くことであらう。

フリーメーソンリーのやり方と云ふのは斯うしたものなのである。即ち人間と云ふ石を建築に役立つものに切り整へて行くのが、フリーメーソンの基礎的事情なのである。徐々にではあるが確實に斯うしたやり方が進んでゐるのであるから、この建築はそれに必要な材料の有用性に左右されてゐるのである。この夢は、生活の試練を受けねばならぬこの夢はその結果の成否によつてのみ評價されるのである。共産黨は忍耐が足りない。共産黨は宣言の效果を信じ、就中道德的秩序なるものは赤軍の權力によつて左右されうるものであると考へてゐる。從つてフリーメーソンリーを共産黨が破門するのは全く當然である。何となれば、我々は共産主義の夢を尊重してゐる、併しそれかと云つて少しも嚴密に檢討されたこともないやうな方法を稱讚してゐる組織などに入つて行くことは出來ぬからである。』

『共産主義の純粹形態』に對するかゝる說明と竝んで、此處に特に我々の關心をそゝるものは、急進的なフリーメーソン結社員が斯の『理想』に人類を引き込むために用ひるその方法である。人間といふ石を切り整へるといふことを政治的意味に於ても解稱されることを望むやうな此の告白

は、極めて稀である。此の象徴主義紙はフランスの「勞働と忠誠なる眞の友社ロッヂ」及びフランス最高評議會の會員たるオスヴアルト・ウイルトによつてパリに創立され、そこで發行されてゐたものである。

こゝに引用した箇所から更に明かなことは、この政治的活動を行つてゐる高級位階の代表者達が反感を覺えたのは彼等の考から見て餘りに表面的にして輕卒な共産主義の諸手段に對してゞあるといふことである。フリーメーソンリーが未だフアシズムやナチズムを共産主義及び世界フリーメーソンリーの不倶戴天と認めて居なかつた間は、フリーメーソンリーは往々共産主義と自己とは異なれるものであるとの見解を取つてゐた。併し世界が二つの陣營に分裂したその瞬間に於て、元々深くは根ざしてゐなかつた兩者の差異は忘れられてしまつた。

かくてフリーメーソンリー的『人民戰線政策』と云ふ妥協が現はれたのであるが、この政策はフランス大東社の調停策謀の結果であり、またかゝる合言葉の下に、フランス及びフランスに依つて煽動されたデモクラシー國家や國際聯盟關係方面とソ聯との同盟が成立したのである。かくしてその樞要なる地位を猶太人によつて占領されてゐる二つの國體たる共産主義と世界フリーメーソンリーとの、あらゆる形態の反フアシズム又は反ゲルマン主義に對する共同防衛線が結成されるのである。

あらゆる形態の反ファシズム又は反ゲルマン主義に對する共同防衛線が結成されるのである。

一　ナチズムの對立形態としてのフリーメーソン結社

〔1〕フリーメーソンリーとファシズム

嚴格に反デモクラシー的體制をとつてゐる總ての國家と同樣に、ファシスト伊太利も亦間もなくフリーメーソンとの對決に入らざるを得なかつた。綠の蛇（伊太利ではフリーメーソンリーは斯く呼ばれてゐる）との鬪爭はひどく激烈な形態をとつた。ロッヂの會館が襲擊され、ロッヂ會員の身に暴力が加へられたこともしばしばであつた。

一九二三年二月十三日にファシスト大評議會はロッヂに所屬せる全部のファシストはフリーメーソンリーの連繫を卽坐に解くべしといふ最初の反フリーメーソンリー決議を發布した。この決定に引き續いて、更に多數の決議や法律が發せられたのであるが、遂に一九二五年の反フリーメーソンリー法律によつて、伊太利フリーメーソンリーの組織は完全に粉碎され、伊太利フリーメーソンリーの大部分は國外移住の止むなきに至つた。

斯樣なファシスト政府のとつた諸種の手段に對して大棟梁トリヂアニの態度は、極めて不遜なるも

のであつた。加ふるにトリチアニは、フリーメーソンリーの戰術通りに、國際的ロソチ界を使嗾して、反ファショ伊太利の態度を取らしめようとした。一九二二年十月の彼の聲明文の一つは、次の如き言葉を以て結ばれてゐる。

『人道主義の思想、即ち諸國民の友愛を廣く鼓吹せんとするのが吾人の意圖であつた。これは今日に於ても尙吾人の仕事の根本方針である。それ故に吾人は、ファッシズムの理論が、デモクラシー及び自由のすべての概念と眞正面に衝突し、獨裁や寡頭政治に走る如き形態をとらざるやう希望するものである。』

一九二四年彼はムツソリーニ宛に一通の書簡を送つたが、この結尾は次の如きものである。

『吾人は伊太利を偉大ならしめた諸々の理念、即ち自由及び民族の主權、僧侶政治に對する國家の自治、萬人の平等なる權利等の理念の忠實なる守護者たるの「責」を喜んで負ふ者である。併しかゝる見解は、法律が我々の保護に對してもまた適用されるやうに閣下が監視されることを妨げるものではないのである。』

デモクラシー的根本態度及び國際的連帶の促進を帶に繰り返し强調するかゝる意見こそ、ファシズムの見解とフリーメーソンリーの見解との間には、妥協が到底不可能であることをファッシズムに

デモクラシー的根本態度及び國際的連帶の促進を帶に繰り返し強調するかゝる意見こそ、ファシズムの見解とフリーメーソンリーの見解との間には、妥協が到底不可能であることをファッシズムに

示したのである。一九二五年にムツソリーニは『ポポロ・デイタリヤ』紙上で次の如く宣言した。

『フリーメーソンリーは海外より與へられる命令に基いてその活動を伊太利に於て展開する一個の國際的組織である故に、ファシスト黨はこれを彈壓するカデ街（フランス大東社の所在地である）のフリーメーソンリーは、特に地中海諸國、ダニューブ諸國、及びバルカンに於けるフランスのための優れたる宣傳者たるが故に、よきフランス人たるものは同時にフリーメーソン結社員であることが出來るわけである。又イギリス竝びにアメリカのフリーメーソンリーは、敬虔主義的人道主義的意味に於て、また商業的分野に於て、アングロサクソンのための世界宣傳に從事して居るが故に、よき英國人たるものは同時に活動的なるフリーメーソン結社員たり得るものである。しかし、ジュスティニアニ邸（フリーメーソンリー本部）は海外の指令に從つてゐるが故に、よき伊太利人にして同時にフリーメーソン結社員たり得ることはあり得ぬのである。ジュスティニアニのフリーメーソンリーは、アビシニヤ、リビヤ、更に又ドデカネス、ダルマニヤ、アルバニヤに於ける伊太利の行動に對し絶えず反對したのである。彼等は、國際的規準に忠實ならんとして、世界大戰に對する我々の参加を支持したのであるが、その勝利を價値無きものとしたのである。彼らは戰爭を欲したが、而も軍事的勝利の合法的にして神聖なる結實の獲得を妨げたのである。』

（レンホフ著フリーメーソンリー、三五〇——五一頁）

興味深いことは、伊太利のフリーメーソンリーがその過去に關して、獨逸のロッヂ會員達と同樣な論據を持出して、伊太利の統一はフリーメーソンリーの工作によるものであつたと主張してゐることである。これに反して、特別專門委員會の作成した覺書の示す所に依ると、十九世紀の伊太利國民主義大運動——リゾルギメント——にはフリーメーソンリーは聊かも協力しなかつたことが分る。フリーメーソン結社員たるカペロ將軍が徵役三十年の有罪宣告を受け、又トリヂアニがカリパール島に流刑になると共に、此の發展も終焉を告げた。カツペロ將軍の告訴の理由は、ツアニボニのムツソリーニ暗殺計畫を支持したと云ふのであつた。

國外移住生活をしてゐる伊太利のフリーメーソンリー結社員達は、フランス大ロッヂの庇護の下に『伊太利』及び『新伊太利』と云ふ二つのロッヂを設立した。加之、一九二九年に物故せる伊太利最高評議會の總司令たるロッヂ會員フエラリの發起に基いて、一九三〇年にはロンドンに『最高評議會』が設立されたのである。

二　フリーメーソンとナチズム

二　フリーメーソンとナチズム

〔1〕　ナチス指導者達のフリーメーソンリーに對する見解

當初からナチス運動はその指導者に依つてフリーメーソンリーに對して對立的態度を確立し、斯かる對立の懸隔はフリーメーソンリーのすべての方向及び集團に對して橋渡しの出來ぬ程大きいものであることを明らかにしたのである。『我が鬪爭』の中に於て總統自身フリーメーソンリー問題に關して次の如く意見を表明してゐる。

『猶太人は自己の政治的立場を强化する爲に、種族的及び國家的制限を一歩一歩縮小しようと努めてゐる。猶太人はこの目的を達せんが爲に彼特有の粘り强さを以つて、宗教的寛容の爲めに鬪ひ、完全に自己の掌中に陷つたフリーメーソンリーを利用して、自己の目的の擁護と貫徹の爲の此の上もない道具としてゐるのである。政府の連中や政治的及び經濟的市民階級の上層者達は、メーソンリーの引く糸によつて猶太人の罠にひつかゝるが、而も彼等は普通にはそれに氣付いてさへもゐないのである。』

アルフレッド・ローゼンベルグは多くの著書や論文に於て根本的な論述を行つた。（例へば、「フリーメーソンリーの罪惡、一九二二年出版、」「神的な建築者と國際聯盟に於けるフリーメーソンリー結社員」、一九二七年一月『ヴェルト・カンプ』掲載「獨逸フリーメーソン結社員の自己暴露」、

・一九二八年一月の『ヴェルト・カムプ』掲載「フリーメーソンリーの世界政策の批判的研究」一九二九年出版）。

倘政治的に重大なのは、フリーメーソンリーはナチス獨逸内には存在の餘地はない、と云ふヘルマン・ゲーリングの言明であつて、これは一九三三年にプロシヤの總理たるゲーリングが、第三國家内に自己の地位を確保せんとする古式プロイセン・ロッヂ團の運動に對してなされたものであつた。黨の最高判士たるブーフも、ロッヂ會員達のかゝる企圖に關して、同樣に明白に言明した。その他ナチス指導者達の多數の著術や演說の中には、ロッヂ組織に對する完全なる否認が述べられてゐるのが見られる。

〔２〕　國家及び黨のフリーメーソンリー關係の法令と獨逸におけるフリーメーソン結社の種々相

黨の公式の根本的立場は、如何なるフリーメーソン・ロッヂにも所屬して居らぬといふ誓約の保證を新しい黨員から要求してゐるナチス黨への入黨許可宣言の中に現はれてゐる。その他黨最高裁判所や獨逸勞働戰線の多數の訓令や告示の中に、又獨逸陸軍省の命令や規定の中及びプロイセンの內務大臣の一九三六年九月の訓令に於て、黨員、國防軍所屬員、及び官吏の所屬に關する問題が明確に規定されてゐるのである。

獨逸のフリーメーソンリーは二大集團に分れてゐた。

イ、統合して大ロッヂとなつてゐた公正にして完全なるフリーメーソン・ロッヂ。

ロ、孤立ロッヂ及びフリーメーソン結社類似の諸組織。

これらの組織は黨最高裁判所の告示に於て、次の如く特徴つけられた。

フリーメーソン・ロッヂとは象徴的な形式を用ひて緊密に結合せる共同體を形成し、超民族的精神運動卽ち人道主義思想を信奉し、種族、民族、宗教、社會的及び政治的見解の差を抹殺して、普遍的人類同盟を將來せんとしてゐる男子達の公正且つ安全と認められてゐる同盟である。

孤立ロッヂ（不正規ロッヂ）とは、その設立より見て『公正』なると共にその設備より見て『完全』なる正規の大ロッヂの設立文書を所有して居らぬ如きものである。

フリーメーソンリー類似の組織とは、人道主義理想の要求に於てフリーメーソン・ロッヂと合致してゐるところのすべての同盟を指すものである。

そんな譯で、第一の分類に屬するものは、公正且つ完全なるフリーメーソン・ロッヂであつて、これ等は統合して次の如き大ロッヂの形とつてゐたのである。

イ、古式プロイセン大ロッヂ

（イ）ベルリンに在る獨逸フリーメーソンリー

國民大ロッヂ（擬裝名獨逸キリスト教團）この中には、二九五人の會員を有する最高教團僧會が一つ、僧會が一九、地方ロッヂが四、アンドレス・ロッヂが五四、ヨハニス・ロッヂが一八〇、聖アンドレアス委員會が二、及びフリーメーソンリー的組合六十二が包括されてゐた。この大ロッヂは一九三三年には總計二萬三百人の會員を數へてゐた。

この大ロッヂでは、アンドレス・ロッヂに於て第四、第五の位階が扱はれ、教團僧會では第六乃至第九位階が扱はれ、第十位階は、教團僧會の內部では名譽ある段階と認められてゐるのである。

（ロ）次はベルリンに在る國民大ロッヂ三つの地球であつて、擬裝のために國民的キリスト教的フリードリヒ大王教團とも稱した。本教團の下に服屬して活動してゐたのは二萬一千の會員で、內部東方社二十、スコットランド・ロッヂが九四、及びヨハニス・ロッヂが一八三あつた。スコットランドロッヂには第四位階以上の會員が集められ、內部東方社には第五乃至七位階の所有者が集められてゐた。

（ハ）プロイセン大ロッヂ友愛社これは一九三三年には獨逸キリスト教團友愛社と改稱しようとしたものである。これに最內部東方社が一つ、內部東方社が二十三、ヨハニスロッヂが百〇八、及びフ

リーメーソンリー的組合が一八あつた。これに所屬してゐた會員は約九百四十八人であつた。內部東方支部社所屬會員の資格は第四位階に該當し、內部東方社所屬會員の資格は第五位階に該當してゐた。次には六つの人道主義的大ロッヂの集團があり、例外なく三つのヨハニス位階に分れて活動してゐた。

ロ、人道主義的大ロッヂ

(イ) ドレスデンにある『ザクセン』大ロッヂこれは一九三三年に獨逸大寺院キリスト教團と擬裝したが、四七のロッヂと三八の小集會所を有し、會員は六千十七人であつた。

(ロ) ハムブルグにあるハムブルグ大ロッヂは會員數五千で、所屬ロッヂ五十四、この中十四のロッヂは海外に在り、小集會所八。

(ハ) バイロイトに在る『太陽』大ロッヂ會員三千三百三十五名、ロッヂ數は四十一、小集會所は二十ある。

(ニ) フランクフルト・アム・マインに在る折衷フリーメーソン同盟大ロッヂ。子ロッヂ二五及び小集會所二、會員數二千五百七十四名を包括してゐた。

(ホ) 獨逸友愛大ロッヂ。ナチスの政權獲得後獨逸大寺院キリスト教團と合同したものである。ロ

ツヂ一〇、小集會所五、約千八百〇名の會員を數へてゐた。

（ヘ）ダルムシユタツトのフリーメーソン親睦大ロツヂ、ロツヂ一〇、小集會所四、會員數八百。

古式公認スコツトランド儀禮の三三位階制の獨逸に於ける代表は、『獨逸象徵主義大ロツヂ』『獨逸最高評議會』であつた。前者は第一乃至第三位階に屬する八百名の會員を有する二八のヨハニス・ロツヂの主導團體であつた。

『獨逸最高評議會』には、十六の高級位階ロツヂが隷屬してをり、會員は總計約二百七十名で、第四位階の完全ロツヂが五。

第一八位階の僧會が七。

第三〇位階の高等法院が三。

第三三位階の職場が一。

この高位階制度の職員團體たる最高評議會には、正會員十二名及び海外名譽會員十二名が所屬してゐた。缺けてゐる中間の諸位階は、獨逸では儀禮上は行はれなかつた。

獨逸に於て孤立ロツヂとして認められてゐたものは、次の諸團體である。

（1）旭日フリーメーソン同盟。長い間にニユールンベルグに本部を有し、ロツヂ五〇、會員千二

獨逸に於て孤立ロッヂとして認められてゐたものは、次の諸團體である

（1）旭日フリーメーソン同盟。長い間にニユールンベルグに本部を有し、ロッヂ五〇、會員千二百五十名を數へてゐた。この組織は、公然と國際主義的、平和主義的、及びマルクス主義的態度を標榜してゐた。一九三〇年に『獨逸象徵主義大ロッヂ』及び『獨逸最高評議會』の創立にあたつて、この結社は新しい高級位階組織の中核團體としてその多數の最も急進的なる會員を送つた。

（2）ドルイーデン教團（ドルイーデンは古代ケルトの僧侶）これは獨逸國粹友愛團と改稱せんとした結社であつて、そのゲルマン的擬裝にも拘らず、フリーメーソンリーの一變種であつて、ゲルマン的風習形態のもとにフリーメーソンリー的思想財を傳播し、小市民階級の解體にとつて時に危險なるものであつた。

この教團はドルイーデンの森と稱せられる二百六十四のロッヂを所有し、會員は約一萬二千名で、三つの下級位階卽ちオヴアーテン位階（オヴアートとは古代ローマの小凱旋式の意）、バルデン位階（バルデンとは古代ケルトの彈唱詩人の意）、ドルイーデン位階、並びに一つの高級位階『最高級僧會』に分れて活動してゐたのである。

（3）オッド・フエロー教團大ロッヂたるアメリカのオッド・フエロー獨立教團の特許にもとづいて、一八七〇年に獨逸に設立せられたこの教團の大ロッヂは約二百六十のロッヂと一萬名の會員とを包括してゐた。

本敎團は、四つの下級位階及び三つの高級位階に於て活動してゐた。オッド・フェロー敎團とドルイーデン敎團とは、正規のフリーメーソンリーと本質を同じくしてゐる點と、その歸依者達が如何なる社會の人々であるかとの點から見て、よく「下層社會のフリーメーソンリー」と呼ばれてゐた。

「シュラフフイア結社」も亦こゝに擧げられねばならぬ。本團體は一八五九年にプラーグに創立されたもので、一定の儀式の遵奉のもとに一定の形式に從つてユーモア及び藝術を奬勵することをその目的とし、且又友愛を以て、その根本原理としてゐる。更にシュララフイア團は同胞愛及び人類の和合と云ふ根本原理を遵奉し、人類共同體を分離せしめる如きもの、例へば種族の差別の如きを拒否する。本團は大部分猶太人及びフリーメーソン會員を以て滿たされてゐる世界同盟を形成し、フリーメーソンリーの中に現はれてゐる儀式の諸形式を採用し、三つの位階に分れて活動してゐたのである。政權がナチスに移つた後は、獨逸に存在してゐたシュララフイア團は、公式にプラーグとの連絡を斷ち切つた。

茲では黨最高裁判所のいふ意味に於て、フリーメーソン・ロッヂ及びフリーメーソンリー類似の聯盟と見做されてゐる諸組織のみをあげた。この他なほ文化的、科學的、及び平和主義的運動といふ假面のもとにフリーメーソンリー的な仕事を行つてゐる組織が多數に存在してゐたのであり、他の諸國

點と見做されてゐる諸組織のみをあげた。その他たは文化的、科學的、及び平和主義的運動といふ假
面のもとにフリーメーソンリー的な仕事を行つてゐる組織が多數に存在してゐたのであり、他の諸國

に於ては今日尚存在してゐるといふことについても既に述べておいた通りである。

〔3〕ナチズムのフリーメーソンリーに對する鬪爭

國民社會主義は、フリーメーソンを敵とする他の運動や次の如き國家とは反對に、動亂やフリーメーソンリーの建物に對し蜂起せる人民の攻撃に際して貴重な材料が破壊され、それに依つて反ロッヂ鬪爭が部分的には不可能にされたやうな國家とは反對に、フリーメーソンリー問題の處理にあたつては明白な目的を立てゝ進んだのであつた。

フリーメーソンの存續は、國民社會主義獨逸の世界觀の根據からも、國家の安寧といふ根據からも不可能となつたことが判明したし、殊に大部分の國民がロッヂに對する嫌惡を表明したので、一層然りであつた。かくてロッヂは次から次へとこの門を閉して行つた。

人道主義的大ロッヂは、餘りにも公然とフリーメーソン的、イデオロギーを信奉してゐたのと、その構成員が餘りに多くの猶太人であつた爲に、引續き活動することを期し得なかつたのであるが、これとは反對に、古式プロイセン大ロッヂは、國民社會主義獨逸に於て尚その生存權を主張し得るとの希望を放棄しなかつたのである。しかし、古式プロイセン・ロッヂ所屬の子ロッヂの一つ一つに對する手入れの結果は、所謂國民主義を標榜してゐたフリーメーソンリーも亦その存續の不可能な事が判

明したのであつた。プロシヤ總理ゲーリングの布告は、社會の眼を晦まし、また誤導するものと見做された教團の改稱を禁じたのであつた。

古式プロイセン大ロツヂの大棟梁は、大ロツヂを自發的に解體する用意ある旨を宣言した。一九三五年八月の初めに至つてザクセンの二つの大ロツヂの大棟梁も同様な決議を採擇するに至つた。これと共に獨逸では最早ロツヂは一つとして活動してゐないのである。

すでに國民社會主義運動に依る權力の把握よりずつと以前に、國民主義的及び民族主義的分野よりするロツヂ攻擊は着々としてその效果を擧げていつたので、ロツヂはこれを防衛しなければならなくなつて居つたのであつた。かくしてこの結社攻擊に對抗する獨自の防衛委員會が設立されたのであつた。

フリーメーソン反對の著述、集會、演說會、及び諸種の手段は逐一、本委員會に對し報告された。此の種の防衛組織、特に古式プロイセン大ロツヂの防衛組織は、個々のロツヂ及びその會員に對して、フリーメーソン攻擊に際してとるべき態度に對する正確な方針を與へてゐたのである。ナチス黨への入黨宣言に關しても、ロツヂ會員達はフリーメーンン・ロツヂへの所屬を否認すべきであるとの指示を受けてゐたが、その理由は古式プロイセン大ロツヂが『教團』と改稱せる後は、以前の會員も既早

入黨宣言に關しても、ロッヂ會員達はフリーメーンン・ロッヂへの所屬を否認すべきであるとの指示を受けてゐたが、その理由は古式プロイセン大ロッヂが『教團』と改稱せる後は、以前の會員も既早ロッヂ會員では無いといふのであつた。あらゆる手段を盡くして、割込み乃至同化が試みられ、國際的諸關係や國際的協力は否認され、猶太人との親近關係はないと主張され、ロッヂは無害なる社交及び慈善團體であると努めて主張された。獨逸史上の偉大なる人々を、眞のフリーメーソン精神の代表者であると主張し、ロッヂの慣習をゲルマンの遺產であると主張せんとして居たことに就ては既に述べた通りである。

ロッヂの會員達がその態度により極めてよく明瞭にした通り、彼等は從來行つて來たフリーメーソンリーの教育方向によつて新時代の思想と任務とを理解することは不可能になつてゐた。今一例を擧げてこの主張を結論として明らかにして置きたいのは、或る古式プロイセン大ロッヂの會員が最高當局への書信中に、古式プロイセン大ロッヂの無害性を立證せんとして、古式プロイセン大ロッヂはその百五十年の歷史に於て、國民的であつたのみでなく、現代に於ては正に國民社會主義的活動を行つてゐるのであつて、たゞこの「社會主義を極めて狹い範圍に於て實行してきたのである、」と言つてゐる。併し、この所謂最も狹い範圍の社會主義といふのは、國民社會主義の立場から判斷すれば、ロッヂの一味の情實政治と云ふことに外ならぬものであつて、その祕密の人事政策だけでも獨逸に於けるロッヂの不行跡に終止符をうつ根據となり得たと考へられるのである。

若し獨逸のフリーメーソン會員達が、總て公然となつてゐる事實に反して、なほ自分達はフリーメーソンリーの國際組織とは何等の關係も有し得なかつたと主張せんとするならば、此處にカルルスバード生れの周知のフリーメーソン會員たるボスナー博士が一九二五年にウイーンの最高評議會の開催にあたつて言つた言葉を引用して置きたい。

フリーメーソンリーと云ふものは唯一つだけしかあり得ない。即ち、國際的連鎖があるのである。南歐系フリーメーソンリーには、「普遍的フリーメーソンのフランス分家」と云ふ言葉がある如くに「普遍的フリーメーソンリーの獨逸分家」と云はれねばならない。これらのフリーメーソンリーはそれぞれ自國語で語るのではあるが、これらは諸家族立方體をなす一つの石の面に過ぎないのであつてその立方體の石とは、「世界フリーメーソンリー」に外ならないといはねばならぬ。

〔4〕　世界フリーメーソンリーのナチスムに對する戰鬪

かゝる見解に照應して、すべての國際的世界フリーメーソンは、熱心に爾餘の超國家的諸權力と協力して、ナチス獨逸反對鬪爭を遂行してゐる。移民會議及びフリーメーソンリー會議に於て、國際的活動のテーゼが發せられると同時に、ボイコット運動の實行が討議され、フリーメーソンリーに依つて制約され又遂行される國際外交が支持されてゐる。共和主義的、デモクラシー的、及びマルクス主

活動のテーゼが發せられると同時に、ボイコット運動の實行が討議され、フリーメーソンリーに依つて制約され又遂行される國際外交が支持されてゐる。共和主義的、デモクラシー的、及びマルクス主義的傾向を有するすべてのグループと、自由主義的ブルジョアジーとの結集を目的としてゐる人民戰線運動は、かゝる努力の最も明白なる表現である。この事實を理解してのみ、ソ聯に對する人民戰線運動の態度も理解され得るのである。第一次世界大戰以前の時代に於けると同樣に、フリーメーソンリーの支配下にある世界の新聞は、その任務を果し、ナチス獨逸反對の言論を指導してゐるが、かゝる國際的に錯綜せる網を洞察せず、ナチズムとフリーメーソン思想との間には何時の日か妥協の成立が可能であると云ふ意見を抱いてゐる人のみは、斯樣な言論の正體を理解することが出來ないのである。

〔5〕結　論

ゲーテは、フリーメーソンを『國家内』の『國家』と云つたが、この言葉は完全に正しかつた。自己の任務を嚴格且つ責任感をもつて貫徹せんとする政府は、決してフリーメーソンリーを容認し得ないのであつて、その理由は、フリーメーソンリーはその連繫や錯綜せる個人的諸關係のために、無名の從つて責任なき、無拘束の内治外交政策を行つてゐるからである。ロッヂの國内政策といふのは、官吏團及び經濟團の中に勢力を獨占して、わが民族の文化生活に於ける有力な地位をすべてロッヂ會員をもつて占據することである。ロッヂ會員達や宣誓や誓約に依つてフリーメーソンリー組織に縛り

付けられてゐるのである。彼等はロッヂに入會する以前に、從つてフリーメーソンリーの本體や目的に關して明瞭に知り得る以前に於いて、あらゆるロッヂの問題に關して從順と對絕的沈默とを約束しなければならなかつたのである。前以てなされるかゝる拘束は不道德なものと見做されねばならないし、又その會員達が、國家及び民族共同體の法律に從ふべきか、或はロッヂの宣誓に從ふべきかの問題に當面する場合には、會員をして去就に迷はしめるのである。

ナチズムとフリーメーソン結社との間に生ずるこれ以上の對立は、すべて既述の說明により明白なる如く到底妥協し能はぬ原理的なるものである。

ナチの世界像は北方的であり、フリーメーソンリーのそれは東方的にして猶太的であり、ナチス的態度が民族を自覺するのに對して、ロッヂ思想は反民族主義である。

ナチズムの共同體は、一種の近緣關係に依る生きた構造體卽ち民族共同體であつて、ロッヂの中に組織化されてゐるブルジョアジーの階級精神でもなく、又その利害關係に依る一味徒黨でもないのである。

ナチズムは民族を基礎とする絕對的國民主義を、フリーメーソン結社のコスモポリタン的國際主義に對立させて居るのである。

ナチズムは民族を基礎とする絶對的國民主義を、フリーメーソン結社のコスモポリタン的國際主義に對立させて居るのである。

我が民族のかゝる使命の達成のためにナチズムは、如何なるフリーメーソンリーの『教義も』『教育制度』も必要とはしないし、種族と無緣な象徵や猶太の殿堂奉仕をも必要としないのである。

獨逸のフリーメーソンリーの諸組織はすでに粉碎された。しかし乍ら尙海外には世界フリーメーソンが存在してをり、彼等は相互に協力して、世界猶太民族の超國家的諸組織、政治的教會及びマルクシズムを以て、ナチス・ドイツと戰つてゐるのである。國家の諸集團はすべて、フリーメーソン精神の思想過程に依つて實現されてゐるものであり、猶太フリーメーソンの世界新聞によつて、アドルフ・ヒツトラーの獨逸に對する敵對行動を益々强化してゐるのである。

獨逸民族同胞はすべて、自由主義的フリーメーソンリーが存在してゐて、ナチス獨逸を打倒するため、世界猶太人、政治的教會、マルクス主義と協力してゐる。フリーメーソンの思想に支配されてゐる國家群も多く存在し、猶太的にしてフリーメーソンリー的な世界新聞によつて、ヒツトラーの獨逸に對する敵意が煽動されてゐる。

獨逸國民は、皆フリーメーソンリー的思想財の危險性を認識しなくてはならぬ。フリーメーソンリーの思想過程や表象を再び、我々の文學、藝術、科學、及び吾々の政治的見解の手に導き入れんとする一切の企圖は、萠芽のうちに抑壓されねばならぬ。

今や我々が歷史の中から充分に學び知つておかねばならぬことは、フリーメーソン結社が各國に於いて既に屢々禁壓されたにも拘らず、尙民族の危機に當つて繰返し崩壞の毒素の如く諸民族に襲ひかゝつて來てゐるといふことである。

第三部

フリーメーソン祕密結社の殿堂解剖

――「探求者」より「知者」になるまで――

第一章　起原と目標

千七百十七年ロンドン大ロッヂの設立と共に世界史上に現はれて來たフリーメーソン結社は、建築職人組合卽ち英國石工組合から發展して來たものである。今日の思索的メーソン結社、卽ち精神的メーソン結社は石工の建築職人組合の建築職場から生れて來たものであるから、その慣習の根幹をなすものも建築職人組合から繼承されてゐるのである。

建築職人の修道院的情誼關係から建築職場は生れたのであるが、これが建築に關與してゐた石工連中に依つて組合の結社として認められるやうになつた。建築職場及び組合の中心としてのロッヂといふ考へは昔の石工團の最古の憲法の中に、卽ち十四世紀の終り頃に書かれたハリウエルの詩の中に見

出される。自己の所屬する教會又は修道院教會の建築師としての僧侶達は、獨逸、英國、佛蘭西に於て相集つて始めて建築組合を形成した。彼等の建築職場は巨大な教會、本山、大寺院等を建立し、又多くの方面から註文を受けたので、その仕事を成就することが可能である爲めには、間もなく多數の俗僧、未だ得度せぬ建築師、非僧侶石工等を組合に入會させなくてはならなかつた。かく修道院職場に僧侶非僧侶の組合員が混在した結果は、この方面の發展に連れてやがて、純粹に非僧侶的な石工組合の設立を招致することになつた。シュトラースブルク大寺院の創造者である獨逸の大寺院建築家エルヴィー・フォン・シュタインバツハは千二百七十五年に最初の非僧侶石工組合を設立し、これに依つて非僧侶石工組合を僧侶建築組合から分離したのであつた。

※　※

英國の建築組合である「メーソン組合」(Gild of Masons) 或は「フリーメーソン組合」(Company of Freemasons) は、かの精神的メーソン結社の直接の先驅者となる運命にあつた。既に早くより、僧侶及び非僧侶の組合に於ては友愛と社交とが大切な行事とされ、徐々に種々の規約が生れて來て、次第に明確な種類の慣習が出來上つて來た。組合は自體の幹部組織を作り上げ、又屢々自身の組合會報をも持つに至つた。組合は集會を開くやうになり、その僧會、義務、誓約をも規定するやうになつた。組合員の全社會的社交生活は建築職場で行はれることになつたが、この職場が次第々々て組

て、次第に明確な種類の慣習が出來上つて來た。組合は自體の幹部組織を作り上げ、又屢々自身の組合會報をも持つに至つた。組合は集會を開くやうになり、その儈會、義務、誓約をも規定するやうになつた。組合員の全社會的社交生活は建築職場で行はれることになつたが、この職場が次第々々に組合のシムボルとなり、其處では「親方」も「職人」も互に結びつくことになつた。かくて建築職場は小規模ながらも一つの世界を形成し、その世界の中では、日常生活が他と全く隔離されてゐる爲めに詩的な形式で包まれてゐた。石工達が屢々その活動の場所を變へたので、諸種の建築職場は互に連絡を持ち、慣習は共通に交換され相互に類似するやうになつて、遂には一樣の訓練を行ふやうになり、こゝに統一的な儀禮を生ずるに至つた。

フリーメーソン結社が建築職人組合から生れたといふ事實に對する雄辯な證據は石工規約の中に後の精神的ロッヂの內面的な組織が見られるといふ事實である。建築組合は旣に親方、職人、徒弟といふ階級を持つてをり、これら三つの會員階級の夫々は獨自の「祕儀」を有してゐた。千七百七年のプレスラウ石工組合の會員手帳には、「余は石工の挨拶、所屬組合及び握手の仕方などを何人にも打明け又は語らざることを誓約す」と記されてゐる。非組合員が職場へ入ることの出來ないやうに識別の圖が作成された。入場要求者は檢査を强要され、規則通りの識別、合圖、識別用の手の振り方等を知つてゐることを證明しなくてはならないのであつた。「舌の下に何を持つや？――沈默を。」「帽子の下には何を持つや？――規律と正直。」「何故に杖を持つや？――神とあらゆるすぐれたる石工と

に敬意を表するため、又自らの利益の爲め而して無賴の徒を防ぐ爲め。」「何故に前掛を身に附くるや？――あらゆるすぐれたる石工に敬意を表する爲、又自らの利益の爲め」と問答して石工達はすべて一様に帽子、杖、前掛を身に附けてゐた。その後の思索的ロッヂに於ては、今日なほ多くのフリーメーソン職場に於けると同様着帽の儘で作業がなされてゐる。貴族會員と侵入して來た騎士傳統の爲めに、杖の代りに劍が用ひられるやうになつたが、これは現在のフリーメーソン結社に於ては殆どたゞ特別の儀禮と儀式とに際して一役買つてゐるに過ぎない。併し前掛の方は「思索的メーソン結社員」も「長方形」のをロッヂに入る時に必ず腰に附けたことは、以前も現在も變りはないが、フリーメーソン結社の最も重要な象徴物、卽ち曲尺、コンパス、錘、水準器、定規、鎚は他の種々の品々と共に、概して建築職人組合の象徴的様式に由來してゐる。

※

ジョン・ボスウエル・オヴオーチンレックは最初の非職人結社員であつて、彼が或る職人組合ロッチに入會を許されたことは確かな事實と認められてゐる。エヂンバラのロッヂ「メリー禮拜堂」の千六百年の記錄書は、この事を明白に記錄してゐる。僧侶組合の中へ俗僧會員、未得度の石工等を入會させねばならなくなると、建築職人組合に新段階を以て招致することになつて來た。卽ち僧侶組合か

六百年の記錄書は、この事を明白に記錄してゐる。僧侶組合の中へ俗僧會員、未得度の石工等を入會させねばならなくなると、建築職人組合に新段階を以て招致することになつて來た。即ち僧侶組合から純世俗的な組合が發生する段階となつたのである。非職人組合員が建築職人組合の世俗的ロッヂへ入會を許されると、職人組合の新發展の端緒が作られることになつた。即ち今日のフリーメーソン結社である精神的メーソン結社が建築職人組合より發展して來る端緒が作られることになつたのである。千六百四十年のものであるとされてゐる古いスローヌ手寫本に依れば、建築職場には次のやうな習慣が出來上つたことであつた。即ち、社交と團欒とを高め「王者の術」――この名稱は今日なほフリーメーソン結社が象徵的に自己の名稱として用ひてゐるものである――の王室側の奬勵者乃至保護者を獲得する爲め、又は感謝の念から職人ではない人々を結社へ入會させる習慣が出來上つたのであつた。建築職に緣のない人を石工組合に入會させることに端を發した近代の精神的フリーメーソン結社の發展は先づ英國に始まつたのであるが、この爲め英國は世界フリーメーソン結社の祖國となつた。「象徵的」な職人ロッヂから非職人組合的なメーソン結社員が時の經過に連れて幾多のロッヂに於ては、數的に優勢を占めるに至つた。續いて全結社員が職人組合とは何等の關係を持つてゐない相當數のロッヂが生じ、建築職人の組合會場ではなく酒場に集合を催すに至つた。

「人道の殿堂」即ち今日のフリーメーソン結社の理念上の基礎と組織上の建設とは、千七百十七年六月二十四日に設立された世界最初の大ロッヂと共に始まることになつた。ジョージ一世治下の第三

年の洗禮者ヨハネの記念日に、ロンドンの酒場「鵞鳥と焙器屋」に於て、自由及び容認」のメーソン結社員の祝祭的集合が開催された。その集會所の名に從つて「鵞鳥と焙器ロッヂ」「王冠ロッヂ」「林檎ロッヂ」「葡萄ロッヂ」と稱してゐた四つのロッヂが、共同の上司即ち大ロッヂを設立して最初の理事會を選出したが、その顏觸の中には最早一人の職人メーソン結社員も居ないのであつた。こゝに世界フリーメーソン結社の發端が作られたのである。

※

かやうに各種の職業に屬する男子達が集つて建築上のシムボルや慣習を有する一つの結社を形成した、即ち精神的メーソン結社を形成したのは、組織の上から見ると、二世紀とは經つて居らない。建築職人組合が、この精神的メーソン結社によつて「象徴」化され精神化されたのであつて、精神的建築術、即ち人道と友愛との殿堂の建設がフリーメーソン結社の根本觀念となり、目標となつたこの結社は種族と國民とを超越し、所屬の宗教上及び社會上の限界を超越して、人類を世界市民に教育し、世界市民團體としてのロッヂに於て人類を同胞化しようとするのである。それ故にメーソン結社は絕對的な良心の自由と宗教的寛容と平和主義と「あらゆる人間が調和を感じ得るやうな宗教」のみを宣布する。英國大ロッヂから發して全フリーメーソン結社の憲法となつた「古き義務」の説くところは

以上のことに外ならない。

對的な良心の自由と宗教的寛容と平和主義と一あらゆる人間が調和を感じ得るやうな宗教」のみを宣布する。英國大ロッヂから發して全フリーメーソン結社の憲法となつた「古き義務」の說くところは以上のことに外ならない。

理念から見る時には、フリーメーソン結社は一つの美はしい事業であり、一つの非政治的な組織であつて、それに反對する理由は少しもないのである。然るに既にその存在の最初の幾十年に於て、ロッヂ組織に所屬することは政治的な信仰告白となり、政治的な世界觀の信奉を意味することになつた。フリーメーソン結社は自由主義的な啓蒙思想の戰士となつて、加特力教會に對抗する反教會と化したが、これは無宗教及び宗教反對の政治的表現であつた。絕對的な良心の自由は、內在的必然性を以て信條化されるに至り、宗教的無宗派の境地を飛び越えて、先づ哲學的無神論に達し、續いてマルクス主義的な反宗教に到達した。あらゆる國民性を超越して人類を同胞化しようとする理念は、發展の途上に於て政治化され、極端な國際主義、無祖國の平和主義、反祖國主義に到達した。フリーメーソン結社內部への猶太人の侵入――既に千七百三十六年に英國大ロッヂ內に猶太人の名が實證される――の結果は「人道」（猶太人はその宗教經典タルムードに從つて、人間とは猶太人のみを指すものとしてゐる）なるものが、主として親猶主義に解釋され又要請されることになつた。疑もなくフリーメーソン結社はその超宗派的組織と「人道主義的」思想の結果として、猶太人に取つては、歐洲及び全世界の政治及び文化生活に次第々々に決定的な影響を與へる爲め極めて好都合な門戶となつた。

漸次增大して來た猶太人の指導權の下に於て、ロッヂ制度の信條は追々と過激にして革命的自由主義及びマルクス主義の方向へ向ふことになつた。千七百十七年以來の殆んどあらゆる革命がすべて「三點兄弟」（註、フリーメーソン結社員はこの姓名の度に∴を附する故にかく稱せられる）によつて、精神的に準備され又指導され又指導されたといふことは歷史的に證明濟みで一點の疑もない事柄である。フリーメーソン結社が猶太人の强力な權力手段となつてゐるといふことは、根據なき虛構ではない。美はしい理念が歷史の經過する間に、政治上の祕密結社となつたので、現在に於けるやうに屢々それは政府に依つて「國家中の國家」として禁止され抑壓せられざるを得なくなつたのである。過去及び現在に於けるロッヂ制度の非政治方面に於ける活動に就て、卽ちフリーメーソン結社の所謂「外的活動」に就ては、世間に於ても可成りよく知られてゐるが、ロッヂの大いに內密な「內的活動」に就ては、巧みにロッヂの絨緞に覆ひかくされてゐる事件に就ては、知られてゐる所が餘りに少ない。この祕密結社の外部活動に就ては以前も現在も無數の本が書かれ、又世界の新聞に依つて何等かの關聯に於て殆ど常時報道されてゐる。併しフリーメーソン結社員の職場卽ちロッヂそのものゝ「仕事」の中で、若くは「長方形」の中で直接に行はれてゐることに就ては權威ある事柄は未だ公にされた事はないのである。ロッヂの「外部仕事」はその名の通り外部へ表はれねばならないのであるが、「內部仕事」

未だに「長方形」の中で直接に行はれてゐることに就ては權威ある事柄に未だ公にされた事はないのである。ロッヂの「外部仕事」はその名の通り外部へ表はれねばならないのであるが、「內部仕事」はさうではない。そこでこゝにロッヂの物的及び精神的な內景、儀禮的及び象徵的な內景、政治的な內景等を暴露するならば、讀者は「識別の合圖」を與へることなく、殿堂の門戶が開かれて、中に入ることが出來るし、單に「徒弟」の靑殿堂や「親方」の黑殿堂のみではなく、あらゆる位階の職場までも、卽ち第三十三位階に至るまでの高位階の職場までもが步るき廻ることになるであらう。

第二章 探求者

如何にしてフリーメーソン結社員となるか？ロッヂの中心では何が行はれるか？フリーメーソン結社員の所謂「作業」とは如何なることであるか？各種の位階の目的は何であるか？諸種の象徵は何を意味するか？無數の書が旣にロッヂ制度に就いて書かれてゐる。併し上述の諸問題に對する充分な返答は何れの本も與へてない。何故ならばその返答はフリーメーソン結社の最も內密な祕密を暴露しなくてはならないのであるが、かゝる祕密は自らフリーメーソン結社員として最高の第三十三位階に至るまでの全位階を經過した經驗のある者のみが充分に知り得るものであるからである。

そこでこれはロッヂ會員の成長の過程を簡潔ではあるが、併しあらゆる要點を洩らすことなく傳へたいと思ふのである。そしてその際の手引は嘗つて最高位階のフリーメーソン結社員であつた著者で

あり、彼がなほ一探求者」であつた段階から、結社の最高の位階即ち「獨裁最高統監」の位階に到達するに至つた經路を述べようとするのである。そしてこの道中の經過するうちに、讀者は各位階のロッヂを精神的に見物し、あらゆる認識階級に於ける任命式に出席し、下級位階及び上級位階の一作業」を知るに至るであらう。

所屬大ロッヂ及び最高評議會を通じて相互に「正當且完全」と是認し合つてゐる正規の世界フリーメーソン結社に於てはその會員たり得るのはたゞ男子のみである。「姉妹」即ち個々の結社員に最も親密な婦人、換言すれば妻、花嫁、許嫁、又は肉身の姉妹又は母親は、結社と關係ありとは認められるが、併し直ちに正當なる會員となり、會議に出席することは許されない。ロッヂへ入會を求むる者、即ちフリーメイソン結社の會員となることを希望する者は「探求者」或は「光の探求者」と呼ばれる。その者は必ず「評判の良い自由人」でなくてはならない。それで入會希望者の自由、又は獨立の條件としても、經濟的獨立が要求されることは勿論であるが、それが最も重要ではなくて、國民的、宗教的、種族的「先入見」からの自由が最も重視されるのである。ロッヂに入會したい願望が遂げられる爲めには、探求者がその知人仲間のうちにフリーメーソン會員を見付けて、仲介をして貰ふのが最も適當である。しかし、かやうな連絡係がない時には、探求者がその國家の大ロッヂの祕書局に直接書

爲めには、探求者がその知人仲間のうちにフリーメーソン會員を見付けて、仲介をして貰ふのが最も適當である。しかし、かやうな連絡係がない時には、探求者がその國家の大ロッヂの祕書局に直接書面で申込むことも稀ではない。

ロッヂが、大ロッヂ又はその會員の一人を通じて、或人がフリーメーソン結社員になりたいといふ希望を有することを知ると、豫備的處置が開始される。これは大ロッヂが探求者の爲めに一人の保證人を立てるか、或は探求者が個人的によく知つてゐるロッヂ會員が、探求者の資格に就いて保證を引受けるかである。そしてその資格は、ロッヂの見解に於て、何を措いても、相當の一般的教養と前述の先入見の無いことゝである。探求者は、フリーメーソンの結社的表現に從へば、「前掛を掛けざるメーソン結社員」である。換言すれば、彼はロッヂに入會する以前にその思想及び行狀に於て既に初歩のフリーメーソン結社員でなくてはならないのであつて、儀禮的な入會式の終了後になつて眞の「前掛」はロッヂによつて與へられてゐるのである。

※

豫備的手續は、保證人を通じて志願者から詳細な履歴書、入會希望の內面的及び外面的な眞の理由及び寫眞が要求される時から始まる。これらの要求が滿されると次に探求者の履歴と動機とが會員の會議で讀み上げられ、寫眞が「探求者の黑板」の上に懸けられる。寫眞を懸けておく目的は、各結社員が入會希望者が誰であるかを知り、もし何かを此の者に就いて知つてゐる時には、それをロッヂの

會堂長に知らせる義務のあることを想起させられんが爲めである。入會願ひ、卽ち結社に於ける將來の協同事業に對する探求者の根本的態度がロッヂの要求に合致する時には、豫備試驗委員會に依つて若干の結社員が、探求者に關する調査を委囑される。

※

調査の結果が良好であり「白球」の投票が期待され得るやうになると、多くは他の探求者に對する投票と一緒に、一定のロッヂ會議で行はれる投票期日が告示されるが、調査の結果が思はしくなく、拒否されることが確實で「黑球」投票となることが明白な時には、保證人に依賴して志願書を撤回させる。それで愈々投票會議となれば、眞先にもう一度履歴書志願の動機報告書とが讀み上げられる。會堂長（マスター）がこれを朗讀すると、探求者に關する詳細な調査書が集つた人々に傳達され、投票の方法は、討論なしに沈默裡に各結社員が判斷を表示して白色又は黑色の球を祕かに投ずるのである。黑球が一つもない時には、その投票は「白色」となつて、探求者は入會の資格ありと認められ、黑球が三つある時には、拒絕といふ事になる。黑球が三つ以下の時には、その投票は「灰色」となる。黑球が一つ又は二つの時はその理由が會堂長に具申されねばならぬ。會堂長は後にその投票が正當であるか、不當であるかを宣言する。志願者が將來のメーソン結社員となるか否かの運命はこの時決定するのである。

あるかを宣言する。志願者が將來のメーソン結社員となるか否かの運命はこの時決定するのである。

數ヶ月の間に一ロッヂは普通幾人かの志願者に對して「白色」の投票をなし、再び特定のロッヂ會議の日に、志願者に對する莊嚴な儀禮的入會許可と世界を包括する同胞的連鎖の中に加入させる。探求者の入會許可の際に行はれる行事はメーソン結社曆中、最も重要な祝祭日である。入會手續の行事は相當高價な費用を要するので、志願者は個人別に採用されることはなく、その資産能力に從つて入會料を支拂ひ、その後も引續き會費を同樣に支拂はなくてはならない。しかしあらゆるロッヂは、この物質的義務に最低額を規定してゐるので、無資産の者又は資産の少ないものは、加入が出來ないのである。例外は反つて原則を立證しロッヂ制度はこの物質的規定に依つて、社會の貧しい階級を除外するのである。それで世界フリーメーソン結社の大部分は、全く市民的な、なほ一層正確に言へば、全くブルジョア的性格を有するのである。

※

志願者達はその保證人に伴はれて、ロッヂの建築の內部に入り、共處で集合してゐる。その間にロッヂ會員連中は、祝祭的に裝飾された長方形のロッヂ殿堂の中に集つてをり、やがて行事は會堂長の三つの象徵的な槌の音で開始される。「奉仕委員」がロッヂ殿堂の側の方に居た探求者連の許へ行き、やゝ透明な紗と全く不透明な紗との二枚で眼かくしをなし、長い廻り道を通つた後に別室で止められ、

志願者の眼かくしが取除かれる。彼等は今や「暗室」即ち準備室に居るのである。

十八世紀に慣用されてゐた恐怖を與へる爲めの用具は近代精神に適應して、今日では多くは廢止されてゐるが、眞黒に装はれ極く弱い燈火の點ぜられてゐるに過ぎない部屋には、完全な骸骨だけがあるが、これは無常の象徴である。この暗室は抑々探求者の狀態を象徴するものであり、また彼の今迄の光明のない生活を象徴するのであるが、それが今や明るい生活となり闇から光へ、即ちフリーメーソン結社の光明と眞實の生活とに達するやうにといふのである。骸骨の側には生きた人間が立つて居るが、黒裝束に黒頭巾といふ姿なので細長い裂目からこの輝きの見えてゐる眼だけが、それが生きた人間であることを認めしめるのである。ロッヂ語では「恐るべき兄弟」と呼ばれてゐる此者が、抜き放つた劍を右手に持つてゐる。そこに志願者達は夫々用紙とペンとが載せられてある机の前に腰を下ろす。壁の黒色や、弱い燈火、黒裝束の結社員及び骸骨等と机上の白紙との對照が、奇妙な印象を呼び起す。するともう一人の結社員が現はれて來る。この者もたゞ眼が出てゐるだけである。併し彼は頭巾を後方へ脱ぎ下ろしてゐる。これが入會作業中の最も重要な人間であつて、「準備係の親方」であり、この者の指導下に志願者達はフリーメーソン結社員の連鎖に加へられることになるのである。

彼は志願者達の前へ歩み出るが、志願者達は來るべき不確かな出來事をびくびくしながら待ち設けて

あり、この者の指導下に志願者達はフリーメーソン結社員の連鎖に加へられることになるのである。
彼は志願者達の前へ歩み出るが、志願者達は來るべき不確かな出來事をびくびくしながら待ち設けて

ゐる。やがて彼は志願者達に一定の時刻を告げた。その時間以內に彼等が何をロッヂから期待するか、またロッヂが彼等から何を期待しても差支へないか、或は各人がその職場に於てメーソン結社の理念を如何に實現しようと考へてゐるか、等のことを文書で詳述するやうに要求する。志願者達の告白が「準備係の親方」によつてロッヂに傳達され、其處で讀み上げられる。志願者の告白が不滿足のものである場合には、なほその志願者の入會に對して異議を申立てることが出來る。彼に對してこれ以上の入會行爲が保留されることが出來るのである。

※

再び探求者はかの二つの眼隱しの爲めに何物も見えなくされ、再び長い道を連れて行かれるが、今度は殿堂の戶口の所へ連れて行かれるのである。十八世紀に行はれた——特に佛蘭西のロッヂに於て行はれた——やうな仕方は、屢々事實上苛酷で叉危險を伴ふことさへあつたが、さうした方法に依ると果斷と勇氣との試驗は、現在では同樣に全く儀禮の中から削除されてゐる。「準備係の親方」は戶を叩くことによつて探求者が音樂が聞えて來る內部へ入ることを許されるやうにと望む。彼等はやがて內部へ導き入れられ、眼隱しをされた儘で、やがて彼等が傳授を受ける筈になつてゐる諸祕儀の前に立つ。音樂が止む。會堂長が志願者達に言葉をかける。彼は志願者達に向つてフリーメーソン結社

の目的である博愛の念を説明し、寛容と良心の自由とを説明するが、かの究極の眞の秘密を傳へることはしないのである。この究極の秘密は結社員が眞に試驗に堪へて選ばれたる第三十位階になつて始めて開示を受ける。會堂長はまた志願者達に向つて、彼等が人道と普遍的人間愛との殿堂の建設に協力する意志の有無を尋ねる。そしてまだ引き下ることは出來るし、まだ何等の誓約も志願者達を拘束してゐないと告げる。これに續いて志願者の「三つの旅」が行はれるが、これは光明への旅を象徴し、「暗室」即ち死を拔け出て「大光明」即ち新生への道程を象徴してをり、この「大光明」に達すると志願者達の眼隱しは取去られて、ロッヂの不可思議な内部の光景が彼等の眼前に現はれて來るやうになつてゐる。この旅には音樂が伴ひ、また會堂長とロッヂ監督達との間に交される儀禮上の對話が伴ふ。この對話と音樂とは志願者が眼隱しされてゐるので、一層深い印象を與へる。かくてかの象徴的な「三つの旅」が終ると、會堂長は更に詳細な説明を以つて、フリーメーソン結社の本質に就いて語り、あらゆる種族と國民と宗派と社會的階級との人々を同胞たらしむべき人道の理念に就いて述べる。すると志願者達は彼等が加入を許可されることになつてゐる道徳的結社によつて魅了され、幸福感で一杯になる。會堂長が彼等に二度目の質問を發してフリーメーソン結社員になることを欲するか否かを問ひ、まだ引返すには時遲れでないと念を押す。

一杯になる。會堂長が彼等に二度目の質問を發してフリーメーソン結社員になることを欲するか否かを問ひ、まだ引返すには時遅れでないと念を押す。

儀禮によつて定められた可成り長い對話の後に、會堂長は「準備係の親方」に向つて「準備係の兄弟よ、探求者に小なる光明を與へよ」といふ命令を與へる。各志願者の背後へそれ〳〵助手役の會員が歩み寄り、被保護者から不透明な紗を額ごしに取り去るので、「探求者」はやゝ透明な眼隱しを通じてロッヂを見ることになるが、併し本當に眺めるといふよりは、たゞぼんやり察する程度である。半透紗を通じて部屋の内の諸物を見るのであるから、以前の全くの暗黒よりも一層神祕な暗さが志願者に感じられるのである。しかしまた厚い眼隱しの方が額越しに眼の前へ下され、そこで傳授を受ける志願者はロッヂの「祭壇」の前へ連れて行かれるが、これは天蓋の下にある會堂長の高まつた座席兼机に外ならぬのである。此處で會堂長は志願者に向ひ、彼等がフリーメーソン結社への加入を欲するや否やを最後的に尋ね、彼等より嚴かな祕密嚴守の誓約を取り、そして彼等と一生の盟約を結ぶが、この盟約は此の世界結社と所屬大ロッヂとの名に於て、また志願者達が今後所屬することになつたロッヂの長としての資格に於て、更にまたこのロッヂの會堂長の職權に依つてなされるのである。志願者達は茲に同胞的連鎖のメムバーとして加へられ、「公正且完全な」フリーメーソン結社員となる。併しなほ前同樣、彼等は「準備係の親方」によつてロッヂの眞中へ導かれて行くが、ロッヂの廣さ、事物又は人物の配置に就てはまだ何事も解らないのである。

「準備係の兄弟よ、探求者に大なる光明を與へよ」といふ言葉によつて入會儀禮は最高頂に達すると同時に終末に達し、探求者達に對する傳授式の最も重要な瞬間となるのである。助手役の會員が再び探求者達の背後へ歩み寄るが、こゝで漸く探求者達はロッヂに依つて象徴されたメーソン結社の全光明を目睹する時が來たのである。一寸手が加へられて、かの双方の眼隱しが取り去られる。祝祭の眩ゆい燈火に包まれながら新參のフリーメーソン結社員達はロッヂを眺める。大きな長方形の廣間の上端はロッヂの「東」であるが、此處は太陽の昇る所であり、フリーメーソン結社の光明が射し出る所であつて、會堂長の座席も其處にあり、この座席を圍んで所謂大ロッヂの顯官達や來合はした外國の高位階會員達が團體を作つてゐる。彼等は凡て種々の色彩と刺繍のある綬や前掛を身に附けてゐるので實に豪華な光景を呈してゐる。彼等は凡て起立して、胸の前で組み合はされた白手袋の手を互に取り合つて連鎖をなして立つて居り、又彼等と共にロッヂの他の會員達や交友關係のあるロッヂの會員達も居るが、この人にも同樣に長方形の長い方の兩側の座席の列から立ち上つてゐるのである。ロッヂの下方の端には殿堂の双方の柱で守られた殿堂の入口があるが、此處でかの連鎖形の人の繋がりが一人の殿堂守によつて終りとなつてゐる。結社員達は凡てスモーキング又は燕尾服に白いネクタイの祝祭着で、彼等はロッヂの標識である青色の寶石をつけてをり。青い頸飾にはロッヂの徽章を吊し、

が一人の殿堂守によつて終りとなつてゐる。結社員達は凡てスモーキング又は燕尾服に白いネクタイの祝祭着で、彼等はロッヂの標識である青色の寶石をつけてをり。青い頸飾にはロッヂの徽章を吊し、白い前掛をかけてゐる。結社員の一部の連鎖狀の繋がりから出て、新入會員の直ぐ前に立つてゐる。彼等は劍をさつと拔き放つて、新參會員の心臟めがけてそれを閃かし、その儘水平に差出してゐる。これは象徵的な儀禮であつて、ロッヂによつて必需な保護が與へられることを示すと同時に、場合によつては處罰を加へられるべきことを示すのである。

劍が下ろされる。儀式のクライマックスは過ぎたのである。劍持役の會員及び新會員も同樣に連鎖の列に加はる。會堂長により嚴かな歡迎の辭が行はれ、「準備係の親方」がその最後の職責を果して、新入會員たる「徒弟」に對して第一位階の識別合圖。識別語、識別用の手の握り方を傳授する。かくて「探求者」はロッヂの「徒弟」となるのである。

第三章　徒弟ロッヂの「作業」

一國内の諸ロッヂの組織は、多くの場合一個の大ロッヂの下に統轄されてゐる。大棟梁の指揮下にある大ロッヂは、全ロッヂの指導及び監督をする委員會であつて、所謂大幹部評議會である。併し一國に幾つもの大ロッヂを建立することは、世界フリーメーソン結社の國際的規定に依つて禁止されてゐる譯ではない。管理上の都合に依つて屢々可成りな數の大ロッヂが設けられて、一國家のフリーメ

ーソン生活を調整し監視することもある。例へば亞米利加合衆國の諸州の如きは夫々大ロッヂを有してをり、これら總ての大ロッヂは互に協調して作業をしてゐる。又屢々政治的立場の相違からして一國のフリーメーソン結社が種々の大ロッヂに分れてゐることもある。

※

フリーメーソン結社は自身秘密結社であることを否定して、その存立と活動とが秘密になされてゐるといふことを認めず、フリーメーソン結社は寧ろ非公開の團體であるに過ぎないと主張してゐる。併し、非公開團體か、或は秘密結社かといふ問題を提出するのは、法律的な概念規定を口實として誤魔化さうとするものである。フリーメーソン結社の各階級者は秘密の識別合圖、合圖語、握手法を有し、會員名簿は別に警察當局にも届出ては居らず、一般にも公開されず、ロッヂ内に於ける儀禮上其他の出來事は單に秘密に通じたフリーメーソン結社員のみが理解出來るといふ如き事實は、あらゆる法律上の詭辯を超えて、フリーメーソン結社を秘密結社とするのである。又それは事實上秘密結社としてあらゆる時代にあちゆる處で感ぜられて來たのである。

結社監督官廳又は國家警察に知られてゐるのは、個々のロッヂの指導委員會、即ち所謂幹部評議會と、大ロッヂの指導委員會即ち大幹部評議會のみである。大多數の國家の結社取締法に依れば、フリ

結社監督官廳又は國家警察に知られてゐるのは、個々のロッヂの指導委員會、即ち所謂幹部評議會と、大ロッヂの指導委員會即ち大幹部評議會のみである。大多數の國家の結社取締法に依れば、フリーメーソン團體の各年毎の新選出の首腦部、會堂長の氏名と宛名、その代理者、ロッヂ祕書及び會計係が報告されねばならないのである。併しロッヂの幹部評議會及び大ロッヂの大幹部評議會は、結社監督官廳へ屆出でられねばならぬ數以上の會員から成つて居るのみならず、又報告そのものも檢査は困難であり、事實調査を受けることも稀なのである。歐洲ではロッヂの會員數は通常二十人乃至二百人であるから、百人の會員を有するロッヂの場合を例にとつて見るに、精々そのうちの四人のみがフリーメーソン結社員の資格に於て國家の當局に報告されるに過ぎない。一般社會の人々は多くの場合にフリーメーソン結社員の會合が何處で行はれるかさへも知らないのである。

今日メーソン結社方面に於ては、何れのロッヂも每週一定の日に「作業」の爲め集會するのが常であり、時間は午後七時又は七時半となつてゐる。入會式は通常日曜日に行はれ午前から午後遲くまで續くのであるが、この儀式張つた入會式が濟んで若干の日數が經過すると、新會員は殿堂を訪れることになるが、今度の殿堂は最早から祝祭的な華美な姿ではなくて、その平常の儘の姿で新會員の眼前に現はれる。結社員達も平常のロッヂ集會にはスモーキング又は燕尾服ではなく、多くは黑色の散歩着で出席する。彼等は「作業」の開始を待ちながら、殿堂の控え部屋、「消えた足跡の間」に集つてゐる。この控室がかく呼ばれるのは、この部屋へ入る時の步み方が、後にロヂそのものへ入る時に

なされねばならぬ規定通りの象的微なメーソン流の步み方ではないからである。其處では話題の制限はなく、又喫煙も自由であるし、從つて此の「消えた足跡の間」に於ては何等の象徵も、何等の儀禮も行はれてはゐないのである。やがて終に本當のロッヂ部屋への戸口が開かれ、殿堂守が長い棒を手に持ちながら、會堂長の命令に應じて部屋へ入るやうにと會員達に告げる。その間に各會員は前掛を腰につけ、ロッヂの徽章の附いた寶石の頸飾を頸にかける。多くの場合會員達は二人づゝで長方形の室內へ入つて行くが、その步み方は第一位階の象徵的な三つの步み方であり、同時に手もこの位階を示す形になされてゐるのである。ロッヂの通常作業は、各位階の會員がそれに參加し得る爲めに「徒弟」作業として行はれる。從つて「職人」も「親方」も「徒弟」風に從つてロッヂへ入る。個々の會員が持つてゐる位階は――最初の三位階がある限りは――上等な光澤革製の前掛によつて識別される。徒弟の前掛は純白であり、職人のは青い緣がついてをり、親方のは青い緣があると同時に白地に三つの青い薔薇模樣がついてゐる。高位階を持つてゐる會員達も單なる「親方」級結社員として現はれ、その高位乃至最高位に在ることとは識別出來ないのである。

ロッヂの長い兩側には座席の列が設けられてゐる。會員達が起立の盡でこの列に就いてゐると、「作業」の開始となるのであるが、この開始は會堂長が殿堂の端の高くなつた天蓋の下から、ロッヂの入

ロッヂの長い兩側には座席の列が設けられてゐる。會員達が起立の盡でこの列に就いてゐると、「作業」の開始となるのであるが、この開始は會堂長が殿堂の端の高くなつた天蓋の下から、ロッヂの入口に席を占めてゐる第一及び第二の監督との間に交す對話に依つて行はれるのである。部屋の眞中には種々の象徴を織り込んだロッヂの絨毯があり、それを圍んで智と强さと美との燈火を象徴する三つの高い燭臺がある。會堂長が席を占めてゐるロッヂの端の高まつた場所には、大ロッヂ、又は外國の「大東社」の高級役人達や講演係及び祕書も席を占めてゐるが、この場所は前述の如く「東」と稱せられ、此處からメーソン結社の光明が輝き出る事になつてゐる。會堂長の前にはロッヂの「祭壇」があり、その上には曲尺、コムパス、聖書が置かれてゐる。ロッヂの壁及び天井は青色に塗られてゐる。殿堂の入口即ち「西」は二本の支柱によつて支へられてゐるが、その柱には夫々IとJといふ文字が附けられてゐる。この文字はヘブライ語のヤーキン（Yakin）及びボアス（Boas）の頭文字であり、然もこのヤーキン及びボーアスはソロモン殿堂の二本の柱の名に外ならず、更にこのソロモンの殿堂は人道の殿堂の象徴として用ひられてゐるのである。

殿堂守が、ロッヂはもう外界に對し充分に遮蔽されてをり、從つて作業も安全に行はれ得ることを確言すると開會の禮式を以つて儀式が始められる。あらゆる會員は第一位階の識別合圖をしながら立つてゐる。そこでかの二人の監督は會堂長に向つて、ロッヂは內部からも充分遮蔽されてをり、從つて非フリーメーソン結社員は一人も席に列してゐないことを通告すると、會堂長は、ロッヂに光明を

點ずる適當な時が來たことを宣言する。かくて智と强さと美との三つの高い燭臺が、會堂長と二人の監督によつて點火される。「智を以て建築の指導をなし、强さが建築を完成し美がそれを裝飾せよ」といふのがその意義である。フリーメーソン結社員の古い慣習に從つて、遂に會堂長は槌で三度叩きながら作業が開始されたことを宣言する。總員が着席する。

作業が豫定された特殊行事、例へば「探求者」に關する投票、志願者の壯重な入會式、死去した會員の服喪又は追憶、新入會員に對する象徵や儀禮の意義、又は嚴然たる敎導などが行はれない時には、一定の通常プログラムが處理される。前月のロッヂ作業の議事錄が讀み上げられ、また容認された後になつて、會堂長は大ロッヂや友好關係にある諸ロッヂの發した最近の諸報告や通報を集會に報告する。行政上及び組織上の問題や事柄がロッヂの論議や決議の誘因となる。それに續いて「作業」の本來の主要部分がやつて來る。卽ち、當該ロッヂの又は友好關係にあるロッヂや、屢々又外國ロッヂの會員の平均約一時間に亙る講演が行はれる。それはあらゆる種類の問題に關して行はれるのであるが、その究極の目標はフリーメーソン的な訓育法によつて極めて種々の問題に對する會員の精神的態度をロッヂの思想的原則に從つて規定することである。自由主義的な啓蒙的精神、哲學的相對主義、超宗派性、超國家性、人道、社會主義等がロッヂ本來の面目であり、これが個々のフリーメーソン結社員、

特に新結社員が我ものとなすべき世界觀の輪廓である。かく同一の原理に基く講演を毎週聽講してゐる間に「王者の術」の位階者のうちには、何の强制もなく又殆んど何の自覺もなくその立場の變更が行はれ、新會員は入會以前に於て既に前掛をかけぬフリーメーソン結社員となつてゐなかつた場合にも、內心の準備と期待とに支へられて、次第々々にロッヂの思想によつて支配されるに至り、遂に精神的に全くロッヂの捕虜となつてしまふ。しかも彼自身の方では、彼の方でもロッヂを精神的に支配するに至つたと信ずるに至るのであるが、これは大きな思ひ誤りで、彼がそれに氣附かないのは、彼自身さう思ひ込んでゐるにも拘らず、彼はなほ到底「奧儀に通じた者」とはなつてゐないからである。彼はまだ徒弟であり、第一階に止つてゐるのであつて、フリーメーソン結社に關する完全な知識といふものは、最高の諸位階に達して、即ち「コドシュ騎士」「王者の祕密の王子」又は「獨裁最高統監」等の位階に達して始めて全部的に開示されるに至るのである。

勿論徒弟は最も美はしい象徵法を傳授せられる。即ち彼は、自分自身の人間性の荒削りの石を削つて主體とし、それを博愛殿堂の建築の中に加へらるべきであるといふことを敎へられてゐる。又彼に敎へ込まれることは、曲尺が端正と良心的なることの象徵であり、またそれは象徵として、人間の行爲を直接の法則に從つて調整するのであるといふことである。また彼は尖つた槌が徒弟本來の道具で

あつて、これによつて荒削りの石が細工されるのであること、コンパスがすべてを抱括する人間愛と組合に對する精神的態度の象徵であること、又曲尺、コンパス、聖書の三つがフリーメーソン結社の三大光明であることを知るに至る。聖書に就ては今迄見聞した事もないやうな事を聞かされる。即ち聖書はフリーメーソン結社に取つては單に一般に遵奉さるべき道德說の一つの象徵に過ぎないものであり、從つてフリーメーソン結社は聖書信仰を要求することはしないといふのである。それ故に各結社員は聖書の中へ自分自身の道德律を持ち込んで差支へないのである。それ故に幾多のロッヂに於ては、聖書の代りに所謂「白書」が祭壇上に載せられてゐるが、この「白書」とは白紙のみから成る書籍であつて、これはフリーメーソン結社の絕對的非獨斷性と良心の自由との象徵として用ひられてゐるのである。「又あらゆる世界の全能なる建設者」の象徵、即ち、フリーメーソン結社の神の象徵も決してロッヂが宗教を肯定してゐることを證するものではない。例へば佛蘭西大東社の如き有力なる大ロッヂが神の象徵一般をその憲法から抹殺してしまつたことを除外しても、あらゆる「世界の建設者」なる概念の何等明確に規定されてゐない內容は、各結社員が好むが儘にそれを規定することが出來るのである。即ち、唯物論的乃至無神論的世界觀に合致するやうにさへ規定し得るのである。

※

ロッヂ作業に十回參加した後になると、新入會員も投票權を有するに至る。即ち彼は決議や會員入會投票に參加することが出來るのである。時々行はれる第二位階のロッヂ作業には唯「職人」と「親方」とが參加することが出來るし、第三位階のそれにはたゞ「親方」位階の結社員のみが參加し得るのである。第二位階の作業に於ては、新入會員の入會後約一年の時日が經過してゐる場合には、徒弟を第二位階、即ち職人位階へ昇級させるか否かに關して球による投票が行はれる。第二位階への進級には、候補者がロッヂ作業を無斷で缺席した事が無いこと、會費を正確に納入したこと、その他結社の規律を破つたことがないこと、といふ條件が揃へばそれで充分なのである。

一般的に言へば、あらゆるフリーメーソン結社員は三年乃至五年以內に「親方」級の結社員即ち第三位階の所有者になる。徒弟から職人への昇格は、成就された作業に對する報酬と考へられてゐるので、それに對して「昇進」といふ名稱が附せられてゐる。第二位階への昇進儀禮は、フリーメーソン結社に於ける少數の貧弱な儀禮の一つである。これに反して「親方」位階への昇格に際しての儀禮は戲曲的な美しさを持ち、强烈な主旨と象徵とを伴ふところの宗敎的儀式である。第二位階の敎養と儀禮とに於ては第一位階に於ける如き光明への象徵的な旅が續行される。職人位階への候補者もまた徒弟の如くに、ロッヂに於ける「三つの旅」即ち光明を一層よく觀ることが出來る爲めの象徵的な旅行

をしなくてはならないのであるが、勿論この際は眼を薄く覆はれてゐる丈である。それ故に彼の顔はたゞ薄い紗で覆はれてゐる丈であるが、これは彼が既に徒弟として殿堂の光明の傳授を受けてゐるからである。第二位階の識別合圖、識別語及び手の握り方を傳授されることによつて遂に彼は「職人」なる認識段階を獲得する。彼はかくて立體石になつたのであるが、この石は彼が徒弟の間に彼の人間性の荒削りの石に加工して出來上らせたものである。今や彼は殿堂建築の中へ組入れられることが出來るのである。立體石は職人の象徴である。

第四章　ソロモンの殿堂

フリーメーソン結社は、あらゆる國々に於ける結社法に對して、暗默裡に例外的位置を占めてゐる。結社活動に關する法的諸規定は一結社のあらゆる集合に對して、任意に或は規則的に警察官を派遣すべき權利を官廳に與へてゐるが、これは結社生活が果して國法と抵觸せぬか、また通告せられた結社の目的に眞に從つてゐるかを、警察官としては確認せねばならず、又監視せねばならないからである。フリーメーソン結社に對してはかゝる權利は通常行使せられて居ない。ロッヂ側としても我黨に屬せざる人、換言すれば所謂「世間の人」の眼前に於て、例へば探求者の採用とか第二位階或は第

三位階への昇格と言つた様な儀式的な作業は執行しないであらう。併しまた儀禮的な開會又は閉會といふ様なロッヂの通常作業も決して非結社員の眼前では開示されることはないのである。

ヴィーン大ロッヂの職場が、法律的に容認されて以來、即ち當時の社會民主黨出身書記官長ハーヌシュからその行動の官許公認權を獲得した千九百十九年以來、千九百三十四年に至るまではその「作業」をなす場合に唯の一度も結社監督官廳の代表者の臨席を見たことはなかつたのである。所が二、三年前に或るヴィン・ロッヂの成立記念祭を機として舊宮城の廣間で壯重な作業が行はれ、そして結社監督官廳にこの旨通告された爲にその官廳の役人の出席を見た時に、ロッヂは時を移さずに警視廳に電話で交渉して、役人がロッヂの作業に參加することを阻んだのであつた。

政府が結社監督官廳の代理人を規則的にロッヂの集合に派遣せしむることとなつた千百三十四年と共に、この様相に變化を來した。伊太利フリーメーソン結社の活動に對する監視勤務が始つたのである。この處置の結果、ロッヂの作業は勿論從來とは異つた進み方をとるに至つた。即ち一切の儀禮は中止され、識別の合圖とか、識別語とかは用ひられず、ロッヂの夜の集會は管理上のことゝ、それに對する講述とに限られることゝなつた。入會許可とか、あらゆる位階の昇級といふ様なものは「歷史的」にも處置され得る、即ちあらゆる儀禮的慣習なしに行はれ得るやうになり、また場所も必ずしも

ロッヂに於てゞはなく私宅に於ても行はれるやうになつた。

若し人が種々の階級の儀禮、その象徴及びその秘儀のみを知る時には、彼は精々次の如き疑問を抱くに過ぎないであらう。即ち、所謂「啓蒙された且偏見に促れない」眞面目な人々がどうしてこの様な慣習に沒頭しこの様に行き過ぎた宗教的儀式を行ひ、且それに參加し得るであらうかといふ疑問である。この疑問に關しては、人に依つて樣々な意見があり得るであらう。即ち、或人は單に假裝舞踏會や奇術のみを見るであらうし、次の人は眞の祕密や眞の目標を諸種の象徵や儀禮的所作の下に隱蔽せんとする目的と見るであらうし、最後に第三の人は、人間といふものは象徵や儀禮に依つて本當に心を迷はされ得るものだといふことを認容するかも知れない。併し眞相は、第三十位階を除けばフリーメーソン結社の儀禮といふものは決してロッヂの現實政策上及び文化上の目標、即ちロッヂの外部的作業を、その諸象徵から明瞭に瞥見せしむるものではないといふことである。

フリーメーソン結社は政治的祕密結社であるか。ロッヂ組織を「國家內の國家」として禁壓せざるを得ぬ樣に屢々政府を驅り立てた所以のものは何であるか。何故に現今四百五十萬の人間が全世界に於てこの同胞連鎖に屬してゐるのであるか。

結社は何らか政治的活動をなしてゐるといふ事實をずつと拒否し續けて來てゐるが、ロッヂ組織が

二百年以上も存續して來た今日、人はこの事實に關するフリーメーソン結社の如何なる確言をも信用することは出來ないのである。世界フリーメーソン結社の歷史は、それが伊太利、西班牙、葡萄牙、佛蘭西、波蘭、希臘や、南米諸國全體或はその他諸國家の場合に於ても、政治的革命の歷史と最も密接に結合してゐたことは、彼等の異論の餘地のない證明濟みの事柄である。

ファシスト伊太利がローマ大ロッヂの高度に政治的な活動を終熄せしめむとかゝつた時に、換言すれば、「綠色の蛇」――伊太利のフリーメーソン結社は大東社員の帶と前掛とが綠色であつたのでかく呼ばれてゐたのである――を根絕せしめむとかゝつた時に、ムツソリーニは百九百三十二年にトリノに於て、有名な次の如き演說を行つたが、その際彼は次の如き言葉を放つたのである。

「フリーメーソン結社にとつては、國民は我々の公明な流儀に從つて歡迎される爲に存在してゐるのではなくて、フリーメーソン結社に依つて欺かれる爲めに換言すれば、虛僞の諸要求と欺瞞とに充てる諸權利とに依つて瞞着されんが爲めにのみ存在してゐるのである。結社員達は、反對の敎義や原則を掲げる者があるといふ丈のことで戰爭を目論むことを決して厭はないであらう。それは表面上如何なる犧牲を拂つても中立と平和との味方であると公言してゐる連中ほど、平和の兇敵は他には存在しないからである。」

世界をその超宗派的及び超國家的原則に依つて形成しようとするフリーメーソン結社は、それが單に存在するといふこと丈で、既に一個の政治的問題である。そして更に結社はいつも政府の最も樞要なる地位にその指導的な人物を配置してゐるといふ事情が加はつて來る。我々が最近のほんの二三の例を擧げても、合衆國大統領ローズヴエルトは第三十二階級の高位階結社員であるし、英國に於てはコンノート公が大ロッヂの大棟梁であり、ウエールス公が地方大棟梁であり、コンノート公と共に英國最高評議會の正會員である。白耳義の內閣には五人のフリーメーソン結社員が大臣の椅子を占めてをり、いづれも自由黨や社會黨の首領連であつて、そのうち最も有名なのは白耳義社會民主黨の指導者ワンデルヴエルデであつた。西班牙の總理大臣レルー、チエ.コの外相ベネシュなどは、高級結社員であつた。北米合衆國の知事は五十人の中三十六人までが結社員である。上院では三百三十九の座席を結社員が占めてゐる。この僅かな事實、人名、人數が、この祕密結社の政治に對する關聯を簡單ではあるがしかも明瞭に表示てゐる。

※

一般に國家の產業、經濟等の決定的な位置にある人々、陸海軍や新聞、教育界の人々の間にロッヂの所屬員になつてゐる者のあることに就いて、多少共知られてゐるが、全く祕密に何等の制約をも受

の所屬員になつてゐる者のあることに就いて、多少共知られてゐるが、全く祕密に何等の制約をも受けないで演ぜられてゐるのは、或る國の指導的にして決定的な勢力を有するフリーメーソン結社員が公の行動を展開する場合の標準となる諸指令と諸規準であり、又國家內の國家としてのフリーメーソン結社であつて、その地下的活動が最高頂に達すると始めて認識され、その國家が充分に强力なる時は、丁度今日洪牙利や伊太利、葡牙利や獨逸に於て見られた樣に禁壓されるのである。これに反し、露西亞は一旦禁止したのを一九三五年には再建を許可してゐる。

これと關聯して、何故に基督敎的國家墺太利に於ても禁壓されなかつたかといふ疑問が提出されるのである。成程聯邦諸州に於けるロッヂ、例へばクラーゲンフルトのパラッエルズス、グラーツのモーツアルト、ヴイノネル・ノイシュタットのピタゴラス、リンツの七賢者の如きは鳴を靜めて、自由意志に從つてその作業を中止したのではあるが、數から云へばヴイーンのみでなほ二十二のロッヂが無疵のまゝ存在してゐた。數から云へば、墺國大ロッヂの意義は主として千九百三十四年に於けるマルクス派二月暴動後の大量の脫退に依つて弱體化されてをり、會員數は千九百から略々千三百に減少してゐる。文化的及び政治的には、大ロッヂの活動は一般に不活潑の狀況にあり、その現在の結社員の中で何等かの決定的な國家的位置に在るものは唯の一人も居ない。ヴイーンのロッヂは專ら私的職業人、卽ち醫者や辯護士階級や商人又は產業人から構成されてゐる。自由主義新聞の記者連や主筆連

も同様にロッヂから脱退はしたが、その新聞は以前よりも一層熱心にフリーメーソン的色彩を加へてゐるが、政府はヴイーン大ロッヂ及びその系統のロッヂの組織を法律的に禁止することはせずに、專らその「作業」を嚴格に監視してゐたのである。

※

ロッヂは入會を求むる人、即ち「探求者」から、好奇心や個人的利益、或は商賣上の利益や政治上の目的の爲めにフリーメーソン結社に加盟するのではないといふことを要求する。しかしこの問題は外面的に誓約すると同樣に內心に於ても肯定する程の人は極めて少數にすぎず、各結社員を援助し且支持するといふ責務も、それがある種の限界內に止まることも自明且論爭の餘地なきことである。而もフリーメーソン結社內部に於けるこの援助主義は、屢々「商賣上の結社」となり、政治上經濟上又は文筆上の生活に於ける相互扶助になつてしまふのであるが、この際決定的なことは結社員の個人的價値ではなくて、彼等がフリーメーソン結社員だといふ單なる事實である。フリーメーソン結社員の大多數が加盟する動機はまさにこれなのである。併し多くの者は好奇的な通を振りまはしたい氣持から、かくも隱密にして排他的な結社の一員とし、結社の祕密な目的と企圖に對する想像或は現實的共謀者であるといふことに自己意識の昂揚を感ずるがために結社員となるのである。

ら、かくも隱密にして排他的な結社の一員とし、結社の秘密な目的と企圖に對する想像或は現實的共謀者であるといふことに自己意識の昂揚を感ずるがために結社員となるのである。

※

職人が親方階級に昇格されるやうな場合に、この結社員はかゝる昇格に依つて所謂「王者の術」の眞の知者となるのであらうか、といふと必ずしもさうではない。彼は單にフリーメーソン結社の儀禮がやゝ高い程度と知つて居るのみであつて、この儀禮は第三十位階及びそれ以上の人々のみ踏み込むことが解されてゐる、ロッヂのあの政治的奥の院に關しては何事も知らないのである。

親方位階への昇格の儀式の爲めのロッヂの部屋は黒色で被はれてゐる。殿堂の中央にある三本の高い燈架は智と强さと美との柱の象徴であるが、その上にそれぞれ盤を頂いてをり、その盤には裸火の焰が炎々と燃えてゐる。これが卽ちこの大廣間に於ける唯一の照明である。この三本の柱の間には蓋の開けられた黒い棺が横つてゐる。結社員全部は「東」に席を占め、會堂長を始めとして踵までとゞく黒い僧服に身を包んでをり、頭巾は目深かに被られ、唯兩眼の爲の裂目のみを存してゐる。昇格せしめられる爲めに儀禮を受ける職人級の全員は「準備係の親方」に導かれてロッヂの中へ歩み入る。彼等は重苦しい暗黒の中に、又覆面をした結社員の姿をぞつと眺める。今度は徒弟位階授與式の時の樣に彼等の眼は縛せられてはゐないから彼等の眼が眼隱しに依つて闇の中に包まれてゐるのではなくて、彼等が不可思議な幻影の如く眺める事物と人物とが夜と死の色に包まれてゐるのである。覆面の

人物の一列はロッヂ部屋の縱側に起立して居り、また黑衣の人々は別の列をなしてゐる結社員達に背を向けながら、殿堂の中央にある三個の燭臺と燭臺の間に横はつてゐる棺とを圍んで圓形に立つてゐる。彼等はこの儀式の劇的最高頂が始まる時刻にまだこの棺が候補者の目に入らないでゐる樣にそれをとり圍んでゐる。漠として音樂、にぶい呼び聲、會堂長と準備役の親方と二人の監督との間に交される規定通りの對話等がこの儀式の進行の間中引續いて行はれる。會堂長は、何故にロッヂが深い悲しみに包まれてゐるかを候補者に説明して、ロッヂは打殺された親方ヒーラム・アビフの追悼を行つてゐるのであるといひ、從つて「神祕な旅」の途次に於てヒーラムの死體を探し、これを發見し、甦らさうとしてゐるのであると言ふ。ロッヂの講演係はヒーラムの殺害の顚末に關する傳説を述べる樣にといふ委託を受ける。かくて準歌劇風にしかも大風琴の音樂によつて情報を添へられながら、講演係が物語る内容は、ソロモン神殿の建設を委託されたヒーラムがその神殿に於て好奇心に驅られた職人達に取つちめられ、未だその時期に達しないのに親方の祕密と親方の合圖語との傳授を要求されるに至つた經緯である。しかし、ヒーラムは死を以て脅かされたにも不拘、頑として應じなかつたので職人の一人はヒーラムの胸に一撃を加へたが、この爲にヒーラムは躓いた。するとこの瞬間にもう一人の職人が鎚で頭に一撃を喰はしたので、彼は致命傷を負つて倒れた。かくてヒーラムは打殺された

が彼と共に親方の合圖語も亦失はれてしまつたのである。傳説は更にソロモンがこれらの殺人達を捕縛し、又ヒーラムの死骸が探され發見され、又犯人達が相當の刑罰を受けたこと等を報告してゐるのである。

親方位階への昇格は、又個々の職人に對して行はれるのでなくて、同時に數人の職人に對して執行される。併しながら候補者達の中の一人が全く思ひがけなくも選び出されて、このヒーラムの死に關する傳説を劇的に物語つてゐるものが、後に於て象徴的に執行される。傳説の物語が始まる前に、棺を包圍してゐる結社員の輪はその一端に於て開かれてゐる。そしてかの選ばれた一人の親方候補者は棺に背を向けた位置に立たせられる。すると彼の前には會堂長がもう歩み寄つてゐたのである。外の候補者達は、これに續く所作事の目撃者になれる様な位置に並び、講演者が傳説を讀み上げる。講演者はヒーラムが胸に一撃を喰つたといふ箇所に達すると、會堂長はこの候補者の胸に一撃を與へる。それからヒーラムが鎚を以て死が與へられるといふ所に來ると、ロッヂに居る會堂長が鎚――これは會堂長の象徴でありまた珍寶でもある――を以て候補者の額を輕く打つのであるが、この間に背後から數本の腕が彼を捕へて、彼の背後にある棺の中へ彼を押し倒す。棺は黒布を以て覆はれる。昇格者のすべてを代表して一人がヒーラムの殺戮を意味する死を象徴的に味ふのである。棺を取り圍んだ人

の輪は再び閉じられる。

會堂長及びやがてその昇格式の最後の場面を經驗する筈になつてゐる職人位階結社員の一人々々が會堂長を先頭にして今や例の「神祕なる旅」を行ひ、棺を取圍んでゐる結社員の圓のまはりを三度巡歴する。精確な步調で打殺された親方の死骸が象徵的に探求されるのである。第三回目の巡歴後になつて、會堂長と「準備役の親方」及び二人の監督が――棺の周圍の結社員達は彼等の爲に席を讓るのである。象徵的な死骸の所へ步み寄る。黑布は棺から取り除かれる。ヒーラム・アビフの死骸が發見されたのである。二人の監督と「準備役の親方」が規則通りの言葉を發しつゝ死骸を持ち上げようと試みるのであるが無駄である。遂に會堂長がロッヂの鎚を使ふ者としての會堂長の資格に依つて死骸を棺から持ち上げることを自らやつてみる旨を宣言する。死骸を引き起すことはそれが再び生に甦つたことを象徵するのである。併しヒーラムの死と共に失はれた親方の合圖語を以てその死骸は呼び醒されることは出來ない。それ故にソロモンはヒーラムと共に失はれた語を別な永續性のある言葉、即ち新しい親方の合圖語に依つて補充したのである。そしてこれのおかげで會堂長は棺の中の候補者を呼び起すことに成功する。かくてヒーラムは彼がフリーメーソン結社員といふ子孫の中に生き續けることによつて象徵的に再び甦らされたことになるのである。即ち彼は息子の中に生きてゐるのである。

フリーメーソン結社員はそれ故に「ヒーラムの寡婦の息子達」と名乘つてゐる。棺を巡る所作が終つた後に、この新しい親方の合圖語が、識別の合圖や親方の手の握り方と共にすべての被昇格者に傳授される。第三位階の授與式は新昇格者の忠誠の誓と、親方位階及びヒーラム傳說の有する象徵的祕義的意味を「準備係の親方」が講述によつてその儀式を閉づるのである。

※

親方位階への昇格式は、さま〴〵な象徵と儀式的所作に依つて表現された死の問題に對するフリーメーソン結社の態度の表示に他ならぬ。昇格さるべき職人は生と死と復活との聯關を象徵的に體驗し拔かなくてはならない。丁度彼が第一階級にあつては、準備室、即ち骸骨のある暗い部屋から三つの旅を終へ、フリーメーソン結社の全き光明へ、即ち意識された新しい生へ象徵的に昇つて行くのと同樣に、親方位階への昇格に當つては、三つの神祕な巡歷に依つて死から復活へと達しなくてはならぬのである。神の死と復活とに關する祕儀は、フリーメーソン結社の儀式に於ては解釋を變更して全く人間的なものになつてしまつて子孫に依る不滅性といふ姿で永遠の生命の王冠を得んが爲めに、換言すれば、神化の境地へと導かれんが爲めに、神の代りにヘブライ、傳說中のソロモン殿堂の建設者なるヒーラム・アビフが現はれて來てゐるのである。

※

徒弟、職人及び親方といふこの三位階の儀禮と敎義とは、猶太聖書の物語から取られたもので、この徒弟、職工、親方なる三位階のみより成る低位階ロッヂ・ヨハニス・メーソン結社の「建築傳說」の中心をなすものは、ソロモン殿堂の建設とその棟梁ヒーラムであり、ソロモン王はこのヨハニス・ロッヂと同じ「靑色ロッヂ」の有する人物群の中最も重要な人物である。所謂「人道」の殿堂の建設がソロモン殿堂に依つて象徵されるのである。ソロモンはフリーメーソン結社に取つても亦罰を下し、且それを執行する主義の象徵であつて、彼の建築棟梁の殺戮者に相當の罰を加へ、而して彼の殿堂並にフリーメーソン結社の象徵的殿堂の作業の繼續的指導を確保するのである。

第五章　恭訓と祕密嚴守

高級の諸位階こそフリーメーソン結社の祕密である。特に十八世紀にロッヂ組織の中へ入り込んで來た種々の高位階儀禮から、徒弟、職人、親方といふ認識段階に、更に一層高級な認識段階を附加した敎義から、多くの混亂と組織に關する論爭を經て、スコットランド儀禮といふ現今に於て最も勢力のある敎養が生れて來た。「古式公認スコットランド儀禮最高三十三位階」といふのが、全名稱であ

のある教養が生れて來た。「古式公認スコットランド儀禮最高三十三位階」といふのが、全名稱である所の、全世界を包容する唯一の强力な高位階組織であつて、地上の三十六ケ國にその「最高評議會」を持つてゐるが、この最高評議會こそ行政と指導とを司どる最高官廳なのである。一般に高位階フリーメーソン結社に就いて語られる場合には、常にこのスコットランド儀禮の會員のみが意味されてゐるのである。

かゝる高位階級者は、特に南歐系諸國にあつては、國家の權力を狙ふ高度に政治的なフリーメーソン精神の保持者であつたし、現在も亦さうなのである。ムツソリーニは、伊太利大東社並にローマ「最高評議會」のロツヂ組織を取除くに當つてその理由を餘りにも知悉して居たのである。實にマツツイニー及びガリバルデイ以來、若き伊太利の獨立並に統一戰爭以來、フアツシズムの支配に至るまで、高級フリーメーソン結社員こそ、何と云つても政治的な絕對的主權者であつたからである。羅馬大東社の羅馬「最高評議會」に於ける第三十三位階の所有者たることは、內閣に於ける大臣の位置或は總理大臣としての資格そのものと緊密に結合されてゐたのである。前世紀の終り頃、即ち伊太利フリーメーソン結社の黃金時代であり、且權力獲得が最高潮に達した頃には、結社員は屢々その祕密の限界から逸脫するが如き高說を弄したものである。スコツトランド儀禮の高位階は何を欲してゐるのであるか、と云ふ問に對しては、「フリーメーソン新聞」(ライプツイヒ一八七四年五月九日號)が伊太利大

東社の或會議に於て行はれた或演說から引用した次の一節が最もよくこれに明答を與へるであらう。

「ヨハニス・ロッヂは必然的に高度位階の前段階として存在するのである。それは又慈善事業を行ふのに好都合である。しかし我々の作業の重心は高度位階に在る。其處に於て我々は進步的作業、政治、及び世界史を作るのである。それ故にこそスコットランド組織を少しの搖ぎもなく維持せよ！この組織內に於て我々の祖先達、マッツィニーやガリバルディが第三十三位階の結社員であつたといふ事實はその光榮ある目的を完遂し、暴君を顚覆させ、異國人を驅逐したのである。それ故に我々はスコットランド組織を必要とする。我々にとつてヨハニス・フリーメーソン結社は何を意味してゐるのであらうか。我々にその溫和な名を與へ、この名に依つて我々をして我々の敵の裏を搔かしめるものに過ぎないのである。かの象徵は我々にとつて何を意味してゐるであらうか。それは戰の日に楯となり障壁となつて我々を保護してくれるためのものであつて、それ以外の何ものでもない。ロッヂの總ての形式は我々に取つて何を意味してゐるのであらうか。それは我々が敗北したり、或は休養や內省を要する時に、我々を我等の敵から隱匿して呉れるためのものであるに過ぎない。」

勿論高度位階のフリーメーソン結社と雖も、あらゆる時代、又あらゆる國々に於てかかる權勢ある地位を獲得し、眞に世界史を作り得た譯ではない。例へば現在の伊太利に於てはフリーメーソン結社

とその高度位階の全部は餘す所なく根絶されてしまつてゐるし、洪牙利に於ても獨逸に於ても同樣である。「墺太利最高評議會」に從屬せしめられてゐる墺太利の高度位階は無力であつて、政治をやるとか世界史を作るとか云つた所の話ではないのである。政治的權力關係の推移に依つて創り出されたかやうな一時的例外的現象は、高位階のプログラムを何等變更するものでないことは勿論、依然それはこの祕密結社が本來の行動的ツロヂとしての使命を堅持してゐるのである。而してこのプログラムは、第三十位階の儀式に於て象徴的に最も強く表現されてゐるのである。

高位階への採用は、第三位階のフリーメーソン結社員にして勿論始めて可能なのである。スコットランド儀禮の候補者は、先づ通常ロッヂの完全な會員でなければならぬし、親方位階といふ認識段階を所有してゐなければならぬ。第三階級へ昇格せしめられることに依つて三點兄弟、（註フリーメーソン結社員はその名の前に∴を打つが故に、かく呼ぶ）は、他に種々の權利をも獲得したのであるが、ロッヂの諸役にも選ばれ得ることとなつた。彼は選ばれて職場の指導的委員會たる「幹部會」へ入り得るのであつて、この「幹部會」は會堂長――彼は會堂長なる唯一つのロッヂの役目を帶びてゐるのであり、一層高位階を所有してゐなければならぬといふことはない――、その二人の代理人、講演係、二人の監督、通信係、調書作成係、財產管理人たる施物係、圖書掛、及び堂守等から構成されてゐる。施

物係はロッヂの作業の終りには何時も「寡婦の袋」を廻すのであるが、結社同胞はすべての中へ慈善の目的の爲め、ロッヂの會員や或はその資力なき遺族、寡婦の扶助の爲めに喜捨を行ふ。親方位階結社員にして始めて第三位階の他の社員達と共にロッヂを建設する、即ち、ロッヂ開設の權利を有してゐる。このロッヂ新設の爲めには尠く共七人の親方が必要である。彼等は大棟梁から「野天の下で」集會を行ふ許可を獲なければならない。以前はこれが言葉通りに解されて居つたが、今日はこの「野天」と云ふ言葉は、集會が既存のロッヂの保護の下に行はれないといふ事情を象徴的に表はしてゐるのである。この集會に於ては將來のこの職場の爲めに名前が與へられる。例へば「友情會」、「三柱會」、「ヒーラム」、「ソロモン王の宮殿」、「アルキメデス」その他澤山の名前がある。又そのロッヂ作業の特殊な準繩とか職場のプログラムとかゞ確定される。大ロッヂは、試驗と商議とを行つた後に、免許狀や作業への同意を與へたり或は拒んだりする。ロッヂの建設は、大ロッヂの側で、大抵は大棟梁自身に依り新しい職場へフリーメーソン結社の「光明」が齎らされ、そしてこのロッヂが大ロッヂの目錄に記入されて了つた時に、全く完了するのである。

※

親方結社員の象徵は製圖板であつて、それに設計圖を作成し、作業中の工手達に見取圖を與へるの

親方結社員の象徴は製圖板であつて、それに設計圖を作成し、作業中の工手達に見取圖を與へるのである。親方位階級への資格をもつて、高位階へ採用される資格のない通常のフリーメーソン結社員の經歷は結了する。

スコツトランドの儀禮高位階にとつては使徒アンドレーアスが傳統的の、禮拜の的となつてゐるので、それはアンドレーアス・フリーメーソン結社と呼ばれて、此處に於いては赤色が支配的である。

高位階フリーメーソン結社の諸ロッヂは仕事場と呼ばれ、第四から第三十三迄の諸階級が作業をしてゐる。これ等は大ロッヂの統治、指導、及び所謂「裁判權」には從屬せずに、あらゆる國に於てそれ自身獨立した「獨裁的」監督官廳である「最高評議會」を有してゐる。大ロッヂの支配するのは唯單にヨハニス・フリーメーソン結社であるが、ヨハニス結社に於ては、高位階フリーメーソン結社員が、その高位階結社員であること及び位階の段階が何であるかを爾餘の結社員に全然知られないで、單なる親方結社員として座席を占めてゐるのである。スコツトランド儀禮の會員達はヨハニス・ロッヂに於ては、親方位階の標章をつけてでなければ出席出來ず、親方位階の衣のみを着ねばならず、決して高位階及び最高位階の色彩の華かな綬や前掛をつけてはならぬと、極めて嚴格に義務を負はされてゐる。彼等は、高位階に屬してゐることを徒弟職人、親方等の如何なる結社員にも傳へることは許されない。從つてスコツトランド系フリーメーソン結社の教義や儀禮のみならず、高位階結社員の名

前すらも通常のフリーメーソン結社員には知られてゐない。高位階は、祕密結社內部の祕密であり、「終世」の外界にとつては二重の祕密である。高位階級者はフリーメーソン結社の行動主義の本當の擔當者であり、また最高の諸位階に屬する限り、眞に奧許しを得た者であり、知者なるが故に、彼等こそ結社の眞の權力を握つてゐるのである。ロッヂや大ロッヂの指導部に於ては高位階結社員は第三階級の結社員として、卽ち外見上は同等者達の間に於ける同等者として立働いてゐるが、その識見、能力、情實等に依つて決定的な位置を占めてゐる。「最高評議會」の如何なる指令に從つて、これらの認識されない高位階級社員達がロッヂや大ロッヂを支配したり制御したりしてゐるかは、他の結社員達は殆んど知らないのである。種々のロッヂが相當協力して、彼等の序列に位してゐる高位階結社員の取締のつかぬ優勢に對して反逆を試みた事は一再ならず起つたのであるが、これは常に徒勞であつた。大ロッヂの自治とそれに依るロッヂの支配と云ふことは、紙上に於て成立してゐるに過ぎないのである。眞實は「最高評議會」が、大ロッヂ及びロッヂを含めての結社の全指導權を占有してゐるのである。一例を擧げるなら、千九百三十三年まで成立してゐた「獨逸象徵主義大ロッヂ」の「幹部會」は十六人の會員から成つてゐたが、この中十一人は高位階に屬してゐて、「最高評議會」の指令に從屬してをり、他の五人は親方階級であつて、他の十一人の如く高位階の傳授又は責務に就ては知る所はなかつた。大棟梁も亦、例へば

十六人の會員から成つてゐたが、この中十一人は高位階に屬してゐて、「最高評議會」の指令に從屬してをり、他の五人は親方階級であつて、他の十一人の如く高位階の傳授又は責務に就ては知る所はなかつた。大棟梁も亦、例へばウイーシ大ロッヂに於て見られる如く、單なる親方メーソン結社員であることもあり、而も「幹部會」には彼の傍に、彼が知らないにも持らず、彼の指導に從はないで「最高評議會」に從屬してゐる結社員が居るのである。大ロッヂの協議とか決議とか布告とかにあつては、相互に了解を遂げてゐる高位階結社員達が「最高評議會」の意を體して行動するので、ヨハニス・フリーメーソン結社はスコツトランド儀禮の原則や行動や目標設定に從つて統御されるのであるが、ヨハニス・フリーメーソン結社は、それに就ては豫感以上のものを有してゐないのである。想ふに、これこそ、現存する組織の中、巧みに案出され且設計された點では唯一とも謂ふべき老獪な組識であつて、高位階に對する指導に對する指導の匿名と共に指導に對する責任を回避することを得しむるのである。

※

第三位階の結社員、即ち親方位階の結社員は本來の姿に於ける高位階の存在に就いて彼は全く一般的な知識を有してゐるに過ぎないから高位に昇級され度い願望を有して居ても、それを申出るだけでは何の役にも立たない。高位階に對しては、通常のフリーメーソン結社に對する場合と同樣に、申し出る事は出來ないのであつて、指命される以外には道がないのであるが、親方位階の結社員はこのこ

とに就ては矢張り知つてゐないのである。徒弟としては、多くの場合には職人としても同然であるが、通常のフリーメーソン結社員は何らスコットランド儀禮の存在することとさへも知らないのである。しかし彼が親方結社員となつてから勤勉であり、注意深い耳と精密な眼を有し、熱心にフリーメーソン關係の文献圖書を讀むならば、正確なことは分らなくとも、高位階の存在に就て勿論知るやうにはなるのである。この基礎的な知識を得て、彼が批判的な悟性を有してゐたならば、フリーメーソン結社に加入して以來次第に活潑に自身の念頭を刺戟せざるを得なかつた一つの問に答へることが出來るであらう。即ち、フリーメーソン結社は、その諸原則を公的生活に實行するに必要な決議を一體何處で何時決議するのであらうか、これがその疑問である。と云ふのは、ヨハニス・ロッヂの「作業」に於ては、實に何時も僅かの講演と、狹い結社生活の範圍を超えた僅かの決議や布告を聞いたに過ぎず、また單にかゝる投票や儀禮上の行事や儀式に參加したに過ぎないからである。ここに於て「作業」といふ表現は益々事實上、見ることが出來ず、それ故に彼には缺如してゐるものに對する象徴となるのである。即ち、フリーメーソン結社の外的な仕事、その諸理念の實現、その文化的目標の具體的な追求等に對する象徴となるのである。高位階の存在に關するこの基礎的な知識を以て彼は、事實上の作業に對する疑問に對しては、この事實上の作業こそは一層高度の認識段階の爲めに留保されてゐるに

求等に對する象徵となるのである。高位階の存在に關するこの基礎的な知識を以て彼は、事實上の作業に對する疑問に對しては、この事實上の作業こそは一層高度の認識段階の爲めに留保されてゐるに違ひない、と答へるに至るのである。そしてこの假定にだては誤つてゐないのである。

※

第一位階から第三位階に至る迄の昇格は時日の問題にすぎず、時日さへ經過すれば昇格は純粹に自動的に展開される。これに反して第三位階から第四位階への昇格は、原則上の眞價と有能さとの問題である。フリーメーソン結社員は一生を通じて親方位階の位置に止まることもあり得るし、兎に角この位置に止まる結社員の數は、第四の認識段階への奥許しを得る人々の數よりも、卽ち、スコットランド儀禮組織の中へ、換言すれば高位階の世界的連鎖の中へ編入される結社員の數よりも、遙かに多數なのである。第四階級への昇格と共に彼等は、その儀禮が明瞭に示してゐる通りに、高位階フリーメーソン結社の徒弟となり、既にヨハニス・ロッヂの親方であるにも拘らず、新に最初から始めなければならない。第四位階は彼等に「祕密の親方」の位階を授けるのである。

高位階は能力に應じての選擇といふ原則の上に築かれてゐる。それ故に自己推擧は何等の役にも立たぬ。これに反して下層三位階に屬する會員が特殊な活動に熱心であり、「長方形」卽ち「青色ロッヂ」以上の作業をなすに適當であると推測せしめるに足る能力を示すならば、「完全ロッヂ」は彼に對して要求する爲に會合するのであるが、御當人はそれを知らない。「完全ロッヂ」に席を有する者

は、一國の樣々のロッヂの有能且つ適當と認められた結社員である。票決される筈になつてゐる結社員に關してはロッヂ生活に於けるその活動振りをずつと見て來た一人の高位階の結社員が、詳細に報告して置くのである。かくて投票はヨハニス・ロッヂの場合とは異つて白と黑との球を用ひるのではなく、口頭の討議と公然の票決とに依るのである。投票は滿場一致が必要である。唯の一票と雖も候補者を閉め出してしまふのである。票決が拒否的な結果になれば、候補に上つた人は、何も知らないでしまふ。即ち、彼が見込をつけられてゐたことや、彼の昇格に關して票決がなされたことも知らないでしまふのである。彼の昇格に對して高位階結社員のすべての投票が有利であれば、「完全ロッヂ」の一會員がこの候補者と接觸を保つことを委託される。この候補者である親方位階の結社員を相手に、高位階に關する純粹原理的な責任のない會話が交はされ、その序でに、彼が高位階フリーメーソン結社の職場と仕事に興味を有してゐるかどうかが質問される。當該親方は、殆んどいつもその會話に驚かされてしまふもので、この會話が何を目論んでゐるのか、又これが如何なる結果になるのかを知らないのである。而も殆んどいつも高位階への興味に對する質問は肯定される。數日後にはこの高位階結社員は候補者に對して、彼が昇格されるに適當してゐると認められたこと、又これまで聞知した一切に關して最も嚴格に沈默を守らねばならぬことを傳達する。

結社員は候補者に對して、彼が昇格されるに適當してゐると認められたこと、又これまで聞知した一切に關して最も嚴格に沈默を守らねばならぬことを傳達する。

「祕密の親方」の仕事場は黑色で蔽はれてをり、「涙」と呼ばれてゐる白い不規則な斑點がその上にばら撒かれてゐる。卽ち、第四位階も亦打殺されたヒーラムの喪をその旗幟としてゐるのである。候補者達は薄い目隱しをつけてゐる。彼等は首の廻りにつけられた綱をとられてロッヂの中へ連れて來られる。この綱は、その爲めに人間がこの世に於てあちこち引張り廻はされるあの偏見と情熱との象徴である。第四位階への昇格に際して、光明に向つて、卽ちフリーメーソン結社精神から見て完全なる生活に向つての四つの「神祕な旅」が行はれる。「東」、「西」、「南」、「北」から發せられる聲が、この候補者に向つて認識標語を呼びかけ、「祕密なる親方」の主要なる德義は恭順と祕密嚴守であらねばならぬことを指示し、明確な誓約に於てこの事が特に强調されるのである。

「三倍も威力ある親方」卽ち會堂長は、月桂とオリーヴの枝から成る葉冠を手に取る。候補者達はロッヂの祭壇の前で、右膝を輕く曲げながら、光明への探求を象徴する燃える蠟燭を持たねばならない。候補者の全部に對して會堂長は月桂とオリーヴから成る葉冠を通りすがりに額にのせて行き、「予は月桂とオリーヴとを以て汝等に戴冠す」と言ふ。それから彼は劍を取つて、それを候補者の頭上に水平にあげ、「我々と共にスコットランド儀禮の世界連鎖を形成せる我國の最高評議會及びすべての國々の最高評議會の名に於て、又その主宰の下に、この最高評議會の「獨裁最高統監」達の委託に依つて、

予は汝等を得度せしめ且つ汝等をこの完全ロッヂの祕密なる親方結社同胞として採用する」と言ふ。得度式の間に、新昇格者達の目からは目隱しは取り除けられ、綱も亦外され、蠟燭も消されるである。

高位階フリーメーソン結社員の會合は、三つの下位階のロッヂ作業が執行されるのと同じ部屋に於て催される。もとより異つた日、異つた時刻に催されるのであるが、それは唯スコットランド儀禮の會員達にのみ知られてゐるのである。

第六章　王者の穹窿

スコットランド儀禮は種々な認識段階を以て人類の精神的並に文化的發展を象徴的に遍歷せんとするものである。その有する三十三位階――この中には徒弟、職人、親方といふヨハニス・フリーメーソン結社のかの三つの位階も亦算入されてゐるのであるが――は三つの時期に分たれ、人類史の三つの大きな文化期、即ち、猶太的建設期、基督教期、及び自由主義的啓蒙期がそれらに對應せしめられてゐる。第四から第十四位階までの仕事場、即ち所謂「完全ロッヂ」或は「完全ロッヂ」と呼ばれてゐるものはかの「青色ロッヂ」の三位階と共に、猶太的建設期を表はしてゐる。と云ふのは、その儀禮は專ら聖書の傳承の中に根ざして居り、舊約聖書の猶太的背景に於て演ぜられ、且つその中心を

儀禮は專ら聖書の傳承の中に根ざして居り、舊約聖書の猶太的背景に於て演ぜられ、且つその中心をなすものは、ソロモン殿堂の建築の象徴と、その建設者なるヒーラム・アビフであるからである。

第四から第十四位階に至る諸位階の順序は次の如く呼ばれる。即ち、第四は「祕密の親方」、第五は「完全な親方」、第六は「祕密の祕密」、第七は「裁判長」、第八は「建築物監理者」、第九は「選り拔かれたる九の親方」、第十は「選り拔かれたる十五の親方」第十一は「選拔されたる崇高なる騎士」第十二は「建築の大棟梁」、第十三は「王者の穹窿の親方」、第十四は「偉大なる被選拔者」である。北米合衆國――ワシントンとボストンにあるその二つの最高評議會は、これら諸位階のそれぞれを儀禮的に別のロッヂに分けてゐる――のを除けば、爾餘のフリーメーソンに於ては、旣に述べた「祕密な親方」といふ第四位階及び「王者の穹窿」といふ第十三位階のみが、完全なる儀禮を營むのである。他の認識諸段階は、その儀禮律、その認識の合圖、會圖語、及び手の握り方と共に、單に「歷史的に」、即ち儀式拔きで純粹に物語風に傳授されるのである。

※

スコツランド儀禮の高位階組織は眞に世界を包容する緊密に組織された連鎖である。ロッヂ組織は統一のある超國家的な世界組織であるといふ主張に對して、結社の同胞達は、その色彩を和げんが爲め、或はこれを拒否せぬ爲めに、好んでヨハニス・フリーメーソン結社の屢々世界觀的に、政治的に、

或る國家的に別々な行進を續けてゐる諸大ロッヂの狀況を指示する。又彼等は一國內に屢々數箇のフリーメーソン結社の團體が、即ち數箇の青色ロッヂの監督廳が存在してゐて、それらは決して眞に平和裡に且つ原則的な一致の裡に協同して作業してゐないといふ事實を强調してゐるが、彼等の論據は極めて薄弱なものである。それは大抵彼等が故意にか、高位階といふものを見逭して居るからであつて、この高位階相互の間の關係と協同とはヨハニス・フリーメーソン結社の場合とは全く別種のものである。象徵主義的なフリーメーソン結社、即ち下層三階級のフリーメーソン結社とその大ロッヂとは二個の弛い超國家的な關聯を有してゐるに過ぎない。フリーメーソン結社の大團體、即ち大ロッヂを總括してゐる蓋掩組織の第一は、國際フリーメーソン協會（Association Maçonnique Internation-ale）であつて、略してA.M.I.と呼ばれてゐる。

A.M.I.はその中央本部即ち事務總局をジュネーヴのリヨン街六十一番地に置いてゐる。その現在の事務總長は第三十三階級の結社員なるジョン・モサーヅである。大ロッヂ聯合及び世界事務所は、千九百二十一年十月十九日より二十一日迄に至る國際會議に於て、スイス大ロッヂ「アルピーナ」の猶太人大棟梁イザーク・レヴエルヒヨンの發起に依つて建設された。併しA.M.I.は決して世界の大ロッヂを悉く包括してゐるものではなく、寧ろそれには英蘭とか蘇蘭とか愛蘭とか北米合衆國とか濠

ロッヂを悉く包括してゐるものではなく、寧ろそれには英蘭とか蘇蘭とか愛蘭とか北米合衆國とか濠州聯邦とかいふ樣な、世界の大多數を代表してゐるフリーメーソン結社の大ロッヂが缺けてゐる。ヨハニス・フリーメーソン結社の第二の掩蓋聯合は「フリーメーソン總同盟」(Allgemeine Freimaurer liga)である。これはその超國家的活動に於てエスペラント語を用ひて居るが、その理由は、このフリーメーソン聯合がフリーメーソン結社員から成るエスペラント同盟から生れて來たものだからである。この總同盟は、公式には(エスペラント語で)ウニヴエルサラ・フラマソナ・リゴー(Universala Framasona Ligo)と呼ばれてゐる。全世界に散在せるその地方團體の中央本據は同じく瑞西に、而もバーゼルのビュフアング路十三番地に存在してゐる。現今の統領は大學講師ドクトル・フリッツ・ウールマンであつて、最も熱心な中歐高位階フリーメーソン結社員の一人であり、ロッヂ組織に關する數多の著の作著者であり、且つバーゼルの薔薇十字僧會「眞理」の主座を占めてゐるのである。略してA.F.L.呼ばれるこの聯合はA.M.I.と異つて、大ロッヂと大ロッヂを結ぶ組織ではなく、結社員と結社員とを、個人と個人とで結ぶ組織である。全世界の正式のフリーメーソン結社員は誰でもこれに加盟することが出來る。これも亦眞に全世界を包容する徹底的な世界連鎖ではない。ヴイーン大ロッヂの高位階結社員達がこの組織の主動的な建設者であつた。A.F.L.の墺太利に於ける地方群は今日に於てもなほ存立してゐるが、一方ではまたヴィーン大ロッヂは現在に於てもなほA.M.I.の

組合員であり、且つそれに依つてその超國家的な諸關係を維持してゐるのである。否、墺太利のフリーメーソン結社監督廳は、A.M.I. の諸問委員會に於て指導的な地位を占めてゐるのである。洪牙利象徴主義的大ロッヂの禁止を解くために、最近の十年間に洪牙利政府に對してかの政府的干渉を試みたのも、矢張りこの墺太利の結社であつて、A.M.I. の力を借りると同時に瑞西及び紐育の大ロッヂと連絡をとつて干渉を行つたのである。併し此の試みは、當時の大臣ベトレン伯及びラコヴスツキーの態度と王國攝政ホテルテイーの態度に依つて失敗に歸した。フリーメーソン結社はシュテファン王朝の國（洪牙利）に於ては禁止された儘になつたのである。

既述の如く、高位階結社の超國家的聯關に關しては、事情は異つてゐる。千八百七十五年に、當時存在せる「最高評議會」の全部、即ち高位階フリーメーソン結社の種々な大勢力が、またもや瑞西に於て所謂ローザンヌ同盟を設立した。この世界的聯合の制定した條文の中に、緊密なる行政上の組織、統一ある精神的結合、一切の重要なる利害問題と行動とに於ける具體的な共同動作等を保證するかの諸原則のすべてが確定されてゐるのである。かくてこのローザンヌ同盟と共にかの世界フリーメーソン結社が實際に設立されることになつたのであるが、かかる世界的組織に就てはロッヂの敵對者が常にその存在を主張してゐるにも拘らず、常に結社員自身に依つて意識的或は無意識的に拒否されるのである。この同盟の最も重要なる規定の一つは次の

……たのであるが、かかる世界的組織に就てはロッヂの敵對者が常にその存在を主張してゐるにも拘らず、常に結社員自身に依つて意識的或は無意識的に拒否されるのである。この同盟の最も重要なる規定の一つには次の如きものがある。即ち、ヨハニス・フリーメーソン結社の大監督廳とは異つて、あらゆる國家に於てスコットランド高位階の大團體は唯一つだけが即ち唯一の「最高評議會」だけが存立を許されてゐるといふのである。その領土的事情とフリーメーソン結社の數的事情のために、北米合衆國に對してのみ例外が認められてゐる。即ち、合衆國に於ては二つの「最高評議會」があり、ボストンには北部管區のそれがあり、ワシントンには南部管區のそれがあるのである。この南部管區の「最高評議會」は世界最古のものであつて、千八百一年に設立され、全高位階フリーメーソン結社の「最高評議會の母胎」として通つてゐる。その總長はジョン・エチ・カウレス (John H. Cowles) であり、數年前にメソデイスト教會の建設と外交官大學の設立の爲めに「最高評議會」の資産中から二百萬弗を喜捨したこともある。併しワシントンの「最高評議會」は單に精祕的優位を有してゐるに過ぎず、決してスコットランド儀禮の中央政府といふわけではない。スコットランド儀禮系世界連鎖の樞軸はローザンヌ同盟であつて、實にこの同盟に於て全赤色フリーメーソン結社に對する統一ある儀禮と統一ある象徴の祕事のみならず、就中統一ある世觀的原則の宣言も創られたのである。文化活動的——一層適切な語を用ふれば——文化鬪爭的な南歐系高位階フリーメーソン結社、即ち佛蘭西、白耳義、西班牙、メキシコ或はまた往時に於ては伊太利や洪牙

利の、自由主義的革命主義及びマルクス主義的自由思想主義の「最高評議會」の高位階フリーメーソン結社は、この同盟に於て最も勢力ある役割を演じてゐる。

北米合衆國に於てはフリーメーソン結社は世界の何處に於てよりも普及してをり、比肩するものは精々英島帝國のみである。北米のロッヂ組織だけで三百三十萬の會員を數へてゐる。合衆國の建設そのものがフリーメーソン結社の歷史と最も緊密な關係がある。「祖國の父」と呼ばれ、「獨立國家のコロンブス」と呼ばれる初代大統領ワシントンはフリーメーソン結社員であり、フリーメーソン結社聖典によつて國家宣誓を行つた最初の人であるが、それ以來この遣り方が慣例となつてゐる。合衆國のこれまでの大統領の中十二人がフリーメーソン結社員であつた。現大統領ローズヴェルトは第三十二位階所有者のであり、ニューヨークの「和蘭ロッヂ第八號」の會員である。その內閣には五人の結社員が席を占めてゐる。公の閲覽に供してある白亞館の構成員の官職表には、此の上院議員の氏名に添記してそのフリーメーソン結社員としての位階の數字をも示してゐる。米國フリーメーソン結社の資産關係は巨大なものに達してゐる。あらゆる州はそれ自身の大ロッヂを有してゐる。それ等の多くのもの、例へばニューヨーク州又はニュジャーシー州の大監督廳は、公益の目的でなされる當座の極めて大規模な支出に就ては云はないとするも、尚ほ五千萬乃至八千萬弗の間を上下する基本財産を有

してゐる。北米フリーメーソン結社は、英國に於けるものと全く同樣に、一個の公の勢力であつて、これ等二國に於ては、ロッヂは最早その優位と存立との爲めに戰はなければならぬといふ事はないのである。それ故にアングロサクソン系の結社は、强力な敵に對立しなくてはならぬ他の國々のロッヂ組織の如くには鬪爭的ではない。國家行政と政治とは合衆國及び英國に於ては全くフリーメーソン結社の精神に於て遂行されるので、公の政策もこの結社の政策と一致するために、ロッヂは非政治的であり得るのである。フリーメーソン結社の組織を辯護せむが爲めに英米の大ロッヂの非政治的態度を指示するのは實狀の意識的或は無意識的誤認であり、原因と結果との取違へである。

更に言つて置きたいのは、合衆國及び英島帝國に於て何等かの位階や名聲を有してゐるもの、或は又何等かの公の地位についてゐるものは、總て文字通りに結社同胞の連鎖に屬してゐるといふことである。

※

フリーメーソン結社が初代大統領ワシントン及びその一黨と共に北米に於て根據を固めた後の數年間に於て、「王者の術」は力强い飛躍を遂げて、この祕密結社の成長も亦この無限可能性の國土北米に於ては、この國に特有なテムポを以て實現された。

最大のロッヂ、即ちニューヨーク大ロッヂは、千八百二十六年に既に二萬の會員と二百二十七のロッヂを數へたが、一年後には、驚くべきことには、千五百の會員と四十一ロッヂのみになつてしまつたのである。この衰頽現象は、合衆國の他の諸州の大ロッヂに於ても同様に激烈に見られ、且つ十年間に亘つて持續したのであるが、この大きな衰頽の原因は何であつたらうか。「モルガン事件」が北米フリーメーソン結社の發展の途上に突如として起つたからで、かゝる大量の脱退は、既に全權力を得むと驀進しつゝあつた結社に對して最も激しい迫害を産むに至つたのであるが、この事件の與へた打撃が極めて大きかつたので、この事件にペンペン草が生えてしまつた頃になつて、結社は漸く再びその今日に見られるが如き優位に達し得たのであつた。即ち、千八百二十六年に、當時ニューヨーク州のバタヴィアに住んでゐたウイリアム・モルガンの身邊に關して、彼がデイヴィッド・シー・ミラーと共著でフリーメーソン結社に關する一書を出版せんとし、この書はフリーメーソン結社のすべての教義、儀禮、象徴、識別の合圖など詳述するであらうといふ噂が流布された。恐しい興奮がフリーメーソン結社員達の心をとらへ、先づ彼等はバタヴィアの新聞「時代の精神」に於てモルガンに警告したが、モルガンはそれでもこの著作は公刊されるであらう、と應答した。そこで結社員仲間は小範圍の人々の間で或る行動に出ることを議決したが、これは後に法廷に於て立證されたし、又「國際フ

したが、モルガンはそれでもこの著作は公刊されるであらう、と應答した。そこで結社員仲間は小範圍の人々の間で或る行動に出ることを議決したが、これは後に法廷に於て立證されたし、又「國際フリーメーソン百科辭典」に於ても認められてゐるものである。即ち、モルガンを誘拐して、安全な場所に監禁を行ふといふのである。さうしてその書の出版を思ひ止まらせようとしたのであらう。事實モルガンは誘拐され、姿を消した。ロッヂの此の行爲は、次第に國民の廣い層にセンセイショナルな印象を與へ、遂には文字通りに合衆國の公衆の全部が同じ印象に拐はれてしまつた。やがて最も殺伐なる噂が生じて、モルガンはフリーメーソン結社員に依つて射殺されたとか、モルガンは「王者の穹窿」と稱せられる第十三位階のロッヂに於て、九つの高いアーチに依つて支へられた地下殿の穹窿の中へ突き落されて頸骨を折つたといふ様な噂が生じたが、後日結社員達の主張に依れば、モルガンは千八百三十一年スミルナに於て、再び姿を現はしたとのことである。それはともあれ、このモルガン事件に依つて、反フリーメーソン結社主義が州選擧及び大統領選擧を行ふに當つてプログラムになつた。かくてロッヂ組織は亦もや犯罪劇の中心に推しやられたのである。反フリーメーソン會議や、千八百二十七年に成立した反メーソン黨――その指導者は後の大統領フイルモアである――の疲れを知らざる活動や、ロッヂを敵視する政論の潮などによつて充されてゐた時代を乘り切ることは、ロッヂ組織に取つては實に困難なことであつたのである。

※

「完成ロッヂ」の最も重要なる位階は、第十三位階の仕事場である「王者の穹窿」といふ認識段階であつて、これは『ソロモン』の殿堂建設の代りに、フリーメーソン結社の人道主義殿堂の建設を行ふに第二の殿堂である理想殿堂の建設をその仕事とするのである。王者の穹窿は、この世を壞滅せしめるかも知れない。大洪水の水流を超えて聳えてゐなくてはならない。そのため『穹窿』は九つの高い支柱の上に築かれるのである。フリーメーソン結社の建築象徴と建築傳説とは、第十三階級に於て祕義の最高頂に達し、完全ロッヂの最後の位階なる第十四位階――これに薔薇十字團と稱せられる僧會位階が續くのである。

これと共にフリーメーソン結社の建築上の象徴化は終り、これに基督教的宗教期が續くのである。第十五階級から始まる「僧會」の入口に至るまでの完成ロッヂを經過してゐる昇級は、個々の高位階結社員の示した業績と能力との程度による。卽ち、彼の活動に對する報償としてのみ與へられるのである。完成ロッヂの樣々の認識段階への導入に對しては何等一定の時間的要求はなされないのであり、この完成ロッヂの種々の認識段階は、その敎義と儀式に於て、その象徴法と儀禮樣式に於て、ロッヂの諸室の裝飾の華やかな彩色とか、諸傳說の幻想的なる點とか、前掛や帶などの豪華なこととか云ふ點で、種々樣々な方式を反復してフリーメーソン結社の象徴的建築の主題を展開してゐるのである。

前掛や帶などの豪華なことか云ふ
點で、種々様々な方式を反復してフリーメーソン結社の象徵的建築の主題を展開してゐるのである。

第七章　薔薇十字團

第十九から第十八位階迄の仕事場は「僧會ロッヂ」であるが、この儀禮は人類史の基督教宗教期、即ち十字軍の時代を象徵化してゐるのである。この僧會ロッヂの教義、禮拜、象徵或は儀式は、最早フリーメーソン結社の建築傳說をめぐるものではなく、またその中心にはソロモンの殿堂の建設者として殺された親方ヒーラム・アビフも存在せず、第一から第十四までの諸位階は猶太の聖書物語から因由した儀禮様式と象徵法とに結びついてゐるが、それから先へは展開しないのである。

高位階フリーメーソン結社の作業は、既に完全ロッヂ（第四位階から第十四位階まで）もさうであるが、就中僧會級の作業に至つては、儀禮的禮拜的形式に於ては平均して年に一回催されるに過ぎず、當該認識段階への新會員の採用乃至昇格を兼ねて行はれるのである。例月一回行はれる他の會合のすべては、作業の儀禮的な開會と閉會とを除いては、儀禮も儀式もなしに行はれる。高位階結社員が嘗つて青色ロッヂの親方であつた頃、ヨハニス・ロッヂの職場の集會に際して、フリーメーソン結社の本當の能動的な文化的對外部作業は、何時又何處で爲されるのであるかを常に問題としたのであつたが、今や彼は、完成ロッヂを超えて僧會級へと位階を昇るに連れて、積極的な具體的な作業の重心は、高

位階及び最高位階の中に存する、といふことを認識するに至るのである。勿論今尚ほ内部的作業、即ち個々の結社員のフリーメーソン的人間性に對する作業は行はれてゐるが、それはこの文化政策的な問題圏に比べると全く背景に引込んでゐる。儀禮を行ふのは、前述の通り年に一度と限られてゐる。フリーメーソン結社員の訓練としての講演は最早行はれないで、高位階の歴史と象徴とに關して教示の意味に於て極く稀に行はれるだけである。そして作業の内容は、全く現實的な行動や目的設定や諸計畫に關する討論と議決とである。殊に南歐系フリーメーソン結社に於ては、僧會級が既に政治倶樂部である。

※

第十八位階の僧會——これは僧會級の最高のものであるから、我々は他の僧會諸階級に對する範例としてこの認識段階を選んで論ずるのであるが——毎月一回しか集會を催さないのである。その理由は決議事項の實行及び個々の結社員に與へられた委託事項の遂行は通常一ケ月位を要し、それらの事項が既に爲し遂げられたものとして一應吟味される事が出來るやうになるには、それだけの時間が必要だからである。通常の作業には結社員はフリーメーソン結社員の衣をつけずに、普通の外出着のまゝで集會を開く。各會員は互に知り合つてゐるので、何等かの認識の合圖を與へる必要はなく、各自のロッヂでは思ひ思ひの席に就く。他所からの訪問者や外國の「大東社」の高位階結社員は、

ゝで集會を開く。各會員は互に知り合つてゐるので、何等かの認識の合圖を與へる必要はなく、各自ロツヂでは思ひ思ひの席に就く。他所からの訪問者や外國の「大東社」の高位階結社員は、その位階の識別の合圖、合圖語、手の握り方等に關して既に豫備室に於て吟味を受けさせられる。丁度ヨハネス・フリーメーソン結社の青色ロツヂに於て高位階の所有者達が、下層認識階級の結社員にそれと氣づかれ判明される事なしに混在してゐる如く、僧會に於ても薔薇十字の騎士達に混つて、同樣此の騎士達に依つて得度段階をそれと氣づかれることなしに、一層高位階即ち第三十位階や第三十三位階の結社仲間達及び評議會の「獨裁最高統監」が席を占めてゐるのである。

薔薇十字團の仕事場は純然たる行動ロツヂである。その作業は參與者に對して、專ら文化政策的な内部を開いて見せる。そこで討議されるのは、フリーメーソン結社の意圖及び目標に關して、公衆を啓蒙するための大集會の開催を如何にすべきか等であつて、例へば佛蘭西大東社がその國のあらゆる地方に於て規則的に開催せしめてゐる集會の如きがそれである。又講演者が決定され、主題の仕上げが委託される。又例へば「人權擁護聯盟」（註、この人權といふ語の代りに猶太經典タルムードの用法に從つて猶太人といふ語を置くならば、この聯盟のなした仕事が容易に理解される）の設立の如きも此處で議決されたのであつて、その種の聯盟は、假令それが佛蘭西、墺太利、或はチェコ・スロヴァキア等の如何なる國に於て存立するにしても、總てフリーメーソン結社の設立にかゝるものなのである。既に以前から

最高評議會が命令を發して、如何なる高位階結社員達が指導的委員會に席を占むべきか、又前掛を有せざるフリーメーソン結社員の誰を、換言すれば、會員ではないがロッヂの精神に從つて作業をしてゐる如何なる俗世の人々を、擬装のために聯盟の共働者として獲得すべきかを指示したのであつた。伊太利「人權擁護聯盟」の幹部は最近までは七十パーセント迄フリーメーソン結社員から成つてゐた解消された獨逸「人權擁護聯盟」はマルクス主義的なる「獨逸象徴主義大ロッヂ」の建設にかゝるものであつた。

更に例へば「汎歐洲運動」の促進に關して論議され、その爲に必要な措置が議決され、個々の結社員はその能力と勢力とに從つて細目の課題を委託されたが、それの遂行は恭順と祕密嚴守といふ二大根本法則に從はせられてゐるのである。「ヴィーンの谷にあるモーシアルト僧會」は、元來「佛國最高評議會」に依つて設立されたものであるが、此の僧會ロッヂから當時のかの汎歐洲運動の理念が發出したのであつて、その理由は、この運動の創立者ニコラウス・クーデンホーフエ・カレルギーは伊太利高位階結社員であつたからである。汎歐洲運動の徽章が臙脂の中に持つてゐる十字架は、薔薇十字僧會の象徴に模して作られたものである。

作業の經過に伴つて、自由主義新聞に掲載すべき防禦論説が議決され、何人がその論説の緒言を作り、又その公表を引受けるかゞ定められる。又フリーメーソン結社の建設にかゝるものでありながら、

作業の經過に伴つて、自由主義新聞に掲載すべき防禦論說が議決され、何人がその論說の緒言を作り、又その公表を引受けるかゞ定められる。又フリーメーソン結社の建設にかゝるものでありながら、公衆がそれに就ては少しも知らぬ文化政策的諸協會の支持の爲の寄附金が協贊され、或はまた、人的聯絡を通してロッヂの指導下にありながらも、結社員の大多數はそれと知らない諸組織に對しても寄附金が與へられたりするのである。伊太利に於ては、例へばベライトシヤフト社、嘗ての「社會教育學協會」、またフリーメーソン結社に精神的に近親たる猶太人ポッパー・リュンコイスの理念を宣傳せんとした「一般食養義務協會」などは、何れもロッヂの建設にかゝるものであつた。此處數年は幾分鳴をひそめてしまつたが、以前は、ヴイーン大學の聽講者達を虛假威をかつて自由主義的並にマルクス主義的精神方向へ導く爲めに、外國の一流の學者や政治家を講師として招聘したヴイーン大學の「文化科學協會」は、ヴイーンのロッヂ「未來」の建設にかかるものであつた。「ヴイン民衆教養協會」も亦その源を尋ねれば皆フリーメーソン結社の發起にかゝるものである。伊太利の結社に依るかやうな協會建設の諸例は、丁度薔薇十字僧會の作業の協議事項の諸實例が手當り次第に摑み出された拔萃にすぎなかつたと同樣に、全くその一部にすぎないのである。とにかく、あらゆる問題領域に於けるフリーメーソン結社の作業の具體的な證據をあらゆる國に亘つて提示することは、餘りに煩瑣にすぎることゝなるであらう。

第十五位階なる「劍の騎士」の儀禮が既に、十字軍參加者の物語を「狂信主義」に反對して自由のためになされる戰といふ敎義の見地から象徵化してゐる。第十六位階の稱號たる「エルサレムの王子」は、その名前そのものが、この位階の象徵と儀式との中心をなしてゐる十字軍に關するテーマを暗示してゐる。このことは第十七位階たる「東西騎士」の場合も同樣であつて、それは十字軍に依る西洋と東洋との交易といふ題目を象徵的に取扱つてゐるものなのである。

最後にして且つ最高の僧會位階たる第十八位階の「薔薇十字騎士」は、昔の黃金十字又は薔薇十字團とは何等直接の歷史的關係を有してゐない。成程、フリーメーソン結社と昔の薔薇十字團との間の直接の結合を主張したり、十八世紀に於て薔薇十字團が、フリーメーソン組織に對して强い影響を與へたことを立證せんと努めてゐる薔薇十字團系の理論もないわけではない。もし直接の關係を求めるとすれば、スコツトランド儀禮がその三十三階級から成る多種多樣な儀禮の中へ、即ちその位階組織の中へ、昔の高位階組織——十八世紀のロツヂ組織は、これを豐富に有してゐたのであるが——を採り入れて用ひたことがそれである。スコツトランド儀禮はその組織の建設の進行中に、薔薇十字級結社の儀禮に關しても同じ遣り方を行つたのであるが、勿論スコツトランド儀禮の薔薇十字團と眞の薔薇十字團との間には、何等歷史的關係はなかつたのである。スコツトランド儀禮が薔薇十字團の理念財を全く獨自の精神性に於て創造したことは、フリーメーソン結社の

薔薇十字團との間には、何等歴史的關係はなかつたのである。スコットランド儀禮が薔薇十字團の理念財を全く獨自の精神性に於て創造したことは、フリーメーソン結社の禮拜の中で、最も强烈且つ疑ひもなく最も美しいものゝ一つである薔薇十字僧會への採用儀禮からもこれが明瞭となるのである。

※

薔薇十字僧會への採用は二つのロッヂに於て執行される。先づ舞臺は完全に黒色の陰氣に照明された殿堂である。儀禮の第二部は燃える樣な赤色の、輝しく照明されたロッヂへ移される。候補者である「東西騎士」達は、目隱しなしに、「準備係の親方」に導かれて黒いロッヂへ入る。この階級にからまる傳説は、打殺された親方ヒーラムのための追悼と、ヒーラムの殺戮と共に失はれた親方の會圖語との事をもう一度暗示する。主座としての「賢明なる親方」と僧會の結社員達とが、三つの象徴的な旅、即ちロッヂの三回の巡回を實行するが、その際候補者達は先づ信仰の柱の上にある陰鬱な光を消し、次に愛の柱の上の光を、最後に希望の柱の上の光を消す。即ち、信仰も愛も希望も絶滅してしまつたといふのである。薔薇十字の騎士達は今や全く闇黒になつてしまつた殿堂を去り、東西騎士達のみが其處に殘る。かなり長い時が經過した後になつて始めて彼等はこの殿堂の外部にある準備室へ連れ戻される。そこでは「準備係の親方」即ち「精通者」が薔薇十字團の象徴の歴史に關する教示を彼等に與へる。この後になつて彼等の眼は不透明な紗で縛られる。かくて彼等は薔薇十字の王子達又

は騎士達の本來の僧會へと導かれて行く。

禮拜は「賢明なる親方」の發する質問、即ち、候補者達はかの失はれたる言葉を探し、そしてそれを發見したか、といふ質問を以て始まる。候補者達の代りに「準備役の親方」が彼等の辛勞多き探求の次第を物語り、彼等が全く希望を失ひ且つ力盡きて倒れてゐた時に、突如或る祕密な聲が彼等に或一語を囁きかけたことを物語る。それ故彼等は、この語を記錄して、黃金の筐に收め、この語が眞にフリーメーソン結社の失はれた語であるかどうかを吟味してもらふ爲めに、僧會長の許にそれを齎したのであると話が續けられる。「賢明なる親方」はこの筐を開き、そして槌を以てロッヂの祭壇を一定のリズムで七回叩き、I. N. R. I. と文字を綴つて言ふ。彼は僧會長としての資格に於て、この語が正しいことを宣言するが、併しそれは基督教で說く如く Jesus Nazarenus Rex Judaeorum（猶太の王ナザレのイエスではなくて、Igne Natura Renovatar Integra即ち「火に依つて自然は更新され純粹さと淸淨さに達する」といふ意味であることを宣言する。この解釋は昔の黃金十字團及び薔薇十字團の神祕的な錬金術的な思想圈への關聯を明らかに示してゐる。失はれた言葉を發見したことの報償として昇格されることに決つた人々が、薔薇十字僧會の完全な光を直視することを許される前に、短い一つの象徵的所作が演ぜられる。「準備役の親方」が祭壇の前へ進み出る。彼は手に一つの赤い薔薇を持つてゐる。「賢明なる親方」は一つの小さい十字架を取り、

短い一つの象徴的所作が演ぜられる。「準備役の親方」が祭壇の前へ進み出る。彼は手に一つの赤い薔薇を持つてゐる。「賢明なる親方」は一つの小さい十字架を取り、それを「精通者」の肩の上に置き、そして「兄弟なる薔薇十字の騎士よ、若し予が迷へる人間として汝に苦悩又は一個の十字架を負はする時、汝は如何にするや」と問ふ。「準備役の親方」は主座にかの花を渡して、「予の答はこの薔薇である」と答へる。候補者達は誓約を行ひ、目隠しは眼より取去られ、彼等は燃ゆるやうな赤い色の、眩ゆく照らし出されたロッヂを見る。結社員は皆赤い幅の廣い綬をつけてゐるが、その中は荊棘に圍まれた一個の銀色の薔薇と黒天鵞絨の十字架が織り附けられてゐる。この綬の端には僧會の「寶物」が垂れてゐる。即ち、廣く開かれたコムパスの間に金色のペリカン鳥が見られるが、この鳥はその心臓の血を以て餓ゑたる雛を養はんが爲に、嘴で自分の胸を引裂いてゐるのである。これは徹底的な犠牲の象徴に外ならない。「賢明なる親方」の前には七本の腕のある蠟燭の燭臺がある。信仰と愛と希望との柱は今やその上に盤をのせてゐるが、それからは香煙が立昇つてゐる。「賢明なる親方」の背後には旗手が僧會の絹製の大旗を祭壇の上方に差出して持つてゐる。結社員達は識別合圖をして立ち、悉く刃を帶びてゐる。幅の狭い長テーブルがロッヂの中央に運ばれて來る。それは白のリンネルで蔽はれて、その上には葡萄酒の入つた高脚盃、パンを盛つた大皿、いぶつてゐる香爐が置かれてゐる。薔薇十字の騎士達は超身大の長い杖、即ち「善良なる羊飼の杖」を與へられる。彼等は机

の周圍に歩み寄る。親方は高脚盃を手に取り、それから酒を飲むが、やがてこの盃は騎士から騎士へと廻つて行く。兄弟結盟の儀式が、その後パンを割つてそれを渡す儀式によつて行はれるのである。

この儀式は僧會結社員達の愛の饗宴であつて、基督教の聖晩餐のフリーメーソン結社的な模寫であるこの儀式に於て、基督教的宗教的僧會の諸儀禮はその頂點に達したのである。作業が終つて、薔薇十字の王子達が、善良なる羊飼の杖に身を托しつゝ、僧會で教へられたことを世界で實行するために殿堂から立ち去つて行く前に、「賢明なる親方」は新採用者達に對して、薔薇十字の騎士達は民衆の善良なる羊飼たらんと欲するものであり、又諸民族の自由と相互の和解のための戰士となることを欲するものであると宣言する。ヨハニス・フリーメーソン結社は個人から個人へと連絡するが、第十八位階の高級結社員は民族から民族へと連繫をとるのである。退出に當つて結社員達は互に二人づつ寄り合ひ、相抱擁し、識別の合圖を耳語し合ふのである。

第八章　啓蒙主義と良心の自由

第十九位階の仕事場への採用と共に、高位階結社員にとつては第三十階級で完遂される「完全なる得度」への道が始まるのである。第十九から第三十位階に至るフリーメーソン結社員の仕事場は「高等法院」と呼ばれるが、これはアテネにあつた古代希臘の法廷に倣つて命名されたのである。

等法院」と呼ばれるが、これはアテネにあつた古代希臘の法廷に倣つて命名されたのである。これ等諸位階は集つてスコツトランド儀禮認識段階の第三期を形成してゐるが、これに對しては、人類史に於ては、啓蒙主義と良心の自由の時代及びフリーメーソン結社の勝利に依つて支配さるべき人類の未來が對應するわけである。この高等法院ロツヂの儀禮と象徵の中では益々高まり行く度合に於て、フリーメーソン結社の文化政策的教義が開示されてゐるが、第三十位階に達するとこの教義は完全に暴露されて、この認識段階の所有者は眞に「王者の術」の「知者」とされ「奥許しを得た者」となされるのである。

赤色フリーメーソン結社の高等法院の諸説教は、ロツヂがその本來且つ最後の目標といふ點で何を目指してゐるかを明瞭に指示してゐる。即ちそれは、諸々の「偏見」に對する鬪爭を目標としてゐるのである。而してロツヂの精神に於て「偏見」と云はれてゐるものは、祖國及び自國民に對する信仰告白であり、父祖傳來の宗教及び一定の宗派に對する信仰告白であり自己の國土と自國民との防衛に對する信仰告白であり、民族共同體及び人種に對する信仰告白などである。高位階のフリーメーソン結社はこれらの諸偏見を廢棄して、その代りに次のものを置くのである。即ち、祖國なき反國家主義、文化的政治的超國家主義、宗教なき良心の自由、マルクス主義的無神論に於て、その最も能動的な劃

印が捺されてゐる文化的政治的超國家主義、反國家主義と因果的に結合せる平和主義のための絶對的平和主義、民衆の支配に對する、即ち「自由、平等、博愛」なる標語を有するマルクス的社會主義の支配に對する信仰告白などがそれである。而してこの「自由、平等、博愛」の標語は、最初は佛蘭西ロッヂ團の標語であつたが、後には國際的高位階フリーメーソン結社の指導的モットーとなつたのである。

※

第十九位階は「大主教」と呼ばれ、最初の高等法院であるが、この位階が既に他の諸位階と共にある種の象徵的概念とフリーメーソン結社の精神に於て解釋さるべき言葉を用ひて、一切の民族的乃至宗教的なる諸價値、諸法則、諸秩序、諸權威等に對する戰ひを說いてゐる。それはあらゆる形式に於ける無智、迷信、獨斷論、狂信に對する鬪爭を說いてゐる。「一切の象徵主義ロッヂの大棟梁」と呼ばれる第二十位階は、對內的には、高位階フリーメーソン結社員の最高の巨匠性を求めての努力を意味し對外的にはそれは、この認識段階が既にヨハニス・フリーメーソン結社全體に對して獨裁的なる權力を有することを示してゐる。第二十一位階は「ノアの後裔又はプロシャの騎士」と云ふ位階を與へる。その敎義は、フリーメーソン結社員の理念に依つて指導された民衆の支配を讚へ、完全な無政府に終る大衆の暴政を難じてゐる。次の第二十二位階の所有者なる「王者の斧の騎士」は、勞動者諸

府に終る大衆の暴政を難じてゐる。次の第二十二位階の所有者なる「王者の斧の騎士」は、勞働者階級の運命の爲めに戰ふべき義務、即ち大衆をロッヂ團の指導下に連れて來る義務を負はされてゐる。「幕屋（猶太人の神殿）の長」及び「幕屋の王子」と呼ばれる第二十三及び第二十四位階は、民衆の權利を認め且つそれを外部に向つて保護するやうに努めなくてはならない。これに續く高位の高等法院（第二十五位階）に屬する結社員は「靑銅蛇の騎士」と呼ばれるが、彼は人類社會に於ける社會的不正を救治するといふ義務を引受けてゐるのである。これに續いて「恩寵の王子」（第二十六位階）が來るが、これは、一切の宗教に含まれてゐる眞理を總括して一個の超宗教を創ることに依つて、個々の宗教のすべてを克服しなければならないのである。第二十七位階と第二十八位階とは夫々「神殿騎士の司令官」及び「太陽の騎士」と呼ばれ、既に宗教的懷疑の時期を乘り超えて、一切の「信條論」や一切の「偏見」を超越せる倫理と世界觀の段階に立つてゐる。完全なる得度を直前に控へた最後の高等法院なる第二十九位階の保持者は、「聖アンドレスの大スコットランド人」と呼ばれ、人類の安寧の爲めに文化的社會的意味に於て一切のフリーメーソン結社の原則と義務とを實現することを誓ふのである。

※

これらの諸階級は——象徴的諸概念と儀式用の諸象徴とに於て、假令如何に美しい信心深さうな言葉で縁飾りをつけられてゐても、フリーメーソン結社の精神的相貌を認識させずには置かないのであるが——一般的に謂つてスコツトランド儀禮の内部に於て、それ自身のロツヂに於て獨自の禮拜儀式をもつて行はれてゐるのではない。これらの諸位階は單に「歴史的に」、即ち口頭の傳達と說明とに依つて昇格する候補者達に與へられるのである。たゞ「太陽の騎士」と呼ばれる第二十八位階のみが完全なる慣習に從つて執行される。これは勿論諸種の國に於ては、この認識段階の個々の高等法院で特に作業に從事してゐるものもある。

※

フリーメーソン結社は、政治的權力を得むとする日常の闘爭に於て、即ち政黨や政府の政治的闘爭に於て、必ずしも常に自己の諸原則と諸目標とを追求し且つそれを實現し得た譯ではないし、又さうしようと望んだのでもなかつた。寧ろフリーメーソン結社は、斯様な遣り方で今日から明日へといふ如き短慮淺謀をもつて進歩作業や政治を行ひ、又世界史を作らうとすることを、屢々故意に且つ洞察を以て回避さへもしたのである。「王者の術」の巨匠が曲尺とコムパスとを以てその製圖板に畫いたところの大規模な計畫と廣大な目標とは、寧ろ屢々並ぶものなき程の遠大な視野と深慮遠謀の作業を必要とし、全く特殊な政策に依つて人類とフリーメーソン結社の理念とを混容せしめ

の大規模な計畫の廣大な目標とは、寧ろ屢々並ぶものなき程の遠大な視野と深慮遠謀の作業を必要とし、全く特殊な政策に依つて人類とフリーメーソン結社の理念とを混溶せしめる事を要求するのである。祕密結社なるものは、二種の方法で政策を行ふことが出來る。その一つは、對外的に政黨の形を取つてゐる祕密結社の組織が、一國の立法部や統治部に於て大多數を獲得し、この勢力に依つて直接に文化や政治を支配し又統御せんと努める遣り方である。第二の方法は精神的傳染に依る祕密結社精神の普及であつて、これが可能であるならば、祕密結社の組織は、眼前の現在に於て政黨として支配權を獲得することを斷念することもあり得るのである。即ち、その諸理念を精神的傳染に依つて次第々々に大衆層へ浸み込ませ、數年又は數十年の經過に於て、全く一定の政黨又は全く一定の法律や理念や文化複合體などが、自然必然的に生ぜざるを得ない樣な時代精神を準備し、且前以て創り出す事が可能であるならば、結社はこの方法を取るのである。潜行的傳染の政策、即ち鳴をひそめて活動してゐる祕密組織の諸理念を、感知力なき民衆の中へこつそりと浸徹せしめるといふ政策、更に換言すれば、他日あらゆる領域に於て支配權を自己陣營に齎らし得る如き時代精神を刻印するといふ政策、これが特にスコツトランド高位階の政策であつた。この第二の方法に依つてフリーメーソン結社は、人類史の數世紀をその重要なる部分に於て自己の所有としてしまつたのである。即ち、宗教敵視の啓蒙主義時代と、自由主義、マルクス主義、及びボルシェヴィズムの時代とを我ものとしたので

ある。フリーメーソン精神は、それに敵對して多くの國に於て「權威國家」の思想が權力を得てゐるにも拘らず、今日に於ても亦世界の輿論を支配してゐる。フリーメーソン的な――從つて大部分は猶太的な精神が――多少共重要な位置を占めて國家の運命に意識的或は無意識的な影響を及ぼしてゐるインテリ層の頭腦に充滿して、意志又は思想に對して規定的な力を持つ概念、標語、理念、公式的文句となつて昔も今も猖獗を極めてゐる。新聞は多くの國々に於ては皆フリーメーソン精神の道具となつてゐる。フリーメーソン結社の支配の危險は、かく／＼の勢力ある人物がロッヂ會員であるといふ點にあるのではなく、寧ろフリーメーソン精神がイデオロギーと云ふ姿で、新聞雜誌や文學に依り又教育や大衆教化に依つて、ロッヂ組織に緣遠いインテリ層を精神的に捕虜にしてしまつたといふ點にあるのである。精神的解體作業と文化的破壞作業とは高度諸位階の意識的政策であり、スコットランド儀禮の諸高等法院位階の意識的なる「作業」なのである。

既に第一次歐洲大戰當時、フリーメーソン結社員に依つて國際聯盟の理念が宣傳された。千九百十七年六月二十八月から三十日に亘つて、巴里に於て、聯合諸國及び中立諸國の大ロッヂの派遣員達の會議が開催されたが、その當時國際聯盟の諸理念が徹底的に檢討されたのである。報告者は佛蘭西大東社の結社委員會の會員にして第三十三位階のアンドレ・ルベー（André Lebey）であつた。フリーメーソン結社員ではなかつたが併しフリー

東社の結社委員會の會員にして第三十三位階のアンドレ・ルベー（André Lebey）であつた。フリーメーソン結社員ではなかつたが併しフリーメーソン結社に近緣なオツド・フエロー（Odd Fellow）結社の社員であつたウイルスンに依つて後に起案された國際聯盟は、あの千九百十七年の會議に現はれた國際聯盟とそのイデオロギーを等しくしてゐるし、部分的には用語までも共通してゐる。國際聯盟はフリーメーソン結社の直接の建設物ではないかも知れないが、併しそれは、自然必然的にロッヂの精神からして生み出された制度である。それは又徹頭徹尾世界フリーメーソン結社の手中に握られた道具ではないかも知れないが、その舞臺に於て芝居をしてゐるのが有力なフリーメーソン結社員である限りに於て、世界ロッヂ組織の明かなる擴聲器である。國際聯盟は、世界公衆の眼前に於てかの自由主義的民主主義的人道劇を上演してゐるのであるが、この人道劇は、如何に聯盟の人道主義がその精神的保證を紛失してしまつたかを最も明瞭に證示し、又フリーメーソン結社に依つて生み出された養育された人道主義が、その信奉者をして平和演說を行ふと同時に、國際的軍需工業の大株主であることを可能ならしむる如きものであることを最も明瞭に證示してゐる。（軍縮會議を想起せよ！）

假令フリーメーソン組識にとつてその主要概念の內面的保證が眞劍に問題になるとしても、その內面的保證は、その原則的精神態度のために、その人道主義概念の實踐的誠實性の確保に對して何の效果をも持ち得ないであらう。と言ふのは、フリーメーソン結社の本質と精神との根本特質は、絕對的な

る相對主義であり、一切の價値の完全なる平等に對する徹底的なる信奉告白に他ならないからである。即ち、啓蒙されたる寛容と良心の自由の原理が極端にまで押し進められて、遂に危険なる虚僞に急變し、無節操と非誠實となつたのである。

最近諸新聞を通じてなされた注目すべき報告は、佛蘭西下院に於て正規の一フリーメーソン・ロッヂが假名で設立されたが、その二百二十名の會員は專ら政治家、代議士、及び上院議員であると。又巴里からの諸報道はこの事情を補足して、佛蘭西大東社はこのロッヂの會員達に特別な義務を負はせて、下院及び上院に於けるあらゆる投票と議決とに際して、彼等の大監督廳即ち大東社の指令を遵奉しなければならないことにしたのである。大東社はこの統御のために十五人の會員から成る委員會を制定した。この新しきロッヂは消息通にとつては、佛蘭西フリーメーソン結社の强力な防禦措置に他ならないのであつて、スタキスキー疑獄以來、換言すれば、廣汎なる公衆が政黨政治と不正行爲とフリーメーソン結社との間の有害なる共謀に關して感づき出して以來、佛蘭西フリーメーソン結社は重大な攻撃の的となつてゐるからである。最近數年間に佛蘭西に起つた無數の經濟上の醜事件の最大なるもの、即ちスタキスキーを繞る醜聞は、大衆をして始めて祕密力の、特に大東社の祕密力の危険なる活動に對して眼を開かせ、又政黨的活動の危険に對しても眼を開かせたのである。而してこの政黨的活動は、

對して眼を開かせ、又政黨的活動の危險に對しても眼を開かせたのである。而してこの政黨的活動は、何處に於ても佛蘭西に於ける程には、制御し難いロッヂの勢力の屈服してゐる處はないのである。千九百三十四年の夏には巴里に於て「フリーメーソン結社打倒聯盟」が建設の運びに立至つたが、その會員は急速に且つ絶えず增加してゐる。最も代表的な新聞の一つであるエコ・ド・パリは、反フリーメーソン結社を標榜するジャーナリズムの先頭に立ち、「フリーメーソン的議會政治」に對する奴隷的依存に反對して公衆に警告した。又「權威を有する國家」の態度は、最近十年間に多くの歐洲諸國に於てフリーメーソン結社を禁止するに至つてゐるが、この情勢は、今や大東社を繞つて典型的なロッヂ國土たる佛蘭西のフリーメーソン結社の狀勢をも、最早數年以前に於けるが如く有利なものとは思はしめず、諸國民はフリーメーソン結社員及び猶太人の作業に對して、徐々に目も耳も敏くなりつゝあるのである。

第九章　復讐位階

ヴヰーン發行千九百三十三年度の「世界フリーメーソン結社靑書」は「走色フリーメーソン結社」なる論文を掲載してゐるが、この論文は簡潔な言葉で、スコットランド儀禮高位階組織の組織的及び訓規的原則に對する重要な洞察を與へるものがある。これに依ればヨハニス・フリーメーソン結社の

結社員中、次の如き結社員がスコットランド儀禮の諸作業に對して、自ら適性を示すこととなるのである。即ち、正規の高位階結社員として、特定のフリーメーソン結社の作業を遂行のために、公業の間と國境を超えて屢々組織的方面の仕事をする能力を有する結社員達がそれなのである。フリーメーソン結社の諸理念と諸原則とを助成し、これが貫徹を圖らねばならぬとすれば、まさに象徴主義的ロツヂから進出といふことが要請せられるのである。この必要の中へ飛込んで意志も能力もある諸力を強く安全に系統的にロツヂ内で總括することがフリーメーソン結社の最高目標を實現する爲に働いてゐるスコットランド儀禮の責任となるのである。スコットランド儀禮の組織はその廣汎な計畫の追求と達成とに極めて打つてつけるものである。スコットランド・フリーメーソン結社の世界連鎖が事實上存在してゐるといふことは、屢々教義的、政治的、文化的諸理由から互に攻撃し合つてゐる大ロツヂ側とは反對に、高位階の成果の多い活動にとつて根本的な利益なのである。三十六の最高評議會を有するスコットランド儀禮は、全高位階のそれにとつて教義も作業も同一であり、從つてそれは一の統一あるフリーメーソン戰線を形成してゐるのである。作業に喜びを持つ人々の選擇と聯關して、また能力ある達人等の召集と獲得とに從つて少數ではあるが、併し能動的な結社員の持つ大きな貫徹力が成立するのである。行屆いた訓練、昂揚された作業の遂行、組織的處置等の原則は、管理とか結社

關係の諸形式事項などに對する時間使用の可能なる限りの制限と結びつけられてゐる。なほその上にスコットランド儀禮は、世界中の關係フリーメーソン諸職場のすでに通用する「自由入場劵」であり、かくて最大の行動半徑を有するものとなるのである。スコットランド儀禮は、あらゆる世界狀況に於て下層諸位階の靜觀的狀態を超えて、それ自身の文化活動のその時その時の任務に從つて、或は能動的な攻撃を組織化し、或は活動的な防禦を組織化する所まで行くのである。この儀禮がその諸目標を達成するための最も效果ある手段として認めてゐるのは、この結社の意味に於て計畫的に世人を啓蒙することであり、特に國民教育及び國民教化に携はつてゐる人々や青年達に勢力を及ぼすことである。またフリーメーソン結社と同一線上の理念や目標を有するあらゆる世俗的な組織や行動に援助を與へ、結社員に對して敵と味方との點に關して絶えず强烈な教示をなし、この世界同盟のあらゆる利益問題に於て一定の作業をなすやうに計畫的に誘導することも亦、彼に依つて最も效果ある手段と認められてゐる。スコットランド儀禮は自分自身に關して次の如く述べてゐる。即ち、『その有する統一された種々の手段及び力に依つて、その世界的協力とそれから生れて來る勢力及び多岐に亙つた關係に依り、またその有する潜在的な行動性に依つて、この儀禮は特別な事を成就し得るし、また成就しなくてはならない』と。

※

第三十位階は、赤色メーソン結社の儀禮上の教義體系の本來の頂點である。この位階と共にフリーメーソン結社員は「完全な免許」を與へられ、「王者の術」の眞の「知者」となり、「最高の開悟に達した會員」となるのである。第三十位階に達すると、「コドシュ騎士」の稱號が授けられるが、これはまた「白黑斑鷲の騎士」とも稱せられる。ソロモン殿堂の建設者であるヒーラム・アビーフの殺害は、ヨハニス級フリーメーソン結社に於ては儀禮上の建設として重大な役目を演じてゐたが、「アレオパゴス法院」級フリーメーソン結社、即ち、第十九より第三十位階に至る迄のロッヂに於ては、このヒーラム・アビーフの代りに最後の聖堂騎士大棟梁ヤコブ・ドモレーが現はれて來る。彼は佛蘭西の美男なるフイリツプ王及び法王クレメンス五世の命令によつて、千三百十四年三月三日に火刑に處せられたのであつた。聖堂騎士乃至聖堂騎士團の千百十八より千三百十四年に至る歷史は、十八世紀に於ては、フリーメーソン結社の或種の教義系統に強い影響を及ぼしたが、フリーメーソン結社と聖堂騎士團との間には何等直接の關係が證明されてゐるわけではない。併しスコットランド高位階儀禮が既に僧會級ロッヂに於て薔薇十字團制度をその制度の中へ――勿論全く新らしい解釋を加へてゞはあるが――採り入れたのと同樣に、この高位階儀禮はそのアレオパゴス級ロッヂに於ては聖堂騎士

團制度を採り入れてゐるのである。モレーの死刑は第三十位階の儀禮即ち、免許授與儀禮に於て眞實的な再現を見出してゐる。コドシュ騎士位階の教義の內容は、聖堂騎士團制度が僧侶的及び世俗的權力によつて壞滅せしめられることを象徵すると同樣に、かゝる權力が良心の自由によつて置き換えられることも敎へる。カドシュ騎士はあらゆる認識段階を通過し、また人類史を象徵するあらゆる位階を通過して來てをり、また僧會級ロッヂではあらゆる「偏見」を知りまた克服することを學んだのであるから、彼は今や此の良心の自由を獲得する能力を有するに至つてゐるのである。

第三十位階の現實的な儀禮は、この候補者に對して始めてフリーメーソン結社の本來の目的を明瞭に開示する。即ちそれはモレーの死に對して責を負ふべき權力——これは絕對的な良心の自由の勝利に對立するが故に、從つてまたフリーメーソン結社とも對立するものであるが——これに對する復讐と報復であり、換言すれば、僧侶的及び世俗的權力即ち教會と玉座とに對する復讐と報復である。フリーメーソン結社員の報復は觀念は、やがて血腥い肉體的復讐の思想をも生むに至つた。精神的な復讐と報復、フリーメーソン結社の敵に對する政治的及び文化的な鬪爭、王座及び教會の權威との政治的及び文化的な對決、これらが少なくともスコッドランド儀禮のカドシュ位階の持つ意義である。

この認識段階への入會式は、候補者の明瞭な儀禮上の行爲を含んでゐる。大倘書即ちアレオパゴス

の講演者が準歌劇風にモレーの死刑の描寫文を朗讀すると、昇級志願者は、即ち大司令である會堂長の前にあるロッヂの祭壇の上に置かれたる三つの物を劍で象徴的に突き刺さなくてはならない。而してその三つとは、法王權及び一般の宗教的權力の象徴としての法王冠と世俗的權力の象徴としての王冠と群衆及び恣意との專制的象徴としての市民冠とである。尚もう一つの强烈な象徴的行爲を、第三十位階へ昇進させらるべき高位階フリーメーソン結社員は行はねばならない。即ち彼は第一位階より第二十九位階に至るまでの間、この結社の組織と理念の根本支柱として神聖であつた頃のメーソン結社の三本の柱を自ら手で倒さなくてはならないのである。儀禮の言葉はこの行意を說明し、次の如く言つてゐる。即ち、今やロッヂの最後の祕密の傳授を受けたカドシュ騎士は完全な不偏不黨の境地或は絕對的な精神の自由に到達したのであるから、彼はフリーメーソン結社のこれ迄の主義又は理念のすべてを超えて、進歩のために鬪爭に向ひ、あらゆる獨斷的な權威に反抗し、これ迄のメーソン結社の支柱であつた智と强さ、美の諸原理をも超えて進むのであつて、カドシュ騎士はあらゆる祕儀の知者となつたことによつてそれらの原理を超出する境地に到達してゐるといふのである。

※

英國大ロッヂは千七百十七年に設立以來、あらゆる政治的革命でロッヂが理念的又は、個人的に指

導役を演じなかつたものはない。世界史に於ける大事件は皆フリーメーソン結社關係の背景を暴露することに依つてのみ始めて充分に理解し得るのであり、かくする事によつてのみ、その眞相は明らかにされ得るのである。自由主義的革命に於ては、カドシュ騎士の教義と原理とが實際的な適用を見たのである。茲には極めて簡單に諸國家に於ける重要な事件を取り上げて、フリーメーソン結社の行つた啓蒙、良心の自由、自由主義、マルクス主義、共和主義、反國家主義、反カトツク主義の鬪爭を立證しておかうと思ふ。

※

ソ聯に於てはフリーメーソン結社を表面上禁止した。第三インターの第一回會議はロッヂ制度を「ブルジョアジーの有神論的宗教」として徹底的に排撃したが、ロシヤのフリーメーソン結社員は、ソヴイエットに依る國家權力掌握の時代には、巴里へ逃れて佛蘭西大東社の保護下に入つたり、或は他の國々へ移住したのであつた。かくソヴイエットがフリーメーソン結社にとつた態度と事實に對しては息子が親に對して殺人の劍を振り上げてゐる、といふ比喩が用ひられたのである。併しその理由は、ボルシエヴイズムとは畢竟ロッヂの説く自由主義的「人道」の正眞正銘の精神的産物であり、フリーメーソン的自由主義からマルクス主義を經てボルシエヴイズムに到る大きな歴史的連關といふも

のは明瞭であるからである。事實ロシヤのフリーメーソン結社は、その始めからソヴイエットに依る禁止に至るまで、大業の革命化に對する常時的準備役を勤めてゐたのであつて、ロシアに於ける啓蒙運動もその手で行はれ、ツアーの支配に對する最初の革命、即ち所謂十二月黨員の叛亂もその指導下にあつたのである。その後それはロシヤ議會に於て自由主義的革命的カデソテン黨を結成してゐた。そしてその指導者たる結社員ミルコフは、「シオン議定書」の僞作であることの證人としてベルン法廷へ姿を現はした。千九百十年にツアーの支配が倒壞してからの種々のロシア政府は、そのメムバーは大部分フリーメーソン結社員から成つてをり、特に結社員ケレンスキーの政府は然りであつた。

※

近代のトルコ大東社はケマル・アタチユルクの獨裁に緊密な步調を合はせてゐた。從つてロッヂ制度は彼の同情を大いに得てをり、彼自身指導的フリーメーソン結社員達に種々の相談を持ちかけてゐた。大東社がイスタンブールの以前の「フローニユ街」に、千九百三十二年にその本部の新建物を建立してからは、アタチユルクの命に依つて「ユリツイア街」（開悟の光の意）と改稱せられた。トルコの同じフリーメーソン結社は、今日では權威國家的方向の政府に依つて容認されてゐるが、而もこのフリーメーソン結社は、約十年前には革命的共和主義的であつたのであつて、その政治上の機關であ

る青年トルコ黨の力を借りて赤色トルコ王アブドウル・ハミトを王位から退けたのであつた。

※

ギリシヤの自由謳歌詩人にしてフリーメーソン結社員たるリガスから最近抑壓されたヴエニゼロス一撥に至るまでの共和主義的革命は、すべてギリシヤのロツヂがその援助者であつた。高位階社員ヴエニゼロスはギリシヤ王コンスタンチン及びゲオルクを王座より墜した張本人であつた。

※

第一次世界大戰の誘因となつたサラエヴオ暗殺事件の背景であつたセルビヤ大東社は、ルーマニア、ブルガリア、ポーランドに於けるフリーメーソン結社と同樣に、それぞれの國家の主權確立のための革命的闘爭の支持者であつた。セルビヤ大東社の後裔であるユーゴースラヴイヤ大ロツヂは、高位階制度を持つてゐて、世界のフリーメーソン結社の重要なメムバーとなつてゐる。

※

内務大臣デ・テール共產主義的恐怖政治の後になつて千九百十九年に「ハンガリー象徴主義大ロツヂ」は解散されたが、このロツヂ解止令は現在も尙この國では效力を持つてゐる。ハンガリー・フリーメーソン結社は、千八百六十七年の墺洪和協條約以後第一次世界大戰後迄は、特に過激な自由主義

を奉じた許りでなく、鬪爭的マルクス主義を信奉することさへしてゐた。法律、結婚制度及び敎會と國家との分離は、ヴェケルレ首相の仕事であつたが、彼はブタペストのロッヂ「ケニヴエス・カルマン」の會員であつた。ハンガリー獨立の英雄コスートは、彼と共に戰つた重要な人々と同じく、ロッヂ會員であり、高位階フリーメーソン結社員であり、イタリアの革命家マッチニの弟子であつた。

※

フリーメーソン結社員とカルボナリ結社員の、ロッヂがイタリヤ大東社の最初の大棟梁であるガリバルデイとマッチニとの指導の下に、「若きイタリヤ」の統一と獨立とを戰ひとつたのであつた。この「更正」時代に於ては、イタリヤの大ロッヂの結社員達が國家の權利を獨占するに至り、國家中に國家を設立するに至つたが、これはムツソリーニのファツシズムに至つて流血を伴つた困難な鬪爭によつて始めて粉碎された。イタリーに於けるフリーメーソン獨裁の間には、帝位は單なる案山子に成り下つてしまひ、カトリツク敎に對する徹底的文化鬪爭が行はれ、法王はその敎權を奪はれて、ヴアチカン宮に幽閉の身も同然となつた。失地恢復同盟員にして第三十三位階結社員であるバルツイライとパテイステイ、ローマ市長でマッチニと猶太女との間に私生兒であるエルネスト・ナタン、伊太利大ロッヂの猶太人大棟梁ドミチオ・トリギアニ等が、第一次世界大戰の初期に當つて伊太利をフリー

メーソン的な聯合國側へ廻すに反獨煽動の中心となつたのである。

※

スペイン大東社の歴史は、完全な抑壓と支配の交替であり、教會と王國とに對する地底に於ける攪亂作業と共和主義的反宗教的精神の勝利との交代である。プリモ・デ・リヴエラの獨裁に於ては、現在のフリーメーソン系の大臣や首相は牢獄にゐた。フランコ將軍以前のスペインは殆んどフリーメーソン共和國と稱せらるべきであつた。最近に於てポルトガルの國家的運命は別な方向を取つて、基督教的身分國家に形成され行く如くに見えるが、數年前迄は、啓蒙主義的自由主義的ポルトガル大ロッヂの政治的及び文化的な力が殆ど獨占的な威力を持つてゐた。ポルトガルの共和主義及び自由主義の首領で第三十三位階の高位階結社員たる文部大臣マガルハエス及び二度迄も首相となつたベルナルデイノ・マホドは、それぞれ同時にポルトガル大東社の大棟梁の地位にあつたのである。

※

英國大ロッヂは、組織上から見てフリーメーソン結社の元締であるが、佛蘭西大東社は、その精神、その主義及びその教條から見て、フリーメーソン結社の元締である。こゝに簡單に記述して世界ロッヂ組織のあらゆる行動の精神的地盤は、今も昔も、フランス大東社のイデオロギーであり、又全フリ

ーメーソン結社にとつて模範的闘爭的であるその高位階のイデオロギーである。フランス大東社は他の諸國のフリーメーソン結社の多くの革命運動の精神的源泉となつて、それを鼓舞したのであつた。

第十章　フリーメーソン結社の諸侯

かくて我々は今やスコツトランド儀禮の階級制度の階級尖端、即ち第三十一、第三十二、第三十三位階の職場に到達したのであるがその高位の人々即ち「最高の開悟に達した會員」は、「フリーメーソン結社の諸侯」といふ反フリーメーソン的な表現をもつて呼ばれてゐる。第三十一及び三十二位階の職場は「長老會」と稱せられ、第三十三位階の職場は「最高會議」と呼ばれてゐるが、これら「最高評議會」と混同してはならない。これら「最高の免許」を受けた眞の「知者」たるフリーメーソン結社員は、下から順に「大監督裁判所長官」「王者の祕密侯爵」獨裁最高總監と呼ばれる。スコツトランド儀禮の高位階組織の儀禮上の最高且最終■は、かの復讐位階即ち「カドシユ騎士」の儀式とその象徴的教義とである。第三十一位階より最後の位階である第三十三位階迄に於ては、儀禮上の儀式は最小程度に制限されてゐる。即ち、大部分の國に於ては、採用手續は、結社の最高義務に相應した重大な宣誓を果すことだけに限られてゐる。第三十三位階の所有者は、この位階の職標に附いてゐる金色の指輪を與へられる。これらの階級制度上の最上の諸位階は殆んど儀禮を持つてゐないので、之等

大な宣誓を果すことだけに限られてゐる。第三十三位階の所有者は、この位階の職標に附いてゐる金色の指輪を與へられる。これらの階級制度上の最上の諸位階は殆んど儀禮を持つてゐないので、之等はまた行政位階とも呼ばれる。第三十三位階の會員即ち「最高會議」の結社員のうちから最後の選擇によつて結社の幹部即ち「最高評議會」が選ばれるが、これが一國の結社の指導及び行政の中心機關をなすのである。それ故に三十三位階のフリーメーソン結社員の全部が結社の最高指導機關の一員となるのではなくて、最高評議會の會員に選ばれた正會員のみがさうなるのである。最高評議會は第三十四位階と看做さるべきものではないかも知れないが、しかしこれは結社の最高且つ最後の階級であるから、あらゆる高位階結社員もそれに服從する義務を負はされてゐるのである。最高評議會は精々三十三人の委員數を持つことしか許されないのである。

※

世界フリーメーソン結社の母胎大ロッヂである英國大ロッヂに源を有する「古き義務」は全祕密結社の根本法となつた。第一及び第二の兩主節をなしてゐる「神と宗教に就いて」及び「世俗的政府に就いて」は、その表現が極めて曖昧であるにも拘らず、教會と國家とに對するロッヂの態度を明瞭に示してゐる。然してかやうに表現が曖昧なのは、フリーメーソン的精神の態度の相對主義を證明する好適のものである。宗教に關して論じてゐる主節に於ては、「メーソン結社員は、その使命に從つて

道德律に服從しなくてはならないし、また彼は、その王者の術を充分理解するならば、頭のない無神者となることはないし、無宗教の無賴の徒となることもないであらう」と書かれてゐる。今まで諸種の本が書かれて、果してこの「古き義務」は、フリーメーソン結社員の宗教に對する積極的意見をその內容とするものであるか、否かゞ論ぜられたのであつた。併しこの結社の精神からする根本法の解釋は、卽ちロッヂ會員は決して頭の無い無神論者や無宗教の無賴の徒となるべきではないが、併し理性のある無神論者哲學的又は政治的な無神論者、或は無宗教の道德的人間、人道主義と稱せられる既成的宗教卽ち無宗教的現世主義の信者となることは少しも差支へはないといふのである。それ故にマルクス主義的無神論者、自由思想指導者、あらゆる敎會信仰及び宗敎一般の否定者も、何の面倒なしにロッヂに加入することが出來るのである。フランス大東社の模範に倣つて、幾多の大ロッヂは、「あらゆる世界の全能なる建設者」としての信仰と神のシムボルとをその憲法から抹殺したのである。千八百七十七年の會議に於て佛蘭西大東社は神の信仰をその憲法から除き、「フリーメーソン結社は絕對的良心と人間の連帶責任とをその主義とするものである」といふ文句を以て置き換へたのであつた。スコットランド儀禮の最高評議會の「ローザンヌ同盟」は高位階全部に對して統一的に「あらゆる世界の建築家」たるのシムボルを用ひるやうに規定した。併し神の槪念がかやうに定められたのは、この論爭問題を永久的に解決するために他ならなかつたのである。それ故このフリーメーソン結

ゆる世界の建築家」たるのシムボルを用ひるやうに規定した。併し神の概念がかやうに定められたのは、この論爭問題を永久的に解決するために他ならなかつたのである。それ故このフリーメーソン結社の神の概念に關して、この神の高位階ロッヂ制度に於ける單なる名譽會員にも等しいものであると謂つても、それは冒瀆ではないのである。

※

「古き義務」は同樣曖昧ではあるが、また同樣な明瞭さを以つて、フリーメーソン結社の國家に對する關係に就いて語つてゐる。當該主節には次の如く書かれてゐる。「メーソン結社員は世俗的權力の平和的な臣下であつて、國民の平和又は安寧に對する暴動又は謀叛に參加してはならない……萬一にも會員にして國家に對する叛逆者となるやうな場合には、彼を不幸なる男として同情することはしても、その叛逆に援助を與へてはならない。而して彼に他の犯罪のあることが決定されない場合は、結社は彼をロッヂから追放すべきではなく、彼のロッヂに對する關係は以前通りであるべきである」

この原理が明瞭に示してゐる處は、國家に對する叛逆は、ロッヂの眼より見れば、會員を結社から除外するに足るだけの大きな罪惡ではないといふことである。ロッヂに取つての問題は、國家に對する叛逆ではなくて、結社そのものに對する叛逆である。結社こそは結局國家に對しても絕對權を持つてゐるものであり、「國家中の國家」として、獨立の立法と獨自の裁判權とを有してゐるのである。

個々の顯著なフリーメーソン結社員の政治的乃至革命的活動が問題になるやうな時には、ロッヂは、危難を脫するために好んで口實を用ひ、當の結社員はその政治的活動を個人としてなしたのであるからそれに對してロッヂは責任を負ふべきではなく、ロッヂはそれとは何等の關係をも有するものではないと主張するのが常である。幾多の場合にさうした事情の場合もあるかも知れないが、併しロッヂはこの口實を特に好んで用ひ、個々の結社員の文化的乃至政治的活動の背後にロッヂの利害又はロッヂの決議が存在してゐるやうな場合に於てさへも、その口實を用ひるのである。この詭辯によつてフリーメーソン系に歷史記述は今日に至るまで、重要な政治的事件に對するロッヂの直接の關與を飽く迄も否定しようと試みてゐる。卽ち、個々のフリーメーソン結社員が重要な參加者であることは容認するが、彼の政治的活動と彼のフリーメーソン結社員であることとの間に何等の因果的關係をも容認しようとしないのである。然るにフリーメーソン結社は、特に重大な世界史上の事件には、上述の遣り方で親密に結びついてゐるので、組織としてのロッヂ制度又は指導的精神として　フリーメーソン精神又はフリーメーソン的世界原理がかゝる歷史的事件の背後にあるのである。

英國史に於ては、ロッヂの意志又は精神が特に支配した時代といふやうなものを探し出すことは決して容易ではない。何となれば英國史なるものは、ロンドン大ロッヂの設立の年以降は、殆んど英國

して容易ではない。何となれば英國史なるものは、ロンドン大ロッヂの設立の年以降は、殆んど英國フリーメーソン結社の歴史に外ならないからである。或英國の歴史家が、英帝國の偉大さは英國ロッヂの仕事であると斷言してゐるが、これは歴史の眞相に近いものである。フリーメーソン結社が、その設立の始めから廣汎に活動してゐるのは、アングロサクソン系の諸國家即ち英帝國、そのあらゆる植民地と自治領、及び亞米利加合衆國に若くものはない。全世界には現在では四百五十萬のフリーメーソン結社員があるが、その三分の二はアングロサクソン系である。英國大ロッヂ、スコットランド大ロッヂ、アイルランド大ロッヂの三大ロッヂは、十八世紀の中葉以來英帝國のあらゆる海外領土の最も邊鄙な隅々にまでもフリーメーソン的工作を施して來てゐるので、この三島帝國に於ては、最早輕視することの出來ぬ重大意義を持つた權力要素となつてゐる。經濟、商業、工業、教育、新聞、政治、陸軍、海軍、政府の殆どすべての代表的人物はロッヂ會員である。個々の名を擧げるのは餘計なことである。英國貴族が始めて大棟梁になつた千七百三十七年以來、即ちウエルス公フレデリック・ルイスが大棟梁になつて以來、英國のロッヂ制度は英王室の保護を受けてゐる。エドワード七世は當時の最も有力なフリーメーソン結社員の一人であつたし、ジョージ五世は結社員ではなかつたやうであるが、併しコンノート公及び王家の全王子は結社の最高の役人である。英國教會の大僧正達及び僧正達も大部分は英國大ロッヂの幹部會の委員である。英國教會の本山に於てフリーメーソン

結社の神事の行はれることも決して稀有ではない。フリーメーソン結社がかく英國に於て廣く發展することの出來たのは、何れの時代にも反對者を持たなかつたからである。そのデモクラシー的、保守的自由主義的な根本立場は、英帝國の文化生活に透徹した。勞働黨の指導的政治家達はロンドンの特定のロッヂ、即ち「ニュー・ウエルカム・ロッヂ五千百三十九號」の會員である。これは勞働黨の下院議員よりなる議會ロッヂである。その設立は千九百二十九年であつて、勞働組合會議は本來は勞働運動の指導者がフリーメーソン結社に加入することを禁止してゐたので、このロッヂの設立はセンセイションを卷き起したのであつた。また英國及び亞米利加に於てのみ見られる特徴としては、所謂「クラス・ロッヂ」と稱せられる職業ロッヂであつて、特定の職業層の者のみしかその會員とはなれないのである。かくて、愛書家のみからなるロッヂ、電氣技師のみのもの、飛行士のみのもの、又はロンドンの市吏員のみのものがあり、或はまた猶太人のみのロッヂ、英國教會の僧侶のみのロッヂもある。英國フリーメーソン結社は大いに慈善的活動を行つて、病院、養老院、育兒院、學校等の建設や維持のために金を寄附するが、この點では亞米利加の諸大ロッヂの大仕掛けの慈善行爲に對してのみ一籌を輸するのみである。フリーメーソン結社の起工式に當つては、殆んど全王室が出席するのが常であるが、會員達はあらゆるフリーメーソン的華美な服裝をして都市の街頭に現はれるのである。

英國フリーメーソン結社内には猶太人問題は存在せず、猶太人も同等の權利を有するロッヂ會員であり、その數も多く、有力な地位を占めてゐる。ロンドンの純猶太人ロッヂは、ロスチャイルド男爵ロッヂ、モンテフイオリ・ロッヂ、シナイ山ロッヂ等の名を持つてゐる。在ロンドンの唯一の獨逸ロッヂである「禮巡ロッヂ」は、猶太人新聞王サー・アーサー・モンドをその會堂長としてゐるが、このモンドは嘗てヴイーン大ロッヂに賓客として滯在し、伊太利のフリーメーソン結社に對して英國大ロッヂの援助を確約したのであつた。

※

英國フリーメーソン結社の持つ社會的背景、即ち自由主義であり保守主義的又ブルジョア的な特質が、あらゆるオーストリア聯邦の大ロッヂにも見られるが、これらのフリーメーソン結社の先驅となつたのは、英三島帝國の高級ロッヂ役人達であつた。オーストリア聯邦の六個國は、タスマニアも同樣であるが、それぞれ自身の大ロッヂを持つてゐる。此處のフリーメーソン結社の歴史は千八百三年に遡つてをり、この大陸に於ける「軍事ロッヂ」として設立されたのがその起源である。オーストリヤのフリーメーソン結社は元來、イングランド、アイルランド、スコツトランド系の地方大ロッヂであつて、精神的には獨立しなかつたが、組織的には獨立したのであつた。オーストリヤのロッヂは約

二萬の會員を持つてゐるが、多くの場合に總督又は大臣が大ロッヂの大棟梁又は高級役人であつて、大きな邸宅にその職場を持つてゐる。本國のフリーメーソン結社との精神的な連結は緊密である。公安施設は大いに發達してをり、フリーメーソン的新聞業が廣汎に行はれてゐるが、評論とか時事報道とかは大した高級な水準に達してゐるとは言ひ難いものがある。オーストリアの諸大ロッヂの共同の會議が毎年開催されることになつてゐる。

※

亞細亞にはたゞ一つの獨立した大ロッヂがあるだけであるが、これはフイリッピンのものである。これを除いては、全大陸は、歐洲諸國家の植民地である實狀に相應しく、フリーメーソン結社から見ても單一な植民地をなしてゐる。そしてその先頭に立つものは、言ふ迄もなく、英國フリーメーソン結社であつて、既に千七百三十年に印度のベルガル州に地歩を占めたのである。

※

全印度は、フリーメーソン結社の方面から見る時には、幾つかの地方大ロッヂがあるために、英國大ロッヂの管轄下にある。印度の諸小國の王は、殆んど全部英國大ロッヂの高級役人である。英國の印度政廳の官吏達が統轄してゐるロッヂに並んで、純粹な土人ロッヂもあるが、これらに於てはゾロ

アスタ教徒が數的に有力である。

同様に支那もまたフリーメーソン結社から見ると、英國の委任統治領であつて、約百のロッヂがある。ロッヂ會員は大部分は歐洲人であつて、殆んど支那人は居ない。ヴイーン大ロッヂは上海に自らのロッヂを持つてゐるが、その名は「東方の光」と呼ばれ、大部分猶太商人を會員としてゐる。南京の國民政府の政治家達は最有力の支那フリーメーソン結社員である。そのうち總指揮官蔣介石は北京の「パゴタ・ロッヂ」（これは米國のマサチユセッツ州大ロッヂの支社）の會員である。又有名な政治家であつた遜逸仙は最も卓越した支那フリーメーソン結社員であり、純猶太結社ブナイ・ブリス上海支部の高位階結社員であつたといふが、彼は支那革命運動の指導者であり、祕密結社「天地會」の會員であり、漢ロの軍部革命後千九百十一年には支那初代の大統領となつた。

※

日本のフリーメーソン結社は、横濱、東京、神戸にあるアングロサクソン系ロッヂのみである。政府とロッヂとの間の紳士協定によつて、日本人は、外國に於てロッヂ會員となつた場合を除いては、ロッヂに入會させられてはならない、と規定されてゐる。滿洲國及び朝鮮に於ても事情は同様である。日本の重要なフリーメーソン結社員は林董伯であつたが彼は幾度か大臣を勤め、英國大使となり、第

一次世界戰爭以前の日英同盟の締結に大いに活躍した政治家であつた。彼はロンドンの「エム・パイヤ・ロッヂ第二千十八號」の會員であつた。

※

亞細亞には英國以外の歐洲諸國の植民地があるので、それに應じて和蘭大ロッヂ又は佛蘭西大東社系のロッヂも存在してゐる。イラク、シリア、大リバノンには英國フリーメーソン結社が支配的地位を占めてをり、埃及に於ても同樣である。

※

埃及のフリーメーソン結社の事情は非常に錯綜してゐるが、それは異つた政治的立場に立つ二つの大ロッヂが互に抗爭してゐるからである。即ち、その一方はワクド黨系であり、他方は王黨系である。前者は埃及の政治家にしてフリーメーソン結社員たるザクルル・パシヤの意を體して活動し、而してザクルル・パシヤは愛國黨ワクドの設立者であつて、埃及を英國の支配より完全に獨立させせんとする闘士である。他の大ロッヂは、これに反して親英的である。

※

パレスチナには英國系、埃及系、佛蘭西系、獨逸系のロッヂがあり、ヘブライ語を用ひるロッヂも

また存在してゐる。

「獨逸象徴主義大ロッヂ」とその高位階は、千九百三十三年にその伯林の居所を引拂はなくてはならなかつたので、パレスチナへ移轉することになつたが、既に以前にテル・アヴイフとハイフアとに獨逸系猶太人のロッヂを設立してゐたのが便宜を供したからであつた。

歐洲の諸ロッヂとの連絡を勤めるのはシオニズム建設運動であつて、この地のフリーメーソン結社は可成り統一的にこの建設運動に從事してゐる。

※

亞細亞唯一の獨立大ロッヂであるフイリッピン大ロッヂの會員達は、以前からこの群島の獨立のための闘士であつた。この地の諸ロッヂは千八百九十六年に「カテイプナン」と稱する祕密結社を作つたが、その目標は、この群島を政治的及び宗教的壓迫から解放することであつた。この陰謀は發見されて、多數のフリーメーソン結社員は死刑に處せられたが、その中にはドクトル・ホゼ・リザルがあり、フイリッピンの國民的英雄となり、今日ではその命日は國祭日となつてゐる。

短命に終つたフイリッピン共和國——米西戰爭後の——大統領であつたアグナルドはフリーメーソン結社員であつた。獨立主義フリーメーソン結社と並んで、北亞米利加の大ロッヂも地歩を占めるに

至つた。國民大ロッヂは百二の職場と約一萬人の會員を有し、「カブレトー」と稱する立派な新聞を持つてゐる。フイリッピン・フリーメーソン結社の設立者は西班牙人と葡萄人とであつた。大ロッヂの所在地はマニラである。

※

波斯では、テヘラン、シラス、及び波斯灣に面する國境諸都市にはロッヂがあつて、スコットランド大ロッヂの管轄下にある。純波斯フリーメーソン結社の擴大は、現在迄は、正統拜火教徒及び基督教宣教師の反抗によつて不成功に終つてゐる。この國にフリーメーソン結社を移植したのは多くは波斯の王子達又は英、佛、土の宮廷への使節であつて、これらの場所で祕密結社に入會させられたのであつたが、移植後のフリーメーソン結社を繁榮させるだけの力は持ち合はせないのである。

第十一章　最高評議會

前述の如く、「最高評議會」は、それぞれの國に於て、即ち世界の三十六箇國に於けるスコットランド儀禮の全高位階を統御する最高機關であり、從つて間接には全ヨハニス・ロッヂの最高統御機關である。これらを結合する上部聯合卽ち世界同盟は、世界觀的主義の宣言に依つて統一を保たれて

をり、統一のある儀禮と統一のある象徵法と統一のあるフリーメーソン的世界戰線とを形成してゐるが、これが卽ち千八百七十五年に當時存在した全「最高評議會」に依つて設立された「ローザンヌ同盟」である。この年以後に新たに設立されたあらゆる「最高評議會」は他のスコツトランド儀禮の大ロツヂによつて「公正且つ完全」であり、從つて又「正規」のものと認められるためには、この「ローザンヌ同盟」に加入し、その規約と憲法とを採用しなくてはならないのである。「ローザンヌ同盟」の規定に從はず、從つて他の姉妹關係の最高評議會と行動を共にせず又友好關係を持してゐないやうなものは、スコツトランド儀禮に屬する最高評議會には一つも無いのである。かくて世界のあらゆる最高評議會の代表者の出席の下に、少なくとも五年目毎に行はれるスコツトランド儀禮の世界會議は、全世界の高位階フリーメーソン結社員乃至はその指導的高級役人全體の緊密且つ常時の聯合であり、親睦である。最後の會議は千九百三十五年六月十五日から十九日に亘つてブルツセルで開催された。

最高評議會は、ヨハニス・フリーメーソン結社の統轄機關である大ロツヂと同樣に更に、一種の代表者關係であつて、大ロツヂの方は「大幹部」によつて形成されるのである。最高評議會の方は「獨裁最高統監」によつて形成されるのである。最高評議會の長は「全能獨裁大司令」と呼ばれる。彼の輔佐役としては、ヨハニス・ロツヂの場合と同樣にその代理者があり、また外部關係の事件を扱ふ

「總書記長」、內部關係の事件を扱ふ「大宰相」、大講演者、大尙書、兩大監督、大主計頭等がある。最高評議會に於てフリーメーソン結社の活動主義はその最も純粹且つ完全な姿を取つてをり、祕密主義は完全に開放主義によつて取つて代られ、外的な作業が完全に內的作業に取つて代つてゐる。最高評會議こそは、世界ロッヂ制度本來の最も內的な活動の中心である。

スコットランド儀禮が最も遲く入つた國家は獨逸であつた。獨逸のフリーメーソン結社の歷史は、千九百三十一年迄は、獨自の最高評議會の活動によつて影響される點は少しもなかつた。墺太利の高位階結社員と他の獨逸大ロッヂから追放された連中に依つて漸く千九百三十年に至つて設立された「獨逸象徵主義大ロッヂ」の會員とが相談をして、ジュネーヴに於ける千九百三十一年の「フリーメーソン總同盟」會議に當つて、ボーリヴアージ旅館に於て「獨逸最高評議會」を設立したのであつたが、これは數ケ月以後には活動を開始し、直ちに佛蘭、西瑞、西和蘭のフリーメーソン大ロッヂに依つて公認された。なほ數ケ月後には、それは「ローザンヌ同盟」に加盟し從つて全スコットランド儀禮のフリーメーソン結社と相互往來の關係に入つた。併しこれは、「獨逸象徵主義大ロッヂ」と同樣に、短期間しか存在し得ず、千九百三十三年の國民革命と共に兩組織共に自ら解消して、大部分それらを形成してゐた猶太人と共に、所もあらうにエルサレムへと退出して行つたのであつた。

らを形成してゐた猶太人と共に、所もあらうにエルサレムへと退出して行つたのであつた。

國民社會主義のフリーメーソン結社に對する態度に關して屢々矛盾してはゐるが、その主要な原因は、獨逸のロッヂ組織が國民主義的新秩序との鋭い對決に際して決して統一した態度を取らず、またロッヂ組織中のそれぞれの群はそれぞれ異つた運命に遭遇したからであつた。獨逸は千九百三十三年にヒットラーが宰相になつた時には、十個以上もの大ロッヂを有してゐたが、それらが三つの世界觀的に異つた陣營に分裂してゐたのであつた。かやうにこの同胞的連鎖の中に不和が生じて來たのは、或數の大ロッヂが國家社會主義の勢力が漸次增大するに連れて非常に右翼的な立場を取るに至つたが、他のフリーメーソン團體がそれに贊同をしなかつたからであつた。

例へばそれだけでも獨逸ロッヂ界の一つの有力團體であつた「獨逸象徵主義大ロッヂ」は、全く左翼的な立場を取つてゐた。これは組織的にも人的にもマルクス主義に緊密に結びついてをり、徹底的に超國家的且つ超宗派的であり、その會員中には多數の猶太人を含んでゐた。國家社會主義とは極端な對立の立場にあつたので無用な力試しをするよりはと進んで解散してしまつたのであつた。そして以前よりその配下にあつたエルサレム、ハイフア、テル、アヴイフの「獨逸ロッヂ」と合同し、その猶太會員と共にパレスチナへ移住し、其處に約二年以來「獨逸象徵主義流謫大ロッヂ」として存在してゐる。これと共に高位階結社員より成る「獨逸最高評議會」もまた聖約の地パレスチナへと移つた

のであつた。

獨逸ロッヂ界の第二の陣營は六つの「人道主義的大ロッヂ」からなり、フランクフルト、ハムブルク、ダルムシュタット、バイロイト、ライプツイヒ、ドレースデンの大ロッヂがその成員である。これらが「人道主義的」と呼ばれるのは、これらもまた超國家的且超宗派的人道主義をその地盤とするからである。これらもまた猶太人をそのロッヂの會員として入會させたが、これらと「象徴主義大ロッヂ」との相違は、外面的に國民主義を强調してゐる點であつて、自己の超國家主義と國家主義とを結合して、フイヒテが「フリーメーソン結社の世界主義は思想に過ぎず、その行爲は祖國愛である」と言つたのを採用してゐる如くに見える。これらは外國の大ロッヂとの間に無差別な友交關係を結ぶことをせず、佛蘭西大東社と獨逸の大ロッヂ界との宥和を招致しようとした「フリーメーソンのロカルノ會議」に對しては可成りに拒否的な態度を取つてゐた。國家社會主義が政權を獲保するに至ると、これらはその國民主義に基いて、内面的にも外面的にも新方面に便乘しようと試みた。即ちこれらは、自己を改組して「獨逸基督教團」と改めることを決議し、それによつて恐らく擬裝を企てたのであつた。しかし政府當局者は、この擬裝といふ點に人道主義大ロッヂの改組の主目的のあることを看破したが、之は尤もな次第であつて、從つて政府は結社員達の要求には應じなかつたのである。其處でハ

た。しかし政府當局者は、この擬装といふ點に人道主義大ロッヂの改組の主目的のあることを看破したが、之は尤もな次第であつて、從つて政府は結社員達の要求には應じなかつたのである。其處でハムブルク大ロッヂとフランクフルト・アム・マインの折衷主義大ロッヂとは切腹をして、進んで結社を解散した。殘餘の人道主義大ロッヂは間も無く國權によつて禁止された。現在ではかの六つのうちたゞ「流謫ハムブルク大ロッヂ」だけが、この方向の獨逸ロッヂの舊會員を集めて、智利、ブラジル、及びアルゼンチンに存在してゐる。

「古式プロイセン大ロッヂ」――その數は三つで、所在地は伯林であつた――は、獨逸フリーメーソン結社の第三にして最後の群であり、その最も右翼をなしてゐた。プロイセン王家の保護の下に成育したので、之等は國民的及び軍隊的な傳統を持つて活動してゐた。その儀禮は所謂「スエーデン式教義」であつて、フリーメーソン結社中の基督教新教的な亞種であり、此處以外にはたゞ北歐諸國に於てのみ行はれてゐるものである。之等は最近十年間は殆んど超國家的な關係を斷絕してをり、單にフリーメーソン結社の母胎である英國ロッヂと有力なニューヨーク大ロッヂとだけ友好關係を結んでゐた。前述の諸フリーメーソン團體との間の別の相違は、宗教的理由によつて猶太人を收容しないといふことであるが、調査した處ではこれが眞實でないことが確實な證據材料に依つて明白となつた。從つてこれ等の大ロッヂは世界フリーメーソン結社から見る時には、決して「人道主義的ではなく、また全く「公正且つ完全」とは言へないのである。

これらの「古式プロイセン大ロッヂ」は品行方正證書と「獨逸基督教團」に改組して「フリードリヒ大王」、「獨逸本山」「友情」等と稱する事とに依つて、國家の容認を受け得るものと信じたのであつた。この種のフリーメーソン團體がかく存續してゐるために、外國に於ては、獨逸にはなほロッヂが存在してゐるかの如くに一般に信ぜられてゐるが、併し事實はそれと反對であつて、他の系統の大ロッヂの自己解消や禁止は、かゝる出鱈目な誤解を打ち消すに足りるであらう。事實最近數ケ月の間に、「古式プロイセン大ロッヂ」方面の事情も不利益な方へ變つてゐるのである。

極く最近の報道では「古式プロイセン大ロッヂ」の一つである「三つの地球」の大棟梁がロッヂ集會の席上から保護檢束されたといふことである。また最近のことであるが、會員數が少ないからとの理由で解散の認可を求めてプロイセン内務省に申渡して來てゐるロッヂの名簿も公表された。獨逸フリーメーソン結社の最後の殘りである「古式プロイセン」系にも次第にその終末が近づいてゐることは確實である。フリーメーソン組織は、如何なる色彩と如何なる種類のものであらうと、政治的にも、文化的にも、世界觀的にも、現在の獨逸に於てはその地盤を喪失してしまひ、千九百三十五年中に「古式プロイセン」系は勿論その他あらゆるフリーメーソン系の組織は解散させられた。

※

アングロサクソン系の諸國及び南歐系諸國のフリーメーソン結社とは反對に、スエーデン、ノルウエー、デンマーク等の大ロッヂは、フリーメーソン結社の基督敎的敎義のものである。北歐フリーメーソン結社の內部的な特質は、積極的な神の信仰であつて、基督を最高の團長とするものであり、その外部的な特質は、入會志願者に對して基督敎的新敎的信仰を要求することである。前述の諸國の大ロッヂは超國家的な關係を結ぶことは少なく、殆んどたゞ英國大ロッヂ及びニューヨーク大ロッヂと關係を持つのみである。スエーデンのグスターフ王はサロモンの名代であり、皇太子は大棟梁である。北歐ロッヂの現狀は安全且つ確立されてゐて、政治的乃至文化鬪爭的な活動は全く行つてゐない。

※

和蘭大東社はアングロサクソン系及び南歐系フリーメーソン結社の中間的な地位を持つてゐる。それはロンドン及び巴里のフリーメーソン組織の中心から影響を受けてゐるので、政治的には保守主義と急進主義との混合であるが、この事情は、時として保守主義者が有力となり、又時としては急進主義者が優勢であることによつて示されるし、また幹部會に於て時としては佛蘭西系が又時としては英國系が多數を占めることによつても表はされるのである。かくて文化政策の問題に對する態度に於ても、和蘭大ロッヂに於ては時として豫想外の事件の在ることも稀らしくはないのである。この事は最

近の十年間に於ても加特力教會に對する態度に於て示されたものであつて、カトリック教會に對して突然にも強烈な敵意の示されることも屢々あつたのである。

※

ベルギー大東社は佛蘭西大東社の眞の子供である。その幹部連は以前も今も、過度的なベルギー自由主義及びマルクス主義の急先鋒である。かの「大自由主義者」ヴェルハーゲンは大棟梁であつたが。政治と文化鬪爭とはロッヂの日常プログラムであることを明白に宣言したのであつた。自由主義及びマルクス主義的社會主義の首領達又は國際聯盟に於ける佛蘭西大東社の重要な協力者達は單に若干の例を擧げるならば、ヴァンデルフエルデ、ユイスマンス、ハイマンス等は、ロッヂの會員である許りか・第三十三位階及びベルギー最高評議會の正會員である・

※

フリーメーソン結社に反對する最近の反議會的及び反デモクラシー的勢力の鬪爭は、換言すれば新興の身分的戰線の鬪爭は瑞西に於て最も進歩してゐる。瑞西聯邦に於ては大ロッヂ「アルピナ」は、次第に強烈に民衆の中に擴がつて行く攻擊に面接してゐる。瑞西の反フリーメーソン戰線運動の最有力な先驅者は數週間前に死去した瑞西軍參謀總長エルミ・ゾンデレッゲルであつた。彼の以前の同志

であるフオンヤラス大佐は、現在は瑞西フアッシスト同盟の統率者であるが、その戰線を率ゐて、瑞西に於けるフリーメーソン結社を許容するか否かを人民投票に向ふべきことを宣說してゐる。また瑞西國家社會主義黨の指導者たるレオンハルト少佐は、ロッヂ組織に對して排戰してゐる。「フオンヤラス議案」は、憲法に規定されたより以上の署名を得たので、聯邦議會に引續いての審理のために提出されてゐるのである。

※

第一次世界大戰後にプラーグにチエッコ國民大ロッヂを設立したのは、ユーゴースラヴイア大ロッヂの派遣團であつた。このチエッコ國民大ロッヂには大統領マサリックの息子、外務大臣ベネシユ、大臣クロフタ等の高位階結社員の外に他の有力な人々が會員となつてゐるが、このロッヂと並んで獨逸フリーメーソン結社のために「レッシングの三つの指輪」と稱する大ロッヂが存在してゐる。チエッコのロッヂ組織の中では、フス主義とフリーメーソン精神とが相互に浸透しあつてゐる。チエッコ大ロッヂの會員は全部チエッコ新教の信者であるが、獨逸大ロッヂの會員は八十パーセント迄は猶太自由主義系である。

※

我々は世界のあらゆる國々に於けるフリーメーソン結社の現狀を各諸章に於て概觀し、必要のある場合にはそれに歷史的な回顧をも加へておいたのであるが、なほ我々は以上に論じ殘されてゐたラテン・アメリカのロッヂ組織に就ても記しておかなくてはならない。アルゼンチンからウルグアイに至る迄のあらゆる南米諸國の獨立運動の代表者は、全部フリーメーソン結社員であつたが、彼等はまたカトリック敎に對する熱狂的な文化鬪爭の指導者であつた。ラテン・アメリカのフリーメーソン組織の過去及び現在に於ける狀況の模範的な例となるのは、メキシコであつて、その大統領には最近まで十一人の高位階フリーメーソン結社員が數へられるのである。これらのうちカレス、ボルテス、ギル、オルチス、ルビオ、カルデナス等は近時の大領統であるが、彼等の間にはマルクス主義的フリーメーソン的無神論鬪爭が激しく行はれてゐて、今日も事情に變りはないのである。一般的に言ふならば、あらゆる時代とあらゆる國々の南歐系フリーメーソン結社は、世界ロッヂ組織の最も不屈な鬪士群なのである。

※

フリーメーソン結社は、その寬容の原理、即ち超宗派主義。その國際主義の原理、即ち超國民義及びその地上的乃至超地上的價値に對する立場に依つて、全くの相對主義に陷つてゐる。かゝる相對主

義の絶對的な信奉は、決して本質的存在を生み出すことは出來ず、たゞ狼藉を働くに過ぎないのである。理論のみから見ても何等の品格を有しないかゝる世界觀は、實際活動に於ても品格のない仕事を仕出かすだけである。然るにロッヂはこれらの問題には少しも關心を持たないのである。何故かならば、ロッヂに取つては、その權力政策上の目標の追求のみが何處までも問題だからである。

昭和十八年三月十一日　初版印刷
昭和十八年三月十五日　初版發行
（三〇〇〇部）

世界の猶太勢力と秘密結社の解剖

停
定價金參圓

著者　國際政經學會調査部

東京市麹町區内幸町二ノ三ノ一
發行兼印刷人　蘇理伊太郎

東京市芝區田村町六ノ一
印刷所　秀美堂印刷株式會社

東京市麹町區内幸町二ノ三（幸ビル）
發行所　政經書房
振替口座東京一三七五八三番
電話銀座一二一八番

（出文協承認ア410223號）

東京市神田區淡路町二丁目九番地
配給元　日本出版配給株式會社

出版文化協會會員番號一一四〇五七

政経書房

¥300